宮崎学園短期大学

シラバス　2026



宮崎学園短期大学　シラバス2026　目次

１．ディプロマポリシー　　ページ

（１）　全学DP　1
（２）　保育科DP　2
（３）　現代ビジネス科DP　3

２．学科DP～科目対応表

（１）　保育科　4
（２）　現代ビジネス科　5

３．シラバス

（１）一般教育科目

か 化学　6
き キャリアガイダンス＜現代ビジネス科＞　7
き キャリアガイダンス＜保育科＞　8
き 教育学　9
き 教養韓国語Ⅰ・Ⅱ　10
き 教養ドイツ語Ⅰ・Ⅱ　11
け 健康の科学　12
こ コミュニケーション英語Ⅰ＜現代ビジネス科＞　13
こ コミュニケーション英語Ⅰ＜保育科＞　14
こ コミュニケーション英語Ⅱ＜現代ビジネス科＞　15
こ コミュニケーション英語Ⅱ＜保育科＞　16
し 自然災害と防災　17
し 社会心理学　19
し 生涯学習概論　20
じ 情報処理演習　22
じ 情報処理概論Ⅰ　23
じ 情報処理概論Ⅱ　26
じ 情報処理概論A　28
し 心理学概論　29
せ 生物学　30
た 体育実技　31
に 日本国憲法　32
に 日本語表現の基礎　34
に 人間の研究　35
ぶ 文学　36
ぼ ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ　37
ま 学びのステップ　38

（２）保育科

お おもちゃと絵本Ⅰ　40
お おもちゃと絵本Ⅱ　41
お 音楽鑑賞法　42
お 音楽療法演習　43
お 音楽療法概論　44
お 音楽療法実習　45
お 音楽療法実践　46

お 音楽療法総合演習 47
お 音楽理論 48
が 合唱Ⅰ 49
き 器楽Ⅰ 50
き 器楽Ⅱ 51
き 器楽Ⅲ 52
き 器楽Ⅳ 53
き 器楽活用法 54
き 教育課程論 55
き 教育原理 56
き 教育実習 57
き 教育実習前後指導 58
き 教育心理学 60
き 教育方法と技術 61
き 教職概論 63
こ 子育て支援 65
こ こども音楽療育演習 66
こ こども音楽療育概論 67
こ こども音楽療育実習 68
こ 子ども家庭支援の心理学 69
こ 子ども家庭支援論 70
こ 子ども家庭福祉 71
こ 子どもと絵本Ⅰ 72
こ 子どもと絵本Ⅱ 74
こ 子どもと環境 76
こ 子どもと健康 78
こ 子どもと言葉 79
こ 子どもと人間関係 80
こ 子どもと表現（音楽）Ⅰ 81
こ 子どもと表現（音楽）Ⅱ 82
こ 子どもと表現（造形）Ⅰ 83
こ 子どもと表現（造形）Ⅱ 84
こ 子どもの健康と安全 85
こ 子どもの食と栄養Ⅰ 86
こ 子どもの食と栄養Ⅱ 87
こ 子どもの保健 88
し 社会的養護Ⅰ 89
し 社会的養護Ⅱ 90
し 社会福祉論 91
し 障がいと社会 93
し 障がいのある子どもと保育 95
し 身体表現及び即興演奏法 97
せ 声楽 98
と 特別支援教育Ⅰ 99
と 特別支援教育Ⅱ 101
に 乳児保育Ⅰ 103
に 乳児保育Ⅱ 104
は 発達障がい児支援実習 105

ほ 保育・教職実践演習（幼稚園） 106
ほ 保育原理 107
ほ 保育実習Ⅰa 108
ほ 保育実習Ⅰb 109
ほ 保育実習Ⅱ 110
ほ 保育実習Ⅲ 111
ほ 保育実習指導Ⅰ 112
ほ 保育実習指導Ⅱ 113
ほ 保育者論 114
ほ 保育内容「環境」の指導法 115
ほ 保育内容「健康」の指導法 116
ほ 保育内容「言葉」の指導法 118
ほ 保育内容「人間関係」の指導法 120
ほ 保育内容「表現」の指導法Ⅰ 121
ほ 保育内容「表現」の指導法Ⅱ 122
ほ 保育内容総論 124
ほ 保育の心理学 126
よ 幼児教育相談 127

（3）現代ビジネス科
あ ITパスポート対策講座 128
あ アニメーション表現 130
あ アメリカの文化と言語 131
い インタフェースデザイン論 132
い 異文化コミュニケーション入門 133
い 医学一般 134
い 医療・介護マネジメント 135
い 医療事務演習Ⅰ 136
い 医療事務演習Ⅱ 138
い 医療秘書概論 140
い 医療用語 142
い 医療倫理 144
う Webデザイン演習 146
え 映像撮影論 147
え 英語プレゼンテーション演習 148
か 観光英会話 149
か 観光概論 150
き 企業実習Ⅰ 152
き 企業実習Ⅱ 153
き 基礎英語 154
き 基礎経済 155
こ コミュニケーションデザイン 157
こ コンピュータ会計 158
こ 国際ビジネス英語Ⅰ 159
こ 国際ビジネス英語Ⅱ 160
じ 児童サービス論 161
じ 情報サービス演習Ⅰ 162
じ 情報サービス演習Ⅱ 163

じ 情報サービス論 164
じ 情報デザイン論 165
じ 情報資源組織演習Ⅰ 166
じ 情報資源組織演習Ⅱ 167
じ 情報資源組織論 168
じ 情報処理概論B 169
し 色彩学 170
た 多文化理解入門 171
ち 地域キャリアデザイン 172
ち 地域創生学演習Ⅰ 173
ち 地域創生学演習Ⅱ 175
で DTPデザイン演習 177
で DX基礎 178
て 適性検査実践演習 180
で 伝統文化 181
と TOEIC演習Ⅰ 183
と TOEIC演習II 184
と 図書・図書館史 185
と 図書館サービス概論 186
と 図書館概論 187
と 図書館実習 188
と 図書館情報技術論 189
と 図書館情報資源概論 190
と 図書館情報資源特論 191
と 図書館制度・経営論 192
ぴ ＰＣ演習Ⅰ 193
ぴ ＰＣ演習Ⅱ 194
び ビジネスマナー演習 195
び ビジネス実務総論 196
ひ 比較文化学概論 197
ひ 秘書学概論 198
ふ ＦＰ演習 199
ふ ファイナンスプランナー論 201
ぷ プレゼンテーション演習 202
ぷ プレゼンテーション概論 203
ぷ プログラミングⅠ（ビジュアル） 204
ぷ プログラミングⅡ（Python） 205
へ ヘルスマネジメント 206
へ 編入対策ゼミⅠ 207
へ 編入対策ゼミⅡ 208
ほ ホスピタリティマネジメント 209
ぼ 簿記演習 210
ま マーケティング概論 211
め メディアマーケティング 213
も MOS基礎演習 214
り リテールマーケティングⅠ 216
り リテールマーケティングⅡ 218

宮崎学園短期大学【全学DP】

Ⅰ　自他を大切にし、礼儀正しく行動できる。（礼節、人間尊重の精神）

a 勉学に励む学生としてふさわしい服装や持ち物等を身に付けることができる。	b 心のこもった挨拶や礼儀正しい言葉、敬語等、相手を尊重した言葉遣いができる。	c 時・場・目的等を踏まえ他者への配慮ある立ち居振る舞いができる。	d 道徳的な行動が、自律的・自発的にできる。	e　自他の人権や命を尊重することができる。

Ⅱ　自己と環境をより良くできる。（勤労、問題解決力）

a 自分から進んで行動できる。	b 成果を上げるためにコツコツ努力を重ねている。	c 自分の責任を自覚して、改善・向上への意欲を持っている。	d 自己を振り返り、改善すべき点を見出すようにしている。	e 目標を立て、計画的に物事を進めている。	f 集団・社会をより良くするために行動している。

Ⅲ　適切に情報を集め、しっかり考え、それをわかりやすく説明できる。（リテラシー）

a 分からないことを辞書などで調べるようにしている。	b 新聞、本を読み、自分の知的向上を図っている。	c ものごとを筋道を立てて考え、分析・総合できる。	d 自分の意見を分かりやすく他者に伝えることができる。	e 必要に応じてパソコンを使うことができる。

Ⅳ　多様な人々とコミュニケーションをとり、協力できる。（協働力）

a 相手の話に傾聴し、共感的に理解しようとする。	b 積極的に他人と関わっている。	c 相手に合わせて、自分の言いたいことを表現している。	d 協力して仕事をすることができる。	e リーダーシップを発揮できる。	f 状況に応じて、報告・連絡・相談を実践している。

Ⅴ　大学で学ぶ専門的知識や技能を実際場面に活用できる。（実践力）

a 授業に参加（意欲・態度・姿勢・身なり等）している	b 授業内容（知識・技能）を理解している	c 授業以外での学習（家庭・地域）をしている	d 学習したことの応用・発展（社会生活・実習・インターンシップ等）を心がけている

宮崎学園短期大学【保育科DP】

保育科　学科DP　自己評価ルーブ		レベル０（未達成）	レベル１（他律）	レベル２（自律）	レベル３（率先・貢献・探求）
Ⅰ 自己の成長					
	学習習慣	１週間の自宅での学習時間がのべ１時間以下	指示された課題９割以上を期限内に提出しているが、わからないところの解決に至っていない	課題はすべて期限内に提出し、わからないことは自分で調べるように習慣づけている	授業内容を超えて、様々な事柄に興味を持ち、探求している
	基礎学力	宮短基礎力向上ドリル（ベーシック）実力テスト100点取得が３科目未満	宮短基礎力向上ドリル（ベーシック）実力テスト100点を３科目以上取得	宮短基礎力向上ドリル（スタンダード）実力テスト100点を３科目以上取得	宮短基礎力向上ドリル（ベーシック・スタンダード）全科目100点
	自己理解	自己分析したことがなく、自分の長所・短所をわかっていない	他者からの評価によって自分の長所・短所を把握している	様々な視点から、自身の長所・短所を把握している	自分の強みを伸ばし・弱みを補うことができるよう心がけている
	教養	自分の好きなことだけしか興味がない	自分の知識・能力不足は自覚しているので、授業は好き嫌いなく勉強しようとしている	自身の教養を深めるために、授業以外も興味を広げ読書などに取り組んでいる	多角的な視点で物事を考えることができる
	社会変化への対応	社会で何が起こっているかよく知らない	社会の変化について、授業で学んだ範囲は知っている	持続可能な社会にするためには何をすべきか関心を持ち、自ら調べている	すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築くためにすべきことに取り組んでいる
	セルフマネジメント	自分を振り返ることがなく、自己の課題について考えていない	自己の課題がわかってはいるが、どうしてよいかわからない	自己の課題や目標について、具体的にその対応方法を考え、実践している	自己の課題や目標への取り組みに対し、振り返りを行い、改善策を検討している
Ⅱ 子どもの育ちを支える専門性					
	①保育の基礎的理解				
	保育者の使命	目指す保育者像について考えことがない	全国保育士会倫理綱領の内容を説明することができる	全国保育士倫理綱領に則った保育者として求められる行動を説明することができる	目指す保育者像を学内外で探求することができる
	保育制度の理解	子どもを育てる様々な社会の仕組みについてよく知らない	子どもや保護者をはじめ、子どもの健全な成長に関わる様々な問題について説明できる	社会全体で子どもを育てるための様々な施設・制度・資源について説明できる	社会のニーズに対応した福祉を目指し、必要な支援を考えることができる
	指針、要領、教育・保育要領の理解	指針、要領、教育・保育要領を読んだことはない	指針、要領、教育・保育要領を読み、概要を説明することができる	指針、要領、教育・保育要領を踏まえた、具体的な保育について説明することができる	指針、要領、教育・保育要領を踏まえ、実際の保育の課題を指摘できる
	子ども理解	子どもの成長発達について理解していない	子どもの発達や特性について、理解している	子どもの成長発達段階に応じた支援（保育活動）を考えることができる	子どもの成長発達段階を踏まえ、子ども一人ひとりに寄り添った支援ができる
	特別な配慮を必要とする子どもの保育の理解	特別に配慮を必要とする子どもの特徴や支援方法を知らない	具体的な場面での配慮や支援はできないが、発達障がいを含めた障がいの知識がある	特別な配慮を必要とする子どもの、基本的な知識をもち、実習場面で配慮や支援ができる	新しい情報を探りながら、特別な配慮が必要な子どもへ、実態に応じた必要な配慮や支援ができる
	②保育の基礎的実践力				
	子どもの健康への配慮	子どもの発育発達や健康状態についての知識がなく、保健活動の意義が分らない	子どもからの訴えや不機嫌な状態が続くことで、はじめて体調の変化に気付くことができる	子どもの健康状態を観察することで体調の変化に気付き、適切に対処し、報告することができる	子どもの健康状態を観察することで体調変化へ適切に対処し、職員と協力して集団への健康管理ができる
	安全な環境と事故防止	園庭や保育室の危険箇所がわからない	園庭や保育室の危険箇所を少し理解している	園庭や保育室の危険箇所に気付き、安全対策を考え実践することができる	園庭や保育室の危険箇所に気付き、安全対策を考え実践し、事故防止に努めることができる
	遊びの理解	子どもの興味や関心、発達課題がわからない	子どもの興味・関心、発達課題に気付くことができる	子どもの興味・関心、発達課題に応じた遊びの計画ができる	子どもの成長過程を捉え、子ども主体の遊びを展開することができる
	子どもの気持ちへの寄り添い	子どもの気持ちが想像できない	子どもの気持ちを想像することはできるが、それに対応することができない	子どもの言動から気持ちを汲み取り、思いに共感したり言葉に変えたりすることができる	子どもの言動から気持ちを汲み取りながら、月齢や年齢に応じた対応ができる
	子どもの主体性を引き出す保育環境の構成	保育における環境の役割を説明できない。	環境構成に必要な人的環境・物的環境について説明できる	子どもの発達の様子に合わせた環境を構成することができる	子どもを主体とした関わりの中で、保育環境を構成することができる
	保育日誌の作成（保育者養成コースのみ対象）	保育日誌の作成に、指導者の支援をかなり要する	保育日誌の作成について、指導者の指導・助言を得ながら記述できる	保育場面の観察･実践を通して、保育日誌を自分で作成することができる	保育日誌を自分で作成し、環境構成や保育者の援助について具体的に記述することができる
	保育計画の作成と実践（保育者養成コースのみ対象）	保育指導案の作成に、他者の支援をかなり要し、計画した保育の実践も自力では行えない	保育指導案の作成に他者の支援を要するが、計画した保育は自力で実践することができる	子どもの実態に即した保育を自身で作成した保育指導案をもとに実践することができる	子どもの実態に即した保育をPDCAサイクルによって改善しつづけることができる
Ⅲ 協働力					
	礼節	他者を尊重した、場にふさわしい言動をあまり意識せず生活している	他者を尊重した、場にふさわしい言動を指摘されることがある	他者を尊重した、場にふさわしい言動を自ら心がけ、実践している	他者を尊重した、場にふさわしい言動を率先して行い他者の模範となることができる
	コミュニケーション	人と話すことが苦手で、人とコミュニケーションをとろうとしない	自分の考えや意見を相手に伝えることができる	相手の考え・意見をくみ取りながら、自分の考えを相手が理解できるように伝えることができる	みんなが納得できる建設的なコミュニケーションをとることができる
	プレゼンテーションスキル	自分の意図を効果的に伝える方法をしらない	人前に立ち発表することはできるが、他者の理解を考えた工夫ができていない	多様なプレゼンテーションの手段について知識を持ち、体系的で相手にわかりやすい説明をすることができる	他者の興味を引き、相手を説得するためのプレゼンテーションを考えることができる
	ICTリテラシー	情報モラルについて理解しておらず、コンピュータの基本的操作ができない。	情報モラルに関する知識を身に付け、インターネットの利用やICT関連ソフトの基本的な操作ができる	課題解決のために様々なICTツールを活用して収集した情報を整理・管理・活用することができる	ICTツールやネットワークを活用してデータや情報を整理・管理・活用し、新たな価値を生み出すことができる
	チームワーク	課題解決のために、協働して作業することができない	課題解決のために、与えられた自分の役割を果たすことができる	課題解決のために、周囲の状況を踏まえ、主体的に自分の役割を果たすことができる	課題解決のために、メンバーの特性を活かして、リーダーシップを発揮することができる

現代ビジネス科　学科DP　自己評価ルーブリック

			レベル０（未達成）	レベル１（他律）	レベル２（自律）	レベル３（率先・貢献）
Ⅰ 成長力						
	学習習慣		１週間の自宅での学習時間がのべ１時間以下	指示された課題９割以上を期限内に提出しているが、わからないところの解決に至っていない	課題はすべて期限内に提出し、わからないことは自分で調べるように習慣づけている	授業内容を超えて、様々な事柄に興味を持ち、探求している
	基礎学力		宮短基礎力向上ドリル（ベーシック）実力テスト100点取得が３科目未満	宮短基礎力向上ドリル（ベーシック）実力テスト100点を３科目以上取得	宮短基礎力向上ドリル（スタンダード）実力テスト100点を３科目以上取得	宮短基礎力向上ドリル（ベーシック・スタンダード）全科目100点
	自己理解		自己分析したことがなく、自分の長所・短所をわかっていない	他者からの評価によって自分の長所・短所を把握している	様々な視点から、自身の長所・短所を把握している	自分の強みを伸ばし・弱みを補うことができるよう心がけている
	教養		自分の好きなことだけしか興味がない	自分の知識・能力不足は自覚しているので、授業は好き嫌いなく勉強しようとしている	自身の教養を深めるために、授業以外も興味を広げ読書などに取り組んでいる	多角的な視点で物事を考えることができる
	社会の変化への対応		社会で何が起こっているかよく知らない	社会の変化について、授業で学んだ範囲は知っている	持続可能な社会にするためには何をすべきか関心を持ち、自ら調べている	すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築くためにすべきことを取り組んでいる
	セルフマネジメント		自分を振り返ることがなく、自己の課題について考えていない	自己の課題がわかってはいるが、どうしてよいかわからない	自己の課題や目標について、具体的にその対応方法を考え、実践している	自己の課題や目標への取り組みに対し、振り返りを行い、改善策を検討している
Ⅱ 対応力						
	①ビジネスの基礎理解					
		働く意義、職業理解	仕事を通して、自己実現することの意味や社会的意義は分からない	企業研究や職業現場実習を経験し、職業と仕事のイメージを掴むことができた	自分自身の強みや長所を活かすことのできる職業について調査し、の進路計画を描くことができる	明確な進路意識のもと、進路決定に向けた努力を重ね、自己向上に努めている
		経済の基礎・基本の理解	経済の基本的な考えや経済の理論について説明できない	経済とは何か、経済の諸現象について理解を深めようとしている	経済学の基本的な用語（市場、マクロ経済、ミクロ経済、機会費用など）を説明できる	市場経済のしくみと役割を理解しており、経済現象について説明することができる
		ビジネスの基礎・基本の理解	ビジネス社会での仕事の進め方や人間関係のあり方が分からない	企業概念とビジネス活動、ビジネスに対する心構えを理解している	ビジネス活動で求められる基本的能力を説明することができる	多様化するビジネス環境について情報を収集することができ、ＰＤＣＡを理解した行動ができる
		現代社会でのプレゼンテーションの役割	現代社会におけるプレゼンテーションの意義や役割は分からない	様々な場面のプレゼンテーションを作り、良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションの違いが分かる	プレゼンテーション構成要素であるコンテンツスキル、デリバリースキルを効果的に表現できる。	目的に応じた適切なプレゼンテーション資料を作成することができ、実施する際のポイントをしっかりと押さえることができる
	②8つのコースに共通する社会人基礎力と変化する社会に対応できるビジネス実践力					
		キャリアプランを描くことができる	キャリア意識が希薄で、将来への関心が低く、キャリアプランがない	客観的に自己の分析ができ、自己の良さを知る。また広い視野で将来を考えることができる	多様な考えや価値観に触れ、自分自身のキャリア形成に活かすことができる	自身の人生設計に必要な情報・資格・スキルの検討ができ、具体的な目標を設定することができる
		情報技術を使って、様々なビジネスシーンに情報活用ができる	ビジネスにおける情報活用の手法が分からない	ビジネスにおける情報を収集、処理し、管理する手法について理解している	ビジネス情報、文書デザイン、医療情報、図書館情報等の情報関連科目の技術を身につけ、ビジネスシーンで活用することができる	得られたビジネス情報を分析、発信するなど、情報技術を実務に活用することができる
		現状打開のために創意工夫し、解決に向けた計画を考えることができる（考え抜く力）	現状認識が甘く、課題を明らかにすることができない	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる課題発見力が身についている	問題解決に向けたプロセスを明らかにし準備できる計画力が身についている	課題解決策の計画を実行し、新しい価値を生み出す創造力がある
		一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができる（前に踏み出す力）	明確な答えが見つからないと、結果が怖くて前に踏み出すことができない	課題解決や問題に自ら進んで取り組む主体性が身についている	目的を設定し、確実に行動できる実行力が身についている	他者に働きかけ、巻き込みながら行動を起こす力が身についている
		多様な人々とともに、目標に向けて協力することができる（チームで働く力）	価値観や意見の違う他者とはあまり協力しあうことができない	相手の意見を丁寧に聞く力を備え、自分の意見を分かりやすく伝えることができる	意見の違いや立場の違いを理解できる柔軟性を持ち、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解できる状況把握力が身についている	社会のルールや人との約束を守ることのできる規律性を備え、課題解決に向けメンバー間の意思疎通を調整することができる
Ⅲ 協働力（他者との関係）						
	①他者とのコミュニケーションを通した課題の解決					
		コミュニケーション力（自分の考えを相手に効果的に伝え、相手の意見を理解する能力）	自己中心的な考えを優先したり、他者と関わろうとしない	積極的ではないが他者の意見に耳を傾けることはできる	他者の意見の真意を把握できるが、自らの意見を伝えることに消極的である	他者の考えを理解し、自らの考えも含めて論理的かつ的確に意見交換ができる
		問題解決力	自分の考えだけで解決しようとする	グループで話し合い、共通の目標を設定することができる	異なる視点から問題を分析し、多様な解決策を提案することができる	最適な解決策を選び、実行計画を立てることができる
		柔軟性	自分の考えを変えようとしない	状況の変化に応じて、多少の柔軟性を見せる	新しいアイデアを積極的に受け入れ、改善することができる	変化を楽しみ、新しい状況にも対応することができる
		協調性	グループ活動に消極的で、他のメンバーに頼りがちである	グループの目標達成のために、積極的に協力することができる	リーダーシップを発揮し、チームをまとめることができる	他のメンバーの能力を最大限に引き出し、チーム全体の能力を高めることができる
		ICTスキルの活用	ビジネスや業務を円滑に行うためのＩＣＴスキルが身についていない	基本的なICTツールの操作ができ、指示を受けた範囲内で活用することができる	チームの目標達成のために適切なICTツールを活用し、他のメンバーと情報を効率的に共有することができる	ICTの活用を通じて新たな視点や解決策を提案し、チーム全体の成果を高めることができる

令和8年度　保育科　カリキュラムマップ　要素一覧（学科DPに沿った能力育成計画）

区分	科目名	授業の種類	開設単位数	開設の時期 1年 前期	開設の時期 1年 後期	開設の時期 2年 前期	開設の時期 2年 後期	卒業 必修	卒業 選択	Ⅰ 自己の成長 学習習慣	Ⅰ 自己の成長 基礎学力	Ⅰ 自己の成長 自己理解	Ⅰ 自己の成長 教養	Ⅰ 自己の成長 社会変化への対応	Ⅰ 自己の成長 セルフマネジメント	Ⅱ 子どもの育ちを支える専門性 ①保育の基礎的理解 保育者の使命	Ⅱ ①保育の基礎的理解 保育制度の理解	Ⅱ ①保育の基礎的理解 指針、要領、教育・保育要領の理解	Ⅱ ①保育の基礎的理解 子ども理解	Ⅱ ①保育の基礎的理解 特別な配慮を必要とする子どもの保育の理解	Ⅱ ②保育の基礎的実践力 子どもの健康への配慮	Ⅱ ②保育の基礎的実践力 安全な環境と事故防止	Ⅱ ②保育の基礎的実践力 遊びの理解	Ⅱ ②保育の基礎的実践力 子どもの気持ちへの寄り添い	Ⅱ ②保育の基礎的実践力 子どもの主体性を引き出す保育環境の構成	Ⅱ ②保育の基礎的実践力 保育日誌の作成	Ⅱ ②保育の基礎的実践力 保育計画の作成と実践	Ⅲ 協働力 礼節	Ⅲ 協働力 コミュニケーション	Ⅲ 協働力 プレゼンテーションスキル	Ⅲ 協働力 ICTリテラシー	Ⅲ 協働力 チームワーク
一般教育科目	情報処理概論Ⅰ	演習	1	○				1			◎																				
	情報処理概論Ⅱ	演習	1		○			1			◎																				
	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ	演習	2	○	○			2					◎																◎			
	健康の科学	講義	1	○				1					◎															◎				
	体育実技	実技	1		○			1																				◎	◎			◎
	人間の研究(礼節・勤労)	演習	1	○				1				◎	◎	◎	◎													◎				◎
	キャリアガイダンス	〃	1		○			1				◎	◎	◎	◎	◎													◎			◎
	学びのステップ	講義	2	○				2		◎	◎																		◎	◎		◎
	子どもと健康	演習	1		○			1								◎		◎			◎	◎										
	子どもと人間関係	〃	1		○			1										◎					◎									
	子どもと環境	〃	1	○				1										◎				◎	◎		◎							
	子どもと言葉	〃	1	○				1										◎					◎									◎
	子どもと表現(音楽)Ⅰ	〃	1	○				1										◎					◎		◎							◎
	子どもと表現(音楽)Ⅱ	〃	1		○				1									◎					◎		◎							◎
	子どもと表現(造形)Ⅰ	〃	1	○				1										◎					◎		◎							
	子どもと表現(造形)Ⅱ	〃	1		○				1									◎					◎		◎							
	保育内容総論	演習	1	○				1						◎				◎														
	保育内容「健康」の指導法	〃	1			○			1									◎					◎									
	保育内容「人間関係」の指導法	〃	1			○			1									◎					◎		◎			◎				
	保育内容「環境」の指導法	〃	1			○			1									◎	◎			◎	◎		◎			◎				
	保育内容「言葉」の指導法	〃	1		○				1									◎	◎				◎	◎				◎				
	保育内容「表現」の指導法Ⅰ	〃	1			○			1									◎					◎		◎			◎				
	保育内容「表現」の指導法Ⅱ	〃	1				○		1									◎					◎		◎			◎				◎
器楽	器楽Ⅰ	〃	1	○				1		◎					◎														◎			
	器楽Ⅱ	〃	1		○			1		◎					◎														◎			
	器楽Ⅲ	〃	1			○			1	◎					◎														◎			
	器楽Ⅳ	〃	1				○		1	◎					◎														◎			
教育の基礎的理解に関する科目群	教職概論	講義	2				○	2								◎	◎	◎														
	保育原理	〃	2	○				2									◎	◎														
	教育原理	〃	2			○			2								◎	◎														
	子ども家庭福祉	〃	2			○		2						◎		◎	◎															
	社会福祉論	〃	2	○				2			◎			◎			◎															
	子ども家庭支援論	〃	2				○		2					◎		◎	◎															
	社会的養護Ⅰ	〃	2		○				2								◎	◎		◎												
	保育者論	〃	2		○				2							◎		◎														
	教育心理学	講義	2	○				2											◎						◎				◎			
	保育の心理学	演習	1		○				1										◎						◎							
	子ども家庭支援の心理学	講義	2			○			2										◎	◎												
	子どもの保健	講義	2	○				2													◎	◎										
	子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1			○			1												◎	◎										
	子どもの食と栄養Ⅱ	〃	1				○		1											◎	◎											
	教育課程論	講義	2		○				2							◎		◎														
	社会的養護Ⅱ	〃	1			○			1			◎				◎		◎		◎					◎							
	乳児保育Ⅰ	講義	2	○				2										◎	◎						◎							
	乳児保育Ⅱ	演習	1		○				1					◎		◎			◎			◎	◎		◎							
	特別支援教育Ⅰ	〃	1		○			1												◎	◎				◎							
	特別支援教育Ⅱ	〃	1			○		1												◎	◎				◎							
	子育て支援	〃	1				○	1									◎			◎												
	子どもの健康と安全	〃	1		○			1													◎	◎										
	教育方法と技術	講義	2				○		2									◎								◎				◎		
	幼児教育相談	〃	2				○		2											◎					◎				◎			
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2				○		2			◎			◎	◎				◎	◎			◎	◎			◎	◎				◎
実習指導	教育実習前後指導	実習	1	△	△	△			1			◎				◎	◎	◎	◎	◎						◎						
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	○	○	○			2			◎				◎	◎	◎	◎	◎						◎						
	保育実習指導Ⅱ	演習	1			○	○		1			◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					

令和8年度　現代ビジネス科　カリキュラムマップ　要素一覧（学科DPに沿った能力育成計画）

大区分	小区分	授業科目	種別	単位数	卒業 必修	卒業 選択	開設の時期 1年前期	開設の時期 1年後期	開設の時期 2年前期	開設の時期 2年後期	Ⅰ 成長力 学習習慣	Ⅰ 成長力 基礎学力	Ⅰ 成長力 自己理解	Ⅰ 成長力 教養	Ⅰ 成長力 社会の変化への対応	Ⅰ 成長力 セルフマネジメント	Ⅱ 対応力 ① ビジネスの基礎理解 働く意義、職業理解	Ⅱ 対応力 ① ビジネスの基礎理解 経済の基礎・基本の理解	Ⅱ 対応力 ① ビジネスの基礎理解 ビジネスの基礎・基本の理解	Ⅱ 対応力 ① ビジネスの基礎理解 現代社会におけるプレゼンテーションの役割の理解	Ⅱ 対応力 ② 8つのコースに共通する社会人基礎力と変化する社会 キャリアプランを描くことができる	Ⅱ 対応力 ② 8つのコースに共通する社会人基礎力と変化する社会 情報収集を使って様々なビジネスシーンに情報活用ができる	Ⅱ 対応力 ② 8つのコースに共通する社会人基礎力と変化する社会 現代社会のための経済二次ができ、時代に合わせた提案をする	Ⅱ 対応力 ② 8つのコースに共通する社会人基礎力と変化する社会 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができる	Ⅱ 対応力 ② 8つのコースに共通する社会人基礎力と変化する社会 多様な人々と共に目標に向けて協力することができる	Ⅲ 協働力 コミュニケーション力	Ⅲ 協働力 問題解決力	Ⅲ 協働力 柔軟性	Ⅲ 協働力 協調性	Ⅲ 協働力 ICTスキルの活用
専門教育科目	自然科学分野（理系）	生物学	講義	2		2	○		○																				
		化学	講義	2		2	○		○																				
		数学	講義	2		2		○		○																			
		統計学の基礎	講義	2		2		○		○		◎		○				○				◎							○
		情報処理概論A	講義	2	2		○							◎								◎							◎
	基礎力分野	日本語表現の基礎	講義	2		2		○			○	◎		○											○			◎	
		コミュニケーション英語Ⅰ	演習	1	1		○							○											◎				
		コミュニケーション英語Ⅱ	演習	1	1			○																	◎				
		健康の科学	講義	1		1	○							◎														◎	
		体育実技	実技	1		1		○																	○		◎	◎	
		人間の研究（礼節・勤労）	演習	1	1		○					◎		○	○	◎												○	
		キャリアガイダンス	講義	2	2		○					◎				○	○				◎			○	◎			○	
		ボランティア実習Ⅰ	実習	1		1	○	○				○				◎							○		◎			◎	
		ボランティア実習Ⅱ	実習	1		1			○	○																			
		生涯学習概論	講義	2		2		○		○																			
		情報処理演習	演習	1		1		○							○							◎						○	○
		自然災害と防災	講義	2		2		集中							◎								◎				◎		
	学科共通科目	秘書学概論	講義	2		2		○			○			◎									○		◎				
		基礎経済	講義	2		2		○				○		◎				○											
		情報処理概論B	講義	2		2			○						◎							◎							◎
		ビジネス実務総論	講義	2		2		○					◎			○	○		○			◎					○		
		プレゼンテーション概論	講義	2		2			○						◎					◎		◎		◎					◎
		地域キャリアデザイン	講義	2	2		○							◎			◎												
		ヘルスマネジメント	講義	2		2	○									◎		○	○				○						
		ビジネス実務演習	演習	1		1		○																					
		プレゼンテーション演習	演習	1		1			○																				
		地域創生学演習Ⅰ	演習	2		2		○											○			◎	○	◎	○	◎		○	○
		地域創生学演習Ⅱ	演習	2		2				○																			
		企業実習Ⅰ	実習	1		1	○										◎		○			○						○	
		企業実習Ⅱ	実習	1		1			○																				
		卒業研究	演習	2		2			○	ー																			
	ソーシャルメディア	情報デザイン論	講義	2		2		○														○	○				◎		◎
		コミュニケーションデザイン	講義	2		2		○										○				○	○				○		
		メディアマーケティング	講義	1		1			○																				
		色彩学	講義	2		2	○				○												○					○	○	○
		DTPデザイン演習	演習	1		1		○												○		○	◎						◎
		Webデザイン演習	演習	1		1		○												○		◎	◎				○		◎
	情報クリエイティブ	インタフェースデザイン論	講義	2		2	○															○	◎				◎		○
		アニメーション表現	講義	2		2		○												○		◎	○					○	○
		プログラミングⅠ（ビジュアル）	講義	2		2	○															◎		○			○		○
		プログラミングⅡ（Python）	講義	2		2			○																				
		DX基礎	講義	2		2		○										○				○	◎				○		○
		映像撮影論	講義	1		1			○																				
	観光ホスピタリティ	観光概論	講義	2		2			○								○		◎			○					○		
		ホスピタリティーマネジメント	講義	2		2	○												○								◎	○	
		観光と地域経済	講義	2		2		○										◎	◎								○		
		イベント企画とマーケティング	講義	2		2				○																			
		国内旅行実務	講義	1		1			○																				
		観光英会話	演習	1		1		○											○								◎		
	司書オフィスワーク	情報サービス論	講義	2		2			○																				
		図書館概論	講義	2		2	○			○							◎				○								
		図書館情報技術論	講義	2		2				○																			
		図書館制度・経営論	講義	2		2			○																				
		図書館サービス概論	講義	2		2		○							○		◎										○		
		情報サービス演習Ⅰ	演習	1		1			○																				
		情報サービス演習Ⅱ	演習	1		1				○																			
		図書館情報資源概論	講義	2		2	○											○			○	◎							
		情報資源組織論	講義	2		2		○										○				◎							
		情報資源組織演習Ⅰ	演習	1		1			○																				
		情報資源組織演習Ⅱ	演習	1		1				○																			
		児童サービス論	講義	2		2			○																				
		図書・図書館史	講義	1		1		○										◎				○							
		図書館情報資源特論	講義	1		1		○										○					◎						○
		図書館実習	実習	1		1			○																				
		子どもと絵本Ⅰ	講義	2		2	○																		◎		◎		
		子どもと絵本Ⅱ	講義	2		2		○																	◎		◎		
	メディカルマネジメント	医学一般	講義	2		2	○							◎		○	○					○							
		医療倫理	講義	2		2				○																			
		医療関係法規	講義	2		2			○																				
		医療事務演習Ⅰ	演習	1		1	○											◎	○			○					○		
		医療事務演習Ⅱ	演習	1		1		○										◎	○			○					○		
		医療事務演習Ⅲ	演習	1		1			○																				
		医療秘書概論	講義	2		2		○										◎				○						○	○
		医療・介護マネジメント	講義	2		2			○																				
		医療機関実習	実習	1		1		○										◎				◎					○	○	○
		医療用語	講義	2		2	○											◎				○							
		医療サービス論	講義	2		2			○																				
		医療情報学	講義	2		2				○																			
	経営マーケティング	経営学総論	講義	2		2		○										○	◎			○						○	
		マーケティング概論	講義	2		2			○																				
		経営戦略論	講義	2		2				○																			
		ファイナンスプランナー論	講義	2		2			○																				
		リテールマーケティングⅠ	講義	2		2			○																				
		リテールマーケティングⅡ	演習	1		1				○																			
	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション入門	講義	2		2	○												○						◎	◎	○		
		比較文化学概論	講義	2		2			○														○		◎		○		
		宗教と現代社会	講義	2		2				○																			
		文化人類学	講義	2		2			○																				
		アメリカの文化と言語	講義	2		2			○																				
		中国の文化と言語	講義	2		2				○																			
	グローバルコミュニケーション	多文化理解入門	講義	2		2	○											○				○			○		◎		
		基礎英語	演習	1		1	○																		○	◎			
		実用英語	演習	1		1		○											○				○		○	◎			
		国際ビジネス英語Ⅰ	演習	1		1			○																				
		国際ビジネス英語Ⅱ	演習	1		1				○																			
		英語プレゼンテーション演習	演習	1		1		○											◎						○	○		○	
	スキルアップ	MOS基礎演習	演習	1		1			○																				
		ITパスポート対策講座	演習	1		1		○			○												◎						◎
		CAD演習	演習	1		1				集中																			
		簿記演習	演習	1		1		○			○							◎							○				
		FP演習	演習	1		1				○																			
		コンピューター会計	演習	1		1			○																				
		PC演習Ⅰ（ワープロ）	演習	1		1	○				○											○							◎
		PC演習Ⅱ（表計算）	演習	1		1		○			○											○							◎
		適性検査実践演習	演習	1		1	○				○	◎		○															
		TOEIC演習Ⅰ	演習	1		1		○			○	◎										○			○				
		TOEIC演習Ⅱ	演習	1		1			○																				
		編入対策ゼミⅠ	演習	1		1		○			○	◎	○									○					○		
		編入対策ゼミⅡ	演習	1		1			○																				
		伝統文化（茶道・華道・着付け）	演習	1		1			○																				
		公務員対策特別講座	演習	-		-			集中																				
		エアライン就活対策講座	演習	-		-			集中																				
		海外研修	演習	-		-			○	ー																			
		国内旅程管理主任者資格対策講座	演習	-		-			集中																				

授業科目名	化学（科目コード:TGNSC102）						
科目名							
担当者	保田 昌秀 （myasuda@miu.ac.jp）						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	全学科	開講時期	1,2 年前期 1,2 年後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： 化学の基礎知識と考え方を習得し、他人に伝えることができる。

DPとの関わり	全学DP					
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ◎	

評価指標： ①化学の基礎知識と学び方を習得し、他人に説明することができる
②宮崎県が生産する化学製品について学ぶ。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	原子：物質の基本単位	原子＝陽子＋中性子＋電子。同位体、質量数、原子量について学ぶ	授業内容の復習および与えられた課題を解く
2	電子：原子の空間を占める電子	軽い電子が重い陽子の周りを回る軌道によって広い空間に広がっていることを学ぶ	授業内容の復習および与えられた課題を解く
3	分子：複数原子が電子でつながる	分子中の電子の配置を、ルイス構造、ケクレ構造、原子価結合法で学ぶ	授業内容の復習および与えられた課題を解く
4	炭素原料；生活のエネルギー	ナフサ・ガソリンについて学ぶ。エチレンによるバナナの熟成。	授業内容の復習および与えられた課題を解く
5	二酸化炭素と地球温暖化	二酸化炭素の性質と地球温暖化について学ぶ	授業内容の復習および与えられた課題を解く
6	セルロース：地球に多い高分子	高分子の種類や糖などについて学ぶ	授業内容の復習および与えられた課題を解く
7	水：電子が偏っている分子	水素イオン指数（pH）を使って、酸性雨のヒステリシス現象を学ぶ	授業内容の復習および与えられた課題を解く
8	光と色および中間試験	・ 光の波長と補色について学ぶ ・ 前半 7 回分の内容について中間試験を行う	授業内容の復習および与えられた課題を解く
9	アルキル基：柔らかい構造	アルキル基の役目を界面活性剤・液晶で学ぶ。	授業内容の復習および与えられた課題を解く
10	塩素化合物：役立つが嫌われる	フロンとオゾン層の関係を通じて塩素の役割を学ぶ。海水の塩分濃度を求める実験。	授業内容の復習および与えられた課題を解く
11	ケイ素：地表に多い元素	半導体基板のシリコン、ガラス・セメント・セラミックスの原料の二酸化ケイ素を学ぶ	授業内容の復習および与えられた課題を解く
12	金属：酸素と結合しやすい元素	鉄・アルミニウムの製法を学び、金属全般を比重、起電力で整理して学ぶ。	授業内容の復習および与えられた課題を解く
13	グループ学習	科学切手についてのグループ学習	グループで課題を解く
14	宮崎が誇る製品と技術	宮崎の製造業、宮崎県出身者が起業した会社、宮崎の農業・畜産業（鶏豚牛肉、乳製品）・漁業・林業および農産物加工会社（果汁、漬物、焼酎）のシェアなどを学ぶ。	授業内容の復習および与えられた課題を解く
15	グループ発表会	科学切手についてのグループ発表	グループで課題を解く
16	期末試験	8～12 回の期末試験	

単位の認定について： 中間試験 40%　期末試験 35%　グループ発表 10%　平常点 15%

教科書： 必要に応じてプリントを配布
参考書： 授業中に適宜紹介する。

授業外学習について： 適宜、課題を出す。指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法： 次回の授業冒頭で解答を示す。

授業科目名	キャリアガイダンス（科目コード:　　）						
資格取得との関連	実践キャリア実務士(必修)、ビジネス実務士(必修)、上級ビジネス実務士(必修)、プレゼンテーション実務士(必修)						
担当者	河野美香子(m-kawano@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、自己の内省を深めるとともに、自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を養うことを目標とする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標：・自らの内省を深め、自己肯定感や主体性を持って行動できる。
・ビジネス社会で求められるビジネスマナーやモラルを説明できる。
・自らのキャリアイメージを具体化できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス・キャリア形成の実際	授業の進め方やキャリア教育の意義について理解する。また、教員自身のこれまでの経験を聞き、自己のキャリア形成のヒントを得る。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
2	ビジネスマナー	社会人に必要なビジネスマナーを理解し、身につける。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
3	自己分析（１）	自己の特徴を多面的に分析し、自らの強みをアウトプットできるスキルを養う。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
4	自己分析（２）	自己の価値観を知り、キャリアイメージを具体化する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
5	企業研究 項目③（導入 1-4）	企業研究を通して、興味のある業界への知識を深めるため、学生がデータ・AI 利活用を行い、企業について調査する。結果をグループワークの中で発表して意見を出し合い、自分のキャリアイメージを具体化する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
6	講演	一般企業、医療機関の就業者の講演を聴き、自己のキャリアイメージを具体化する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
7	メールと送付状（１） 項目④（導入 3-1）	ビジネスメールの活用方法やメールのマナーについて理解する。AI が引き起こす課題についてグループディスカッションを行い、留意事項を深く知る。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
8	メールと送付状（２）	就職活動やビジネス社会で使用する送付状の作成方法を理解する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
9	履歴書の作成（１）	就職活動に必要な応募書類（履歴書・エントリーシート）の書き方 のポイントを理解する。取得予定の資格、検定を理解する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
10	履歴書の作成（２）	作成した履歴書の添削指導を受ける。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
11	履歴書の作成（３）	指導を受けた内容を活かし、志望動機以外の項目について作成する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
12	書類提出のマナー	応募書類の提出に必要なビジネスマナーを理解するとともに、証明写真撮影のポイントについて学ぶ。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
13	就活サイトの活用	マイナビやハローワーク等の就活支援サイトの活用方法を学ぶとともに、就職活動の具体的な流れを理解する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
14	選考方法について	就職試験で用いられるグループディスカッションの意義や選考方法を理解する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
15	面接	就職活動における面接試験の意義とポイントを理解し、必要な知識 やスキルについて学ぶ。	最終課題の提出に向けて、準備を行う。(60 分)

単位の認定について　取り組み状況(30%)、ワークシート(30%)、課題(40%)
教科書…プリント配布
参考書…noa 出版（2013)『「なりたい自分」を目指す　シューカツワーク Book』
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	キャリアガイダンス						
資格取得との関連							
担当者	井上浩義(h-inoue@mgjc.ac.jp)、村上和厳、武村順子						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科1年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： 生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、自己の内省を深めるとともに、自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を養うことを目標とする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：・自らの内省を深め、自己肯定感や主体性を持って行動できる。
・自らのキャリアイメージを具体化できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	授業の進め方やキャリア教育の意義について理解する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
2	自己分析1	自己の特徴を多面的に分析し、自らの強みをアウトプットできるスキルを養う。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
3	自己分析2	自己の価値観を知り、キャリアイメージを具体化 する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
4	就職活動の基礎	就職活動の基本的ルールや保育関係施設の情報収集の仕方、訪問の仕方を知る。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
5	履歴書の作成	就職活動に必要な応募書類(履歴書・エントリーシート) の書き方 のポイントを理解する。取得予定の資格、検定を理解する。	履歴書を作成し、添削指導受けた内容について復習する。 (60 分)
6	ビジネスマナー	社会人に必要なビジネスマナーを理解し、身につける。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
7	ビジネス文書作成	就職活動やビジネス社会で使用するメールや送付状の作成方法を理解する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
8	チームマネジメント	組織内でのチームワーク形成のためのポイントや多職種との連携方法等について理解する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
9	暮らしとお金1	「税金」に関する講話を聴き、社会人として必要なお金に関する知識を養う。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
10	暮らしとお金2	「資産形成」に関する講話を聴き、社会人として必要なお金に関する知識を養う。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
11	キャリア形成1	保育施設(保育園・幼稚園またはこども園・福祉施設)就職の卒業生メッセージを通して、自己のキャリアイメージを具体化する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
12	キャリア形成2	一般企業に就職した卒業生からのメッセージを通して、自己のキャリアイメージを具体化する。	学んだ内容の復習や指示された課題を行う。(30 分)
13	施設研究1	地域ごとの保育園・幼稚園・認定こども園について調べ、各園の保育理念や特徴を知り、就職ガイダンスに参加する。	興味のある園の概要についてホームページや実習指導室に保管されている資料を基に調べる(60分)
14	施設研究2		
15	まとめ	これまでの授業内容について振り返り、自己のキャリア形成についてレポートにまとめる。	最終課題レポートの提出に向けて、準備を行う。(60 分)

単位の認定について 取り組み状況(30%)、ワークシート(30%)、課題(40%)
教科書
参考書
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	教育学						
資格取得との関連							
担当者	村上和厳(k-murakami@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	全学科 1.2 年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： 1. 教育学に関する基礎的な知識を学習する。
2. 日常における教育問題について学生同士でグループワークを行い、発表する。

DPとの関わり	全学DP						カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ		

到達目標： 1.教育学に関する基礎的な知識を理解することができる。
2.日常における教育問題について学生同士でディスカッションを行い、考えを深めることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	本講義の説明を行うとともに、日常における教育の課題を全体で共有する。	事前に日常における教育の課題を整理しておく。(60 分)
2	「学校」とは	「学校」についてグループワークを行い、その理解を深める。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
3	「教師」とは	「良い教師とはなにか」についてグループワークを行い、教師に関する理解を深める。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
4	「学ぶ」と「教える」とは	「学ぶこと」と「教えること」の違いについてグループワークを行い、理解を深める。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
5	「社会教育」とは	社会教育に関する事例を踏まえて、その意義や課題についてグループワークを通して考える。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
6	「海外の教育」とは	日本とアメリカ合衆国の学校教育を比較し、グループワークを通して、学校教育に関する理解を深める。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
7	日常における教育課題①	子どもの貧困について、グループワークを通して理解を深める。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
8	日常における教育課題②	いじめについて、グループワークを通して理解を深める。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
9	日常における教育課題③	不登校について、グループワークを通して理解を深める。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
10	日常における教育課題④	児童虐待について、グループワークを通して理解を深める。	グループワークの内容を整理し、自身の考えを再構築する。(60 分)
11	「教育学」とは	教育学の学問領域について学習し、自身が教育学の中でもどの領域に興味・関心があるか考える。	興味のある学問領域について調べておく。(60 分)
12	宮崎県の教育課題①	グループで、宮崎県の教育について調べ、その課題を考える。	第 15 回の全体発表に向けて準備を進める。(60 分)
13	宮崎県の教育課題②	前回考えた課題の改善策をグループで考え、まとめる。	第 15 回の全体発表に向けて準備を進める。(60 分)
14	宮崎県の教育課題③	宮崎県の教育課題及び、その改善策をレポートやプレゼンテーション資料にまとめる。	第 15 回の全体発表に向けて準備を進める。(60 分)
15	宮崎県の教育課題④	宮崎県の教育課題及びその改善策について、全体で発表し、討論する。	第 15 回の全体発表に向けて準備を進める。 これまでの講義の内容を整理し、定期試験の準備を進める。(60 分)
16	定期試験		

単位の認定について 定期試験 50 点と、授業への取り組み 30 点、全体発表 20 点を配分とする。60 点以上で単位を認定する。
教科書 指定なし
参考書 「学習指導要領」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	教養韓国語Ⅰ・Ⅱ(科目コード:　　)						
資格取得との関連	SPARC 学位プログラム(選択)						
担当者	金　智賢(宮崎大学)						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科 1 年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	2

授業概要：

内容は以下の URL または QR コードからアクセスして必ず読んでおくこと。

※本科目は　火曜日 9・10 限　16:40～18:10（宮崎大学時間割による）に実施します。場所、授業方法はシラバスで必ず確認しておくこと。

https://syllabus.eden.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/detail?n=2026&j=ksfc1&s=ksfc1

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

到達目標：

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16	定期試験		

単位の認定について

教科書

参考書

授業外学習について

課題に対するフィードバックの方法

授業科目名	教養ドイツ語Ⅰ・Ⅱ（科目コード:　　）						
資格取得との関連	SPARC 学位プログラム（選択）						
担当者	胡屋　武志（宮崎大学）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科 1 年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	2

授業概要：

内容は以下の URL または QR コードからアクセスして必ず読んでおくこと。

※本科目は　火曜日 9・10 限　16:40～18:10（宮崎大学時間割による）に実施します。場所、授業方法はシラバスで必ず確認しておくこと。

https://syllabus.eden.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/detail?n=2026&j=ksf01&s=ksf01

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

到達目標：

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16	定期試験		

単位の認定について

教科書

参考書

授業外学習について

課題に対するフィードバックの方法

授業科目名	健康の科学 （科目コード:TGPHY101）							
資格取得との関連								
担当者	伊東朋子(t-itou@mgjc.ac.jp)							
オフィスアワー	火曜日の放課後　毎授業後							
授業対象	全学科1年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	1	

授業概要：生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成する。また生活習慣病の乱れやストレスなどが健康に影響することを学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：健康の保持増進に強い関心を持ち、将来のライフステージを考えることができる。
健康に関する情報を収集し、知識を高めようとすることができる。
授業内容を工夫してノートに記録する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	本授業科目の方針、進め方、内容、評価　等について学ぶ。	全授業の概要を確認しよう。次時の内容を自分なりにまとめる。(40分)
2	心肺蘇生法	心肺蘇生法の正しい方法や手順を身につける。	心肺蘇生法の手順について調べておく。(40分)
3.	日常的な応急手当	怪我や熱中症の応急手当の知識を身につけ理解を深める。	応急手当の仕方を調べておく。(40分)
4	食事と健康	若い人の食生活事情とその問題やバランスの取れた食事の取り方についての理解を深める。	年齢に応じたバランスのよい食事の取り方について調べておく。(40分)
5	飲酒・喫煙と健康	飲酒・喫煙と健康について理解を深める。	飲酒・喫煙の健康被害を調べておく。(40分)
6	薬物乱用と健康	薬物乱用と健康への影響・防止を理解する。	健康問題に関する現状を調べ、問題点や今後の在り方等について自分の考えをまとめておく。(40分)
7	性行動と性意識の選択	異性との人間関係や性情報に対してどのようなことに配慮した行動が必要か理解を深める。	性行動の変化と異性の尊重について調べておく。(40分)
8	現代の感染症	過去の病気だと思われていた感染症が再び猛威をふるうということが起きている。問題となっている感染症とはどんなもので、なぜそのようなことが起こっているのか考え理解を深める。	過去、現代の感染症を調べ、現代の感染症の問題点や在り方について、自分の意見をまとめておく。

単位の認定について　講義への取組み(25%)、服装・態度(25%)、提出物・課題(50%)で評価し、60 点以上が合格点。

参考書　印刷物を配布する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題はチェック後に解説する

授業科目名	コミュニケーション英語Ⅰ(科目コード:TGFOR101)							
資格取得との関連	プレゼンテーション実務士選択科目							
担当者	長島洋介							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科1年生	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要： 他の英語の授業で学んだ英単語や文法を英会話で演習授業で使用し、英語でのペアワークとグループワーク等によるディスカッションやディベートで英語を使用し、英会話力を高める

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ○	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標： 英語に対する壁を自覚し、この講義で英語を使用して克服する。また、日本に関するトピックスに関して議論、研究、ディベートを行い異文化理解と英語発信力を培う。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	シラバス確認と紹介	「実用英語」を学ぼう 暗記型の英語学習からの卒業 グローバルコミュニケーションの10のルール	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
2	グローバルマインド① 自分軸	英語でのあいさつ、自己紹介 ①	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
3	グローバルマインド② 自分軸	英語でのあいさつ、自己紹介 ②	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
4	実用英語学習①	ネイティブが話す英語と日本語英語の違い①	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
5	実用英語学習②	ネイティブが話す英語と日本語英語の違い②	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
6	実用英語学習③	ネイティブが話す英語と日本語英語の違い③	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
7	日本文化を英語で伝える①	日本の祝日、日本の食事、日本の伝統	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
8	日本文化を英語で伝える②	日本の政治、日本の産業、日本の言語	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
9	日本文化を英語で伝える③	日本のマナー、日本のルール、日本の価値観	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
10	日本文化を英語で伝える④	外国人対応、外国人の友達をつくるには？	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
11	グローバル研究①	グループで研究の準備をする①	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
12	グローバル研究②	グループで研究の準備をする②	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
13	グローバル研究③	グループで研究の準備をする③	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
14	最終プレゼンテーション①	英語面談①	課題、講義内容の予習と復習 (60分)
15	最終プレゼンテーション②	英語面談②	

単位の認定について 試験:40% 授業態度:20% 授業への参加:20% 授業外学習(課題):20%

教科書 ※なし

参考書 ※

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	コミュニケーション英語Ⅰ（科目コード:TGFOR101）							
資格取得との関連	幼稚園教諭二種免許状必修科目、保育士資格必修科目							
担当者	植田 美穂 m-ueda@mgjc.ac.jp、藤山 由佳里 y-fujiyama@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要： 英語に対する意欲や関心、英語および文化への興味を持ち、自ら進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする能力を養う。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎

到達目標： 適切に情報を集め、多様な人々と積極的にコミュニケーションができる基本的な英語能力の習得を目指す。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	導入	授業内容・目標・評価等の説明および導入	
2	英語にふれよう チャンツ	子ども英語のキホン 1	既習事項についてノートにまとめる(40分)
3	英語にふれよう 絵本	子ども英語のキホン 2	既習事項についてノートにまとめる(40分)
4	英語にふれよう 絵本	子ども英語のキホン 3	既習事項についてノートにまとめる(40分)
5	英語にふれよう チャンツ	子ども英語のキホン 4	既習事項についてノートにまとめる(40分)
6	英語にふれよう 絵本	子ども英語のキホン 5	既習事項についてノートにまとめる(40分)
7	英語にふれよう 絵本	子ども英語のキホン 6	既習事項についてノートにまとめる(40分)
8	英語にふれよう ゲーム	子ども英語のキホン 7 と まとめ	既習事項についてノートにまとめる(40分)
9	英語にふれよう 絵本	子ども英語のキホン 8	既習事項についてノートにまとめる(40分)
10	英語にふれよう 絵本	子ども英語のキホン 9	既習事項についてノートにまとめる(40分)
11	英語にふれよう ゲーム	子ども英語のキホン 10	既習事項についてノートにまとめる(40分)
12	グループワーク	基本的語彙を使った発表の計画案作り	発表に用いる計画案を作成する(40分)
13	グループワーク	基本的語彙を使った発表の計画案作り・準備	発表に用いる資料を作成する(40分)
14	グループ発表①	基礎的表現・語彙を使った発表の実践 プレゼンテーション 他の学生の発表について相互評価	グループ発表の振り返りレポート作成
15	Overall Review	これまでの学習事項についてのまとめ	既習事項についてノートにまとめる(40分)

単位の認定について 期末試験50％と演習（グループワークと発表への参加）20％、提出物(作成資料)30％により評価する

教科書 **必要に応じて担当者が伝える**

参考書

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて実施する。

授業科目名	コミュニケーション英語 II（科目コード：TGFOR101）						
資格取得との関連	プレゼンテーション実務士選択科目						
担当者	長島洋介						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科１年生	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： ペアワークやグループワークでいろいろなトピックを演習授業で学び、ディスカッションも含めて自分の意見を発信し、他人の意見を取り入れて知識を拡大する

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標： 自分の意見を英語で発信し、他人の違う価値観などを理解して自己の成長の糧とする。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	説明と確認	シラバス説明と講義内容確認	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
2	日本文化を英語で伝える①	日本の祝日について英語で学ぶ	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
3	日本文化を英語で伝える②	日本のコミュニケーションスタイルの「＋」と「－」	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
4	日本文化を英語で伝える③	日本人は何故英語が苦手なのか？	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
5	グローバル・マインド「他人軸」①	相手に質問をする、挨拶をする	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
6	グローバル・マインド「他人軸」②	相手に感謝を伝える、謝罪をする	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
7	グローバル・マインド「他人軸」③	相手と連携をとる、相手に確認・許可をとる	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
8	グローバル・マインド「他人軸」④	相手に本当の自分の意見を伝える コミュニケーションの価値観の違いを学習	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
9	ケース・スタディ①	日本と外国との価値観の違いがどの様にコミュニケーションに影響するか	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
10	ケース・スタディ②	アメリカの文化と言語を学ぼう	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
11	グループ研究①	最終発表の準備①	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
12	グループ研究②	最終発表の準備②	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
13	グループ研究③	最終発表の準備③	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
14	最終プレゼンテーション①	英語面談①	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
15	最終プレゼンテーション②	英語面談②	

単位の認定について 試験：４０％ 授業態度：２０％ 授業への参加：２０％ 授業外学習（課題）：２０％

教科書 ※なし

参考書 ※

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	コミュニケーション英語Ⅱ （科目コード:TGFOR101）							
資格取得との関連	幼稚園教諭二種免許上必修科目、保育士資格必修科目							
担当者	植田 美穂 m-ueda@mgjc.ac.jp、藤山 由佳里 y-fujiyama@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要: 前期開講のコミュニケーション英語Ⅰａを踏まえ、英語に対する意欲や関心、英語および文化への興味を持ち、自ら進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする 能力を養う。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎

到達目標： 適切に情報を集め、多様な人々と積極的にコミュニケーションができる基本的な英語能力の習得を目指す。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	活動・授業のプランを立てよう	便利な教室英語① 季節のイベント ハロウィン①	課題に関連する資料を用意する(40分)
2	活動・授業のプランを立てよう	便利な教室英語② 季節のイベント ハロウィン②	課題に関連する資料を用意する(40分)
3	グループワーク	発展的内容での発表の計画案作り・準備	発表に用いる資料を作成する(40分) 使用するプロップを用意する(40分)
4	グループ発表②	発展的内容を使った発表実践 プレゼンテーション 他の学生の発表について相互評価	グループ発表の振り返りレポート作成
5	活動・授業のプランを立てよう	幼稚園・保育園の年間プラン 活動の組み立て方	既習事項についてノートにまとめる(40分)
6	毎日の習慣に英語を取り入れよう	幼稚園・保育園の年間プラン 季節のイベント クリスマス①	課題に関連する資料を用意する(40分)
7	毎日の習慣に英語を取り入れよう	幼稚園・保育園の年間プラン 季節のイベント クリスマス①	課題に関連する資料を用意する(40分)
8	グループワーク	発展的内容での発表の計画案作り・準備	使用するプロップを作成する(40分)
9	グループ発表③	発展的内容を使った発表実践 プレゼンテーション 他の学生の発表について相互評価	グループ発表の振り返りレポート作成
10	ペアワーク	発展的内容での発表の計画案作り・準備	発表に用いる資料を作成する(40分)
11	ペアワーク	発展的内容での発表の準備・リハーサル	使用するプロップを作成する(40分)
12	発表④―1	全体的学習項目を使用した総合発表・相互評価 プレゼンテーション	ペア発表の振り返りレポート作成
13	発表④―2	全体的学習項目を使用した総合発表・相互評価 プレゼンテーション	ペア発表の振り返りレポート作成
14	Overall Review	これまでの学習内容の総合的評価	既習事項についてノートにまとめる(40分)
15	Overall Review	これまでの学習内容の総合的評価 まとめ	既習事項についてノートにまとめる(40分)

単位の認定について 期末試験50％と演習（グループワークと発表への参加）20％、提出物(作成資料)30％により評価する。
教科書 **必要に応じて担当者が伝える**
参考書

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて実施する。

授業科目名	自然災害と防災 （科目コード:TGGEN111）						
資格取得との関連							
担当者	大坪 祥子						
オフィスアワー							
授業対象	全学科1、2年	開講時期	後期(集中)	授業の種類	講義･演習	単位数	2

授業概要：①自然災害発生のメカニズムについて学修・理解する。
②防災・減災対策について、行政・地域における現状と課題について学修・理解する。
③発生した自然災害等に対して、危機管理のための手法について学修・理解する。
④救急救命に関する講習を研修することにより、必要に応じて迅速な救急救命対応ができる手法を身に付ける。

DPとの関わり	全学DP				
	Ⅰ◎	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ◎

到達目標： 災害発生の仕組みを理解し、防災･減災対策について行政及び地域における現状と課題を理解する。
災害を想定した危機管理の手法を理解する。

授業計画表

回	トピック名	概要（担当講師）	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	本授業の開設目的や受講にあたっての注意点等について理解する。また、近年の自然災害から得られた教訓について理解する。	レポート作成（近年の自然災害に学ぶ）
2	防災士の役割	防災士はどのようにして生まれたかを歴史的背景から理解し、現在防災士に期待されている役割や、実際の活動とその社会的評価について理解する。	レポート作成（身近にできる防災対策）
3	地震の仕組みと被害	地震に関する基礎的な知識を修得し、地震による被害にはどのようなものがあるかを理解する。	レポート作成（被害想定とハザードマップ）
4	津波の仕組みと被害	津波発生のメカニズムや津波地震及び遠地津波とは何かを知り、津波による被害を軽減するにはどのような対策が必要か検討する。	レポート作成（避難と避難行動）
5	風水害と対策	日本の気候・地域特性と風水害との関係や地球温暖化と異常気象の現状を知り、自助としての水害対策にはどのようなものがあるかを考える。	レポート作成（耐震診断と補強）
6	火山噴火のしくみと被害	火山噴火による災害にはどのような種類があるかを知り、現在の火山噴火予知はどのように行われているかを理解する。	レポート作成（都市防災）
7	救急救助技術を身に付ける	救出・救助に役立つロープの結び方や応急手当の方法と注意点等、災害時に役立つ救急救助技術を身につける。	レポート作成（火災と防火対策）（防災訓練）
8	行政の災害対応	災害対策基本法などの災害対策に関する重要法令を理解し、行政が防災に関してどのような組織を設けているか、また平常時に行っている防災対策について知る。	レポート作成（災害と応急対策）
9	災害とボランティア活動	昨今の主な災害時におけるボランティア活動から、災害ボランティア活動の役割と機能を知る。	レポート作成（避難所運営と仮設住宅の暮らし）
10	土砂災害と対策	土砂災害の特徴と課題を理解し、土砂災害対策にはどのような対策があるかを検討する。	レポート作成（災害とライフライン）
11	災害医療	災害医療に関する基礎的知識を修得し、防災士が行うこころのケアとは何か、また東日本大震災後の災害医療の課題について知る。	レポート作成（災害と交通インフラ）
12	災害情報の入手と活用	災害情報提供の方法にはどのようなものがあるかを知り、新しい伝達手段について理解する。	レポート作成（災害と危機管理）（災害防災と事業継続計画）
13	地域の自主防災活動	自主防災組織について理解し、災害時要配慮者に対してどのような支援が必要かを考える。	レポート作成（災害と流言・風評）
14	公的機関による予報・警報	気象、洪水、地震、妻に、火山噴火に関する予報・警報などの情報にはどのようなものがあるか理解する。	レポート作成（地震に関する知見・情報）

15	災害と損害保険	災害に関連する損害保険について理解する。	レポート作成 （地域の復旧と復興）
16	試験	防災士資格試験	

単位の認定について　　防災士資格試験
教科書　防災士教本（認定特定非営利活動法人　日本防災士機構）
参考書
授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。

【留意事項】
・本授業は宮崎国際大学と合同開催である。
・単位認定については防災士資格試験の結果によって認定されるものとする。
・防災士受験資格は、すべての回に出席し、且つ課されたレポートをすべて提出したものに与えられる。単位認定の基準と異なるため注意すること。

授業科目名	社会心理学 （科目コード:TGHUM105）						
資格取得との関連							
担当者	小澤拓大						
オフィスアワー	火曜日放課後						
授業対象	全学科 1･2 年	開講時期	前期後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： この授業では、人間はどのように社会や他人からの影響を受けるのか、また、どのように社会や他人に影響を与えるのかについて、その心理メカニズムを学ぶ。そして、自身の目的意識を深め、特定の社会的事象について研究を行う。

DPとの関わり	全学DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ

到達目標 ・他人からの影響を受ける場合、他人に影響を与える場合について、その心理メカニズムを理解する。
・人間関係および集団行動の特質を中心に日常的な事例に照らし合わせ考え、記述できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	社会心理学とは	社会心理学とはどのようなものかについて学ぶ	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
2	社会的認知①	社会的事象の観方に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
3	社会的認知②	社会的事象の観方に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
4	自己評価	自己評価に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
5	他者評価	他者評価に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
6	研究とは何か	研究とはどのようなものかについて考える	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
7	コミュニケーション	コミュニケーションに関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
8	態度・説得	態度や説得に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
9	消費者行動	消費者行動に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
10	援助行動・援助要請	援助行動・援助要請に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
11	攻撃行動	攻撃行動に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
12	インターネット・マスメディア	インターネット・マスメディアに関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
13	キャリア・文化	キャリアと文化に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
14	公正	公正に関する心の働き	授業内容を中心に理解を深め、自身の問題に置き換え考える(30 分)。
15	まとめ	ここまでに学んできた内容をまとめる	これまでの学修内容をまとめる(30 分)。

単位の認定について：試験 60%　授業態度 30%　授業外学習 10%
教科書・参考書：必要に応じて、担当者が伝える。
授業外学習について：指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法：提出された課題はチェック後に解説する。

授業科目名	生涯学習概論(科目コード:TGSSC105)						
資格取得との関連	司書資格必修						
担当者	髙橋 利行(t-takahashi@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	授業時間の前後や必要に応じて大学の事務を通じて連絡をもらえれば可能な範囲で対応						
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：人間が社会の変化に対応し、よりよく生きるためには生涯にわたる学習が重要であるという生涯学習の理念及び社会的背景等を明確にするとともに、生涯学習社会形成のための課題や在り方について講義する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：

① 生涯学習の概念・意義などについて理解する。
② 自らが生涯学習者・生涯学習の支援者となっていこうとする意欲を持ち、授業後の自らの生涯学習との関わりについての目標や計画を持てるようになる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	・ガイダンスと受講調整(受講方法の説明を含む)	・受講者事前調査 ・いま、なぜ生涯学習なのか？	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
2	・生涯学習の定義のされ方 ・生涯学習の方法・形態	生涯学習の定義のされ方、生涯学習の方法・形態について講義する。一人で学習するか、複数の人が集まって学習するかという観点から分けた場合に、どのような方法・形態があるのか、それぞれどのような利点があるのかなどについて理解する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
3	今日いわれているような生涯教育論の起こり	今日いわれているような生涯教育論の起こりについて講義する。ラングランの主張がどのようなものであったか、それが日本にどのように入ってきたのかなどについて理解する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
4	ファジィ概念としての生涯学習	クリスプ概念としての生涯学習とファジィ概念としての生涯学習の違い、それぞれの利点や課題などについて講義する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
5	ラングラン以降の主な生涯教育論	ハッチンスの学習社会の考え方、ユネスコの説、リカレント教育、ローマクラブの主張などについて講義する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
6	アンドラゴジーの考え方	ノールズの提唱したアンドラゴジーの考え方について、5 つの観点からペダゴジーと比較しながら講義する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
7	生涯学習社会について	学歴社会の弊害について考えながら、生涯学習社会の建設に向けての提言の流れ、生涯学習社会の構築のために必要な仕組みなどについて講義する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
8	生涯学習情報提供と学習相談について	生涯学習情報提供と学習相談の目的と意義、両者の関係などについて講義する。学習ニーズ診断のミニ実習を行い、各自の学習ニーズについても考える。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
9	・なぜ、生涯にわたって学習することが必要なのかについて ・テレビ欄から生涯学習を探そう(ミニ実習)	ノールズの説から、生涯にわたって学習することの必要性について講義する。テレビ欄から生涯学習を探す体験を行う。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
10	学習ボランティアについて	ボランティアの基本精神について、学習ボランティアとは何かについて講義する。また、学習ボランティアとして活動している人たちの様子の映像資料について視聴する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
11	学習プログラムの作成について(1)	学習プログラムとは何か、学習プログラムを立案するためにどのような手順が考えられるのかについて講義する。手順を 9 つのステップに分けて、各ステップについて、第 11 回から第 13 回までの 3 回を使用して講義する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
12	学習プログラムの作成について(2)	学習プログラムとは何か、学習プログラムを立案するためにどのような手順が考えられるのかについて講義する。手順を 9 つのステップに分けて、各ステップについて、第 11 回から第 13 回までの 3 回を使用して講義する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)

13	学習プログラムの作成について(3)	学習プログラムとは何か、学習プログラムを立案するためにどのような手順が考えられるのかについて講義する。手順を 9 つのステップに分けて、各ステップについて、第 11 回から第 13 回までの 3 回を使用して講義する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
14	・学社融合について ・生涯学習の効用について	学社連携・融合の考え方、生涯学習の効用について講義する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。(毎時 30 分)
15	まとめと総復習	これまでの生涯学習に関する授業のまとめを行うとともに、自身の今後の生涯学習について考える。	振り返りをする。(30 分)

単位の認定について　学習時の取り組み態度(20%)、中間テスト(40%)、学期末レポート(40%)を予定(受講生とも相談の上変更の可能性あり)

教科書　授業内で指示する。(基本的にテキストの購入は求めず、毎時配付するプリントに基づいて講義を行う)

参考書　授業内で指示する。

授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	情報処理演習(科目コード:　)							
資格取得との関連								
担当者	河野 美香子（実務家教員）							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：本講義では、情報処理の応用科目として、ワープロや表計算の知識、技術、技能を修得する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

評価指標：・ワープロの応用的なスキルを習得し、効率よく文書を完成させることができる。
・表計算ソフトの応用的なスキルを習得しデータの整理や分析を効率的に行うことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の進め方について理解する。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
2	セクションとリスト作成	セクションの概念とリストの管理を理解する。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
3	ワープロの編集機能の応用	ワイルドカードや特殊文字の検索や置換、書式設定やスタイルを学ぶ。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
4	参考資料の作成と管理	脚注の設定や文献目録の挿入を学ぶ。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
5	文書の共同作業の管理	コメント機能の設定や変更履歴の管理を学ぶ。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
6	文書作成総合演習(1)	文書作成に関する総合演習問題を解く(検定試験問題に対応)。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
7	文書作成総合演習(2)	文書作成に関する総合演習問題を解く(検定試験問題に対応)。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
8	表計算のブック管理	ブックのプロパティの変更やツールのカスタマイズを学ぶ。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
9	グラフの管理	グラフの種類を把握し、適切なグラフを選択する。グラフの要素についても学ぶ。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
10	テーブルの管理	テーブルにスタイルを適用することや、集計行の設定を学ぶ。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
11	データ管理(1)	データの表示形式や入力規則を学ぶ。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
12	データ管理(2)	フィルターを適用し詳細な条件付き書式を学ぶ。	プロシージャについての演習問題を解く。(30 分)
13	表計算総合演習(1)	表計算ソフトに関する演習問題を解く(検定試験対策を含む)。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
14	表計算総合演習(2)	表計算ソフトに関する演習問題を解く(検定試験対策を含む)。	授業で学んだ内容についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
15	まとめ	情報処理演習についての振り返りと確認テスト	まとめの課題に取り組む。(30 分)

単位の認定について　取り組み状況(40%)、課題(60%)

参考書　授業内で指定

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説を行う。

ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	情報処理概論Ⅰ （科目コード:TGNSC105）						
資格取得との関連	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」認証に関する科目						
担当者	石神聖徳、木下統						
オフィスアワー	火曜日の放課後、授業終了後						
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：これからのデジタル社会においては、 ICT・AI 機器等の導入・普及が益々進展するものと推測される。幼稚園・保育園においては情報機器を利用した業務管理や保育児管理システムがすでに利用されており、 ICT・AI 機器・管理ソフトなどを園務等で使いこなすための基礎的素養を身に付ける必要性が高まっている。特に、インターネットの利用と電子メールを含めたワードプロセッシングは、もっとも基礎的な技能といえる。また、データ・AI の利活用においては情報モラルを身に付け、安全な情報管理を図ることが重要となっている。授業では、ワードプロセッシングと情報システムのしくみを理解するとともに、その活用方法の基礎を学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：
① 情報機器を安全、安心して利用することができる。
②社会におけるデータ・AI 利活用における情報モラルが身に付き、習得した技術や情報管理について説明ができる。
③情報機器・ソフトなど数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等で使いこなすための基礎的素養が身に付いている。
④ネットワークを利用した情報収集と発信ができる。
⑤ワードプロセッシングの基本的操作を習得し、ビジネス文書、業務文書の作成と文書ファイルの適切な管理ができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	情報セキュリティの基礎 ・データベース・ ICT・AI の利活用と情報モラルについて	①データベース・ ICT・AI の活用領域の広がりや、最新技術について学ぶ。 ②情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項について理解を深める。 ③情報機器とネットワークツールを使用して保育分野のデータ・AI の利活用例について情報収集を行い、その利点と問題点についてグループ討論を行う。	現在のデータベース・ ICT・AI の普及と情報モラル、情報セキュリティについて、YouTubeやネット配信を利用してさらに理解を深める(60分)。
2	ネットワークの活用 ・ネットワークと通信ソフトについて	①学内の Wi-Fi システムを利用するための情報機器設定とインターネットを利用したデータ検索の技術を学ぶ。 ②データベース・ ICT・AI とインターネットを利用したメディア情報を正しく、安全に活用するための知識や技術を学ぶ。 ③電子メール・オンラインストレージ、ならびに学内ファイルサーバ、ネットワークプリンター、Google ドライブ、Google Forms、Zoom 等の活用技術を学ぶ。	Google Forms、Zoom、オンラインストレージ等の情報システムの仕組みについてインターネットを利用してさらに理解を深める(60分)。
3	情報検索と活用演習(1) ・ワープロの基本操作とネットワークホルダーの活用について	①タイピングソフトを用いて、タッチメソッドの練習と文字入力に関する基本操作を学ぶ。 ②日本と世界の SDGsへの取り組みに関係する記事を収集して理解を深め、興味のある記述等のデータベースを作成して学内の共有ファイルサーバに蓄積・保管する方法を学ぶ。	Web サイトを利用したタイピングの練習と SDGs関係の文献を収集し、データの整理と安全な保存法を身につける(60 分)。
4	情報検索と活用演習(2) ・実社会の Web データ検索による資料収集と感想文の作成	①Word の基本操作を学び、文書体裁について理解する。 ②実社会の題材として、「教育・保育に関する報告・データベース(内閣府サイト)」を検索し、興味を持った記事に対する感想文をワープロで作成し、 Forms に添付して提出する。収集したデータはファイルサーバに保管し、Web データ、Web サーバの基本的な活用法の理解を深める。	保育関係のデータベースから資料(文献・データ)を収集し、その活用が日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを理解する(60 分)。
5	情報検索と活用演習(3) ・新聞データベース検索と記事要約文書の作成	①Word で文書を作成するための基本機能を学ぶ。 ②実例題材として「新聞社のデータベース」から「幼稚園・保育園」に関する記事を収集して興味のある記事の要約を作成し、重要な文、文節、単語の網掛けや均等割り付け等を学ぶ。 ③「幼稚園・保育園に関する記事」の要約と感想文を Google Forms に添付して提出する。	デジタル新聞等へのアクセスや情報収集方法を習得する(60 分)。
6	保育文書の作成演習 (1) ・幼稚園・保育園実習に関する「挨拶文」のデータ収集と自己の仮想挨拶文の作成	①Word の拡張機能について学ぶ。 ②幼稚園・保育園・保育協会等のデータベースを検索して「保育実習における挨拶文」に関する情報を収集し、仮想の「保育実習に向けた挨拶文」を個人用に作成する。 ③作成した「保育実習に向けての挨拶文」についてグループ発表と相互評価を行なう。 ④感想文を Google Forms を使って提出する。	参考書籍やインターネットを利用して、幼稚園・保育園実習における「挨拶文」に関する資料を収集し、整理しておく(60 分)。
7	保育文書の作成演習(2)	①Word の表挿入と編集方法を学ぶ。	参考書籍やインターネットを利用して、幼稚園・保育園実習に

	・「保育指導案」に関するデータベース検索・収集と例文作成	②保育協会等のデータベースを検索して「保育指導案」に関する情報を収集し、仮想の「保育指導案」を作成する。 ③「保育指導案」のグループ発表と相互評価を行なう。 ④感想文を、 Google Forms を使って提出する。	関する「保育指導案」に関する資料を収集し、整理しておく(60分)。
8	保育文書の作成演習(3) ・幼稚園・保育園実習に関する「礼状文」のデータ収集と例文作成	①Word の飾り文字やイラスト、写真等の編集方法を学ぶ。 ②幼稚園・保育園・保育協会等のデータベースを検索して「保育実習に関する礼状文」に関する情報を収集し、仮想の「保育実習における礼状文」を作成する。 ③「保育実習における礼状文」についてグループ発表と相互評価を行なう。 ④感想文を、 Google Forms を使って提出する。	参考書籍やインターネットを利用して、幼稚園・保育園実習に関する「礼状文」に関する資料を収集し、整理しておく(60 分)。
9	保育文書の作成演習(4) ・文書/表の作成とクリップアート・ワードアート等の画像処理	①Word のクリップアートやワードアート、写真の貼り付け、装飾、加工について学ぶ。 ② Word の表の割付等の編集方法について学ぶ。 ③幼稚園・保育園・保育協会等のデータベースを検索して年間行事や年間スケジュール等の情報を収集し、仮想の「年間スケジュール表」を作成する。 ④作成した「年間スケジュールの紹介パンフ」を作成し、グループ発表と相互評価を行なう。	Word には非常に多くの機能が付帯している。講義時間内に演習できないものも多いので、Web サイトや YouTube 等の Word 解説を参考に付帯機能を修得しておく(60 分)。
10	保育文書の作成演習(5) ・「幼稚園・保育園のクラス便り」の作成とネットワークサーバ、ネットワークプリンターの利用	①Word のスクリーンショット等の編集方法について学ぶ。 ②全国幼稚園・保育園における行事案内、保護者連絡、フリーイラスト集等の参考データを Webで収集する。 ③収集した「お知らせ」、「ご案内」、「園便り」等のモデルパンフ等を参考に、仮想の「春のクラス便り」を作成し、データファイルを学内のファイルサーバに保管する。 ④ネットワークプリンターを使用して印刷する方法を学ぶ。	幼稚園・保育園の「お知らせ」、「案内」、「園便り」に関する情報がネット上に多く取り上げられている。また、これらに関するフリーイラストを提供しているサイトも多い。将来、「幼稚園・保育園」の仕事で役に立ちそうな情報を収集し、データを整理しておく(60 分)。
11	保育文書の作成演習(6) ・「春のクラス便り」のネットワーク、ICT・AI 機器を利用した発表	①作成した「春のクラス便り」ついて、ネット共有システム(AI 設備機器)を利用して、クラス全員の PC と映像を共有し、スライド投影と併用した作品発表を行なう方法を学ぶ。 ②作品評価のためのグループ検討会を行なう。 ③作成した「春のクラス便り」とその感想文を Google Forms を使って提出する。	全国的な幼稚園・保育園、関係協会等の「春のクラス便り・園便り」に関する情報とフリーイラストを Web 等で収集し、データファイルの整理をしておく(60 分)。
12	保育文書の作成演習(7) ・「幼稚園・保育園の夏のクラス便り」の作成とネットワーク機器を利用した発表	①Word の画像処理機能を利用して「夏のクラス便り」を作成する方法を学ぶ。 ②AI 設備機器でクラス全員の PC へ映像を配信し、スライド投影と併用した作品発表を行なう。 ③作品評価のためのグループ検討会を行なう。 ④作成した「夏のクラス便り」発表の感想文を Google Forms で提出する。	全国的な幼稚園・保育園、関係協会等の「夏のクラス便り・園便り」に関する情報とフリーイラストを Web 等で収集し、データファイルの整理をしておく(60 分)。
13	保育文書の作成演習(8) ・「幼稚園・保育園の運動会のお知らせ」の作成とネットワーク、ICT・AI 機器を利用した発表	①Word の画像処理機能を利用して「運動会のお知らせ」を作成する方法を学ぶ。 ②AI 設備機器でクラス全員の PC へ映像を投影し、スライド投影と併用した作品発表を行なう。 ③作品評価のためのグループ検討会を行なう。 ④作成した「運動会のお知らせ」発表の感想文を Google Forms で提出する。	全国的な幼稚園・保育園、関係協会等の「運動会」に関する文献とフリーイラストを Web 等で収集し、データファイルの整理をしておく(60 分)。
14	保育文書の作成演習(9) ・「幼稚園・保育園のクリスマス会のお知らせ」の作成とネットワーク、ICT・AI 機器を利用した発表	①Word の画像処理機能を利用して「クリスマス会のお知らせ」を作成する方法を学ぶ。 ②AI 設備機器でクラス全員の PC へ映像を投影し、スライド投影と併用した作品発表を行なう。 ③作品評価のためのグループ検討会を行なう。 ④作成した「クリスマス会のお知らせ」発表の感想文を Google Forms で提出する。	全国的な幼稚園・保育園、関係協会等の「クリスマス会」に関する情報とフリーイラストを Web 等で収集し、データファイルの整理をしておく(60 分)。
15	情報処理概論Ⅰの総合課題	提示された課題に関するレポートを仕上げ、提出する。	これまでの「振り返り」を充分にしておく。

単位の認定について 授業の取り組み状況 (20%) ・課題提出 (30%) 、総合課題演習 (50%)

教科書 ： 教科書は使用しない。必要な資料・情報はデジタルファイルを配布する。

参考書 ：今すぐ使えるかんたん Excel Word プロ技 BEST セレクション 門脇 香奈子： Kindle 版 (電子書籍)
データサイエンス入門 (岩波新書) 竹村 彰通： Kindle 版 (電子書籍)
眠れなくなるほど面白い 図解 AI とテクノロジーの話 三宅陽一郎：： Kindle 版 (電子書籍)

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、授業の復習に 60 分以上の時間をあてること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題等は、チェック後に解説する。また、提出ファイルは、共通ファイルサーバ（学内ネットワークサーバ）に収納し、いつでも参照できるようにしている。

※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行いる。

※　この授業では、ＳＤＧｓに関する内容〈1～17 項目〉を取り入れる。

※　本教科は、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」認証を受けた本学の「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」を構成する科目である。

※　遠隔授業等が必要になった場合は、Zoom による双方向型授業やハイブリッド型授業を取り入れる。

授業科目名	情報処理概論Ⅱ （科目コード:TGNSC105）						
資格取得との関連	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」認証に関する科目						
担当者	石神聖徳、木下統一						
オフィスアワー	火曜日の放課後、授業終了後						
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：保育現場においても情報機器を利用した園務管理や保育児管理システムがすでに利用されていることから ICT・AI 機器・管理ソフトなどを利用した数理・データサイエンス・AI に関する知識を日常の生活、仕事等で使いこなすための基礎的素養を身に付ける必要性が高まっている。特に、インターネットを利用した情報収集や電子メール、ワードプロセッシングはもとより、多様なデータ処理や分析、図表を活用したレポートやプレゼンテーション、ならび動画作成と配信技術等が必要になっている。また、インターネットを利用したデータ・AI の利活用については情報モラルを身に付け、安全な情報管理を図ることが重要となっている。授業では、Excel による図表作成と基礎的な数理統計学、Power Point によるプレゼンテーション技術、Movie Maker による動画作成と YouTube による動画配信技術、Scratch 言語によるプログラミングと AI 機器の制御について学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：

①情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
②表計算、グラフ作成、基礎的な数理統計分析の技法を学び、レポートの作成ができる。
③プレゼンテーションファイルの作成と発表ができる。
④保育用動画の作成とネット配信ができる。
⑤プログラミングにより保育用の学習ソフトが作成できる。
⑥プログラミングにより保育児、幼稚園児を対象にした AI 機器（ロボット）の動作制御できる。
⑦学修したソフト・情報機器ならびに数理・データ・AI 等に関する知識・技能を活用できるようになる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	情報セキュリティと情報モラルについて	①情報セキュリティと情報モラルの知識を身に付ける。 ・法律面からの情報セキュリティと情報モラルについて理解を深める。 ・SNS の利用と問題点について、情報収集とグループ討議を行い、感想文を Google Forms に添付して提出する。	書籍やインターネット配信講座を活用して情報セキュリティと情報モラルにつての知識を深める。(60 分)
2	表作成の基礎① ・Excel の基礎操作	①Excel の入力方法やオートフィル機能などの基本操作について学ぶ。 ・保育関係の統計 DB の数値データを検索利用 ・セルへのデータ入力と編集 ・書式設定と表作成および編集 ②罫線や計算式を用いた表の作成方法を学ぶ。 ・基本的な四則演算 ③演習で作成した Excel ファイルを学内のファイルサーバに保管する。	書籍やインターネット講座を活用して Excel の基本操作について理解を深める。(60 分)
3	表作成の基礎② ・Excel の文字列と書式操作	①Excel の文字列操作関数、文字列の扱いについて学ぶ。 ・保育関係法規・規程 DB の文書データを検索利用 ②条件付き書式と入力規則について学ぶ。 ③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	書籍やインターネット講座を活用して Excel の文字列操作関数について理解を深める。（60 分）
4	Excel の基本関数と応用関数	①Excel の基本関数について学ぶ。 ・保育関係の統計 DB の数値データを検索利用 ・SUM、AVERAGE、STDIV、MAX、MIN 等 ・アンケート処理等で使用頻度の高い関数 ②応用関数について学ぶ。 ・条件に応じて処理を分岐させる論理関数 ③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	書籍やインターネット講座を活用して Excel の関数機能について理解を深める。(60 分)
5	Excel の基礎統計とデータ分析	①保育に関する数理データの収集と基礎統計を学ぶ。 ・保育関係統計 DB の数値データを検索利用 ・ソートとオートフィルタ機能の活用 ②Excel 分析ツールによるデータ処理について学ぶ。 ③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	書籍やインターネット講座を活用して Excel の分析ツールについて理解を深める。(60 分)
6	Excel のグラフ作成	①Excel の基本グラフ作成演習：一般的な棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ等の作成について学ぶ。 ・保育関係統計 DB の数値データを検索利用 ②応用グラフ作成演習：散布図をはじめとするその他のグラフの作成とグラフの詳細な編集について学ぶ。 ③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	書籍やインターネット講座を活用して表計算ソフトのグラフ作成について理解を深める。(60 分)
7	Excel の応用演習 ・地域企業の実データ	①地域企業の実データを用いた Excel の統計処理を学ぶ。 ②ソート、オートフルオプション、カラースケール、貸出金	書籍やインターネット講座を活用して表計算ソフトの

	解析とグラフ作成	残高%の算出方法等を学ぶ。 ③Excel の円・棒・折れ線等のグラフ作成を学ぶ。 ④作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	グラフ機能について理解を深める。(60 分)
8	スライド作成① ・Power Point の機能 操作	①Power Point よる基本的なプレゼンテーション作成を通して、プレースホルダー操作、スライド挿入、書式設定を学ぶ。 ・保育関係のイラスト DB の画像データを利用 ②図形や SmartArt グラフィックを作成して、スライドの見栄えを整える方法を学ぶ。 ③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	書籍やインターネット講座を活用して Power Point の機能・操作について理解を深める。(60 分)
9	スライド作成② ・Power Point の特殊効果と課題テーマ スライド作成	①アニメーションの設定や画面切り替え効果の設定など、プレゼンテーションの特殊効果機能を理解する。 ・保育関係のイラスト DB の画像データを利用 ②プレゼンテーションソフトの操作をもとに、設定された課題テーマ(保育関係)のスライドを作成する。 ③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	書籍やインターネット講座を活用して Power Point の特殊効果について理解を深める。(60 分)
10	スライド作成③ ・プレゼンテーション	①スライドのグループ発表と評価を行う。 ・AI 設備機器でクラス全員の PC へ映像転送し、スライド投影と併用した作品発表を行なう。 ②作成した「課題テーマスライド」と感想文を Google Forms に添付して提出する。 ③作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	プレゼンテーションのための予習をする。 (60 分)
11	動画の作成①	①写真、ムービー、音楽、字幕を挿入した動画の作成方法を学ぶ。 ・保育関係のイラスト DB の画像データを利用 ・Movie Maker を利用した動画作成の基礎 ・保育関係アルバムムービーの作成 ②作成したファイルは学内のファイルサーバに保管する。	書籍やインターネット講座を活用して Movie Make の機能・操作について理解を深める。 (60 分)
12	動画の作成②	①作成した動画を YouTube にアップする方法を学ぶ。 ・YouTube 登録、限定(一般)公開等の各種設定 ・YouTube の音楽・動画等の著作権チェックシステム ②作成した動画についてグループ評価を行なう。	書籍やインターネットを活用して YouTube の利用手順や著作権について理解を深める。(60 分)
13	プログラミング①	①保育用学習ソフトのプログラム作成技術を学ぶ。 ・Scratch で開発されたソフト DB の検索 ・Scratch を利用した動物アニメの作成 ・Scratch の拡張機能を利用した楽器演奏プログラムの作成 ②作成した作品についてグループ評価を行なう。	インターネット講座を活用して Scratch 言語に関するアリゴリズムとプログラミングの基礎知識を深める。(60 分)
14	プログラミング②	①最先端のAI技術について理解を深める。 ・無人タクシー、無人トラクター、ドローン配達システム等についてのネット検索 ②AI の制御プログラムを学ぶ。 ・Scratch の拡張機能を利用した AI の動作制御演習 ③作成したプログラムについてグループ評価を行なう。	インターネット講座を活用して AI 機器の動作制御プログラミングについての知識を深める。(60 分)
15	情報処理概論Ⅱの総合課題	①提示された総合課題に関するレポートを仕上げ、提出する。	これまでの復習をしておく。

単位の認定について　授業への取り組み状況（20%）・演習課題（30%）、総合課題（50%）
教科書　教科書は使用しない。必要な資料・情報はデジタルファイルを配布する。
参考書・Excel 最強の教科書[完全版]すぐに使えて、一生役立つ「成果を生み出す」超エクセル仕事術
藤井 直弥 （著), 大山 啓介（著）　【Amazon.co.jp 限定】
・文系のための データサイエンスがわかる本　高橋 威知郎 （著）
・はじめての Windows ムービーメーカー　羽石 相 (著)　Kindle 版
・いちばんやさしい AI〈人工知能〉超入門 大西 可奈子 (著)　Kindle 版（電子書籍）
・スクラッチプログラミング　ゲームテクニック集: ゲーム制作に今すぐ使える　鍋藤優 (著)　Kindle 版
・できる たのしくやりきる Scratch3 子ども AI プログラミング入門　小林真輔　形式: Kindle 版
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題等は、チェック後に解説する。
また、提出ファイルは、学内のファイルサーバに保存し、いつでも学生が参照できるようにしている。
※ 本教科は、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の認証を受けた本学の「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」を構成する科目である。
※　遠隔授業等が必要になった場合は、Zoom による双方向型授業やハイブリッド型授業を取り入れる。

授業科目名	情報処理概論 A(科目コード:TGNSC105)							
資格取得との関連	数理・データサイエンス・AI プログラム(必修)　情報処理士(必修)　上級情報処理士(必修)							
担当者	田中　秀典							
オフィスアワー								
授業対象	現代ビジネス科 1 年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：本講義の目的は、現代のビジネス社会で必要とされる IT 技術、情報モラルに関する基本知識を身につけることである。また、コンピュータの基本操作やソフトウェアの演習などを通して、情報機器への興味喚起や数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義を理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：
・情報処理の基礎や数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義について説明できる。
・情報(数理・データサイエンス・AI 等)を活用する上でのモラルの重要性を理解している。
・コンピュータの基本的な仕組み(ハードウェア・ソフトウェア)を理解し、説明できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス ※項目①(導入 1-1)	学習の進め方を理解し、情報社会の変化を考察する。	受講に必要となるツールについて復習する(30 分)
2	情報社会の発展と技術 ※項目①(導入 1-6)	情報の定義と発展、最新技術とビジネスモデルを学ぶ。	情報技術を活用した新しいビジネスモデルについて調べる。(30 分)
3	PC の基本操作 ※項目②(導入 1-2、1-3)	社会でどのようなデータが集められ、活用されているかを学ぶ。	PC の基本操作を復習する。(30 分)
4	ハードウェアの仕組み	ハードウェアの構成と接続、周辺機器の活用を学ぶ。	ハードウェアの仕組みについて要点をまとめる(30 分)
5	ソフトウェアの役割(1)	オペレーティングシステムの機能や操作を理解する。	アプリケーションソフトの操作を復習する。(30 分)
6	ソフトウェアの役割(2)	代表的なアプリケーションソフトの操作方法を学ぶ。	アプリケーションソフトの操作を復習する。(30 分)
7	デジタルデータの収集と処理	コンピュータネットワークを使ったデータ取得と処理を学ぶ。	データ収集ツールの操作を復習する。(30 分)
8	中間確認問題	これまでに学習した内容についての確認をおこなう。	確認問題のフィードバックを読み復習する。(30 分)
9	ネットワークの基本	ネットワークの仕組みや通信プロトコルなどを学ぶ。	ネットワークの仕組みについて復習する。(30 分)
10	情報モラルとマナー※ 項目④(心得 3-1、3-2)	データ・AI 活用の法規、情報モラルを討論する。	関連法規や倫理事例を調べる(30 分)
11	著作権とセキュリティ※ 項目④(心得 3-1、3-2)	個人情報保護、自分でできるセキュリティ対策について学ぶ。	自宅の PC においてセキュリティ対策を実施する(30 分)
12	デジタルデータの活用(1)※項目③(導入 1-4)	デジタルデータの編集技術とフォーマットを理解する。	データ編集を試し、結果を記録する。(30 分)
13	デジタルデータの活用(2)※項目③(導入 1-4)	デジタルデータの適切利用と著作権を確認し、データ編集を実践する。	著作権の基本事項を確認する。(30 分)
14	情報の発信	編集データを活用し、効果的な情報発信を行う。	発信内容を考え、要点をまとめる。(30 分)
15	まとめ	本講義の振り返り、ならびに総合試験を実施する。	これまでの学習内容を復習する(30 分)

単位の認定について　授業の取り組み状況（20%）、提出物（30%）、総合試験（50%）
教科書　教科書は使用しない。必要な資料・情報は適宜配布する。
参考書　これだけは知っておこう！情報リテラシー　改定第 5 版（noa 出版）
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、授業の復習に 30 分以上の時間をあてること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題等は、チェック後に解説する。

※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。
※　この授業では、ＳＤＧｓに関する内容〈1～17 項目〉を取り入れます。
※　トピック欄の（※）は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）に関わる「モデルカリキュラム対応箇所」を標記しています。

授業科目名	心理学概論 （科目コード:TGHUM104）							
資格取得との関連								
担当者	井上浩義 （h-inoue@mgjc.ac.jp）							
オフィスアワー	火曜日放課後							
授業対象	全学科・全学年	開講時期	前期・後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 本授業では、心理学の様々な基礎的領域を学び、それを自身の問題に置き換えて考えることを行う。それにより、思い込みや感情的な解釈にとらわれず、事実を捉え、柔軟に対処しようとする態度を養う。

DPとの関わり	全学DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ

到達目標：・心理学の基礎的な知識が身につけられている。
・心理学の基礎的な知識を自身の問題に置き換えて考えることができる。
・思い込みや感情的な解釈にとらわれず、事実を捉え、柔軟に対処しようとする態度を養えている。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	心理学とは	心理学とはどのようなものかについて学ぶ	授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。
2	心理学の歴史	哲学から心理学への流れについて学ぶ (録画での遠隔授業対応回)	授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。
3	認知心理学①	認知心理学と錯視 (録画での遠隔授業対応回)	授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。
4	認知心理学②	認知心理学と記憶 (録画での遠隔授業対応回)	学習内容を自身の問題に置き換えて考える(30 分)。
5	認知心理学③	認知心理学と学習 (録画での遠隔授業対応回)	学習内容を自身の問題に置き換えて考える(30 分)。
6	発達心理学	ヒトのこころの発達的変化 (録画での遠隔授業対応回)	授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。
7	臨床心理学	さまざまなこころの問題と、カウンセリング (録画での遠隔授業対応回)	授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。
8	社会心理学	パーソナルスペースについて ストップディスタンス法による実験	パーソナルスペース実験を行う。心理社会的距離について考える(60 分)
9	心理学の研究法① 検査法	様々な心理学の研究方法を知る 知能検査 （録画での遠隔授業対応回）	授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。
10	心理学の研究法② 検査法	様々な心理学の研究方法を知る 知能検査(録画での遠隔授業対応回)	授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。
11	心理学の研究法③ 調査法	さまざまな心理学の研究法を知る SD 法とデータ集計を体験する	調べたデータを基に考察したことを、レポートにまとめる。(60 分)
12	心理学の研究法④ 実験法	さまざまな心理学の研究法を知る 鏡映描写実験(両側性転移)とデータ集計	実験を行う。実験結果を、集約する。(60 分)
13	心理学の研究法⑤	実験から論文へ 鏡映描写実験のレポート作成	実験結果を、論文としてまとめ、執筆する。(60 分)
14	恋愛心理学	出会い・進展・深化における心理学 (録画での遠隔授業対応回)	学習内容を自身の問題に置き換えて考える(30 分)。
15	まとめ	ここまで学んだことについてまとめる	授業中に説明したところを中心に理解を深めておく(30 分)。

単位の認定について

試験 60% 復習テスト 10% 授業態度 10% 授業外学習(課題)20%

教科書 参考書

必要に応じて、担当者が伝える。

授業外学習について

指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

毎回授業冒頭に、Universal Passport を使用して、前回の内容について復習テストを実施する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題はチェック後に解説する。授業中に理解度を確認するために Universal Passport を使用する。

※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	生物学（科目コード:TGNSC101）							
資格取得との関連								
担当者	髙妻瑠弥乃							
オフィスアワー	火曜日放課後							
授業対象	全学科 2 年	開講時期	前期･後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：身近な自然や生物に興味をもち、自然を大切にする心や態度を身に付けることは大切である。特に郷土宮崎の将来を担う人材となるために、宮崎の自然や生物、農業を生物学的視点で見ることは大変有意義なことである。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ				
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ◎

到達目標： 郷土宮崎の豊かな自然や多様な生物、眼には見えないけれども食品や環境等様々なところで活躍している微生物について正しく理解し、宮崎の生物学的な特徴や身近な生物について説明することができる。

授 業 計 画 表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	生物とはなにか、また生物学とはどのような学問かを理解する。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
2	将来に残したい宮崎の希少生物	希少生物の実態と保護のあり方を理解し、生物多様性の意義を知る。希少生物の調べ学習。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
3	宮崎の自然	日本に生息する動植物について知る。学内植物の観察と記録。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
4	自然環境と生物①	植物の基本を学ぶ①。葉脈標本づくりの理論	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
5	自然環境と生物②	植物の基本を学ぶ②。葉脈標本づくり	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
6	環境指標生物	環境指標生物を通して身近な自然環境を知る。宮崎の環境指標生物の調べ学習。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
7	水生生物の観察	水生生物の観察を通して、特徴を理解する。エビの解剖	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
8	穀類の生物学特徴	世界三大穀物の生物学的な特徴を理解する。(課題補講)	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
9	宮崎の自然と農業	宮崎の自然環境と農林業、畜産業、水産業の実態を知るとともに、経済動物について理解する。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
10	食品と微生物の世界	発酵食品等様々な形で食品に関係している微生物について理解する。(課題補講)	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
11	バイオものづくり	生物由来の素材を用いたり、微生物などの能力を活用して製品を生産する技術や産業について理解する。（オンデマンド授業）	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
12	微生物を利用した食品	パン酵母の発酵試験を通じて、発酵食品の基礎的概念を理解する。イースト菌の発酵実験。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
13	空中落下細菌培養観察	①空中落下細菌の培養観察を通して、微生物の多様性を知るとともに環境衛生の重要性を理解する。②防腐効果のある植物を利用した食品の保存テスト。 ･食パンを使った細菌の培養実験。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
14	DNA	DNA の特徴を理解する。DNA の抽出実験。空中落下細菌の観察。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）
15	まとめ	これまでの学びの振り返り。	授業で説明したことを復習し理解を深める（30 分）

単位の認定について　試験 60%, レポート等の提出物 30%、授業への取り組み 10%

教科書：授業ごとに資料を配布する

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

この授業はアクティブラーニングを実施します。

授業科目名	体育実技 （科目コード:TGPHY102）						
資格取得との関連							
担当者	伊東朋子						
オフィスアワー	火曜日の放課後　毎授業後						
授業対象	全学科１年	開講時期	後期	授業の種類	実技	単位数	1

授業概要：生涯にわたる健康づくりの基礎を身に付けるとともに、各種の運動やスポーツを楽しむことで、体力の維持・増進を図り、心身ともに健康で豊かな学生生活の向上を目指す。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎

到達目標：健康の保持増進に強い関心を持ち、自ら進んで運動実践に取り組む。
自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康、安全を確保する。
授業内容を工夫してノートに記録する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	バレーボール	グループ編成、ルールの確認、基礎練習について学ぶ。	バレーボールのルールと技術を調べる。(40分) 各班で時間毎の練習の内容を考え、練習メニューを作っておく。(40分)
2	バレーボール	グループ練習とゲームを実践する。	各班で時間毎の練習の内容を考え、練習メニューを作っておく。(40分)
3	バレーボール	グループ練習とゲームを実践する。	各班で時間毎の練習の内容を考え、練習メニューを作っておく。(40分)
4	バレーボール	グループ練習とゲームを実践する。	ゲームの展開を考え、自チームのフォーメーションや作戦を作っておく。(40分)
5	バレーボール	グループ練習とゲームを実践する。	ゲームの展開を考え、自チームのフォーメーションや作戦を作っておく。(40分)
6	バレーボール	グループ練習とゲームを実践する。	大会企画をし、競技会の準備を整えておく。(40分)
7	バレーボール	グループ練習とゲームを実践する。	大会企画をし、競技会の準備を整えておく。(40分)
8	バドミントン	グループ編成、ルールの確認、基礎練習について学ぶ。	各グループで時間毎のバトミントン・卓球のための補助運動を考え、練習メニューを作っておく。(40分)
9	バドミントン	グループ練習とゲームを実践する。	各グループで時間毎のバトミントン・卓球のための補助運動を考え、練習メニューを作っておく。(40分)
10	バドミントン	グループ練習とゲームを実践する。	各グループで時間毎のバトミントン・卓球のための補助運動を考え、練習メニューを作っておく。(40分)
11	バドミントン	グループ練習とゲームを実践する。	各グループで時間毎のバトミントン・卓球のための補助運動を考え、練習メニューを作っておく。(40分)
12	バドミントン	グループ練習とゲームを実践する。	ゲームの展開を考え、他グループとの練習試合を事前に計画してゲームの運営を実践する。(40分)
13	バドミントン	グループ練習とゲームを実践する。	ゲームの展開を考え、他グループとの練習試合を事前に計画してゲームの運営を実践する。(40分)
14	バドミントン	グループ練習とゲームを実践する。	ゲームの展開を考え、他グループとの練習試合を事前に計画してゲームの運営を実践する。(40分)
15	まとめ	実技について、習熟度の確認を行う。	行ったことについて、まとめる。(60 分)

単位の認定について　実技への取組み(25%)、服装・態度(25%)、授業内での実技試験(50%)で評価し、60 点以上が合格点。

参考書　印刷物を配布する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

授業科目名	日本国憲法（科目コード:TGSSC101）						
資格取得との関連	幼稚園教諭二種免許状必修科目						
担当者	佐保　忠智　（tadatomo-saho@mgjc.ac.jp）						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	全学2年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：

①法の体系を知り、憲法が国家の最高法規であることを理解する。
②日本国憲法の制定過程を学習し、日本国憲法の基本原理を理解する。
③基本的人権の本質や人権の種類、公共の福祉に関する学習を通して自己の人権感覚を高める。
④民主政治の原理や権力分立に関する学習を通して民主政治の重要性を理解する。
⑤国会の地位や組織、内閣の権限や組織、裁判所の構成や役割、地方自治に関する学習を通して主権者としての自覚を高める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ○	Ⅰ○	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ	

到達目標：

①日本国憲法の性格、日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義についてその意義の理解を図り、 基本的人権や国会、内閣、裁判所、地方自治などに関する知識理解を確かなものにする。
②学習活動全体を通して、科学的に根拠をもって考える思考力を身に付けるとともに保育士・幼稚園教諭（保育教諭）に必要な法的感覚と基礎的な法知識の習得を図る。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	法の体系と憲法の概要に関する学習	憲法が最高法規であること、法体系として憲法を頂点として法律や命令、規則、条例等の各種の法が制定されていること、上位の法に反してはならないことなどを知る。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
2	日本国憲法の制定過程と基本原理に関する学習	ポツダム宣言を受諾した我が国は大日本帝国憲法を根本的に改正する必要に迫られたこと、そのような歴史的過程を経て戦後制定された日本国憲法の三大基本原理である国民主権主義、基本的人権尊重主義、平和主義について学ぶ。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
3	基本的人権の性格や本質、基本的人権と公共の福祉の関係などに関する学習	基本的人権は永久不可侵の権利であり、個人の尊厳を重視したものであるが公共の福祉との調和が求められることなどについて学ぶ。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
4	自由権的基本権の性格と特徴、種類などに関する学習	自由権的基本権は国家権力からの自由を内容とする権利であること、日本国憲法の規定を基に人身の自由、精神の自由、経済の自由に分類されることを具体的に学習する。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
5	平等権と社会権的基本権に関する学習	平等権の性格と特徴、平等権に関する今日的課題などを具体的に学習する。社会権的基本権は国家権力の積極的な作用によって実現する権利であること、日本国憲法で規定する生存権、教育権、勤労権、労働三権について内容や現実的な課題を具体的に考察する。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
6	参政権及び請求権の性格と特徴に関する学習	参政権には選挙権、被選挙権の他に国民が直接政治に参加する憲法改正の国民投票権、最高裁判所裁判官の国民審査権、地方特別法の住民投票権が存在することを確認する。参政権と請求権の違い、国家賠償請求権及び刑事補償請求権の内容について、事例を基に具体的に理解する。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
7	民主政治の原理と権力分立に関する学習	国民主権、代議政治、法の支配についてその概要を掴んだうえで、権力分立の意義、ねらいについて学習する。また、日本国憲法上それらの原理がどのように生かされているかを具体的に学習し、国会、内閣、裁判所相互間における権力の抑制と均衡の関係を学ぶ。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)

8	国会の地位と役割に関する学習	憲法の根拠規定を把握しながら国会は国権の最高機関であり唯一の立法機関であることを確認する。なぜ国会が国権の最高機関であり唯一の立法機関であるのかその背景にある意味を理解する。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
9	国会の組織と権限に関する学習	国会は衆議院と参議院からなる二院制であること、両議院とも全国民の代表者で組織されること、両院の定数や議員選出方法の違い、国会議員の特権、二院制の意義、国会の権限、衆議院の優越と意義について学習を深める。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
10	内閣の地位と役割に関する学習	内閣は行政権の主体であること、日本国憲法はイギリス型の議院内閣制を採用しており、議会の信任が内閣の成立要件であり存続要件であることを理解し学習を深める。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
11	内閣の組織と権限に関する学習	内閣は首長たる内閣総理大臣と国務大臣で組織される合議体であること、内閣の権利と内閣総理大臣の権利、任命手続き等について学習する。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
12	裁判所の地位と役割に関する学習	すべて司法権は最高裁判所及び法律の定める下級裁判所に属すること、特別裁判所設置の禁止、司法権の独立、裁判官の独立と身分の保障、その意義について学習する。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
13	裁判所の組織と権限に関する学習	最高裁判所の組織、下級裁判所の種類、審級制度、裁判の種類、違憲立法審査権、裁判の公開、国民審査、裁判員制度等について具体的に学習する。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
14	地方自治、公務員法に関する学習	地方自治の必要性をブライスの「民主主義の学校」ということばから考察する。地方自治の本旨の意味に関し、住民自治、団体自治の意義を理解し、地方自治法に規定する直接請求権や地方公務員の身分や義務などについても学習を発展させる。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
15	憲法学習のまとめとしての日本国憲法の最高法規性と憲法改正手続、憲法尊重擁護義務に関する学習	憲法学習のまとめとして日本国憲法の最高法規性と憲法改正手続、憲法尊重擁護義務について学習する。日本国憲法の規定を基に改正手続きを確認し、硬性憲法であることの意義について考察を深める。また、日本国憲法の最高法規性と憲法尊重擁護義務から憲法の役割を考察する。	①授業終了後ノートのまとめを行い授業の復習を行う。 ②毎度の授業終了後に配布する「出席票」に授業内容の概要を記入し、質問があれば記入し提出する。(60 分)
16	試験	単位試験を行う。	

単位の認定につい 原則として単位試験を70％、小テスト、レポート等の提出を30％として評価する。ただし、非常変災等による異常事態発生の場合は単位試験の実施の有無を含めて別途計画をする。その場合は事前連絡をする。

教科書 『ようこそ日本国憲法へ 第3版』(小林 武 著・法学書院)

参考書 授業の中で紹介する。

授業外学習について

事前学習として、教科書の本文及び教科書巻末の日本国憲法の条文を読んで、授業に臨むこと。事後学習として、授業で使用した教科書、配付プリント、ノートを基に復習し、疑問点があれば次の時間に質問し疑問を解決すること。

指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法

レポート・答案等の提出物については、コメントを記載して返却する。また、必要に応じて授業またはオフィスアワーを活用して口頭での説明を行う。解答例を配布する。

授業科目名	日本語表現の基礎						
資格取得との関連	プレゼンテーション実務士（選択科目）						
担当者	川越勇二						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科　１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業目標：本授業では、日本語に対する興味・関心を高め、その多様性と豊かさを知り、表現することの意義について考える。また、対話を重視したグループ・ワーク、ディスカッションやプレゼンテーションなどの言語活動を行うことにより、日本語で適切かつ効果的に表現する能力の育成を目指す。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	

到達目標：・日本語に対する興味・関心を高め、日本語の特質を理解できている。
・さまざまな表現方法を理解し、それらを活用して自分の考えや心情を適切かつ効果的に表現できる。
・表現することを通じて、他者や社会とつながり、より良い生き方を探求する姿勢がある。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	日本語表現を学ぶ意義を理解する	ワークシートの作成・提出
2	表現を味わう①	現代詩・俳句をグループで読解し、批評する	ワークシートの作成・提出
3	表現を味わう②	短歌・随筆をグループで読解し、批評する	ワークシートの作成・提出
4	表現をみつめる	ことばの意味分析を行い、グループで発表する	ワークシートの作成・提出
5	日本語の特質	語彙・敬語について理解する	ワークシートの作成・提出
6	文章表現の基本	文章を書く上で必要なスキルを身につける	ワークシートの作成・提出
7	文章の創作①	創作のための基礎知識と方法を理解する	ワークシートの作成・提出
8	文章の創作②	創作した作品を相互評価し、推敲・完成させる	ワークシートの作成・提出
9	文章の創作③	創作した作品を発表する	作品の作成・提出
10	表現の探究①	身近にあるすぐれた表現を読み味わう	ワークシートの作成・提出
11	表現の探究②	表現における修辞法の効果について知る	ワークシートの作成・提出
12	表現の探究③	自分が見つけたすぐれた表現について発表する	資料の作成・提出
13	対話	対話の方法やスキルを身につける	ワークシートの作成・提出
14	ディスカッション	ディスカッションの方法やスキルを身につける	ワークシートの作成・提出
15	授業のまとめ	授業の要点を理解する	授業内容の確認・復習

単位の認定について　授業の取組（30％）　課題・レポート・発表（30％）　期末試験（40％）

教科書 参考書　授業時に適宜教材・資料を配布する。

授業外学習　課題・レポート・発表資料については、必ず指定された日までに提出する。
発表等の準備を周到に行う。

課題に対するフィードバックの方法　授業またはオフィスアワーに口頭で行う。
提出された課題はコメントを記載して返却し、解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	人間の研究						
資格取得との関連	この授業は、SPARC 未来共創教育プログラム(通称:アドバンスコース)、現代ビジネス SPARC 学位プログラム(通称:ベーシックコース)の必修科目となっている。						
担当者	山本優子(y-yamamoto@mgic.ac.jp)　長瀬富美子(f-nagase@mgic.ac.jp)						
オフィスアワー	常勤教員は火曜日の放課後、非常勤教員は授業終了後						
授業対象	全学科 1 年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	1

授業概要：
「人間の研究」は、学校法人宮崎学園の建学の精神(礼節)に則り、社会に広く貢献できる人材を育成するために、実践的教育を通して、コミュニケーション能力に優れた社会人となるための基礎を身に付けることを目標とする。さらには、社会人として期待される行動を自ら考え行動できる応用力を培うために必要な基本的知識・技能の修得及び人格形成を目指す。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	③◎	

到達目標：
1　建学の精神(礼節)の意義について説明できる。
2　清潔感のある服装・身だしなみを整え、授業に積極的に臨むことができる。
3　社会人としての基本的な心得を理解し、TPO に応じたあいさつができる。
4　日常の言葉遣いの基本と敬語の正しい使い方を理解し、相手に伝えることができる。
5　授業内容の中から課題を見出し興味深く調べ、実践に繋げる授業外学習の取組ができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	社会人としてのマナー	宮崎学園の建学の精神(礼節)を知る。授業の概要、取組、評価について理解する。 社会人としての基本的な心得、職場でのマナーと身だしなみについて学ぶ。第一印象の効果、目的に合ったお辞儀と挨拶言葉を実践する。	「社会人としての基本的な心得」について調べまとめる。(30 分)
2	訪問のマナー	訪問する側ともてなす側の心得と所作、席次のマナーについて学ぶ。洋室への入退室、立礼、椅子のかけ方、物の持ち方と渡し方などの基本動作を学び実践する。人の話を聴く時の姿勢と態度、話し方のポイントを理解し、日常の言葉遣いを学ぶ。	訪問のマナーについて調べまとめる。(30 分)
3	正しい日本語の表現	敬語の種類と使い方、間違いやすい敬語について学び、言葉の表現の基本を理解する。ロールプレイを通して会話のマナーを身に付け、相手に伝えることができる。	「敬語」について調べ、整理してまとめる。(30 分)
4	冠婚葬祭の作法	慶事・弔事・行事の心得を理解し、儀式における振る舞いを実践する。金包みと表書きの心得、袱紗の扱いについて学ぶ。	慶事・弔事に用いられる「金包み」について調べまとめる。(30 分)
5	実技テスト 手紙の書き方	訪問時の心得について、理解度を確認する。 手紙の心得、手紙文の基本構成を理解し、便箋・封筒の書き方を学ぶ。	「時候の挨拶」について調べまとめる。(30 分)
6	確認テスト 電話のかけ方と応対	これまで学んだ内容について筆記試験を受け、理解度を確認する。 一般的な電話のかけ方、受け方について学び、DVD を視聴し理解を深める。	「電話のかけ方」について調べる。(30 分)
7	セルフマネジメント	外部講師講話を聞き、内容を理解する。	茶道における客の心得をまとめる。(30 分)
8	茶道	客と亭主の心得を理解し、茶道の精神を通して、相手のニーズに応えるおもてなしにつなげる。(グループワーク)	これまでの学びを振り返り、今後どのように活かしていきたいか、考えをまとめる。(30 分)

単位の認定について
実技テスト 30%、確認テスト 30%、提出物 40%を総合して評価。

授業外学習について
提出物は、提出期限を守ること。指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	文学(科目コード:TGHUM106)							
資格取得との関連								
担当者	原田 真理 (m-harada@mgjc.ac.jp)							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	全学科1, 2年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 古典とされる日本の文学作品に親しむとともに、想像力・思考力・ことばによる表現力を向上させることを目指す。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	③	

到達目標： ・作品を読み、内容を理解し考えることができる。
・感じたことや考えたことを、ことばにすることができる。
・グループディスカッションに主体的に参加し、他者の考えを受けとめつつ自らの考えをまとめることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	はじめに	本授業の目標および進め方について理解する 古典とされる作品を知り、時代や風土との関連を考える	授業で紹介された作品についてまとめる(30 分)
2	和歌①	季節の歌を読み、景色を想像する	授業で紹介された作品についてまとめる(30 分)
3	和歌②	和歌の技巧について学ぶ	授業で紹介された作品についてまとめる(30 分)
4	伊勢物語①	章段を読み、内容についてディスカッションを行う	授業で紹介された作品およびディスカッションの内容をまとめる(50 分)
5	伊勢物語②	章段を読み、内容についてディスカッションを行う	ディスカッションの内容をふまえて自分の意見をまとめ、大和物語のプリントを読んでおく(50 分)
6	大和物語	大和物語 149 段を読む	伊勢物語との一致点と相違点を整理する(30 分)
7	伊勢と大和	伊勢物語と大和物語とを比較し、ディスカッションを行う	ディスカッションの内容をまとめる(30 分)
8	伊勢物語③	惟喬親王に関する段を読み、親王をめぐる思いについて理解する	自分の考えをまとめる(30 分)
9	作品の背景	平安時代の身分制度や装束等、作品の背景について学ぶ(録画での遠隔授業対応)	授業で紹介された内容についてまとめ、課題を提出する(30 分)
10	枕草子	枕草子の概略を理解する 清少納言のコンプレックスおよび定子との関係についてディスカッションを行う	ディスカッションの内容をふまえ、身自分の意見をまとめる(30 分)
11	和泉式部日記	概略を理解し、和泉式部と敦道親王との関係について考える グループディスカッションを行う	ディスカッションの内容をふまえ、身自分の意見をまとめる(30 分)
12	紫式部日記	人物評の部分を中心に読み、紫式部の人物像を考える	自分の紫式部像をまとめる 「少女」の巻を読んでおく(50 分)
13	源氏物語	「少女」の巻を読み、六条院のようすとそこに住む女性たちについて整理する	整理した内容をまとめる(30 分)
14	竹取物語	五人の求婚者について読んでまとめる	内容を整理してまとめる(30 分)
15	歌・徒然草	古歌を読み、その内容を理解する 古典を読むことの意味を考える	自分の意見をまとめる(30 分)

単位の認定について 授業における取り組み 50% 授業外学習を含む課題 50%
教科書 必要に応じてプリントを配付する。
参考書 新日本古典文学全集 ほか図書館の関係図書
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。授業外学習の提出および授業内での確認のための課題回答はパソコンを使用する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ （科目コード:TGGEN108）						
科目名							
担当者	西山 和夫						
オフィスアワー	火曜日放課後						
授業対象	全学	開講時期	通年	授業の種類	実習	単位数	各1

授業目標： 地域でのボランティア活動を通して、社会貢献の意味を考えるとともに、コミュニケーション力、企画力、計画力、発想力、実行力、協調性等を身につけることを目指す。

DPとの関わり	全学DP				
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ○	Ⅳ◎	Ⅴ◎

評価指標： ボランティア活動の内容を考え、計画を作成することができる。
ボランティア活動に必要な準備をし、主体的な活動を行うことができる。
活動を振り返って報告書にまとめることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
	オリエンテーション	授業の内容と単位修得についての説明。	
	ボランティア活動	自主的に地域でのボランティア活動に、合計30時間以上参加する。	主体的にボランティア活動を行う
	活動記録の提出	合計30時間以上のボランティア活動について、活動記録を提出する。	活動記録を記入する

単位の認定について

- ボランティア実習は、学生の自主的なボランティア活動に対し単位を認定するものある。
- 単位の認定にあたっては、履修登録が必要である。
- ボランティア実績、および活動記録を総合的に評価する。なお、実際の活動時間は 30 時間以上とし、その活動記録の提出が必要である。
- 単位認定は、原則的に条件を満たした学期に行う。合否発表の登学日までに、担当者に記録を添えて提出すること。
- ボランティア活動の単位認定は、本学在学中の活動を対象とする。
- ボランティア実習Ⅰの単位認定後、さらに条件を満たした場合、ボランティアⅡの単位を認定する。

教科書

参考書

授業外学習について　社会の出来事に関心を持ち、新聞を読む等の学習を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

授業科目名	学びのステップ （科目コード:TGGEN110）							
資格取得との関連								
担当者	井上浩義、村上和厳、江田菜穂子、鷲﨑公彦							
オフィスアワー	火曜日放課後、授業終了後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：初年次において大学で学ぶということはどういうことかを考え、大学での目標を明確にするとともに、大学で学ぶ上で基本となる技能や態度を身に付けることができる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標
・大学での学びの方法の理解と自主的な学習態度を形成することができる。
・問題発見能力を開発することができる。
・文献資料などの情報収集方法を修得することができる。
・読解力、表現力、発表力、討論の方法などを修得・向上することができる。
・大学生活を送る上での社会的ルールを理解することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ウォーミングアップ	・「学びのステップ」の授業について知る。 ・自己紹介を行ない、クラス内の交流を図る。 ・授業外学修について知る ・図書館ツアーを行う。	・「学生便覧とテキスト」を一読してくる。(30 分) ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
2	ディプロマポリシー	・「建学の精神」や大学及び学科ＤＰについて学ぶ。 ・ＤＰ自己評価を行う。	・「学生便覧」の中から「建学の精神」「全学及び学科ＤＰ」を調べておく。(30 分) ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
3	基礎力リサーチ	・基礎力リサーチテストを行う。	・基礎力向上ドリルに取り組む。(60 分) ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
4	オリエンテーション	・大学用のメールの設定と、メールの書き方 ・先生方へのアポイントメントの取り方について学ぶ。	・基本的なメールの扱い方について調べておく。（30 分） ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
5	スタディスキル①	・グループやチームで学ぶメリットを知る。 ・構成的グループエンカウンターを学び、エクササイズを行う。（Zoom での遠隔授業対応回）	・構成的グループエンカウンターについてまとめておく。(30 分) ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
6	スタディスキル②	・文章を要約するスキルについて理解する。 （Zoom での遠隔授業対応回）	・様々な文章を読み、要約する練習を行う。（30 分） ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
7	スタディスキル③	・レポート作成の基本を知る。 ・図書館やインターネットで情報収集を行い、表やグラフの書き方を学ぶ。 ・パソコンを使ってレポートを作成する。	・レポートの資料を収集する。（30 分） ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
8	スタディスキル④	・文章を図で表すスキルや表やグラフを使って表すスキルを学び、実際に文章を図や表・グラフで表す活動を行なう。（Zoom での遠隔授業対応回）	・文章を図で表したり、表やグラフを使って表したりするスキルについてまとめておく。（30 分） ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
9	スタディスキル⑤	・パソコンを使ってレポートを作成する。	・レポートの資料を収集し、それをもとにレポート作成を進める。（60 分）
10	スタディスキル⑥	・ディベートの手法を使って、グループワークを通して、問題解決を体験してみる。（Zoom での遠隔授業対応回）	・ディベートの方法についてまとめておく。（30 分） ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
11	スタディスキル⑦	・ディスカッションの目的やスキルを学び、グループワークでスキルを活用した活動を行なう。（Zoom での遠隔授業対応回）	・ディスカッションについてまとめておく。（30 分） ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)
12	スタディスキル⑧	・パワーポイントを用いたプレゼンテーションの方法について学ぶ。 ・パソコンを使ってプレゼンテーションを作成する。	・プレゼンテーションの方法についてまとめておく。（30 分）
13	スタディスキル⑨	・パソコンを使ってレポートを完成させ、発表する。 ・発表とディスカッションをする。	・レポートを完成させ、発表の準備を行なう。（60 分）
14	スタディスキル⑩	・基礎力向上ドリルに取り組む。 ・継続して取り組むことで、自身の基礎力向上を実感する。	・基礎力向上ドリルに取り組む。(60 分) ・保育の基本用語を調べておく。(30 分)

15	まとめ	・保育の基本用語（漢字・用語）の試験	・「学びのステップ」についてまとめる。（60 分）

単位の認定について 授業への取組態度・意欲（30%）授業でのテキスト、ワークシート記入（40%）小テスト・まとめテスト（30%）

教科書 「スタディスキルズ・トレーニング」（実教出版）保育の基本用語（わかば社）
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※ この授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	おもちゃと絵本Ⅰ （科目コード:TNBKT101）							
資格取得との関連	一般社団法人日本知育玩具協会認定資格に関する科目							
担当者	堀之内 信子(n-horinouchi@mgjc.ac.jp)　藤田 篤　　大坪 祥子							
オフィスアワー	授業終了後　　火曜日放課後							
授業対象	保育科1･2年	開講時期	前期(集中)	授業の種類	講義	単位数	2	
授業概要：	0･1 歳の子ども達の発達課題を理解し、必要とされる具体的な愛情、おもちゃ、絵本を学び、その正しい導入方法(使い方)を身につける。							

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：0･1 歳の子どもの発達課題の内容を理解したうえで、子どもの状況に応じたおもちゃ･絵本を選び、与えるための知識･技術を修得できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	･授業全体像の説明。授業目標及び本授業の到達目標を確認する。 ･発達課題:発達の順序性、基本的信頼、感受性の土台、最近接領域について学ぶ。	集中講義のため、授業終了後の学修は求めないが、事前にシラバスを読み、授業内容について把握しておくこと。
2	乳児への絵本の与え方	自身の絵本の原体験を振り返り、絵本との3度の再会について理解し、良い読み手とは誰か、絵本を読み聞かせるためのよりよい環境について学ぶ。またよい絵本の特徴を理解し、よい絵本の読み方を学ぶ。絵本嫌いになるきっかけについても学ぶ。	
3	人形とままごと	お世話遊びの動機を理解し、ちょうどよい人形とは何か、人形の与え方、よいままごと道具の与え方を学ぶ。	
4	積木:積木のルーツ	積木のルーツ、よい積木の特徴を理解し、積み木を崩すこと(探索行動)の意味と積木の与え方を学ぶ。	
5	発達を支えるおもちゃ	発達の順序性と五感を豊かに育てるポイントを理解し、音の出るおもちゃ、プッシュトーイ、プルトーイ、落ちる動きを追うおもちゃ、叩くおもちゃなどの各役割と与え方を学ぶ。	
6	2･3歳に向けて	遊びの連続性について学ぶ。発達に沿ったおもちゃの与え方の変化について学ぶ。	
7	まとめ	これまでの授業を振り返り、子どもの発達課題を理解し、おもちゃ･絵本の正しい導入方法を理解する。	
8	まとめ･試験	･口頭でこれまでの授業内容について説明することができる。 ･筆記試験	これまでの授業を振り返り、自分の言葉で理解したことを説明することができるよう準備する。

単位の認定について　筆記試験:100%にて評価する。

教科書・参考書　①『子育てを感動にするおもちゃと絵本』藤田篤著，ゆいぽおと
②『子どもの心が見える本』佐々木正美著，子育て協会
その他、資料を配付する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習･復習に1時間をあてること。

課題に対するフィードバックの方法　試験やプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

授業科目名	おもちゃと絵本Ⅱ （科目コード:TNBKT102）							
資格取得との関連	一般社団法人日本知育玩具協会認定資格に関する科目							
担当者	堀之内 信子(n-horinouchi@mgjc.ac.jp)　藤田 篤　　大坪 祥子							
オフィスアワー	授業終了後 火曜日放課後							
授業対象	保育科 1･2 年	開講時期	後期(集中)	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：2・3 歳の子ども達の発達課題を理解し、必要とされる具体的な愛情、おもちゃ、絵本を学びその正しい導入方法（使い方）を身につける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：2・3 歳の子どもの発達課題の内容を理解したうえで、子どもの状況に応じたおもちゃ・絵本を選び、与えるための知識・技術を修得できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	・授業全体像の説明。授業目標及び本授業の到達目標を確認する。 ・発達課題:自律性、しつけとは何か、楽しいことの自己決定について学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて振り返り、次時の予習をする。
2	絵本で子どもの心を見る、育てる	よい絵本の特徴を理解し、よい絵本の読み方、絵本嫌いになるきっかけについて学ぶ。絵本とおもちゃの関係について学ぶ。	
3	積木	積木のルーツ、積木遊びが必要な理由、積木遊びの五段階、子どもの能力を伸ばすよい積木の条件、積木の与え方について学ぶ。	
4	人形とごっこ遊び	よい人形の条件、人間性を身につけるために人形遊びが必要な理由、よいごっこ遊びの道具の条件について学ぶ。	
5	おもちゃで身につくしつけの基本	落ちるおもちゃ・叩くおもちゃが子どもの発達を促す仕組みを理解し、2歳児の課題を遊びで解決する方法を学ぶ。	
6	4歳までに体験させたい遊び	汽車遊び、ドイツゲーム、玉の道のおもちゃ、ブロックと積木の関係などを理解し、それらが育てるものと、与え方を学ぶ。	
7	まとめ	これまでの授業を振り返り、2・3歳の子どもの発達課題を理解し、おもちゃ・絵本の正しい導入方法をプレゼンテーションできる。	
8	まとめ・試験	・これまでの授業の振り返り。プレゼンテーションに対するフィードバック。 ・筆記試験	これまでの授業を振り返り、理解したことを自分の言葉で説明することができるよう準備する。

単位の認定について　筆記試験:100%にて評価する。

教科書・参考書　①『子育てを感動にするおもちゃと絵本』藤田篤著，ゆいぽおと
②『子どもの心が見える本』佐々木正美著，子育て協会
その他、資料を配付する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　試験やプレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

授業科目名	音楽鑑賞法 （科目コード:TNMTH108）						
資格取得との関連	専門教育科目 （音楽療法士２種に関する科目）						
担当者	小澤真美子						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科1年･2年(3年課程)	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： 西洋音楽の歴史や各時代を代表する作曲家について、時代背景とともに学び、独唱曲、独奏曲、室内楽曲、協奏曲、管弦楽曲、オペラ等の鑑賞をする際のポイントを知る。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ○

到達目標：・西洋音楽の歴史と音楽様式の変化、各時代を代表する作曲家やその特徴について、理解できたか。
・作曲家や作曲された背景を知って、様々な曲を聴き味わい、自分なりの考えをまとめることができたか。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション クラシック音楽について	自己紹介を行う。 音楽ホール、クラシック音楽コンサートのマナー、オーケストラ等について学ぶ。	教科書等の復習。(60 分)
2	古典派の音楽(1)	古典派の音楽形式やその時代について、モーツァルトを題材にして学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
3	古典派の音楽(2)	オペラについて、モーツァルトのオペラを題材にして学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
4	古典派の音楽(3)	古典派の作曲家、ベートーヴェンについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
5	ロマン派の音楽(1)	歌曲の王:シューベルトについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
6	ロマン派の音楽(2)	ピアノの歴史と、ピアノの詩人:ショパンについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
7	確認テストⅠ/ ロマン派の音楽(3)	古典派の音楽(1)～(3)、ロマン派の音楽(1)～(2)の理解度について、確認テストを行う。 ショパンを題材にした映画(抜粋)を鑑賞する。	教科書等の予習・復習。(60 分)
8	ロマン派の音楽(4)	確認テストⅠの内容の振り返りをする。 シューマンとブラームスについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
9	ロマン派の音楽(5)/ バロック時代の音楽	メンデルスゾーンと、バロック時代の音楽の父:J.S.バッハについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
10	ロマン派の音楽(6)	ピアノの魔術師:リストと、楽劇王:ワーグナーについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
11	ロマン派の音楽(7)	ワルツの王:シュトラウスⅡ世と、イタリアオペラの作曲家:ヴェルディ&プッチーニについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
12	ロマン派の音楽(8)	フランスオペラの作曲家:ビゼーについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
13	後期ロマン派の音楽	ロシアの音楽家:チャイコフスキーとラフマニノフについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
14	20 世紀の音楽	フランスの音楽家:ドビュッシーとラヴェル、アメリカの音楽家:ガーシュウィンとケージについて学ぶ。	教科書等の予習・復習。(60 分)
15	確認テストⅡ	ロマン派音楽(4)～(8)、後期ロマン派の音楽、20 世紀の音楽の理解度について、確認テストを行う。	教科書等の予習・復習。(60 分)

単位の認定について 確認テスト(90%) 提出物等(10%) 合計 60 点以上で認定

教科書 購入は無し。ただし、授業で配布する「プリント」を A4 ファイルに綴じ、毎回持参すること。

参考書 「クラッシクの音楽の世界」(新星出版社)

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題はチェック後に解説する。

授業科目名	音楽療法演習 （科目コード:TNMTH203）							
資格取得との関連	音楽療法士２種必修科目							
担当者	星﨑明里、中武亮子　nakatake@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	2	

授業概要：障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践方法に関する基礎と専門知識・技術技能について学習する。発達の援助のための音や音楽の使い方、障害種別、形態別（個別、集団など）の療育の具体的方法、楽器の活用法や身体活動と音楽との関連を視野に入れた実践方法について学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ○

到達目標：・障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践ができる。
・発達援助のために音や音楽の使い方を理解して、音楽を構成したり、療育活動を構成したりすることができる。
・グループワークにより発達に合わせた遊びを創造することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション アセスメントについて	シラバスに基づきオリエンテーションを行う。 アセスメントの方法について学ぶ。	リズムムーブメントの練習を行う。(30 分) 教科書 p217～223 を読む。(10 分)
2	音楽療法プログラムの立て方と目的	コ・ミュージックセラピーの流れを理解し、目的を持って計画を立てる力を身につける。	教科書 p125～169 を読む。(30 分)
3	基礎的技術の習得①	ハンドドラム挨拶、手遊び・歌遊びの実際を学ぶ。	手遊び5曲、歌あそびの曲の練習を行う。(30 分)
4	基礎的技術の習得②	身体活動と音・音楽を学ぶ。	リズムムーブメントの練習を行う。(30 分)
5	音楽の構成の方法	音や歌唱曲、CD の曲を聴いて、音楽の構成について考え、実際に楽器構成をする。	学習した曲の歌唱・伴奏の練習。(30 分)
6	肢体不自由児への音楽療法	肢体不自由児に対する個別音楽療育と集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。	肢体不自由児の音楽療法に関する課題。(30 分)
7	発達障害児への音楽療法①	発達障害児に対する個別音楽療育の具体的方法について学ぶ。	発達障害児の音楽療法に関する課題。(30 分)
8	発達障害児への音楽療法②	発達障害児に対する集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。	発達障害児の音楽療法に関する課題。(30 分)
9	知的障害児への音楽療法	知的障害児に対する集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。	知的障害児の音楽療法に関する課題。(30 分)
10	視覚・聴覚障害児への音楽療法	視覚障害児・聴覚障害児に対する集団音楽療法の具体的方法について学ぶ。	視覚障害、聴覚障害児の音楽療法に関する課題。(30 分)
11	発達援助のための遊びと音楽①	対象児・者の発達を援助していくための音楽遊びの創造方法を学ぶ。	発達援助のための音楽遊びを考案する。(60 分)
12	発達援助のための遊びと音楽②	対象児・者の発達を援助していくための音楽遊びの創造方法を学ぶ。	発達援助のための音楽遊びを考案する。(60 分)
13	模擬セッション①	グループごとに模擬セッションを行う。	計画を立て、練習する。(60 分)
14	模擬セッション②	グループごとに模擬セッションを行う。	計画を立て、練習する。(60 分)
15	まとめ	半期を振り返り、障がい児・者への音楽療法の実践方法のポイントを復習する。	レポートを書く。(60 分)

単位の認定について　授業記録 10%、活動への取り組み 20%、レポート 30%、授業中及び終了時の試験 40%。

教科書　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子　山下恵子　2002 年　春秋社
『はらっぱ de 楽譜集』中島恵子　2000 年　こども音楽センター

参考書　『音楽療法ハンドブック』山下恵子共著（未来プロジェクト）星雲社

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	音楽療法概論　（科目コード:TNMTH101）							
資格取得との関連	音楽療法士２種必修科目							
担当者	星﨑明里、中武亮子　nakatake@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：障がい児・者の音楽療法に関する基礎・専門理論を学ぶ。理解を深めるために演習やグループ討議を用いて講義する。音楽療法実習や各論との繋がり、関連領域についても大まかに理解することを目標とする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：①障がい児・者の音楽療法の基本的理念を説明し、グループワークにより実践することができる。
②音楽療法時に見られる対象児・者の姿を発達的視点で理解し、援助することができる。
③関連領域の理論や方法を大まかに理解し説明することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	授業目標及び本授業の到達目標の確認。音楽療法実習の流れを理解する。(配信)	教科書.5～p.12 を読む。（４０分）
2	音や音楽の可能性①	音楽活動が心身に与える影響について考え、音楽療法の可能性を学ぶ。	教科書 pp.36～p.49 を読む。(40 分)
3	音や音楽の可能性②	音や音楽に映し出される人の姿を多様な視点から見ることを学ぶ。	教科書 p.13～p.33 を熟読してくる。(40 分)
4	Co-Musictherapy の定義①	オルフ・ムジークテラピーの基本理念を知り、セラピーにおける遊びについて学ぶ。	カール・オルフの音楽教育法、オルフ音楽療法についてまとめる。(40 分)
5	Co-Musictherapy の定義②	音や音楽の多感覚性について、簡単なワークを通して学ぶ。(触覚を使った体験)	授業内容をまとめる。(40 分) 学内実習に入り、エピソードを用紙に記入してくる（以後随時）。(30 分)
6	音楽療法の主要な概念	音楽療法の意義、目的を学ぶ。	課題レポート。(提出)(90 分)
7	音楽療法の具体的展開①	音楽療法の具体的展開を学ぶ。	教科書４章５章を読む。(60 分)
8	音楽療法の具体的展開②	音楽療法の構造について学ぶ。	授業内容をまとめる。（30 分）
9	音楽療法の具体的展開③	音楽療法の具体的展開を事例で学ぶ。	教科書第六章を熟読してくる。(60 分)
10	音楽療法における環境調整とは	対象児・者と音楽の関わりを促すために必要な配慮や工夫について学ぶ。	授業内容をまとめる。(40 分)
11	対象の理解①子ども	音楽活動時に見られる子どもの姿を配信映像から学び、発達的視点で理解する。	実際の音楽療法に参加し、記録を書き考察をする。（60 分）
12	対象の理解②成人	音楽活動時に見られる成人の姿を理解し、援助の方法を学ぶ	授業内容をまとめる。(各 40 分)
13	対象の理解③高齢者	音楽活動時に見られる高齢者の姿を理解し、援助の方法を学ぶ	授業内容をまとめる。(各 40 分)
14	アセスメントと評価	Co-Musictherapy における多感覚領域の視点について学ぶ	アセスメント記録を提出する (30 分)
15	まとめ	対象児・者の適切な理解と援助、自身の振り返りのための記録・評価を学ぶ。	レポート提出(60 分)

単位の認定について　レポート提出 50%　授業記録 20%　活動への取り組み 30%
教科書　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子　山下恵子　2002　春秋社
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	音楽療法実習（科目コード:TNMTH301）							
資格取得との関連								
担当者	後藤祐子　星﨑明里　中武紋子　折口奈津美　馬籠奈津子　山守和美　田之上耀							
オフィスアワー	火曜日の放課後、授業終了後							
授業対象	保育科2年	開講時期	通年	授業の種類	実習	単位数	2	

授業概要：宮崎学園短期大学こども音楽教育センター及び外部施設において、障がい児・成人・高齢者との交流を通して対象者を理解し、更に、音や音楽を使った音楽療法の具体的実践方法を学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

評価指標：・対象者と積極的にかかわりを持つことができる。
・セラピストの療法の意図を理解することができる。
・心身の発達過程と音楽的発達との関係を、現場を見て理解することができる。
・障がい種別の具体的援助方法の意義を見出すことができる。

授業計画表

トピック名	概要	授業外学習の内容
オリエンテーション	実習の具体的方法について理解する。	実習先について調べる。（60分）
記録の書き方	実習記録の書き方、提出方法について知る。	実習記録の書き方を復習する。（30分）
宮崎学園短期大学こども音楽教育センターにおいて年10回、更に、外部施設において2日間の学外実習を行う。 ※前後指導では対象者の状態についての理解、部分実践のための計画立案・練習等の事前指導及び、セラピストと振り返りを行う事後指導を実施する。	1．実習の段階 ①療育実習の2側面 受動的側面：障がい児の観察と理解 能動的側面:障がい児と積極的に関わりを持つことが出来る。 ②実習の段階 見学・観察実習、参加実習。 2．実習の内容 ①見学・観察実習 障がい児及び音楽療育の実際を理解する。 ②参加実習 音楽療育場面に参加し、積極的にこども達と関わる。	・実習前に対象児を確認し、障がいについての理解を深める。（30分） ・実習後にセラピストとのミーティングを行い、実習内容について理解する。（30分） ・外部施設の特徴を理解する。（60分） ・実習記録を記入する。（60分）
まとめ	・実習事後指導を受ける。 ・実習を終えて学んだこと、感想をレポートにまとめる。	実習後に、音楽療育実習記録簿をまとめ、提出する。（60分）

単位の認定について　実習記録簿の提出状況50%、実習参加状況50%。
参考書　『音と人をつなぐ　コ・ミュージックセラピー』中島恵子・山下恵子著　2002　春秋社
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

授業科目名	音楽療法実践（科目コード:TNMTH205）							
資格取得との関連	音楽療法士２種必修科目							
担当者	後藤祐子、星﨑明里							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期(集中)	授業の種類	演習	単位数	2	

授業概要： 音楽療法実践では、特に、コ・ミュージックセラピーの手法を中心としながら、セラピー場面における楽器（声を含む）の奏法を習得する。また、対象者の発達や状態に合った音楽療法プログラムの立てる力を身につけ、実際に障がい者・児を対象とした音楽療法を行い、実践力の向上を図る。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標： ・打楽器の基礎的な奏法を身に付けている。
・障がい児・者を対象とした音楽療法の実施計画を立て、実践することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	打楽器奏法①	様々な楽器の音・奏法を学ぶ	楽器による課題の練習(40 分)
2	打楽器奏法②	様々な楽器を使ったグループワークを行う	楽器による課題の練習(40 分)
3	音・声と身体表現によるアンサンブル①	様々な楽器や音声とそれらに合わせた身体の動きによるアンサンブルを行う	アンサンブル課題の練習(40 分)
4	音・声と身体表現によるアンサンブル②	様々な楽器や音声とそれらに合わせた身体の動きによるアンサンブルを行う	アンサンブル課題の練習(40 分)
5	対象者の理解と実践計画立案	対象者の理解を深め、グループで音楽療法実践計画を立てる。	アセスメントについて復習する(40 分)
6 7 8	実践演習①	グループの中で役割を決め、立案した計画をもとに、実践のための練習や内容吟味を行う。	実践内容の練習(60 分)
9	実践演習②	グループごとに全体の流れを確認し、実践のための練習を行う。	実践内容の練習(60 分)
10 11 12	模擬セラピー	対象者役、実践者役に分かれて計画した音遊びの模擬セッションを行い、内容の修正、改善を行う。	実践内容の練習(60 分)
13 14	音楽療法実践	計画した音楽療法を実際の対象者へグループごとに実践する。	実践の記録(60 分)
15	振り返りとまとめ	実践を振り返り、対象者の姿や今後の課題を話し合う。	記録を提出する(60 分)

単位の認定について 実践 50% 活動への取り組み 30% 授業記録 20%

教科書 「音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー」中島恵子 山下恵子 2002 春秋社
「はらっぱ de 楽譜集」中島恵子 2010（第 3 版改訂版）こども音楽センター遊音印刷

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	音楽療法総合演習 （科目コード:TNMTH204）							
資格取得との関連	音楽療法士 2 種必修科目							
担当者	山下恵子 （メールアドレス:kyamashita@miu.ac.jp）							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科 2 年	開講時期	前期(集中)	授業の種類	演習	単位数	2	

授業概要：音楽療法総合演習では、音楽療法の目的、意図、機能についての基本的な知識を身につける。個々の対象児や対象者に対する音楽療法の目的に合わせて、セラピーを組み立て実践することができるよう、対象理解と音楽スキルの向上を図る。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標：①対象者のアセスメントができる。　②アセスメント結果に基づき目標を立てることができる。
③目標を達成するための方法を考えることができる。　④音楽療法の基本的な実践ができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	音楽療法の目的	音楽療法の目的、意図、機能等、音楽療法とは何かということを理解する。	音楽療法の定義について調べまとめる。（60 分）
2	音楽療法のアセスメント①	音楽療法の基礎的な知識を学ぶ。多感覚を使ったアセスメントの方法を学ぶ。	発達検査、多感覚アセスメント表を読み、事前に宿題シートに記入する。（60 分）
3	音楽療法のアセスメント②	定型発達に基づくアセスメントを学ぶ。	遠城寺式分析的発達検査法に基づき、6 か月までの発達についてまとめる。(60 分)
4	音楽療法のアセスメント③	発達障害、肢体不自由児の実践ビデオを視聴し、実際にアセスメントをし、シートを記入する。	発達検査、多感覚アセスメント表を読み、事前に宿題シートに記入する。（60 分）
5	音や音楽の体験①	セラピー楽器の具体的な奏法や対象者別の音楽ジャンルに沿った使用方法を学ぶ。	打楽器、鍵盤楽器の基礎練習をする。はらっぱ de 楽譜集より（60 分）
6	音や音楽の体験②	セラピー楽器の具体的な奏法や対象者別の音楽ジャンルに沿った使用方法を学ぶ。	打楽器、鍵盤楽器の基礎練習をする。はらっぱ de 楽譜集より（60 分）
7	音や音楽を創造する①	楽器を使った即興演奏や様々な表現活動を通してグループでの作品作りを体験する。	はらっぱで楽譜集より指定した曲を事前に練習する。(60 分)
8	音や音楽を創造する②	グループでの作品作りを通して、音や音楽を創造することの喜びを経験する。	はらっぱで楽譜集より指定した曲を事前に練習する。（60 分）
9	音や音楽を創造する③	グループディスカッションをしながら体験のメカニズムについて解明し、対象児・者に合わせた活動について考える。	対象児に合わせた 1 活動を立案する。（60 分）
10	音や音楽を創造する④	グループディスカッションをしながら体験のメカニズムについて解明し、対象児・者に合わせた活動について考える。	対象児に合わせた 1 活動を立案する。（60 分）
11	音楽療法の実際①	プログラム構成の意味について理解する。	対象児に合わせたプログラムを立案する。（60 分）
12	音楽療法の実際②	実践ビデオを見ながら、対象者の理解、活動の意味や目的、セラピーの構造について学ぶ。	対象児に合わせたプログラムを立案する。（60 分）
13	音楽療法の実際③	対象者別模擬セラピーを実践する	対象児に合わせたプログラムを実践する。（60 分）
14	音楽療法の実際④	対象者別模擬セラピーを実践する	対象児に合わせたプログラムを実践する。（60 分）
15	まとめ	「なぜ音楽療法なのか」の問いに答えられるよう、理論と実践の一体化を図る。	音楽療法用語を覚え、実技試験の課題を練習する。(60 分)
16	試験	筆記試験及び実技試験を行う。	

単位の認定について　振り返りシート記載 25 点、授業の取り組み 25 点、実技試験 25 点、用語テスト 25 点で評価する。
教科書　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子・山下恵子　春秋社
参考書　資料を配布する
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 30 分をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に毎回解説する。
その他　事前学習として、一部オンデマンド形式で映像を配信する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	音楽理論 （科目コード:TNMTH109）							
資格取得との関連	専門教育科目 （音楽療法士２種に関する科目）							
担当者	小澤真美子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年、３年(３年課程)	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 音楽療法士２種の資格を目指す者として当然知りうるべき音楽の基礎知識（記譜、音程、音階、和音等）を身に付け、音楽の仕組みをしっかりと理解できるようになる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ○	

到達目標： 音楽の基礎知識を身につけ（確認テストⅠ・Ⅱ）、応用する（楽譜を正しく書き、作曲課題を提出する）ことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 第1章　譜表と音名 第1章　第2章　音符と休符(1)	授業についての説明を受ける。 音名や変化記号について学び、練習問題に取り組む。音符や休符について学ぶ。	教科書等で復習をする。(60分)
2	第2章　音符と休符(2) 第2章　第3章　リズムと拍子(1)	拍子について様々な曲を通して学ぶ。 バイナリービートやターナリービートについて学ぶ。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
3	第3章　リズムと拍子(2)	付点のリズム、タイ、混合拍子について学ぶ。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
4	確認テストⅠ 第3章　第5章　音程(1)	第1章～第3章の、確認テストを受ける。 完全系音程について学ぶ。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
5	第5章　音程(2)	確認テストⅠの振り返りを行う。 完全系音程を復習する。 長短系音程と、派生音を含む音程を学ぶ。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
6	第5章　音程(3)	音程の復習をする。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
7	第4章　記号・用語	様々な音楽記号や用語を学ぶ。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
8	確認テストⅡ 第6章　音階と調(1)	第4章～第5章の、確認テストを受ける。 長音階について学ぶ。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
9	第6章　音階と調(2) 第7章　和音とコード(1)	確認テストⅡの振り返りを行う。 短音階と移調、および、三和音について学ぶ。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
10	コードの活用について 〈配信授業〉	スリーコードについて復習し、コードネームの活用法を学ぶ。	動画を視聴し、ユニパアンケートに回答する。(60分)
11	第7章　和音とコード(2) 作曲課題提出に向けて(1)	7の和音や和音記号、転回形について学ぶ。 和声音について学び、短いメロディを作曲する。	教科書等で予習復習をし、課題に取り組む。(60分)
12	作曲課題提出に向けて(2)	和声音のみでなく、非和声音、和音進行について学び、短いメロディを作曲する。	課題に取り組む。(60分)
13	作曲課題提出に向けて(3)	自作のメロディに歌詞を付けながらリズムを微調整し、題名をつける。様々な伴奏形を学び、応用する。	課題に取り組む。(60分)
14	作曲課題を提出する	これまでの学びを活かして作品を完成させ、作曲課題を提出する。	作品を完成させる。(60分)
15	作品共有	作品を共有し、お互いの作品の感想を発表する。	前回の復習をする。(60分)

単位の認定について　確認テストⅠ・Ⅱ（70%）　課題提出・出欠カード等（30%）　合計60点以上で認定となる。

教科書　「音楽の基礎と表現～楽典とソルフェージュ～」（ふくろう出版）
授業で配布するプリント（A4ファイルに綴じる）

参考書　「改定　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）
「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	合唱Ⅰ（科目コード:TNMTH105）						
資格取得との関連	音楽療法士2種に関する科目(必修)						
担当者	太田宏美(h-oota@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	保育科1年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	2

授業概要：合唱を通して、人と人とが声を合わせ、ハーモニーとして重ねることの喜びの体験を行う。
合唱名曲やポピュラー曲などの幅広いジャンルの合唱体験を行い豊かな表現ができるようにする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎

到達目標： ①簡単な二部合唱のアンサンブルを楽しむことが出来る。
②合唱のハーモニーを感じるとともに、動きを伴った表現の喜びを味わうことができる。
③音楽劇等の鑑賞により、みんなで協力して歌と演技を表情豊かに表現することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	合唱Ⅰの授業内容を伝える。	発声の基本と声を使ったアンサンブルについて考える。
2	体の使い方や発声、簡単な二部合唱	発声に気を付けながら、楽しく歌う。	授業内課題の自主練習（30分）
3	体の使い方や発声、簡単な二部合唱	発声に気を付けながら、楽しく歌う。	授業内課題の自主練習（30分）
4	体の使い方や発声、簡単な二部合唱	発声に気を付けながら、楽しく歌う。	授業内課題の自主練習（30分）
5	簡単な二部合唱や三部合唱	発声に気を付けながら、表情豊かに歌う。	授業内課題の自主練習（30分）
6	簡単な二部合唱や三部合唱	発声に気を付けながら、表情豊かに歌う。	授業内課題の自主練習（30分）
7	合唱を伴った映像作品を鑑賞する①	映像作品を鑑賞し音楽に必要な要素を考える。	授業内課題の自主練習（30分）
8	合唱を伴った映像作品を鑑賞する②	映像作品を鑑賞し音楽に必要な要素を考える。	授業内課題の自主練習（30分）
9	合唱を伴った映像作品を鑑賞する③	映像作品を鑑賞し音楽に必要な要素を考える。	授業内課題の自主練習（30分）
10	合唱を伴った映像作品を鑑賞する④	映像作品を鑑賞し音楽に必要な要素を考える。	授業内課題の自主練習（30分）
11	合唱のメドレーを計画する	立ち位置や周りとのハーモニーを考える。	授業内課題の自主練習（30分）
12	合唱のメドレーを計画する	表現の仕上げ方を考える。	授業内課題の自主練習（30分）
13	合唱メドレーを通していく	表現の仕上げを行う①	授業内課題の自主練習（30分）
14	合唱メドレーを通していく	表現の仕上げを行う②	授業内課題の自主練習（30分）
15	まとめ	発表を行い意見や感想を述べあう。	授業内課題の自主練習（30分）

単位の認定について 授業への取り組み（50%）と授業外学習（10%）提出物（40%）で評価する。
教科書・資料 授業内で配布する。
参考書 授業内で紹介する。
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	器楽Ⅰ（科目コード:TNEDU104／TNNTC104）						
資格取得との関連	教科に関する科目（音楽）						
担当者	小澤真美子　山本優子 安楽三由紀　甲斐麿有美　西郷友香　工藤貴子　熊田原匡子　仙頭睦美　竹之下真理 土田悦子　濱田さおり　日高彩子　日高淑　本田奈留美　南園加奈子　宮里由実						
オフィスアワー	常勤教員は火曜日の放課後　　非常勤教員は授業終了時						
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要: ・「ピアノと音楽」をもとに、子どもの歌でよく使われている、ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調について学び、両手でピアノを弾くことに慣れる。
・幼稚園や保育園、認定こども園で歌われる生活の歌や手遊び歌、春・夏の季節の歌の弾き歌いを習得する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	③◎

到達目標： ・前期の目標設定および振り返り、毎時間のレッスン記録を行うことで、自身の課題を把握する。
・「こどもの歌」弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、試験において生活・春・夏の歌の弾き歌いができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	レッスンの形態や、授業ルール、ピアノレッスンノートの記入方法等を理解する。また、保育現場をイメージし、到達目標を立てる。	第 1 回目の内容を振り返り、ピアノを練習する。（150 分）
2	個人レッスン	「ハ長調の曲」「トマトはトントントン」などを弾き、本学入学前のピアノ学習進度に応じた「こどもの歌」の弾き歌いを学ぶ。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
3	個人レッスン	前回の復習および「ヘ長調の曲」「じゃんけんれっしゃ」「ト長調の曲」「はじまるよ」や「かえるのがっしょう」などの弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
4	個人レッスン	前回の復習および、「ブンブンブン」「おててをあらいましょう」などの、生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
5	個人レッスン	前回の復習および、「かたつむり」「むすんでひらいて」などの歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
6	個人レッスン	前回の復習および、「こいのぼり」「あくしゅでこんにちは」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
7	個人レッスン	前回の復習および、「かたつむり」「たなばたさま」などの季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
8	個人レッスン	前回の復習および、「とけいのうた」「うみ」などの季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
9	個人レッスン	前回の復習および、「きらきら星」「アイアイ」などの季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
10	個人レッスン	前回の復習および、「シャボンだま」「おばけなんてないさ」などの季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
11	個人レッスン	前回の復習および、「さよならのうた」「アイアイ」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
12	個人レッスン	試験曲3曲の各カテゴリーから候補曲を数曲決め、それらの曲の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
13	個人レッスン	試験曲3曲を確定し、より表情豊かに弾き歌いできるようにする。試験曲をユニバーサルパスポートから入力する。	毎日練習する。（1 日 30 分）
14	個人レッスン	試験曲3曲について、より音楽的に弾き歌いできるようにする。	毎日練習する。（1 日 30 分）
15	個人レッスン グループレッスン	グループのメンバー同士で、弾き歌いの試験曲3曲の聴きあいをし、感想や意見交換をする。また、前期の振り返りをする。	試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分）
16	実技試験	弾き歌いの定期試験を受ける。 試験を振り返り、長期休暇の課題を明確にする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）

単位の認定について　授業内試験および実技試験（90%）、ピアノレッスンノートの記入内容および授業への姿勢（10%）、計 60 点以上で認定。

教科書　「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）
「改訂　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）　「ピアノレッスンノート」（宮崎学園短期大学）

参考書　配信動画 YouTube チャンネル「コツコツピアノ」
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	器楽Ⅱ （科目コード:TNEDU105／TNNTC105）							
資格取得との関連	教科に関する科目（音楽）							
担　当　者	小澤真美子　山本優子 安楽三由紀　甲斐麿有美　西郷友香　工藤貴子　熊田原匡子　仙頭睦美　竹之下真理 土田悦子　濱田さおり　日高彩子　日高淑　本田奈留美　南園加奈子　宮里由実							
オフィスアワー	常勤教員は火曜日の放課後　　非常勤教員は授業終了時							
授　業　対　象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要: ・他の音楽関連科目で得たコードネームの知識を基本として、主にスリーコードを活用しながらコード奏を行う。
・幼稚園や保育園、認定こども園で歌われる生活の歌や手遊び歌、秋・冬の季節の歌の弾き歌いを習得する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	③◎

到達目標： ・スリーコードを学び、簡単なコード伴奏ができるようになる。
・「こどもの歌」弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、試験において生活・秋・冬の歌の弾き歌いができる。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	今期の到達目標を立てる。「コードネームの歌」の弾き歌いと、「あなたのお名前は」「小ぎつね」のメロディ、コードを学ぶ。「まつぼっくり」などの季節の歌の弾き歌いをする。	第 1 回目の内容を振り返り、ピアノを練習する。(150 分)
2	個人レッスン	「あなたのお名前は」「小ぎつね」の伴奏アレンジおよび「虫のこえ」の右手演奏、「まつぼっくり」などの季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
3	個人レッスン	「虫のこえ」の伴奏アレンジおよび「村祭り」の右手演奏、「大きな栗の木の下で」などの季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
4	個人レッスン	「虫のこえ」の仕上げ、および「村祭り」の伴奏アレンジ、「大きな栗の木の下で」などの季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
5	個人レッスン	授業内試験（コード奏）の曲を確定する。「大きな栗の木の下で」「山の音楽家」などの季節の歌の弾き歌いをする。	毎日練習する。(1 日 30 分)
6	個人レッスン グループレッスン	グループで授業内試験（コード奏）の聴きあいをし、試験前の仕上げを行う。	毎日練習する。(1 日 30 分)
7	授業内試験	授業内試験（コード奏試験）を受け、次回の課題を確認する。	毎日練習する。(1 日 30 分)
8	個人レッスン	「山の音楽家」「やきいもグーチーパー」「手をたたきましょう」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
9	個人レッスン	前回の復習および、「ロンドン橋」「夕やけこやけ」「森のくまさん」などの季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
10	個人レッスン	前回の復習および、「ジングルベル」「おかたづけ」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
11	個人レッスン	前回の復習および、「ゆき」「おかえりのうた」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
12	個人レッスン	前回の復習および、「まめまき」「おもいでのアルバム」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
13	個人レッスン	前回の復習および、「おもちゃのチャチャチャ」「ありがとう・さようなら」などの生活の歌や季節の歌の弾き歌いをする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)
14	個人レッスン	試験曲3曲を確定し、より表情豊かに弾き歌いできるようになる。ユニバーサルパスポートから試験曲を入力する。	毎日練習する。(1 日 30 分)
15	個人レッスン グループレッスン	グループのメンバー同士で、弾き歌いの試験曲3曲の聴きあいをし、感想等を述べる。また、今期の授業について振り返りをする。	試験本番を想定して、課題を毎日練習する。(1 日 30 分)
16	実技試験	弾き歌いの定期試験を受ける。 試験を振り返り、長期休暇の課題を明確にする。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。(1 日 30 分)

単位の認定について　授業内試験および実技試験（90%）、ピアノレッスンノートの記入内容および授業への姿勢（10%）、計 60 点以上で認定。

教科書　「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）
「改訂　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）　　「ピアノレッスンノート」（宮崎学園短期大学）

参考書　配信動画 YouTube チャンネル「コツコツピアノ」
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	器楽Ⅲ （科目コード:TNEDU204／TNNTC204）							
資格取得との関連	教科に関する科目（音楽）							
担当者	小澤真美子　山本優子 安楽三由紀　甲斐麿有美　西郷友香　工藤貴子　熊田原匡子　仙頭睦美　竹之下真理 土田悦子　濱田さおり　日高彩子　日高淑　本田奈留美　南園加奈子　宮里由実							
オフィスアワー	常勤教員は火曜日の放課後　　非常勤教員は授業終了時							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：保育所・幼稚園・認定こども園における音楽活動で必要とされるピアノ演奏の基本的技術を習得することを目指す。具体的には以下の通り。
（1）「こどもの歌」弾き歌いを通して保育所・幼稚園・認定こども園で歌われる曲のレパートリーを増やす。
（2）コードによる伴奏付けを、実習先から提示された曲等に活用しつつ、保育現場で役立つ力を身に付ける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：・「こどもの歌」弾き歌いのレパートリーを増やし、試験において弾き歌いができる。
・ 様々な曲を、必要に応じて、コード伴奏で弾くことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	授業内容や使用教材、授業ルールや授業の受け方について理解する。	オリエンテーション内容を配信動画で振り返り、練習する。（150 分）
2	個人レッスン	担当教員に自己紹介を行い、これまでのピアノ学習歴を伝え、次回の課題を確認する。また、今期の目標を立てる。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
3	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
4	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、教育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
5	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、教育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
6	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、教育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
7	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、教育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
8	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
9	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
10	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
11	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
12	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
13	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、弾き歌い試験の選択曲を確定し、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
14	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」を中心にレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。今期の振り返りを行う。	試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分）
15	個人レッスン グループレッスン	「弾き歌い試験選択曲」について試験本番を想定した形で演奏し、練習する。また、グループ内での聴き合いをし、感想を述べる。	試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分）
16	実技試験	「弾き歌い試験」を受け、その振り返りを行い、来期へ向けての課題を確認する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）

単位の認定について　実技試験（90%）、ピアノレッスンノートの記入内容および授業への姿勢（10%）、計 60 点以上で認定。
教科書　「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）
「改訂　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）　「ピアノレッスンノート」（宮崎学園短期大学）
参考書　配信動画 YouTube チャンネル「コツコツピアノ」
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　課題のチェックを行い、新たな練習方法を指示したり、新しい課題を与えたりする。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	器楽Ⅳ （科目コード:TNEDU205／TNNTC205）							
資格取得との関連	教科に関する科目（音楽）							
担当者	小澤真美子　山本優子 安楽三由紀　甲斐麿有美　西郷友香　工藤貴子　熊田原匡子　仙頭睦美　竹之下真理 土田悦子　濱田さおり　日高彩子　日高淑　本田奈留美　南園加奈子　宮里由実							
オフィスアワー	常勤教員は火曜日の放課後　　非常勤教員は授業終了時							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：保育所・幼稚園・認定こども園における音楽活動で必要とされるピアノ演奏の技術習得を目指す。具体的には以下の通り。
（1）「こどもの歌」弾き歌いを通して保育所・幼稚園・認定こども園で歌われる曲のレパートリーを増やす。
（2）コードによる伴奏付けを、実習先から提示された曲等に活用しつつ、保育現場で役立つ力を身に付ける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：・「こどもの歌」弾き歌いのレパートリーを増やし、試験において弾き歌いができる。
・ 様々な曲を、必要に応じて、コード伴奏で弾くことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	個人レッスン	担当教員に自己紹介を行い、これまでのピアノ学習歴を伝え、次回の課題を確認する。また、今期の目標を立てる。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
2	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
3	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、保育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
4	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、保育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
5	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、保育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
6	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受けるとともに、保育実習先から提示された曲を練習し、必要に応じてコード奏を行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
7	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
8	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
9	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
10	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
11	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
12	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
13	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」から数曲のレッスンを受け、弾き歌い試験の選択曲を確定し、練習する。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）
14	個人レッスン	「弾き歌い試験選択曲」を中心にレッスンを受け、自身の練習ポイントを明確にし、練習する。今期の振り返りを行う。	試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分）
15	個人レッスン グループレッスン	「弾き歌い試験選択曲」について試験本番を想定した形で演奏し、練習する。また、グループ内での聴き合いをし、感想を述べる。	試験本番を想定して、課題を毎日練習する。（1 日 30 分）
16	実技試験	「弾き歌い試験」を受け、その振り返りを行う。	配信動画も参考としながら、毎日練習する。（1 日 30 分）

単位の認定について　実技試験（90%）、ピアノレッスンノートの記入内容および授業への姿勢（10%）、計 60 点以上で認定。

教科書　「こどもの歌ベストテン　改訂新版」（ドレミ楽譜出版社）
「改訂　幼児のための音楽教育」（教育芸術社）　「ピアノレッスンノート」（宮崎学園短期大学）

参考書　配信動画 YouTube チャンネル「コツコツピアノ」
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　課題のチェックを行い、新たな練習方法を指示したり、新しい課題を与えたりする。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	器楽活用法 （科目コード:TNMTH201／TNNTC221）							
資格取得との関連	音楽療法士２種必修科目							
担当者	後藤祐子、星﨑明里、浜月春佳							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	2	

授業概要：様々な楽器の奏法を学び、保育や療育の現場で効果的に音や音楽を使う技術を身に着ける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：
・楽器の奏法を知っており、効果的に楽器を使うことができる。
・打楽器によるアンサンブルを行うことができる。
・コードを使って子どもの歌を伴奏することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 打楽器の奏法①	シラバスを基にオリエンテーションを行う。 打楽器の基本的な奏法を学ぶ。 楽器コミュニケーション等のグループワークを行う。	楽器の奏法を覚える。 ボンゴやトゥバーノで響く音の出し方を練習する。(60 分)
2	打楽器の奏法②	リズムアンサンブルを行う。 絵譜による作品作りを行う。	リズムアンサンブルの練習をする。 (60 分)
3	鍵盤楽器奏法	鍵盤楽器の基本的な奏法を学ぶ。また、コード伴奏を使った効果的な演奏方法を学ぶ。	コード伴奏を練習する。(60 分)
4	子どもの歌と楽器①	子どもの歌に合った楽器を探し、音付けをする。	楽器の練習をする。(60 分)
5	子どもの歌と楽器②	子どもの歌に合った楽器を探し、音付けをする。	楽器の練習をする。(60 分)
6	音や音楽の使い方①	子どもの遊びに音付けをし、効果的な音の使い方を学ぶ。	課題の練習をする。(60 分)
7	音や音楽の使い方②	音と動きのワークを行い、対象者に伝わる音の出し方を学ぶ。	課題の練習をする。(60 分)
8	アンサンブル①	様々な楽器を使い、既成の曲を構成してアンサンブルを行う。	アンサンブルの練習をする。 (60 分)
9	アンサンブル②	アンサンブルの構成をグループごとに考え、練習する。	構成を考える。(60 分)
10	アンサンブル③	グループごとにアンサンブルの練習をする。	自分のパートを練習する。(60 分)
11	アンサンブル④	アンサンブルの発表を行う。	アンサンブルの練習をする。 (60 分)
12	作品の創作①	声・音、音楽、素材、描画、動き等で総合的に感覚を使う作品を創作する。	作品の練習を行う。(60 分)
13	作品の創作②	声・音、音楽、素材、描画、動き等で総合的に感覚を使う作品を創作する。	作品の練習を行う。(60 分)
14	作品の創作③	声・音、音楽、素材、描画、動き等で総合的に感覚を使う作品を創作する。	作品の練習を行う。(60 分)
15	まとめ	作品の発表を行う。	課題レポートを作成する。(60 分)

単位の認定について　グループでの作品発表(50%)　活動への取り組み(30%)　授業記録(20%)
教科書　「はらっぱ de 楽譜集」中島恵子　こども音楽センター
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れています。

授業科目名	教育課程論（科目コード:TNEDU115／TNNTC115）							
資格取得との関連								
担当者	江田　菜穂子　泰田久史							
オフィスアワー	授業終了後、 火曜日放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ◎	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標：全体的な計画（教育課程・保育課程）の意義、そして編成・指導計画・評価などについて、そのポイントをノートにまとめ、理解することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	教育課程の意義１	保育における「計画」を学ぶ意義について理解を深める。	保育における「計画」を学ぶ意義についてノートにまとめる。(30 分)
2	教育課程の意義２	幼稚園教育要領と保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的について理解を深める。	保育所・幼稚園・認定こども園の違い及び教育課程編成の目的についてまとめる。(30 分)
3	教育課程の意義３	幼稚園教育要領と保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定の変遷及び改訂内容並びにその社会的背景を理解する。	新旧の要領等の改訂の変遷及び内容等についてまとめる。(30 分)
4	教育課程の意義４	「全体的な計画」が社会において果たしている役割や機能をグループで調べる。	「社会に開かれた教育課程」について調べる。(30 分)
5	教育課程の編成の方法１	子ども理解に基づく具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する。	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について調べる。 (30 分)
6	教育課程の編成の方法２	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の意義について理解を深める。	幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を支える体制ついて調べる。 (30 分)
7	教育課程の編成の方法３	教育課程に基づいた指導計画の意義を学び、具体的な手順を理解する。	指導計画の実際を見てその必要性を説明できるようにまとめる。(60 分)
8	教育課程の編成の方法４	指導計画の作成のポイントを学ぶ。	園児の発達や地域の実態等を考慮した指導計画の在り方についてまとめてくる。(30 分)
9	教育課程の編成の方法５	年齢を考慮した長期的な視野や幼児や幼稚園、地域の実態を踏まえた教育課程や保育課程と指導計画を検討することの重要性を理解する。	年間計画・月案・週案・日案の指導計画の概要をまとめる。(60 分)
10	教育課程の編成の方法６	幼稚園における長期と短期の指導計画の作成と作成上の留意点について理解を深める。	年間指導計画の指導計画の実践例をまとめる。(30 分)
11	教育課程の編成の方法７	事例を基に長期の指導計画の作成と展開について理解を深める。	毎月の指導計画(月案)の計画について実践例をまとめる。(30 分)
12	教育課程の編成の方法８	事例を基に短期の指導計画の実際の作成と展開について理解を深める。	毎週(週案)及び毎日(日案)の計画について実践例をまとめる。(30 分)
13	教育課程の編成の方法９	PDCA サイクルにおける評価及び省察並びに改善・記録について理解を深める	教育課程及び保育課程の省察及び記録の重要性を説明できるようにまとめる。(60 分)
14	カリキュラム・マネジメント１	教育課程や保育課程におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性をグループで調べる。	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性をまとめる。(30 分)
15	カリキュラム・マネジメント２	カリキュラムの評価の基礎的な考え方を理解する。教育課程論のまとめを行う。「まとめ」	教育課程や保育課程の評価とその方法等についてまとめる。(60 分)

単位の認定について
期末試験：60%、演習課題・レポート・演習・小テストへの取り組み：40%から総合的に評価し、60%以上を合格とする。

教科書　講義において別途紹介する。

参考書　『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、評価後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	教育原理							
資格取得との関連	幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格必修科目							
担当者	村上和厳 （k-murakami@mgjc.ac.jp）							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科2年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：教育の基本的概念やその歴史に関する知識、思想についてグループワークやディスカッションを行い、これまでの教育の変遷について考える。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ	

到達目標：教育の基本的概念やその歴史に関する知識、思想を身につけ、これまでの教育がどのように捉えられ、発展し、そして機能してきたのかについて理解することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	本講義を受けるにあたって、学習内容や方法を理解する。教育に対するイメージについて整理する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
2	教育の基本的な概念①	生物としての人間の特殊性や発達段階に関する理論から、子どもがどのように成長するのかについて学習する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
3	教育の基本的な概念②	幼児教育における「遊び」について学習することを通して、「遊び」と「学び」の関係性を理解する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
4	教育の基本的な概念③	「環境を通した」教育について学習し、それを踏まえた保育実践についての理解を深める。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
5	教育の基本的な概念④	教育を成り立たせる要素である子どもと教員、家庭、学校がどのように関係しているか理解する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
6	教育の基本的な概念⑤	教育思想を踏まえて、教育の目標について議論し、その理解を深める。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
7	教育に関する思想①	家庭や子どもに関わる教育思想を学習することを通して、子どもの捉え方について理解を深める。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
8	教育に関する思想②	学校や学習に関わる教育思想を学習することを通して、それらの捉え方について理解を深める。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
9	教育に関する歴史①	家族と社会による教育の歴史について学習し、その意義や役割について理解する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
10	教育に関する歴史②	近代教育制度の成立と展開について学習し、学校の意義や役割について理解する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
11	教育に関する歴史③	教育格差や不平等について議論することを通して、現代社会における教育課題について理解を深める。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
12	教育に関する歴史④	幼児教育における格差や不平等の問題について学習することで、幼児教育の役割や意義を理解する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
13	教育に関する歴史⑤	異文化教育や国際理解教育の重要性を学習し、それを踏まえた保育実践について理解を深める。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
14	安全管理・安全教育	学校安全上の諸問題とその対応について学習し、工夫すべき点や難しさなどの理解を深める。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返る。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
16	定期試験		

単位の認定について　定期試験70点と、各回で提示された課題（各2点）×15回の計30点を配分とする。60点以上で単位を認定する。

教科書　指定なし。

参考書　「はじめての子ども教育原理」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に次の授業で解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	教育実習（科目コード:TNEDU302）							
資格取得との関連								
担当者	髙妻弘子(実務家教員)							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	通年	授業の種類	実習	単位数	4	

授業概要：教育実習は、幼稚園教諭免許状取得のために不可欠のものである。一定期間、幼稚園、認定こども園において園児と共に教育活動を展開することを通して、幼稚園教諭となるための実践的指導力を身につけていくものであり、大学での学びと実践を通して確認し理解を深める場でもある。教育現場において大学で学んだ理論や知識を生かすとともに教育の現場にふれながら教育の実践的な知識、技能、態度等の基礎と応用力を修得させたい。なお、本学における教育実習は 4 単位である。

【教育実習の目標】
1. 幼稚園、認定こども園の役割や機能について実践を通して理解を深める。
2. 子どもの発達過程を捉えた観察や関わりの視点を明確にし、教育・保育の理解を深める。
3. 既習の教科や実習経験を踏まえ、保護者支援及び関係機関、地域社会との連携について総合的に学ぶ。
4. 指導計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、具体的に理解する。
5. 教諭、保育教諭等の業務内容や役割について、具体的実践を通して理解する。
6. 教諭、保育教諭等としての自己の課題を明確化する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標：
1. 幼稚園・認定こども園の役割や機能について理解し、具体的に説明することができる。
2. 子どもの発達過程を捉えた観察や関わりの視点を自分なりにまとめることができる。
3. 子どもの内面と行動における援助のあり方や適切な保護者支援について自分の考えを発表することができる。
4. 指導計画、実践について実際に取り組み、子どもの見方や捉え方、記録の書き方などを体的に理解する。
5. 教諭、保育教諭等の業務内容や役割について具体的に説明することができる。

授業計画表

	トピック名	概要
教育実習の内容	幼稚園・認定こども園の役割や機能の具体的展開	(1)幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領の理解とそれに基づく教育・保育の展開 (2)幼稚園・認定こども園の社会的役割と責任
	観察に基づく子どもや教育・保育の理解	(1)子どもの発達過程や心身の状態、活動の観察 (2)環境を通して行う子ども主体の教育・保育 (3)教諭・保育教諭等の動きや実践の観察
	保護者・家庭への支援と関係機関、地域社会等との連携	(1)保護者・家庭への支援と関係機関との連携 (2)子育て支援や地域社会との連携・協働
	指導計画の作成・実践・観察・記録・評価	(1)観察や実践の記録に基づく考察 (2)カリキュラムに基づく指導計画の作成・実践・考察・評価の理解 (3)作成した指導計画に基づく実践と評価
	教諭・保育教諭等の業務	(1)教諭・保育教諭等の業務内容 (2)職員間の役割分担と連携 (3)多様な教育・保育の展開
	自己の課題の明確化	(1)実習の振り返り、自己評価と今後の目標

単位の認定について　実習先評価と実習ファイル内容、教育実習前後指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。

教科書・参考書　講義中において別途紹介する。

授業外学習について　実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

課題に対するフィードバックの方法　実習指導の中で行う。

※幼稚園教諭の勤務経験を持つ教員や実習先の幼稚園教諭が、幼稚園・認定こども園の役割や機能について実践を通して指導する。

授業科目名	教育実習前後指導 （科目コード:TNEDU301）						
資格取得との関連							
担当者	髙妻弘子(実務家教員)						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科 1 年･2 年	開講時期	通年	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：教育実習は、幼稚園教諭免許状取得のために不可欠のものである。一定期間、幼稚園、認定こども園において園児と共に教育活動を展開することを通して、幼稚園教諭となるための実践的指導力を身につけていくものであり、大学での学びと実践を通して確認し理解を深める場でもある。教育現場において大学で学んだ理論や知識を生かすとともに教育の現場にふれながら教育の実践的な知識、技能、態度等の基礎と応用力を修得させたい。なお、教育実習前後指導については、1 年(2 年)次前期から 2 年(3 年)次前期までの 1 年半の期間で、以下の授業内容のもと計画的に実施し、夏期休業中の体験実習も含み 1 単位とする。

1. 教育実習の意義･目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 子ども理解、援助のあり方、様々な対象との関わりについて具体的に学ぶ。
4. 実習の計画･実践･観察･記録･評価の方法や内容について具体的に理解する。

また 1 年(2 年)次 11 月上旬～中旬にかけて、宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園・清武みどり幼稚園にて 3 日間の基本実習を実施する。基本実習の目標については以下のとおりであり、教育実習前後指導の一環となる。

1. 認定こども園の役割や機能について具体的に学ぶ。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 子どもの内面と行動における保育教諭等の援助のあり方を学ぶ。
4. 子どもの見方や捉え方、記録の書き方などを学ぶ。
5. 保育教諭等の業務内容や役割についての意識を持つ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：幼児に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。

1. 基本実習、教育実習の意義･目的を理解し、説明することができる。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。
3. 子ども理解、援助のあり方、様々な対象との関わり等、知識、技術について自分なりにまとめることができる。
4. 実習の計画･実践･観察･記録･評価の方法を理解し、身につけることができる。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。

授業計画表

トピック名			概要
基本実習に関する内容	教育実習に臨むにあたって 意義･目的		(1)教育実習生としての自覚と心構え (2)勤務や保育についての心得(服務規程の厳守) (3)実習園での人間関係について(教職員、幼児、保護者、実習生同士の関係)
	幼児理解と様々な関わり		(1)幼児理解 (2)保育参観における観察の視点 (3)積極的な子どもとの関わり (4)保護者との対応の仕方
	指導案･指導計画･保育日誌等の作成について		(1)保育日誌のさまざまな形式 (2)保育日誌の記録 ･ねらいの観点　･具体的援助や留意点の視点　･反省、考察
	基本実習の心構え		(1)「教育実習についての実習生留意事項」の遵守
	基本実習	幼稚園･認定こども園の役割と機能	(1)幼稚園･認定こども園の生活と1日の流れ (2)幼稚園･認定こども園の役割と機能の理解
		子ども理解	(1)子どもの観察と発達過程の理解 (2)個人差と特性に沿った関わり
		援助のあり方	(1)子どもの興味･関心に沿った活動の展開 (2)環境を通して行う教育･保育の実際 (3)特性や一人ひとりを理解することの意味
		保育の計画･観察･記録	(1)全体的な計画から指導計画、保育実践までの繋がりの理解 (2)実習日誌の書き方と観察の視点
		専門職としての教諭･保育教諭等の役割	(1)教諭、保育教諭等の業務内容 (2)教諭、保育教諭等の役割
	事後指導における実習課題の明確化		(1)実習後の自己評価 (2)課題の明確化

教育実習に関する内容	園における幼児理解の方法	(1)幼児一人一人を十分に理解することの意味 (2)個人差と発達段階について (3)環境構成の大切さや保護者との関係
	幼児観察の具体的手立て	(1)幼児の内面と行動の関係 (2)観察の視点や教諭との関わりについて (3)園内における安全教育の視点
	指導案・指導計画・保育日誌の具体的指導	(1)園におけるカリキュラムの実際 (2)保育指導案作成の基本的視点と実際 (3)保育日誌記録の具体的指導
	教育実習生としての心得	(1)実習生としての自覚と心構え (2)勤務や保育についての心得(服務規程の厳守) (3)衛生管理と健康管理について
	事後指導における実習の総括と課題の明確化	(1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化
※毎時の具体的な内容については、実習指導計画を参照		

単位の認定について　提出プリントや課題、各役割、小テストを総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。
教科書　実習の手引き
参考書　講義中において別途紹介する。
授業外学習について　実習に必要な知識の調べ学習や実習に向けての準備（実習の課題の明確化)、指導者からの指導を受けて実習期間とその前後を通して行う。
課題に対するフィードバックの方法　実習指導の中で行う。
※幼稚園教諭の勤務経験を持つ教員や、幼稚園、福祉施設、保育園に勤務している外部講師が、実習に対する心構えや円滑な実習が行えるよう指導する。

授業科目名	教育心理学 （科目コード:TNEDU114／TNNTC114）							
資格取得との関連	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）							
担当者	小澤拓大							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：保育の教育過程における子どもの発達の特徴や学習過程を理解し、より効果的な保育を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。具体的には以下の授業目標を達成することを目指す。①従来の研究で明らかにされてきた理論や知見の理解を通して、子どもへの理解を深めることで、発達観、子ども観、保育観を形成する、②生涯発達の観点から発達の過程や初期経験の重要性について理解し、子どもが人との相互的なかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する、③各発達段階における子ども認知、思考、行動などの心的特徴を理解することで、保育実践に関わる心理学の知識を習得する、④障害のある幼児の心身の発達及び学習の過程を理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ ○	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標 ・効果的な保育を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解し、記述できる。
・適切な保育観、子ども観を持つことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	教育心理学とは何か	心理学とはどのような学問かを含めて、教育心理学の目的や意義を学ぶ。	シラバスを読み、授業目標と 15 回の授業のおおまかな流れを掴んでおく（30 分）。
2	子ども観と保育観・教育観	子ども観の歴史的変遷や、保育所と幼稚園における保育観（教育観）とはどのようなものかについて学ぶ。	現在の子ども観はどのようなものかについて考えてくる（30 分）。
3	発達と教育	発達とは何かについて学び、発達と教育（保育）の関わりについて学ぶ。	「発達過程を踏まえた教育」の意味について考えてくる（30 分）。
4	身体的機能と運動機能の発達	誕生から幼児期までの身体と運動機能の発達の特徴について学ぶ。	各発達段階でどのような運動ができるようになるのか大まかな目安を立てておく（30 分）。
5	子どもの発達と環境	環境が人の学習過程に及ぼす影響について学ぶ。	生後全く人間と接触のないままに育った人間がどのような大人になるかを考えてくる（30 分）。
6	初期経験としての学習	愛着が後の発達に及ぼす影響を生涯発達の観点から理解する。	子どもはどうして母親が好きなのかを考えてくる（30 分）。
7	知覚の発達	胎児期、乳児期、幼児期における外界を理解するための知覚の発達について学ぶ。	乳幼児の視覚、聴覚は私達と比べてどのぐらいかを考えてくる（30 分）。
8	学習	学習の基本的なメカニズムについて条件づけを中心に学ぶ。また動機づけについても学ぶ。	学びのメカニズムの違いは何かについて考えてくる（30 分）。
9	動機づけ	動機づけの基本的なメカニズムについて学ぶ。	子どもにどのような言い方・やり方をしたら「やる気」が出る・出ないようになるかを考えてくる（30 分）。
10	言葉の発達と社会性	それぞれの発達段階における言葉の特徴と社会性の発達との関連について学ぶ。	子どもはどうして言葉を話すようになるのか、どうしたら言葉を発するようになるか考えてくる（30 分）。
11	子どもの認知	子どもの外界の捉え方・考え方について学ぶ	子ども考え方やものの観方について、大人との違いという観点から整理をしておく（30 分）。
12	感情の発達と自我	自我の芽生えと感情の発達について学ぶ。また、自己表現の発達についても学ぶ。	子どもが「反抗する」ことの意味について、考えてくる（30 分）。
13	遊びと発達	乳幼児期の遊びと発達の関係について学ぶ。	子どもは遊ぶことで何を身につけているか、子どもが遊ぶことの意味について考えてくる（30 分）。
14	子どもの発達障害	発達障害の特徴と対応について学ぶ。	これまでに聞いたことのある発達障害の名称とその特徴について知っていることをまとめてくる（30 分）。
15	まとめ	これまでに学んだ内容についてまとめ、記述する。	これまでに学んだ授業内容を自分の言葉で、自分の考えを含め述べることができるようにしておく（30 分）。
16	学期末試験	これまで学んだ内容の習得状況を確認、評価するための試験を行う。	

単位の認定について：試験 70%　授業態度 20%　授業外学習 10%
教科書・参考書：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
授業外学習について：指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法：提出された課題はチェック後に解説する。

授業科目名	教育方法と技術						
資格取得との関連	教職に関する科目(教育の基礎的理解に関する科目) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」認証に関する科目						
担当者	中山 迅(hnakayama@miu.ac.jp)・渡邉 裕(hwatanabe@miu.ac.jp)						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	保育科 2 年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要: 幼稚園教育は幼児の自発的活動をもとに、教育課程を指針としながら行われるが、幼児の望ましい興味関心を引き出す環境の設定と活動を一層前進的なものとする為には、そのための方法と技術が不可欠である。本授業では下記の 3 項目を授業の目標としている。
(1)教育の方法論
(2)教育の技術
(3)情報機器及び教材の活用

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標:
(1)教育の方法論
1)教育方法の基礎的理論と実践を理解している。
2)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。
3)学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。
4)育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。
(2)教育の技術
1)話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。
2)基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。
(3)情報機器及び教材の活用
1) 子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
2)子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	教育方法と技術の概要	幼児教育に関する教育方法と技術について, 幼児の発達特性、幼稚園教育要領や保育所保育指針と関連付けて理解する。 (目標(1)-1, -2, -3, -4)) (担当:中山・渡邉)	・幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説などを読んで, 幼児に対する教育方法の基本方針を確認する。
2	幼児の発達特性と保育内容	幼児の認識発達と関係づけて、幼児の遊びを通した認識の発達について理解する。 (目標(1)-1, -2, (2)-1)) (担当:中山)	幼児にできる様々な遊びを、保育の各分野と結びつけてみる。
3	幼児の発達を促す遊び①	幼児の遊びと各分野での発達を関係づけて、効果的な環境設定や言葉かけの方法について理解する。 (目標(2)-1, -2))(担当:中山)	幼児の発達を促す環境や言葉かけの事例を集める。
4	幼児の発達を促す遊び②	幼児の遊びと各分野での発達を関係づけて、効果的な環境設定や言葉かけの方法について理解する。 (目標(2)-1, -2))(担当:中山)	幼児の発達を促す環境や言葉かけの事例を集める。
5	ICT メディア活用①	幼児教育において、メディアの 1 つとしてテレビや動画がどのように活用されているかを理解する。 子供向け教育番組の「ねらい」を考える。 (目標(3)-1, -2))(担当:中山)	・中央教育審議会教育課程部会幼児教育ワーキンググループ(第 5 回)配付資料から「幼児教育におけるICTの活用の在り方について」をダウンロードして読む[註 1)]。 ・幼児を対象とした TV 番組や動画コンテンツを調べ、それらのねらいを確

			認する。
6	ICT メディア活用②	動画教材の活用　動画教材の作成方法について理解し、実際にグループで作成する。 (目標(3)-1, -2))(担当:中山)	動画コンテンツの素材を探して撮影・編集の準備をする。
7	ICT メディア活用③	動画教材の活用　引き続き、グループごとに動画を作成する。 (目標(3)-1, -2))(担当:中山)	動画コンテンツの素材を探して撮影・編集の準備をする。
8	ICT メディア活用④	動画教材の活用　作品を発表する。 グループごとに作品発表を行う。 (目標(3)-1, -2))(担当:中山)	発表の準備をする。
9	IoT、ICT、AI を活用した保育園・幼稚園の教育と業務	幼稚園において利活用されているデータサイエンス・ AI 利用事例として「保育業務支援システム」について学ぶ。また、幼稚園教育で利用されている IoT, ICT ならびに AI 機器を調査し、グループによる発表を行う。 (目標(1)-3), (2)-2) (3)-1, -2))(担当:渡邉)	ICT、AI を活用した幼稚園業務システムや教育方法について、事前に調べておく。PC でのパワポ発表が出来るように復習しておく。
10	ICT を活用した教材の作成①	幼児教育現場におけるプログラミング教育の現状を知り、スクラッチでプログラミングを行う方法について学ぶ。スクラッチキャットを動かして簡易な教材を作成する。 (目標(3)-1, -2))(担当:渡邉)	スクラッチプログラミングがすぐに理解できるように予習をしておく。
11	ICT を活用した教材の作成②	スクラッチによるプログラミングにより、パソコンを用いてドラムやトランペットの楽器を演奏する方法について学ぶ。(目標(3)-1, -2))(担当:渡邉)	演奏する楽曲の旋律(楽譜)とコードを事前に調査しておく。スクラッチプログラミングに慣れるよう、操作方法を予習しておく。
12	ICT を活用した教材の作成③	スクラッチの拡張機能(合成音声)を使用して、紙芝居の読み聞かせ教材を作成(プログラミング)する。 (目標(3)-1, -2))(担当:渡邉)	使用する紙芝居を想定し、内容を予習しておく。
13	ICT を活用した教材の作成④	幼稚園や保育園の現場でよく使用する文書について、Word を用いて作成する。文書の保存や印刷の方法を確認する。 (目標(3)-1, -2))(担当:渡邉)	Word の基本操作についてテキストで予習をしておく。
14	ICT を活用した教材の作成⑤	幼稚園や保育園の現場でよく使用する文書について、Excel を用いて作成する。文書の保存や印刷の方法を確認する。 (目標(3)-1, -2))(担当:渡邉)	Excel の基本操作についてテキストで予習をしておく。
15	ICT を活用した教材の作成⑥	Word 及び Excel を用いて幼稚園や保育園の現場で利用できる教材を制作する。現場での利用を想定し、レイアウトやデザインの工夫について考える。 (目標(3)-1, -2))(担当:渡邉)	幼児保育現場における教材の種類とその工夫について考えておく。
16	定期試験	作品制作課題及びレポート	

単位の認定について　記述式課題 20%、授業への参加状況 20%、作成した作品 60%を総合して評価します。

教科書　「これからの保育のための ICT リテラシー＆メディア入門」(みらい) ISBN 9784860155780

参考書　「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)、「保育所保育指針解説」(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館) ※これらは、文部科学省、厚生労働者の Web サイトからダウンロードもできます。その他必要な場合は、授業中に指示します。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

註 1) https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/104/siryo/mext_00008.html

授業科目名	教職概論(科目コード:TNEDU112／TNNTC112)						
資格取得との関連	幼稚園教諭二種免許状必修科目						
担当者	村上和厳 (k-murakami@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科2年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：幼稚園教員志望者として、教員の意義や役割、職務内容についてグループワークやディスカッションを通して学習し、教員としての資質能力の向上及び、その態度化を図る。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ	

到達目標：現代社会における教職の重要性の高まりを背景として、教員の意義や役割、職務内容などを理解することができる。その上で、教職への意欲を高め、幼稚園教員としての態度を養うことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	本講義を受けるにあたって、学習内容や方法を理解する。「教員」や「教師」に対するイメージについて整理する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
2	教職の社会的意義①	教員が社会においてなぜ必要かについてグループワークを行い、公教育の担い手としての教員の存在意義を理解する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
3	教職の社会的意義②	他の職業との比較を通して、教職の職業的特長を理解する。その上で、自身のこれまでのキャリアが教員という職業にどのように結びつくかについて考える。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
4	教員の役割①	教育法規において、「教員」がどのように位置づけられているかについてグループワークを通して学習する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
5	教員の役割②	「教員とは」という問いのもと、法律上の教員の特殊性についてグループワークを通して学習する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
6	教員の役割③	江戸時代の教師から現代の教師までの教師像について学習し、教師観の変遷を考える。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
7	教員の役割④	教員養成制度の歴史や現状を理解し、幼稚園教員になる上で、何が求められてきたかについて学習する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
8	教員の職務内容①	幼稚園教員の職種や、その職務内容について理解し、幼稚園教員がどのように働いているかについて学習する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
9	教員の職務内容②	子どもと関わること以外の公務分掌を含めた教員の職務内容を学習し、教員の職務内容のイメージを深める。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
10	教員の職務内容③	教員研修の制度上の位置づけや、具体的な種類や方法などを理解し、教員として学び続ける必要性を理解する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
11	教員の職務内容④	ウェルビーイングについて学習し、教員としての働き方を考える。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
12	教員の職務内容⑤	子どもの権利について学習し、その実現に向けて幼稚園教員としてどのような態度が必要かについてグループワークを通して学習する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
13	教員の職務内容⑥	幼稚園教員としての職務上の義務や身分上の義務について理解し、事例を踏まえながら幼稚園教員としての心構えを持つ。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
14	チーム学校運営への対応	多様な専門職の方々と連携・協働し、チーム学校として学校教育の諸課題に対応していく重要性を理解する。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、幼稚園教員としての意欲を高め、その準備をする。	講義の内容を整理し、自分の考えをまとめる。(60分)
16	定期試験		

単位の認定について　定期試験 70 点と、各回の課題（各 2 点）×15 回の計 30 点を配分とする。60 点以上で単位を認定する。
教科書　指定なし。
参考書　「教職概論 先生になるということとその学び」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に次の授業で解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	子育て支援 （科目コード:TNNTC204）							
資格取得との関連	保育士資格必修							
担当者	木村匡登							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要： 「家庭」について自分自身で深く考えられるセンスと、その上での支援を検討できる力を身に付けさせたい。

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標： 子育て支援の観点から、家庭をどうとらえるべきかを自分で考えることができる。
様々な事情を抱えた家庭に対する適切な支援のあり方を自分で考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	子どもの保育と保護者支援	子どもの保育とともに行う保護者の支援について	保護者支援の意義について調べてくる（30分）
2	保護者との信頼関係	日常的・継続的なかかわりを通した保護者との相互理解と信頼関係の形成について	保護者の信頼関係構築の必要性について調べてくる（30分）
3	家庭の抱える支援ニーズ	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解について	「子育て家庭の抱える諸問題」について調べてくる（30分）
4	子育て家庭の状況と把握	子ども及び保護者の状況・状態の把握について	「アセスメント」について調べてくる（30分）
5	支援計画	支援計画の作成と環境の構成について	子育て環境について調べてくる（30分）
6	支援過程・展開	支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて	「支援の評価」の意義について調べてくる（30分）
7	職員間の連携・協働	チームワークアプローチについて	職場のチームワークはどうあるべきか自分の考えをまとめてくる。（30分）
8	社会資源と専門職との連携	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	専門職との連携はどうあるべきかについて自分の考えをまとめる（30分）
9	保育所等における支援	保育所における子育て支援について	保育所の子育て支援について調べてくる（30分）
10	地域の子育て支援	地域の子育て家庭に対する支援について	「在宅の子育て支援」とは何かを調べてくる（30分）
11	障害児童への支援	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援について	「障害児童への支援」に留意することについて調べてくる（30分）
12	特別な配慮を要する家庭への支援	多様な状況を抱えた児童と家庭と、そうした児童・家庭への支援について	特別な配慮を要する家庭の社会的支援にはどのようなものがあるか調べてくる（30分）
13	子ども虐待の予防と対応	子ども虐待の予防と対応について	「子ども虐待」の予防策について、自分の考えをまとめてくる（30分）
14	要保護児童への支援	児童養護施設等要保護児童等の家庭への支援について	要保護児童の社会的支援について調べてくる（30分）
15	多様な支援ニーズへの対応	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭への支援について	子育て家庭の多様なニーズについて調べてくる（30分）
16	試験		

単位の認定について レポート（70%）と普段の受講態度（授業外学習の発表評価含む 30%）を総合して評価する（詳細な評価基準は初回の講義で提示する）。

教科書 新基本保育シリーズ⑲「子育て支援」 中央法規

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、授業最終週において解説する。

授業科目名	こども音楽療育演習(科目コード:TNCMT201)							
資格取得との関連	こども音楽療育士必修科目							
担当者	星﨑明里、中武亮子　nakatake@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践方法に関する基礎と専門知識・技術技能について学習する。発達の援助のための音や音楽の使い方、障害種別、形態別（個別、集団など）の療育の具体的方法、楽器の活用法や身体活動と音楽との関連を視野に入れた実践方法について学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ○

到達目標：・障害のあるこどもを対象とした音楽療育の実践ができる。
・発達援助のために音や音楽の使い方を理解して、音楽を構成したり、療育活動を構成したりすることができる。
・グループワークにより発達に合わせた遊びを創造することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション アセスメントについて	シラバスに基づきオリエンテーションを行う。 アセスメントの方法について学ぶ。	リズムムーブメントの練習を行う。(30 分) 教科書p217～223 を読む。(10 分)
2	音楽療法プログラムの 立て方と目的	コ・ミュージックセラピーの流れを理解し、目的を持って計画を立てる力を身につける。	教科書p125～169 を読む。(30 分)
3	基礎的技術の習得①	ハンドドラム挨拶、手遊び・歌遊びの実際を学ぶ。	手遊び5曲、歌あそびの曲の練習を行う。(30 分)
4	基礎的技術の習得②	身体活動と音・音楽を学ぶ。	リズムムーブメントの練習を行う。(30 分)
5	音楽の構成の方法	音や歌唱曲、CD の曲を聴いて、音楽の構成について考え、実際に楽器構成をする。	学習した曲の歌唱・伴奏の練習。 (30 分)
6	肢体不自由児への 音楽療法	肢体不自由児に対する個別音楽療育と集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。	肢体不自由児の音楽療法に関する課題。 (30 分)
7	発達障害児への 音楽療法①	発達障害児に対する個別音楽療育の具体的方法について学ぶ。	発達障害児の音楽療法に関する課題。 (30 分)
8	発達障害児への 音楽療法②	発達障害児に対する集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。	発達障害児の音楽療法に関する課題。 (30 分)
9	知的障害児への 音楽療法	知的障害児に対する集団音楽療育の具体的方法について学ぶ。	知的障害児の音楽療法に関する課題。 (30 分)
10	視覚・聴覚障害児への 音楽療法	視覚障害児・聴覚障害児に対する集団音楽療法の具体的方法について学ぶ。	視覚障害、聴覚障害児の音楽療法に関する課題。(30 分)
11	発達援助のための遊びと 音楽①	対象児・者の発達を援助していくための音楽遊びの創造方法を学ぶ。	発達援助のための音楽遊びを考案する。 (60 分)
12	発達援助のための遊びと 音楽②	対象児・者の発達を援助していくための音楽遊びの創造方法を学ぶ。	発達援助のための音楽遊びを考案する。 (60 分)
13	模擬セッション①	グループごとに模擬セッションを行う。	計画を立て、練習する。(60 分)
14	模擬セッション②	グループごとに模擬セッションを行う。	計画を立て、練習する。(60 分)
15	まとめ	半期を振り返り、障がい児・者への音楽療法の実践方法のポイントを復習する。	レポートを書く。(60 分)

単位の認定について　授業記録 10%、活動への取り組み 20%、レポート 30%、授業中及び終了時の試験 40%。

教科書　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子　山下恵子　2002 年　春秋社
『はらっぱ de 楽譜集』中島恵子　2000 年　こども音楽センター

参考書　『音楽療法ハンドブック』山下恵子共著（未来プロジェクト）星雲社

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	こども音楽療育概論　（科目コード:TNCMT101）							
資格取得との関連	こども音楽療育士必修科目							
担当者	星﨑明里、中武亮子　nakatake@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業目標：障がい児の音楽療法に関する基礎・専門理論を学ぶ。理解を深めるために、演習やグループ討議を交えて講義する。音楽療法実習や各論との繋がり、関連領域についても大まかに理解することを目標とする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：①障がい児の音楽療法の基本的理念を説明することができる。
②音楽療法時に見られる対象児の姿を発達的視点で理解し、援助することができる。
③関連領域の理論や方法を大まかに理解し、グループワークを行う。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	授業目標及び本授業の到達目標を確認する。○配信で行う。	0 歳児～5 歳児の心身の発達についてまとめる。(30 分)
2	心身の発達と音楽的発達①	０・１歳児の心身の発達と音・音楽遊びとの関係について学ぶ。＜映像＞	0・１歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてについてまとめる。（30 分）
3	心身の発達と音楽的発達②	２・３歳児の心身の発達と音・音楽遊びとの関係について学ぶ。＜映像＞	２・３歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてまとめる。（30 分）
4	心身の発達と音楽的発達③	４・５歳児の心身の発達と音・音楽遊びとの関係について学ぶ。＜映像＞	４・５歳児の心身発達と音や音楽との関わりについてまとめる。（30 分）
5	音楽療育の基礎知識①	音や音楽の中に見える子どもの発達や観察の視点について学ぶ。	音や音楽に見えるものについてまとめる。授業内容をワークシートにまとめる。（40 分） 学内実習に入り、エピソードを用紙に記入する。（以後随時）（30 分）
6	音楽療育の基礎知識②	音や音楽の多感覚性とその可能性について学ぶ。	音や音楽の可能性についてまとめる。（30 分）
7	音楽療育の主な概念①	同質と即興演奏について学ぶ。	同質と即興演奏についてまとめる。（30 分）
8	音楽療育の主な概念②	音と身体の動き、リラクセーションについて学ぶ。	音と動き、リラクセーションについてまとめる。（30 分）
9	音楽療育の主な概念③	自己実現のための音楽／コミュニケーションについて学ぶ。	自己実現のための音楽／コミュニケーションについてまとめる。（30 分）
10	音楽療育の主な概念④	言葉と音・音楽／認知の学習と音・音楽について学ぶ。○配信で行う。	言葉、認知の学習と音・音楽についてまとめる。（30 分）
11	音楽療育の実際①	発達障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助方法について学ぶ。	個別の音楽療法、グループ音楽療法の展開方法についてまとめる。（30 分）
12	音楽療育の実際②	知的障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助方法について学ぶ。	知的障害児の療育を見学し音や音楽の使い方についてまとめる。（30 分）
12	音楽療育の実際③	肢体不自由児に対する音楽療育の意義と具体的援助方法について学ぶ。	肢体不自由児の療育を見学し音や音楽の使い方についてまとめる。（30 分）
13	音楽療育の実際③	視覚・聴覚障害児に対する音楽療育の意義と具体的援助方法について学ぶ。	聴覚障害児に対する音楽療育の映像を見て、音や音楽をどのように捉えているかを考えまとめる。（30 分）
14	まとめ①	障害のある子ども達への音楽療育の意義を考える。	音楽療法の意義についてまとめる。（30 分）
15	まとめ②	障害のある子ども達への音楽療育の意義について振り返り、まとめる。	まとめレポートを提出する。（60 分）

単位の認定について　レポート提出 50%　、授業記録 20%、活動への取り組み 30%
教科書　『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』中島恵子　山下恵子　2002　春秋社
配布資料
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	こども音楽療育実習（科目コード:TNCMT301）							
資格取得との関連	こども音楽療育士必修科目							
担当者	後藤祐子　星﨑明里　中武紋子　折口奈津美　馬籠奈津子　山守和美　田之上耀							
オフィスアワー	火曜日の放課後　授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	通年	授業の種類	実習	単位数	1	

授業概要：宮崎学園短期大学こども音楽教育センター及び外部施設において、障害のあるこどもたちとの交流を通して障害児を理解し、更に、音や音楽を使った音楽療育の具体的実践方法を学ぶ。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標：
・障害のあるこどもたちと積極的にかかわりを持つことが出来る。
・支援者の療育の意図を理解することができる。
・心身の発達過程と音楽的発達との関係を、現場を見て理解することができる。
・障害種別の具体的援助方法の意義を見出すことができる。

授業計画表

トピック名	概要	授業外学習の内容
オリエンテーション	実習の具体的方法について理解する。	実習先について調べる。（60 分）
記録の書き方	実習記録の書き方、提出方法について知る。	実習記録の書き方を復習する。（30 分）
宮崎学園短期大学こども音楽教育センターにおいて年 7 回、更に、外部施設において 2 日間の学外実習を行う。 ※前後指導では対象者の状態についての理解、部分実践のための計画立案・練習等の事前指導及び、セラピストと振り返りを行う事後指導を実施する。	1．実習の段階 ①療育実習の 2 側面 受動的側面：障害児の観察と理解 能動的側面：障害児と積極的に関わりを持つことが出来る。 ②実習の段階 見学・観察実習、参加実習 2．実習の内容 ①見学・観察実習 障害児及び音楽療育の実際を理解する。 ②参加実習 音楽療育場面に参加し、積極的にこども達と関わる。	・実習前に対象児を確認し、障害についての理解を深める。（30 分） ・実習後にセラピストとのミーティングを行い、実習内容について理解する。（30 分） ・外部施設の特徴を理解する。（60 分） ・実習記録を記入する。(60 分)
まとめ	・実習事後指導を受ける。 ・実習を終えて学んだこと、感想をレポートにまとめる。	実習後に、こども音楽療育実習記録簿をまとめ、提出する。（60 分）

単位の認定について　実習記録簿の提出状況 50%、 実習参加状況 50%。
参考書　『音と人をつなぐ　コ・ミュージックセラピー』中島恵子・山下恵子著　2002　春秋社
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

授業科目名	子ども家庭支援の心理学 （科目コード:TNNTC201）							
資格取得との関連								
担当者	木村匡登							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 「家庭」について自分自身で深く考えられるセンスと、その上での支援を検討できる力を身に付けさせたい。

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標： 子育て支援の観点から、家庭をどうとらえるべきかを自分で考えることができる。
様々な事情を抱えた家庭に対する適切な支援のあり方を自分で考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	生涯発達とは	生涯発達の概要について	生涯発達とは何か調べてくる(30 分)
2	乳幼児期の発達	乳幼児期から学童期前期の発達について	「乳幼児期から学童期前期」の発達段階の特徴について調べてくる(30 分)
3	青年期の発達	学童期後期から青年期の発達について	「学童期後期から青年期」の発達段階の特長について調べてくる(30 分)
4	成人期の発達	成人期・老人期の発達について	「発達しつづける」の意味について自分の考えをまとめてくる(30 分)
5	現代社会の家族・家庭	現代社会の地域を取り巻く家庭状況について	現代の家族・家庭について調べてくる(30 分)
6	家族・家庭の意義と機能	「家族」と「家庭」の違いとその機能について	「家族」と「家庭」の違いについて調べてくる(30 分)
7	親子関係・家族関係	現代社会における家庭関係の変容とその対応について	親と子の関係はどうあるべきか自分の考えをまとめてくる。(30 分)
8	子育ての経験と親としての育ち	子育ての経験と親としての育ちについて	親になるとはどういうことかについて自分の考えをまとめる(30 分)
9	子育て家庭の現状と課題	子育て家庭の現状と課題について	現代社会の子育ての状況について調べてくる(30 分)
10	子育ての社会的状況	子育てを取り巻く社会的状況について	「子育ての社会化」とは何かを調べてくる(30 分)
11	ライフコースと仕事・子育て	子育てと仕事、家庭の関係について	「ワークライフバランス」について調べてくる(30 分)
12	多様な家庭とその理解	多様な状況を抱えた児童と家庭と、そうした児童・家庭への支援について	家庭の抱える諸問題について調べてくる(30 分)
13	特別な配慮を要する家庭	社会的支援を必要とする家庭について	特別な配慮を要する家庭の社会的支援にはどのようなものがあるか調べてくる(30 分)
14	子どもの生活・生育環境	子どもの生活・生育環境とその影響について	健全な育成に資する子どもの生育環境について調べてくる(30 分)
15	子どもの心の健康	子どもの心の健康に関わる問題について	子どもの心の問題について調べてくる(30 分)
16	試験		

単位の認定について 試験(70%)と普段の受講態度(授業外学習の発表評価含む 30%)を総合して評価する(詳細な評価基準は初回の講義で提示する)。

教科書 新基本保育シリーズ⑨「子ども家庭支援の心理学」 中央法規

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、授業最終週において解説する。

授業科目名	子ども家庭支援論 （科目コード:TNNTC207）							
資格取得との関連								
担当者	木村匡登							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 「家庭」について自分自身で深く考えられるセンスと、その上での支援を検討できる力を身に付けさせたい。

1. 子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭の支援体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状と課題について理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標： 子育て支援の観点から、家庭をどうとらえるべきかを自分で考えることができる。
様々な事情を抱えた家庭に対する適切な支援のあり方を自分で考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	家庭の意義と必要性	家庭という概念と、家庭の意義と必要性について。	「家庭」とは何か調べてくる。(30 分)
2	子ども家庭支援の目的と機能	家庭を支援することがなぜ大事なのかについて。	現代の子育て家庭を取り巻く状況について、調べてくる。(30 分)
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	子育て家庭を支援する施策のあり方とその登場経緯等について。	新聞記事等を調べて、子育て支援の施策が今後どう変わっていくか調べてくる。(30 分)
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	家庭での子育てをより良くできる社会的な資源のあり方と、それらの活用方法について。	自分が住む地域には子育ての「社会資源」としてどのようなものがあるか調べてくる。(30 分)
5	保育の専門性を活かした家庭支援	保育士も含めた保育者が、いかに家庭を支援すべきかについて。	保育の場で「家庭」をどのように支援していたか、実習体験等の振り返りからまとめてくる。(30 分)
6	子どもの育ちの喜びの共有	子育て支援のプロセスについて。	子どもの育ちを共有するツールにはどのようなものがあるか調べてくる。(30 分)
7	地域社会の変容と家庭支援	現代地域社会の変容の中で改めて地域社会の家庭を支援する力とについて。	「地域社会」の子育て力について、まとめてくる。(30 分)
8	保育士に求められる基本的態度	保護者との信頼関係の構築について。	保護者に対する基本的信頼関係構築に必要なものは何か調べてくる。(30 分)
9	家庭の状況に応じた支援	現代社会における家庭関係の変容とその対応について。	現在家庭がどういう状況にあり、それにどう対応すべきか自分の考えをまとめてくる。(30 分)
10	子育て支援における関係機関との連携	家庭を支援する上で連携できる機関と、連携のあり方について。	子育て支援を実施する機関を調べてくる。(30 分)
11	子育て支援サービスの概要	子育て家庭を支援する諸サービスについて。	自分が住んでいる地域にある子育て支援サービスを調べてくる。(30 分)
12	保育所入所児童の家庭への支援	保育所で出会うさまざまな子どもとその家庭をどう支援するかについて。	世の中にいるさまざまな子ども・家庭が抱える問題を、新聞記事等から調べてくる。(30 分)
13	地域の子育て家庭への支援	地域内で子どもとその家庭を支援する意義と、支援のあり方について。	地域の子育て家庭への支援として、どのような拠点があるか調べてくる。(30 分)
14	要保護児童及びその家庭に対する支援	多様な状況を抱えた児童と家庭と、そうした児童・家庭への支援について。	「障害とは何か」、障害の意味を調べてくる。(30 分)
15	子育て支援サービスの課題	現代の子育て支援サービスに残存する課題について。	現在ある課題をどうやれば解決できるか自分の考えをまとめてくる。(30 分)
16	試験		

単位の認定について 期末試験(60%)と演習課題・レポート提出(40%)を総合して評価し、60 点以上を合格とする。

教科書 「新基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論 第２版」中央法規

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、授業最終週において解説する。

授業科目名	子ども家庭福祉（科目コード:TNNTC209）							
資格取得との関連	保育士資格必修							
担当者	木村匡登							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： ※「子ども家庭福祉」に対する問題関心を育み、日常的に「子ども家庭福祉」を考える視点をもたせたい。

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ○	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標： 子ども家庭福祉に関連するさまざまな社会的事象について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、自分の体験に即して展開して考えられる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	子ども家庭福祉の理念	オリエンテーション、子ども家庭福祉の概念・理念と意義。	「子ども家庭福祉」がどういうもので、なぜ必要か自分の考えをまとめる。(30 分)
2	子ども家庭福祉の歴史	子ども家庭福祉がどのように変遷してきたか。	子ども家庭福祉が必要とされた背景と、現代社会とのつながりを調べてくる。(30 分)
3	現代社会と子ども家庭福祉	現代の社会・諸外国における子ども家庭福祉のあり方とその役割。	現代社会でなぜ子ども家庭福祉が必要なのか考えてみる。(30 分)
4	児童の人権擁護と子ども家庭福祉	児童の人権、あるいはそれを擁護することと子ども家庭福祉との関係について。	「子どもの人権」について、自分の考えをまとめてくる。(30 分)
5	子ども家庭福祉の実施機関・施設・専門職	子ども家庭福祉を実施する機関・施設と、子ども家庭福祉の担い手である専門職について。	子ども家庭福祉に従事する人はどのような人がいるか調べてくる。(30 分)
6	子ども家庭福祉の制度・法	子ども家庭福祉にまつわる制度と法体系について。	児童福祉の法律は、どのような法律があるか調べてくる。(30 分)
7	少子化と子育て支援サービス	少子化社会における子ども家庭福祉と、子育て支援サービスについて。	少子化の要因について、調べてくる。(30 分)
8	母子保健と児童の健全育成	現代社会における母子保健と児童の健全育成について。	母子の健康を保つことと児童の育成について自分の考えをまとめる。(30 分)
9	多様な保育ニーズへの対応	多様化する現代の保育ニーズとそれへの対応について。	世の中にいるさまざまな子ども・家庭の問題を、新聞記事等から調べて持ってくる。(30 分)
10	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス	社会問題化している児童虐待・ドメスティックバイオレンスとそれへの対応について。	虐待・DV の実態を新聞記事等から調べてもってくる。(30 分)
11	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	「子どもの貧困」と外国にルーツのある子どもへの支援について。	「子どもの貧困」の現状について調べてくる。(30 分)
12	社会的養護	社会的養護の仕組みと理念について。(非行問題含む)	社会的養護がなぜ必要なのか、自分の考えをまとめてくる。(30 分)
13	障害のある児童への対応	障害のある児童への対応について。	「障害とは何か」「現代社会で障害はどう位置づけられているか」を調べてくる。(30 分)
14	次世代育成支援と子ども家庭福祉	次世代を育成するという視点から考えた諸外国の動向も踏まえた子ども家庭福祉について。	諸外国の子ども家庭福祉の動向を調べてくる。(30 分)
15	他分野との連携とネットワーク	関連する他分野との連携のあり方について。	保育の場で実際にどのような人々と、どう連携が取られているか調べてくる。(30 分)
16	試験		

単位の認定について 試験（70%）と毎回の受講態度（授業外学習の発表評価含む 30%）を総合して評価する。（詳細な評価基準は初回の講義で提示する）。

教科書 新基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉（第２版） 中央法規

参考書 講義中において別途紹介する。

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、授業最終週において解説する。

授業科目名	子どもと絵本Ⅰ（科目コード:TNPBA101）						
資格取得との関連							
担当者	鷲﨑公彦						
オフィスアワー	火曜日の放課後　授業終了時						
授業対象	保育科１年 現代ビジネス科1年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：絵本に関する高度な知識・技能・感性を持ち、絵本を使ってその魅力や可能性を伝え、様々な場面で子ども達の豊かな読書活動推進の担い手として活動できる。

DPとの関わり	全学DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ

到達目標：
・絵本に関する基礎的な知識を身につけ、子どもの発達と絵本との関わりの特性について説明することができる。
・さまざまな絵本と接し、各ジャンルの絵本の特性について説明することができる。
・実際の書店において、どのように絵本が展示・流通されているのかを理解できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	・日本の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する ・受講生同士の相互理解を深めるとともに、認定絵本士の役割について確認する。	事前にシラバスを確認し、授業目標と科目の内容を把握する。授業後は授業内容を再確認し、読書推進活動に関する施策について復習する。(60分)
2	絵本総論 （絵本とは何か）	・「絵本」をめぐる行為について理解する ・「絵本」の定義の捉え方について理解する ・「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する	好きな絵本を書き出し、絵本と自信のエピソードについてレポートを作成する。（60分） 【事後課題有り】
3	絵本各論① （絵本の歴史、絵本賞について）	・世界の絵本の歴史について理解する ・日本の絵本の歴史について理解する ・絵本賞について理解する	絵本賞の受賞作を最低5作品読み、うち1つの感想文を作成する。（60分） 【事後課題有り】
4	絵本各論② （視覚表現、言語表現から見た絵本）	・絵本の視覚表現特性について理解する ・絵本の言語表現特性について理解する	テキストを読んで絵本の視覚表現及び言語表現の特性について事前に学習する。授業後は、本課で学んだ特性について整理し、自分の言葉で説明できるようにする。（60分） 【事後課題有り】
5	絵本各論③ （子供の知的・社会的発達と絵本との関わり）	・各年齢期の子供の発達と絵本との関わりの特性について理解する ・絵本が子供の発達に及ぼす影響に関する学術的知見を理解する	佐々木宏子の参考文献を参照し、佐々木氏が行った追跡調査について調べ、発達と絵本との関わりについて理解する。（60分）
6	絵本各論④ （メディアとしての絵本の位置づけ）	・情報メディアとしての絵本の特性について理解する ・絵本と著作権との関係について理解する ・電子書籍と子供の脳の関係について理解する	事前にテキストに示された参考文献等を参照し、著作権について理解する。（60分） 【事後課題有り】
7	さまざまなジャンルの絵本① （物語の絵本）	・物語を内容とした絵本の特性について理解する ・絵本における絵と言葉で語る技法を体得する	物語絵本の歴史・特性について理解し、テキストに紹介されている絵本を実際に読みなぜその内容を絵本で表現しているのか考える。（60分）
8	さまざまなジャンルの絵本② （昔話、童話を基にした絵本）	・昔話及び童話を題材にした絵本の特性について理解する ・昔話及び童話を題材にした絵本における再話や絵本の質のあり方について理解する	昔話と童話の違いについて事前に学習する。（60分）
9	さまざまなジャンルの絵本③ （科学絵本等）	・自然科学・社会科学に関する絵本の特性について理解する ・科学絵本等の活用方法について理解する	本課で紹介した絵本を実際に読み、自分が子どもに紹介したい絵本を探す。（60分）
10	絵本と出会う① （はじめての絵本との出会い）	・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する ・乳幼児が絵本に触れるための具体的取組について理解する	授業で学んだあかちゃん絵本の特徴について自分の言葉で説明できるようにする。（60分）

11	絵本と出会う② (保育・教育の場での出会い)	・保育・教育の場における絵本の意義について理解する ・保育・教育の場における絵本を用いた活動の具体的取り組みについて理解する	幼稚園教育要領や保育所指針等で示されている領域「言葉」について事前に学習する。(60 分)
12	絵本と出会う③ (図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～)	・公共図書館の行う児童サービスについて理解する ・地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する	宮崎県生涯読書活動推進計画や県内市町村の子ども読書活動推進計画について調べる。(60 分)
13	絵本と出会う④ (書店での出会い)	・書店における絵本の売り場づくりの特性について理解する ・絵本の流通について理解する	実際の書店での学びをレポートにまとめる。(60 分)
14	絵本の世界を広げる技術① (絵本を探す技術)	・絵本を探す多様な手段(情報源)とキーワード(テーマや登場人物等)について理解する ・絵本検索に係る各手段の活用方法を体得する	絵本のストーリーレファレンスを実践する。(60 分)
15	絵本の世界を広げる技術② (ワークショップ)	・絵本を活用した表現活動について理解する ・絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する	モダンテクニックを活用した絵本を読み、自由な表現方法について自分の考えをまとめる。(60 分) 【事後課題有り】

単位の認定について　レポート 70%、ワークシートの記入状況 30%

教科書　『認定絵本士養成講座テキスト　第２版』
絵本専門士委員会　独立行政法人国立青少年教育振興機構発行　中央法規出版株式会社

参考書

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

【留意事項】

・単位認定については本学が定める出席回数、及び課されたレポート内容の評価、及びワークシートの記入状況によって認定されるものとする。

・認定絵本士の資格取得には、8 割以上出席することが求められる。単位認定の基準と異なるため注意すること。

授業科目名	子どもと絵本Ⅱ（科目コード:TNPBA102）						
資格取得との関連							
担当者	鷲﨑公彦						
オフィスアワー	火曜日の放課後　授業終了時						
授業対象	保育科１年 現代ビジネス科1年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：絵本に関する高度な知識・技能・感性を身につけ、絵本を使ってその魅力や可能性を伝えることができる。様々な場面で子ども達の豊かな読書活動推進の担い手として活動できる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ				
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ

到達目標：
・相談者に対して、様々な要望に応じた絵本を提案することができる。
・おはなし会の作成・運営について理解し、必要なテクニックを身につけることができる。
・絵本がうまれるまでの過程を理解し、様々な角度から絵本を見つめ、絵本の本質を理解できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	絵本の世界を広げる技術③ （絵本コンシェルジュ術）	・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する ・絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する	授業で得た絵本コンシェルジュとして必要な知識・スキルを復習する。（60 分）
2	絵本を紹介する技術① （ブックトークの技術）	・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する ・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する	自分が紹介したい絵本を選び、その魅力が伝わる絵本の紹介文を作成する。（60 分） 【事前課題有り】
3	絵本を紹介する技術② （書評・紹介文の書き方）	・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する ・書評及び紹介文の書き方を体得する	本課で学んだことを整理し、書評・紹介文の書き方について理解を深める。（60 分）
4	絵本を紹介する技術③ （支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割）	・障がい者、病児及び高齢者等、絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を要する人について理解する ・上記各者に対する絵本の役割や効果について理解する ・上記各者に対する適切な絵本選びと絵本の紹介方法を体得する	様々な支援を必要とする人への絵本の役割について、授業で学んだことを踏まえて、自分の考える絵本の重要性についてレポートを作成する。（60 分） 【事後課題有り】
5	おはなし会の手法① （おはなし会を開こう）	・「おはなし会」について理解する ・「おはなし会」のプログラム作成及び運営に係る手法を体得する	おはなし会で読みたい絵本をジャンルの違うものを 2 冊以上選書し、講義の際に持参する。（60 分） 【事前課題有り】
6	おはなし会の手法② （おはなし会のテクニック）	・「おはなし会」のテクニックについて理解する ・「おはなし会」のテクニックを体得する	本課で学んだことを踏まえ、実際のおはなし会を見学する。（60 分） 【事後課題有り】
7	絵本の持つ力 （さまざまな角度から絵本を見る）	・絵本の持つ可能性及び相反する力について理解する ・絵本が子ども達に与える影響について多面的な視野から見つめることにより、批評力を体得する	絵本＝絵+言葉+（　）に入る言葉は何か現時点での自身の考えをまとめる。（60 分）
8	心に寄り添う絵本 （心のケアと絵本の可能性）	・心のケアが求められている場面や場所における絵本活用の可能性について理解する	テキストに示された絵本の特徴を理解し、実際に読んでみる。（60 分）
9	絵本のある空間 （絵本のある望ましい空間とは）	・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する	宮崎県内にある図書館などの図書関連施設において、特徴のある空間を調べる。（60 分）

10	子供の心をとらえるもの （子供の心をとらえて離さないもの）	・子ども達の興味について理解する ・絵本以外のメディアを知る	本課で紹介する事例を見て、自身が感じたものをレポートにまとめる。（60 分）
11	大人の心を豊かにする絵本 （人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を）	・絵本が大人に与える影響について理解する	宮崎県内で行われている絵本に関するイベントをまとめる。（60 分） 【事後課題有り】
12	ホスピタリティに学ぶ （人を楽しませる為の手法を学ぼう）	・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する	授業で紹介された様々なホスピタリティや読み聞かせの演習を通して感じたことをレポートにまとめる。（60 分）
13	絵本が生まれる現場① （作家の感性に触れる）	・絵本の作り手の思いについて理解する	本課の授業を通して学んだこと、感じたことをレポートにまとめる。（60 分） 【事後課題有り】
14	絵本が生まれる現場② （絵本の編集）	・絵本の編集者の仕事について理解する	本課の授業を通して学んだこと、感じたことをレポートにまとめる。（60 分）
15	ディスカッション （認定絵本士としての今後の活動）	・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべきことを理解する	他者との意見交換から得た考えをまとめる。（60 分）

単位の認定について レポート 70%、ワークシートの記入 30%

教科書 『認定絵本士養成講座テキスト　第２版』
絵本専門士委員会　独立行政法人国立青少年教育振興機構発行　中央法規出版株式会社

参考書

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

【留意事項】

・単位認定については本学が定める出席回数、及び課されたレポート内容の評価、及びワークシートの記入状況によって認定されるものとする。

・認定絵本士の資格取得には、8 割以上出席することが求められる。単位認定の基準と異なるため注意すること。

授業科目名	子どもと環境(科目コード:TNEDU111／TNNTC111)						
資格取得との関連	幼稚園教諭二種免許選択科目						
担当者	満行　知花(cmitsuyuki@miu.ac.jp)　吉田　かおる(k-yoshida@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：保育内容の領域「環境」では「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指している。この授業では、幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を身に付けていくことができる環境を構成する上で必要となる専門知識・技能を身につける。自然環境、動植物、標識・文字、情報・施設、数量・図形についての知識を習得するとともに関連する遊びを実践し、領域「環境」と関連する保育の実際について体験的に理解を深める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	③◎	

評価指標： 保育内容の領域「環境」に関連する、幼児をとりまく環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における基本的な知識・技能を習得する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	幼児をとりまく環境	幼児をとりまく環境の諸側面(物的環境、人的環境、自然環境等)とそれらが子どもの発達に与える影響についてグループワークを行う。	「環境」という言葉からイメージする内容をマインドマップで書く。(30 分)
2	領域「環境」の目標と内容	領域「環境」の目標と内容を概観する。「環境」の重要な概念である好奇心と探究心について、心理学の側面から学ぶ。	保育所保育指針を読み、領域「環境」の目標と内容を確認する。(30 分)
3	幼児の社会との関わりと遊び	幼児の生活に関わりの深い情報・施設と、それらへの興味関心・理解の発達について学ぶ。園と地域社会との連携・協力の意義について考察する。	幼児の生活に関係の深い施設を書き出し、分類する。(30 分)
4	幼児の自然・生物概念の発達と遊び①　昆虫・小動物との関わり	幼児の昆虫・小動物に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。擬人的な思考から科学的な思考へと発展させるための支援方法を考察する。	幼児が親しみをもって関われる身近な昆虫・小動物を書き出す(30 分)
5	幼児の自然・生物概念の発達と遊び②　昆虫の採集と観察	構内で昆虫採集と観察のフィールドワークを行う。自らの体験をもとに、昆虫採集を通しての幼児の発達を「育ってほしい 10 の姿」の観点から考察する。	自身の昆虫との関わりを振り返り書き出す。(30 分)
6	幼児の自然・生物概念の発達と遊び③　昆虫を題材とした絵本づくり	昆虫採集と観察の経験を題材として、絵本づくりのグループワークを行う。	前時に採集した昆虫についての情報を収集する。図書館の絵本を参照し、表現上の工夫を書き出す。(60 分)
7	幼児の自然・生物概念の発達と遊び④　昆虫絵本の発表会	第 6 回で作成した絵本のプレゼンテーションを行う。	グループで絵本づくりを行う。プレゼンテーションの準備・練習をする。(120 分)
8	幼児の自然・生物概念の発達と遊び⑤　植物との関わり　満行	幼児の植物に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。構内で身近な植物を用いた遊びのフィールドワークを行う。	経験したことのある草花あそびを書き出し、その遊びを知った、または考案した経緯を書く(30 分)
9	幼児の自然・生物概念の発達と遊び⑥　作物の栽培　満行	保育現場で野菜や草花を栽培する上で必要となる基礎的な知識を習得する。作物の栽培を通した幼児の生物概念の発達について学ぶ。	自身の栽培経験を振り返り書き出す。(30 分)
10	四季の変化と伝統行事・文化⑦満行	季節による自然の変化に気づき、季節を感じる保育実践について学ぶ。季節と密接に関わる伝統行事・文化について学ぶ。	季節と関連する伝統行事・文化を書き出す。(30 分)
11	幼児の標識・文字への興味関心と遊び⑧満行	幼児の標識・文字に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。構内・周辺を探検し、標識・文字をピックアップする。そして、幼児の標識・文字の捉えを分析する。	町で見られる標識をまとめる。(30 分)
12	幼児の数量・図形概念の発達と遊び　満行	幼児の数量・図形に対する興味関心・理解の発達について学ぶ。図形に対する興味関心を育てる保育実践として、野菜を用いてスタンプづくりを行う。	生活の中で、幼児はどのような場面で数と出会うか考え、書き出す(30 分)

13	自然環境の中での遊びと安全対策 満行	自然環境の中で遊ぶ際の安全対策を学ぶ。「森のようちえん」の実践映像を参照し、自然の中に潜むリスク・ハザードの実態と、保育者の対応方法についてグループで議論する。	自然環境で遊ぶ中で、どのような危険があるか書き出す(30 分)
14	幼児をとりまく環境の現代的課題 情報化への対応と地球環境問題 満行	幼児をとりまく環境の変化について、電子情報との関わりの面と地球環境問題の面から学ぶ。持続可能な開発のための教育(ESD)、SDGs を意識した保育実践例を分析する。	幼児の電子情報機器(スマートフォンやタブレット等)の利用についてどのように考えるか、自身の意見を書く(30 分)
15	幼小連携・接続 満行	幼稚園や保育所等と小学校との教育連携の考え方、進められ方を学ぶ。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムのカリキュラムデザインにおけるポイントについてグループで議論する。	幼稚園教育要領等で、幼小連携についてどのように書かれているか調べる(30 分)
16	定期試験		

単位の認定について　毎回提出するレポートの内容 30%、プレゼンテーション 20%、期末試験の成績 50%で評価する。合計 60 点以上で単位を認定する。

教科書　なし。授業ごとにワークシートを配布する。

参考書　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
「演習 保育内容「環境」―基本的事項の理解と指導法―」（建帛社）
「新時代の保育双書 保育内容 環境 [第 3 版]」（サンメッセ株式会社）
「新・保育実践を支える 環境」（福村出版株式会社）
「シリーズ 知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・環境」（サンメッセ株式会社）
各種の昆虫・植物・動物図鑑や絵本など（図書館、担当教員の研究室で閲覧可能）

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題の答案例やコメント、質問に対する回答は授業で取り上げる。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	子どもと健康						
資格取得との関連	保育士資格必修科目、幼稚園教諭二種免許状選択科目						
担当者	江田 菜穂子　　玉城 美千子(m-tamaki@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	火曜日の放課後　　授業終了後						
授業対象	保育科1年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：現代の乳幼児の健康とそれを取り巻く諸課題やその専門的事項を踏まえ、領域「健康」のねらいや指導上の留意点及び配慮事項について具体的に理解する。その上で、乳幼児の発達に即して、領域「健康」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想と指導方法を理解するとともに、保育の評価に基づく改善の重要性とその実際を理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	V○	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標： 幼稚園教育要領に示された基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解し、子どもの健康の全体構造を理解できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方や授業方法などについて説明等、健康の定義等について学ぶ	健康の定義を調べる。(30 分)
2	領域「健康」とは何か	保育・幼児教育の基本、保育内容の全体構成と領域「健康」の基本的事項、乳児保育の3つの視点、事例を通した保育者の関わりを知り、理解を深める。	保育所保育指針等を調べ、「健康」に関する内容を調べる。(30 分)
3	子どもの健康と運動発達①	子どもの発達の過程やその特徴を理解する。	教科書をまとめる。(30 分)
4	子どもの健康と運動発達②	子どもの発達の過程やその特徴と運動機能の発達の関連性についてグループでまとめる。	運動機能の発達過程について、本やインターネット等で調べる。(30 分)
5	子どもの健康と運動発達③	子どもの発達の過程やその特徴と運動機能の発達の関連性についてグループでまとめたものを発表する。	運動機能の発達過程について、本やインターネット等で調べる。(30 分)
6	子どもの健康と安全管理	子ども自身が健康の大切さに気づき、子どもの安全な遊びや生活を支える健康と安全についての指導法を考える。また、食物アレルギーの実態を知り、子どもの安全を考える。	子どもの安全について、教科書をまとめる(30 分)
7	子どもの生活習慣における現状と課題	乳幼児の健康異変と子どもを取り巻く環境状況について調べ、問題点・生活リズム・睡眠・排泄・活動・食事などその対策や保育者の役割について考える。	子どもの生活習慣に関する社会問題を調べる(30 分)
8	基本的生活習慣の確立における保育者の関わり	基本的生活習慣の形成におけるポイントを考察し、保育者としての対応を考える。	生活習慣の確立についてノートにまとめる(30 分)
9	遊びを通した総合的な指導の展開	子どもの遊びと保育内容5領域、主体的・対話的で深い学びにつながる活動実践について考える。	子どもの発達の姿や安全性を考慮して遊びを考える(30 分)
10	さまざまな遊びの実践①	子どもが遊びを通して育む健康、子どもの運動遊びの重要性、さまざまな遊びにおける保育者の関わりについて考え、実践する。	子どもの発達の姿や安全性を考慮して遊びを考える(30 分)
11	さまざまな遊びの実践②	子どもが遊びを通して育む健康、子どもの運動遊びの重要性、さまざまな遊びにおける保育者の関わりについて考え、実践する。	子どもの発達の姿や安全性を考慮して遊びを考える(30 分)
12	さまざまな遊びの実践③	子どもが遊びを通して育む健康について実践したことをもとに、運動機能の発達、遊びにおけるリスクとハザードを考える。	遊びの実践に対する振り返りを行う(30 分)
13	他領域との関連	保育内容5領域の関連性について「健康」の視点から捉える。主体的・対話的で深い学びにつながる活動実践について考える。	他領域との関連について、保育所保育指針を読んで気付いたことをまとめる(30 分)
14	小学校との連携・接続の実践	幼児期における学びと保育、接続期カリキュラムとその実践について学ぶ。	保幼小接続における課題について調べる(30 分)
15	領域「健康」に関わる現代的課題	現代の子どもの生きる社会の実態、子どもの遊びと対話の必要性を学び、保育における ICT活用法について考える。	子どもの現代的課題について他科目の学びを踏まえて整理する(45 分)
16	定期試験	期末試験を行う。	

単位の認定について　期末試験：60%、提出物・授業態度等：40%から総合的に評価し、60%以上を合格とする。

教科書　「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)、保育内容「健康」(北王路書房)

参考書　適宜紹介する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	子どもと言葉 （科目コード:TNEDU108／TNNTC108）							
資格取得との関連	領域及び保育内容の指導法							
担当者	髙妻弘子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：言葉を発することは人間の特殊能力だと言われており、言葉は生活やコミュニケーション能力と密接な関係がある。その言葉を乳幼児がどのように獲得するのか発達過程を知り、言葉の意義や機能を理解する。また、領域「言葉」のねらいや内容を踏まえ、言葉の感覚を豊かにする関わりや言葉で表現する力を養う方法を考察する。さらに児童文化財について理解を深めるとともに、実演を通して保育における活かし方を体験的に学ぶ。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標： ①言葉の意義と機能、乳幼児の言葉の発達過程を理解しているか
②領域「言葉」のねらい、内容を理解し、言葉の感覚を豊かにする関わりが身に付いたか
③児童文化財の意義や機能を理解し、基礎的知識や技術が習得できているか

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	言葉の意義と機能について	人間特有の言葉にはどのような働きや意味があるのか、また、その言葉はどのように育まれていくのか考察し理解に繋げる	私達人間にとって言葉とは何か、その働きや意味、言葉獲得の方法について考える（30 分）
2	3 歳までの言葉の発達と絵本の活用について	3 歳までの言葉の発達過程を知り、絵本の意義や言葉習得の関係性を理解し、絵本読み聞かせのポイント、その活用法について実演から学ぶ	図書館にて、どのような絵本があるのか確認し絵本の読み聞かせの練習をする（60 分）
3	3 歳以上児の言葉の発達と絵本の活用について	3 歳以上児の言葉の発達過程を知り、絵本と豊かな感性の育成、語彙の広がりについて実演から学ぶ	前の時間の復習をし、絵本の読み聞かせの練習をする。（60 分）
4	領域「言葉」について①：3 歳までのねらい、内容	3 歳までの領域「言葉」のねらい、内容等について、視聴覚教材を使った事例等を参考にしながら理解する	3 歳までの領域「言葉」に書かれている内容、解説を読んでおく。（60 分）
5	領域「言葉」について②：3 歳以上児のねらい、内容	3 歳以上児の領域「言葉」のねらい、内容等について、実際の保育活動実践例を参考に視聴覚教材を通して理解する	3 歳以上児の領域「言葉」に書かれている内容、解説を読んでおく。（60 分）
6	言葉による世界の広がり	言葉の楽しさや感覚を育むかかわり、主体的に言葉を発する保育について、視聴覚教材を用いた実践から身に付ける	子どもにとっての楽しい言葉や伝えたくなる思いにはどんなものがあるか考えてくる（30 分）
7	児童文化財（さまざまな絵本①）	児童文化財の種類やよさを理解し、絵本（創作物語・昔話・民話・神話など）を使った保育活動への展開のあり方を、鑑賞（DVD）を通して学ぶ	創作物語・昔話・民話・神話にはどんなものがあるか調べ、読み聞かせの練習をしてくる（60 分）
8	児童文化財（さまざまな絵本②）	仕掛け絵本・写真絵本・文字なし絵本などの実演を通し、絵本の魅力や効果を学ぶ	仕掛け絵本・写真絵本・文字なし絵本にはどんなものがあるか調べ、読み聞かせの練習をしてくる（60 分）
9	言葉の発達と人形劇①	人形劇の種類と特徴を理解し、保育でどのように活用するのか視聴覚教材を通して学び、ペープサートを作成する	人形劇にはどのような種類があるのか、その特徴は何か調べてみる。（60 分）
10	言葉の発達と人形劇②	ペープサートを作成し、グループで保育の展開を検討する。実演練習後、振り返りをおこない改善点を工夫する	作成に向けての下準備やおおまかなあらすじ作成をしてくる（60 分）
11	言葉の発達と人形劇③	ペープサートの発表をおこなう。参観者からの振り返りシートをもとによかった点、改善するとよくなる点を協議し実演のポイントを再確認する	評価項目を念頭に置き発表ができるように練習してくる（60 分）
12	言葉の広がりと素話①	ストーリーテリングの特徴と保育指導の展開について、視覚教材を通して保育実践例から学び、お話作りに挑戦する	ストーリーテリングについて調べてくる（30 分）
13	言葉の広がりと素話②	グループで話し合いながら創作ストーリーテリングを完成させる	発表に向けておおまかな役割とあらすじを決めてくる（60 分）
14	言葉の広がりと素話③	ストーリーテリングの発表をおこない、そのよさや効果等について考察する	時間を計りながらストーリーテリング発表の練習をしてくる（30 分）
15	紙芝居について	紙芝居の特徴と演じ方を理解し、保育の展開について実演を通して身に付ける	絵本と紙芝居の読み方演じ方の違いについて調べ練習してくる（60 分）
16	定期試験		

単位の認定について ※試験結果（60%）発表（20%）レポート、授業外学習、課題等（20%）を総合して評価する
教科書 ※【シリーズ知のゆりかご】子どもの姿からはじめる領域・言葉
参考書 ※「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
その他適宜資料を配付する
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	子どもと人間関係 （科目コード:TNEDU110／TNNTC110）						
資格取得との関連	教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）						
担当者	井上浩義						
オフィスアワー	火曜日の放課後　授業終了後						
授業対象	保育科1年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：

子どもは、家庭や地域、幼稚園や保育所等の保育者や友達といった、様々な人とのかかわりの中で成長していく。豊かな人間関係は、子どもの成長の土台となるため、子どもの仲間関係の育ちは、保育における重要な課題となる。本授業では、乳幼児期の人間関係の育ちについて解説するとともに、現代の子どもたちが抱える人間関係にかかる諸問題を理解し、子どもの人間関係に関する諸能力の育ちや、子どもの気持ちをとらえる方法について、事例検討を通して理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	③	

到達目標： ① 子どもを取り巻く環境と「人間関係」について理解することができる。
② 人間関係の発達の特徴を説明できる。
③ 子どもの人間関係の育ちを支える保育について、考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	領域「人間関係」について	教育・保育要領における「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解する。	領域「人間関係」のねらいと内容を読む。(60 分)
2	子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴と課題	乳幼児を取り巻く社会環境について、家族や地域との関わり等の人間関係の観点から考える。	子どもの関わる人について、「生態学的システム論」について調べ、まとめる。(60 分)
3	人間関係にかかわる発達①：愛着形成、分離不安	その後の人間関係の基盤となる愛着の形成について、その重要性を信頼関係と関連付けながら学ぶ。	愛着(アタッチメント)理論について調べ、まとめる(60 分)
4	人間関係にかかわる発達②：自己制御	自己主張や自己抑制などの能力が、人間関係の中で磨かれ成長していくことについて理解する。	子どもの自己主張・自己抑制の発達について調べ、まとめる(60 分)
5	人間関係にかかわる発達③：遊びの発達	子どもたちの関係性の発達と遊びのもたらす効果について理解する。	パーテンの遊びの発達理論について調べ、まとめる。(60 分)
6	人間関係にかかわる発達④：道徳性、規範意識	道徳性の発達理論について理解し、道徳性や規範意識をどのように子どもたちに育むのかを考える。	道徳性の発達理論について調べ、まとめる。(60 分)
7	家庭や地域とのかかわりとその援助	家庭や地域とのかかわりが保育にもたらす効果について理解し、その連携方法について考える。	地域とのかかわりを育む保育行事について調べる。(60 分)
8	中間試験	ここまで学んだ内容について中間試験を受け、その振り返りを行い、後半の事例検討において活用できるようにする。	これまでの講義で学んだことを振り返り、自分の言葉で説明できるようにする。(60 分)
9	事例検討（乳児期）：大人とのかかわり	愛着理論を土台として、保育者が子どもとの信頼関係をどのように構築していくのか、事例を通して考える。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分)
10	事例検討（3 歳）：友達への関心の芽生え	３歳児の友だちへの関心の芽生えと、それを支える保育者のかかわりについて、事例を通して考える。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分)
11	事例検討（3 歳）：自己主張と自己抑制	子どもの意欲や自信を支える保育者のかかわり、ケンカを通じた心の育ちと保育者のかかわりについて、事例を通して考える。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分)
12	事例検討（4 歳）：依存と自立	関係の拡がりの中で、成長する子どもたちを支える保育者のかかわりについて、事例を通して考える。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分)
13	事例検討（4 歳）：イメージの共有	イメージを共有し協同して遊ぶ喜びを味わい始める姿と、それを取り持つ保育者の直接・間接の指導・援助について、事例を通して考える。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分)
14	事例検討（5 歳）：仲間関係の深まり	仲間関係の深まりの中で，自分たちで課題解決に取り組もうとする姿とそれを支える保育者の関わりについて、事例を通して考える。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分)
15	事例検討（5 歳）：思いやりと道徳心	友だちへの思いやりやルールの必要性に気づく子どもの姿について、園行事等の中で保育者がどのような支援を行っているのかについて、事例を通して考える。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。(各 30 分)
16	定期試験		

単位の認定について　授業内での演習・グループワークへの参加 30%、レポート等 20%、期末試験 50%を総合して評価する。
教科書・参考書　『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』その他適宜紹介する。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	子どもと表現(音楽)Ⅰ(科目コード:TNEDU103／TNNTC103)							
資格取得との関連								
担当者	後藤祐子、星﨑明里、佐々木由喜子(ysasaki@miu.ac.jp)							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：領域「表現」の内容を理解し、幼児期の感性や創造性を育むのに必要な音楽的知識と実践力を培う。幅広い音楽の体験を通して、身体表現を伴った豊かな表現力を身につける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標： ①領域「表現」のねらいや内容について、体験を通して理解する。
②音楽の基礎知識を理解し、あそびうた、生活の歌、季節の歌などを正確に歌うことができる。
③子どもの発達の過程を理解し、子どもの姿に合った音楽表現遊びを実践するとともに、援助の留意点について理解する。
④保育教材や身体表現を伴った音楽の活動を計画、実践することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	領域「表現」のねらいと内容	子どもの表現活動を支える音楽的な表現技術について学び、本科目の到達目標について理解する。	テキスト A「理論編」を読む。また、「実践編」①～⑤に目を通し、内容を把握する。(60 分)
2	楽典(1)譜表と音名・階名・鍵盤の位置、音の強弱と速さについて	わらべうた・ふれあいうたあそびを使って楽譜の基本的な読み方を学ぶ。	楽典復習、テキストA 実践編①予習復習(各 30 分)
3	楽典(2)ハ長調の音階・拍と基礎的なリズムについて	乳幼児のあそびうた・生活の歌・季節の歌（春）を題材に基本的なリズムを学ぶ。	楽典復習、乳幼児向けの手遊び歌の練習。(各 30 分)
4	楽典(3)拍と拍子について	幼児のあそびうた・生活の歌・季節の歌（春）を題材に拍と拍子について学ぶ。	楽典復習、幼児向けの手遊び歌の練習(各 30 分)
5	楽典(4)拍子とリズム・リズムパターン	幼児のあそびうた（食べ物編）・生活の歌・季節の歌（梅雨）を題材にリズムパターンを学ぶ	楽典復習、生活の歌、季節の歌、うたあそびのレパートリーを広げる。(各 30 分)
6	楽典(5)臨時記号と音程	幼児のあそびうた（動物編）・生活の歌・季節の歌（初夏）を題材に臨時記号と音階を学ぶ。	楽典復習、生活の歌、季節の歌、うたあそびのレパートリーを広げる。(各 30 分)
7	楽典（6）音程と主要なコード	幼児のあそびうた（からだ編）・生活の歌・季節の歌（夏）を題材に音程と主要なコードを学ぶ。	楽典復習、生活の歌、季節の歌、うたあそびのレパートリーを広げる。(各 30 分)
8	楽典（7）楽語（発想記号、反復記号など）について	これまで扱った題材（あそびうた・生活の歌・季節の歌）を基に楽語について復習をするとともに、発表を行う。	楽典復習、生活の歌、季節の歌、うたあそびのレパートリーを広げる。(各 30 分)
9	保育現場の音楽表現活動の実際を観る（視聴覚資料）	身体表現や効果のためのピアノ奏法（グリッサンド・クラスター・全音音階等）を学ぶ。	テキスト及び資料の予習復習(60 分)
10	身近なものを使用した音楽のあそび(ボール・フラフープ等)（1）	身体表現のために身近なもの（ボール・フラフープ等）を使った簡易楽器の効果的な使用法について学ぶ	テキスト及び資料の予習復習(60 分)
11	身近なものを使用した音楽のあそび（布・ゴム　等）（2）	身体表現のために身近なもの（布・ゴム等）を使った簡易楽器の効果的な使用法について学ぶ。	テキスト及び資料の予習復習(60 分)
12	音楽に合わせた紙芝居やペープサート等の効果的な演じ方（1）	ピアノによる効果音のつけ方について学ぶ。	音楽を伴ったペープサートの演じ方の練習(60 分)
13	音楽に合わせた紙芝居やペープサート等の効果的な演じ方（2）	簡易楽器による効果音のつけ方について学ぶ。	音楽を伴ったペープサートの演じ方の練習(60 分)
14	保育教材を伴った音楽表現活動について	グループで、保育教材を伴った音楽の表現活動の流れを考え、発表し評価しあう。	テキスト予習復習(60 分)
15	まとめ	あそびうた・季節の歌のまとめ	これまでの学習内容の全ての回を復習する。(60 分)

単位の認定について　・実技発表（授業内）40%　・授業内外課題提出 40%　・グループ発表実施と振り返り 20%
教科書　A『新たのしい子どものうたあそび―現場で活かせる保育実践－第二版』(同文書院)
B『改訂　幼児のための音楽教育』(教育芸術社)　※その他の資料やワークシート等は、適宜配布する。
参考書　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。
その他の留意点　動きやすい服装で受講すること。

授業科目名	子どもと表現(音楽)Ⅱ						
資格取得との関連							
担当者	後藤祐子、星﨑明里、佐々木由喜子(ysasaki@miu.ac.jp)						
オフィスアワー	火曜日放課後						
授業対象	保育科1年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：領域「表現」のねらいや内容をよく理解し、子どもの発達にあった音楽表現活動を実践することができるようにする。歌、楽器、遊具、教具、身体表現などを用いた幅広い音楽の体験を通して、保育者としての豊かな表現力を身につける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

評価指標： ①あそびうた、生活の歌、季節の歌などを、一人で表情豊かに演じたり歌ったりすることができる。
②楽譜を理解して、こどものうた等の習得に役立てることができる。
③コード奏法や効果的な奏法などを、子どもの表現あそびに活用することができる。
④子どもの発達を考えながら、興味や関心を引き付ける活動を計画し実践することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	領域「表現」のねらいと内容	領域「表現」のねらいや内容について復習し、本科目の到達目標について理解する。幼児のあそびうた・季節の歌	テキストを読み理論的な内容を復習する。授業内の課題を練習する。(各30分)
2	楽典(1) 音階とコードについて	乳幼児のあそびうた・季節の歌を題材に音階とコードについて学ぶ。	授業内の課題を練習する。(60 分)
3	楽典(2) コードの活用	幼児のあそびうた・生活の歌・季節の歌を題材にコードの活用方法を学ぶ。	授業内の課題を練習する。(60 分)
4	効果音の即興とその活用法	様々な表現を支えるイメージ（効果音）の活用方法を学ぶ。	授業内の課題を練習する。(60 分)
5	教育楽器の活用法	保育現場で使用される楽器類の奏法を学ぶとともに、保育内での活用方法を学ぶ。	授業内の課題を練習する。(60 分)
6	視覚教材（パネルシアターやペープサート等）を用いた音楽表現の計画と実践（1）	夏期休業中に作成した教材を使用して、表現の計画を立て練習をする。	教材の制作と課題の練習(60分)
7	視覚教材（パネルシアターやペープサート等）を用いた音楽表現の計画と実践（2）	実習(子どもの前で演じる)を想定して練習し、実践力を高める。	教材の制作と課題の練習(60分)
8	視覚教材を用いた音楽表現・グループ内発表	グループ内の発表に対する感想をまとめ評価しあう。	教材の制作と課題の練習(60分)
9	保育現場の音楽表現活動について	視聴覚資料等から、保育現場での音楽表現の実践の様子を観察し、留意点を検討する。	保育現場の視聴覚資料により、留意点をまとめる。(60分)
10	冬の曲を用いた音楽表現活動	歌や楽器のアンサンブル、身体表現等様々な音楽表現を体験して学ぶ。	授業内の課題を練習する。(60 分)
11	クリスマスにちなんだ音楽表現	歌や楽器のアンサンブル、身体表現等様々な音楽表現を体験して学ぶ。	授業内の課題を練習する。(60 分)
12	音楽表現の実践（1）	これまで習得したあそびうた・季節の歌などを題材に、音楽表現をグループで立案し練習する。	授業内の課題を練習する。(60 分)
13	音楽表現の実践（2）	あそびうた・季節の歌などを題材にした音楽表現を発表に向けて仕上げる。	授業内の課題を練習する。(60 分)
14	音楽表現の実践(発表)	グループで立案、練習した音楽表現を発表し、評価しあう	授業内の課題を練習する。(60 分)
15	まとめ	前・後期の演習を振り返り、子どもと表現の捉え方、子どもの発達にふさわしい音楽の表現指導法について総合的に理解する。	これまでの学修内容の全ての復習をする。(60分)

教科書　『新たのしい子どものうたあそび―現場で活かせる保育実践－第二版』(同文書院)
『改訂　幼児のための音楽教育』(教育芸術社) ※その他の資料やワークシート等は、適宜配布する。

参考書　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベ館)

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

その他の留意点　①動きやすい服装で受講すること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

単位の認定について　授業内外課題提出(夏季休業中の課題提出を含む)40%、個人発表　20%
グループワーク及びグループ発表　40%

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	子どもと表現(造形) I (科目コード:TNEDU106／TNNTC106)							
科目	領域および保育内容の指導法に関する科目							
担当者	鷲﨑公彦　　瀬尾哲代(t-seo@mgjc.ac.jp)							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要： 基礎となる図形などを学び、造形表現を豊かに展開する知識や技術を習得する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

評価指標： 領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の造形活動に必要となる基礎的な道具の扱いや材料などの性質等を理解して、保育者としての知識や技術を習得する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	領域「表現」について	保育所保育指針などをもとにした資料を使い表現の基本的な考え方を理解する	授業で用いた資料を復習する(30 分)
2	幼児の発達と造形表現の特徴	発達段階に応じた幼児画の見方や指導について学ぶ	授業で用いた資料を復習する(30 分)
3	基本的な道具の使い方	描画材をはじめとする道具の使い方を学ぶ	授業で用いた資料を復習する(30 分)
4	色の特徴と表現	色の持つ特徴と活かし方	季節に合った色の表現を復習する(30 分)
5	形の表現方法	形を表す　1点透視図法	絵の表現を復習する(30 分)
6	道具の扱い(ハサミなど)	切り絵作品を作りながら、ハサミやカッターの扱いを学ぶ①	指導者としてのハサミなど刃物の扱いを復習する(30 分)
7	道具の扱い(紙、糊など)	切り絵作品を作りながら、ハサミやのりの扱いを学ぶ②	紙や糊の使い方や性質について復習する(30 分)
8	紙の折り方	折り紙や半立体動物作品を作る	簡単にきれいに紙を折る方法の復習をする(30 分)
9	手作りおもちゃを作る①	日用品や自然物を用い、ねらいや留意事項を考えおもちゃを作る	作品に用いる材料を考え集める(60 分)
10	手作りおもちゃを作る②	日用品や自然物を用い、ねらいや留意事項を考えおもちゃを作る	作品を仕上げる(30 分)
11	表現と保育環境	幼児の造形表現と保育環境について学ぶ	幼児の造形表現と保育環境について復習する(60 分)
12	絵本作り①	保育現場で使える絵本について構想する	製作の計画を作る(60 分)
13	絵本作り②	計画に沿って構想した絵本を製作する	作品を仕上げる(60 分)
14	絵本作り③	計画に沿って構想した絵本を仕上げる	作品を仕上げる(60 分)
15	授業のまとめ	作った作品の鑑賞や授業で学んだことを整理する	幼児の造形表現を復習する(60 分)
16	試験	「表現」の理解、幼児画の見方など	

単位の認定について　課題作品など 70%（授業で学んだことや事前に調べたことをいかして表現し提出する)、レポート 30%

教科書・参考書　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	子どもと表現(造形)Ⅱ (科目コード:TNEDU204／TNNTC204)							
資格取得との関連	領域および保育内容の指導法に関する科目							
担当者	鷲﨑 公彦　　瀬尾 哲代(t-seo@mgjc.ac.jp)							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科1年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：クレヨン、水彩画、紙工作、木工作の基礎技能を習得する。感性を働かせて、自分の思いを生かして、作品に表現する。幼児が体験的に習得した知識・技能を使う機会を持つことで、思考力・判断力・表現力等を伸ばすことができることを体験的に学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：領域「表現」についての基本を学び、子どもの発達に応じた造形表現を理解している。自分の感性・技能・創造性を発揮した作品を製作できる。様々な造形素材についての知識を身に付ける。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	造形表現で育みたい力	幼児の思考力、判断力、表現力を向上させるために、どのようにするか	普段の生活から見立ての表現遊びについて考える(30分) ※作品提出(見立ての写真)
2	新聞紙遊び	新聞紙のお話、帽子、紙鉄砲 新聞紙でできることを試す	新聞紙を使った表現遊びを復習する(30分)
3	新聞紙紙粘土	新聞紙を使って紙粘土をつくる	新聞紙の活用について考える(30分) ※作品提出(新聞紙紙粘土)
4	こすりだし	こすりだしをし、作品制作をする	こすりだしを活用した表現について考える(30分) ※作品提出(こすりだし)
5	水彩絵の具の技法	水彩絵の具の技法を使う(スタンピング、ステンシル、バチック、デカルコマニー、ドリッピング、糸引き絵)	水彩絵の具の技法を復習する(30分)
6	お話の絵	前回の作品を使ってお話の絵をつくる	水彩絵の具の技法を活用した絵本を探して読む(60分) ※作品提出(お話の絵)
7	お花紙遊び	お花紙を使った表現を試す	お花紙を活用した表現について考える(30分) ※作品提出(お花紙)
8	色水遊び	色水を使った表現を試す	色水を活用した表現について考える(30分)
9	透過光を楽しむ製作	セロハンを使った製作をし、太陽光を使った遊びについて知る	光や影を活用した表現について考える(30分)
10	自然材	自然材を使った作品制作	自然材を活用した表現について考える(30分) ※作品提出(自然材)
11	おみせごっこの商品	お店ごっこの商品をつくる	材料準備、制作(60分)
12	おみせごっこの道具	お店ごっこの道具をつくり、実際に遊ぶ	材料準備、制作(60分) ※作品提出(おみせごっこ)
13	木育について 木工作	木育にはどのような活動があるか のこぎり・紙やすりの使い方 木を切る、研磨	木工用具の扱いについて復習する(30分)
14	木工作	塗装・組み立ての仕方 塗装・組み立て	材料準備、制作(60分) ※作品提出(木工作)
15	まとめ	授業で学んだ造形表現を通して、幼児にとっての表現の意義を考える	幼児の造形表現を復習する(60分) ※レポート提出

単位の認定について　レポート40%、課題60%

作品提出について　作品の写真を添付し、本文に感想を記述し、担当教員宛にgmailで提出する。

製作・準備・片付け　子どもの使う画材であっても、自分の感性を働かせて、今の自分の思いつくイメージを表現するよう努力してほしい。材料用具を準備して授業に臨むこと。共同で使う材料は無駄にしないこと。共同で使う用具は丁寧に扱い、片づけを進んですること。

教科書・参考書　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※ この授業ではアクティブラーニングを取り入れています。

授業科目名	子どもの健康と安全（科目コード:TNNTC205）							
資格取得との関連	保育士資格必修科目							
担当者	武村 順子　　桑迫 信子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：子どもの保健活動に関わる具体的な養護技術について、心身の発達を視点にした役割を理解しながら、演習を行う。また、疾病とその予防、アレルギーによる急変を含む救急時や事故、災害への適切な対応について、保育士としての行動を学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ○	Ⅱ◎	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：・子どもの発達段階や個性を理解し、保育を計画・実践・記録し適切な援助や支援ができるようになる。
・子どもの健康増進・心身の発育・発達を促す保健活動及び環境を学ぶとともに子どもの健康・安全に係わる保健活動の具体的援助の技術を習得する。
・子どもの疾病とその予防、救急時や事故防止への適切な対応、安全管理について具体的に説明できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	保健活動の計画及び評価	子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価の概要を理解する。（遠隔授業対応）	教科書全体を見ながら子どもの保健(前期内容)を復習し、授業の見通しをたてる。（30 分）
2	子どもの生理的機能	子どもの生理的機能の特徴を理解し、グループ内で体温・脈拍・呼吸の正しい測定方法を習得する。（グループディスカッション）	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
3	発育評価に必要な身体測定	発育評価に必要な身体測定の意義を理解し、グループ内で協力しながら正しく安全な測定方法を習得する。（グループディスカッション）	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
4	基本的生活習慣の確立	子どもの基本的生活習慣の自立としつけの必要性を理解する。 基本的生活習慣の種類と主な行為の獲得時期を理解し、グループ内で各期の発育発達に応じた援助内容を整理することができる。 （インターネットによる検索）（遠隔授業対応）	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
5	日常に必要な援助 （抱っこ・おんぶ）	抱っこ、おんぶなどの補助具について理解し、安全に配慮し、正しく使えるよう演習を行う。	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
6	日常に必要な援助 （哺乳・離乳・口腔衛生）	哺乳、離乳食、口腔衛生について理解し、安全に援助できるよう技術を習得する。（遠隔授業対応）	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
7	日常に必要な援助 （衣服）	グループ内で望ましい衣服の条件について意見交換することで理解を深め、衣服着脱の自立支援につながる技術を習得する。（グループディスカッション）	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
8	日常に必要な援助 （おむつ・排泄の自立）	子どもの排泄の特徴を理解し、排泄の自立につながる安全な援助技術を習得する。オムツ交換の演習を行う。	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
9	日常に必要な援助 （沐浴）	子どもの皮膚機能の特長を理解し、新生児の清潔保持の援助技術を習得する。沐浴の演習を行う。	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
10	日常に必要な援助（アレルギーへの対応・スキンケア）	アレルギー疾患とスキンケアの関係性を学び、個別的な配慮を必要とする子どもへの配慮と自己の役割を理解する。（遠隔授業対応）	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
11	子どもの特徴的疾病と適切な対応（事故やけがの理解）	死因順位データから不慮の事故の現状を知り、子どもが事故を起こしやすい特性について理解する。また、事故やけが、熱傷について理解し救急処置についての技術を習得する。（遠隔授業対応）	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
12	子どもの特徴的疾病と適切な対応（応急処置・事故防止と健康安全管理）	誤飲時の救急処置応急処置の技術を習得する。 集団感染予防の重要性を理解し、手洗い・うがいの援助方法を習得する。	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
13	子どもの特徴的疾病と適切な対応（救急蘇生）	災害などの危機管理や家庭および専門機関との連携の必要性を理解し、救急処置・救急蘇生法の技術を習得する。	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
14	特殊なケアの介助方法 （車イス）	グループ内で車いす体験や移動援助を行うことで個別的配慮の必要な子どもの対応について理解し、子どもの気持ちに沿った操作技術を習得する。（グループディスカッション）	不明な医学用語・専門用語を調べまとめる。小テストに向け復習をする。（30 分）
15	子どもの心とからだ	子どもの保健と安全を守るために必要な保育士の能力や自己の役割について考え表現できる。（遠隔授業対応）	14 回の授業を振り返り、自分の考えを整理しておく。（30 分）

単位の認定について

授業、実習に対する取り組みの姿勢40%（振り返りシート・忘れ物など） 小テスト評価 40% まとめレポート、ワークシート評価20%の６割点で単位が認められる。

教科書：子どもの保健と安全(中山書店)

授業外学習について：指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

参考書：子どもの保健―理論と実際―、小児看護、子どもの保健・実習ビデオライブラリー、子どもの保健(保育士養成課程光生館)
小児のアレルギー疾患保健指導の手引き（富山大学大学院医学薬学研究部小児科学講座）

※学生は毎授業後、「振り返りシート」に質問や感想を記入し、次時の授業で教員が回答を行う。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	子どもの食と栄養Ⅰ（科目コード:TNNTC104）						
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目						
担当者	髙妻瑠弥乃						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： １．健康な生活の基本としての食生活のありかたや栄養素に関する基本的な知識を理解する。
２．子どもの成長に必要な栄養素の機能や食べる意義を理解する。
３．乳児期の発育・発達の特徴と食生活の関連について理解を深める。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：・健康な体をつくるための栄養素のはたらきや食品の摂取について理解することができる。
・乳児期の発達段階における食生活の課題やその解決のための方策について、具体的に説明できる。
・乳幼児の栄養摂取や食支援を考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	「子どもの食と栄養」とは何か	子どもの心身の健康と食生活の関連を知り、この科目の学習の意義や学習方法を理解して見通しを持つ。	保育者として「子どもの食と栄養」の学習で身につけたいことをまとめる。（30分）
2	子どもの食生活の現状と課題１	子どもの食生活の現状を知り、幼児期から正しい食生活を確立することが、生涯にわたって健康な生活を送ることに繋がるということを理解する。	食をテーマにした教材から「食育」の意義を考える。（30分）
3	子どもの食生活の現状と課題２	食育基本法や保育所保育指針から、保育者として食育を推進するための取組みや食育の意義について学ぶ。食品に含まれる栄養素が果たす基本的な働きを知る。オンデマンドによる遠隔授業対応。	栄養素について調べ図表にまとめる。（30分）
4	栄養素に関する基本的知識１	栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。①脂質とたんぱく質についてとそれを多く含む食品。	加工食品の成分表示について調べる。（30分）
5	栄養素に関する基本的知識２	栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。②炭水化物についてとそれを多く含む食品。	三色食品群について調べ、子どもに伝わるよう工夫して図にまとめる。（30分）
6	栄養素に関する基本的知識３	栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。③ミネラルとそれらを多く含む食品。	厚生労働省『健康日本 21』で推奨される野菜の摂取量について調べる。（30分）
7	栄養素に関する基本的知識4	栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。④ビタミンとそれらを多く含む食品、水分について。	ビタミンB_1を多く含む食品と献立を調べる。（30分）
8	栄養素に関する基本的知識５	栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。⑤食事摂取基準について。	サプリメントの表示を調べ耐用上限量について学ぶ。（30分）
9	栄養素に関する基本的知識６	栄養素や食品に関する基礎的な知識を学ぶ。⑥食物の摂取と体内での消化・吸収について。	五感を豊かに育む食事について考える。（30分）
10	子どもの発育・発達と食生活１	献立作成と食事バランスガイドについて理解する。オンデマンドによる遠隔授業対応。	食事バランスガイドを用いた献立作成について理解する。（30分）
11	子どもの発育・発達と食生活２	妊娠期と授乳中の栄養と食事を学ぶ。	基本的な調理技術について学ぶ。（30分）
12	子どもの発育・発達と食生活３	乳児期の栄養（乳汁栄養と人工栄養）を学ぶ。	育児用ミルクの種類・特徴を調べる。（30分）
13	子どもの発育・発達と食生活４	育児用調製粉乳の扱い方、調乳用具の消毒方法、無菌操作法による調乳方法を学ぶ。	フォローアップミルクの特性について調べる。（30分）
14	子どもの発育・発達と食生活５	調乳実習を行い、安全な調乳法の実践力を身につける。	調乳実習を振り返りまとめる。（30分）
15	前期のまとめ	授業を振り返り、子どもの発育や生活に必要な栄養素の働きと摂取方法を理解する。	この授業で学んだことを振り返り、簡潔にまとめる。（30分）
16	定期試験	試験	

単位の認定について　試験 60%、学習課題の提出状況 30%、授業の取り組み状況 10%。60 点以上で単位を認定する。
教科書　「子どもの食と栄養」　飯塚美和子　桜井幸子編集　学建書院
授業外学習の取り組みについて　授業外学習にしっかり取り組み、次時の教科書の範囲を読み「予習・復習」に１時間以上取り組むこと。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。
※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（２、３、７、１２，１５）を取り入れて実施する。

授業科目名	子どもの食と栄養Ⅱ （科目コード: TNNTC104）							
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目							
担当者	髙妻瑠弥乃							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：1. 乳幼児期の食の現状と課題から食育の意義を理解し、保育現場での食育実践の基礎づくりを習得する。
2. 食育のための環境や地域社会・文化との関わりの大切さを理解し、家庭や児童福祉施設における食育を学ぶ。
3. 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：・乳幼児期の食生活の課題やその解決のための食の指導について理解できる。
・食育の重要性を理解し、食育媒体などを使って個々への食の支援ができる。
・疾病や体調不良、アレルギーおよび障がいのある子どもへの食支援を配慮できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	食育の基本と内容 1	離乳期の食べる機能の発達と食事を学ぶ。 ①離乳前期、離乳中期について。	離乳食の献立を作成する。(30分)
2	食育の基本と内容 2	離乳期の食べる機能の発達と食事を学ぶ。 ②離乳後期、離乳完了期について。	離乳食を調理し、試食する。(40分)
3	食育の基本と内容 3	幼児期の食べる機能の発達や食に関する問題行動を理解し、幼児食について学ぶ。	幼児期の食具について調べ、保護者支援について考えをまとめる。(30分)
4	食育の基本と内容 4	「食」のイメージを豊かにし、食事内容を想像する楽しみを味わえるような食育指導案について学ぶ。	正しい食事の配膳について調べる。(30分)
5	食育の基本と内容 5	食育指導のテーマを考え、食育指導計画を立案する。 オンデマンドによる、遠隔授業対応。	立案した食育指導案を振り返り、まとめる。(30分)
6	食育の基本と内容 6	「食育だより」作成に向けて、子どもの食生活の課題、家庭における食事の課題を知る。	食育だよりの参考作品の考察。(30分)
7	食育の基本と内容 7	食育だよりの作成。 オンデマンドによる遠隔授業対応。	作成した食育だよりを考察する。(30分)
8	食育の基本と内容 8	クッキング保育計画の基本的な考え方を理解し、調理工程を通して楽しみながら食事づくりに取り組めるような計画を学ぶ。	保育所における誤嚥事故発生時の対応について調べる。(30分)
9	食育の基本と内容 9	調理実習（子どもの発達に見合った調理、衛生管理、安全指導の研究）を行う。	調理実習を振り返りまとめる。(30分)
10	食育の基本と内容 10	調理実習の振り返りと、保育所におけるクッキング保育の安全で効果的な実践方法を検討する。	保育所給食における保育士の役割をまとめる。(30分)
11	食の安心・安全	食の安心・安全を理解し、家庭や保育所における食品衛生を学ぶ。	保育所における食中毒予防について調べる。(30分)
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1	食物アレルギーやのある子どもや病児への対応について学ぶ。	食物アレルギー、アナフィラキシーショックについて調べる。(30分)
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2	障がいのある子どもへの対応、外国人幼児や宗教による給食への配慮を学ぶ。	障がいのある子どもの食に関する問題行動を調べる。(30分)
14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	保育所で提供される行事食の食文化を学ぶ。	保育所における食事の役割について調べる。(30分)
15	まとめ	子どもの発育・発達段階に合わせた栄養摂取と供食、子どもの「食を営む力」を育むための支援について、授業を通して学んだことを振り返り、まとめる。	この授業を通して学んだことを振り返り、保育者の視点からみた食育の意義を踏まえてまとめる。(30分)
16	定期試験	試験	

単位の認定について　試験 60%、学習課題の提出状況 30%、授業の取り組み状況 10%。60 点以上で単位を認定する。

教科書　「子どもの食と栄養」　飯塚美和子　桜井幸子編集　学建書院

授業外学習の取り組みについて　授業外学習にしっかり取り組み、次時の教科書の範囲を読み「予習・復習」に１時間以上取り組むこと。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。
※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（３，１２、１３、１４）を取り入れて実施する。

授業科目名	子どもの保健(科目コード:TNNTC103)						
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目						
担当者	桑迫 信子、武村 順子						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科1年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：

1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：

・子どもの正常な発育・発達段階について自分なりに理解し、説明でき、人と話し合うことができる。
・子どもの疾病と予防について自分なりに理解し、適切な対応について説明でき、人と話し合うことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	子どもの健康と保健の意義	健康な発育・発達と情緒の安定に係わる保健活動の意義と目的を学ぶ。	「子ども」「児童」の意味や概要を調べノートにまとめる。(30分)
2	子どもの発育・発達と保健	生命の保持と子どもを取り巻く環境や社会の動向を学ぶ。	母子手帳の記載内容をみて、ノートに自分の発育状態を転記する。(60分)
3	子どもの身体機能の発育・発達と保健	子どもの身体発育の特徴と経過を学ぶ。(Zoom 対応可)	子どもの年齢別発育の特徴をまとめる。小テストの振り返り。(60分)
4	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の把握方法と保護者との情報共有の重要性を学ぶ。(Zoom 対応可)	自分自身の健康管理について、予防法と対処法をノートにまとめる。(60分)
5	生理機能の発育・発達と保健1	子どもの正常な呼吸、循環、体温の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可)	呼吸、循環、体温の生理機能をノートにまとめる。小テストの振り返り。(60分)
6	生理機能の発育・発達と保健2	子どもの正常な血液、免疫の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可)	血液と免疫の機能をノートにまとめる。(60分)
7	生理機能の発育・発達と保健3	子どもの正常な消化と栄養の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可)	子どもの栄養摂取の特徴と消化機能をノートにまとめる。小テストの振り返り。(60分)
8	生理機能の発育・発達と保健4	子どもの正常な尿排泄と水分代謝の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可)	子どもの尿排泄の特徴と腎機能をノートにまとめる。(60分)
9	生理機能の発育・発達と保健5	子どもの正常な内分泌、睡眠、感覚、神経の特徴とはたらきを学ぶ。(Zoom 対応可)	子どもの睡眠の特徴と内分泌、感覚、神経機能をノートにまとめる。小テストの振り返り。(60分)
10	運動機能・認知機能の発育・発達と社会性	子どもの正常な運動機能・言葉・情緒・社会性の発育・発達を学ぶ。(Zoom 対応可)	子どもの運動と言葉の発育・発達過程をノートにまとめる。小テストの振り返り。(60分)
11	子どもの疾病の特徴と適切な対応1	子どもの感染症を理解しその予防法や対応を学ぶ。①感染症、予防接種(Zoom 対応可)	子どものかかりやすい感染症の種類と予防法をノートにまとめる。(60分)
12	子どもの疾病の特徴と適切な対応2	子どもの疾病の特徴とその予防法や対応を学ぶ。②先天異常、アレルギー性疾患(Zoom 対応可)	アレルギーの種類、症状等をノートにまとめる。(60分)
13	子どもの疾病の特徴と適切な対応3	子どもの疾病の特徴とその予防法や対応を学ぶ。③消化器疾患、呼吸器疾患(Zoom 対応可)	子どものかかりやすい消化器と呼吸器系疾病の種類と症状等をノートにまとめる。(60分)
14	子どもの疾病の特徴と適切な対応4	子どもの疾病の特徴とその予防法や対応を学ぶ。④循環器疾患、血液疾患、腎・泌尿生殖器疾患(Zoom 対応可)	子どものかかりやすい循環器と腎臓系疾病の種類と症状等をノートにまとめる。(60分)
15	子どもの疾病の特徴と適切な対応5	子どもの疾病の特徴とその予防法や対応を学ぶ。⑤皮膚疾患、感覚器疾患、内分泌・代謝疾患、その他(Zoom 対応可)	子どものかかりやすい皮膚、感覚器、内分泌系疾病の種類と症状等をノートにまとめる。小テストの振り返り。(60分)
16	定期試験	前期試験	

単位の認定について　試験80%、受講態度および小テスト・課題提出20%で評価する。
教科書　新版 子どもの保健　ななみ書房出版
参考書　随時、参考資料を配布する。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、SDGsに関する内容<3、4、5、10、11、16、17>を取り入れて実施する。

授業科目名	社会的養護Ⅰ （科目コード:TNNTC108）						
資格取得との関連	保育士資格必修						
担当者	串間範一　n-kushima@mgjc.ac.jp						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：社会における家庭養護及び社会的養護の意義と歴史的変遷を踏まえ、その現状と課題について理解する。また、子どもと家族の置かれている社会実状を踏まえた社会的養護の基本について理解するとともに、社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、子どもの権利擁護等に関係する事象を理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標　・社会的養護の目的とその実態に基づいた養護の基本原理を具体的に説明できる。
・保育士として、こどもとその家族に.関する支援の枠組みと権利擁護について理解する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	社会的養護の定義と理念	社会の変化に伴う、家族・子育て意識・子育て環境の変化を理解し、社会的養護の意義を理解する。	第 1 章　児童養護が必要な子どもの実情を施設職員経験者から聞く
2	社会的養護の歴史と現在	社会的養護の歴史を理解し、明治からから現代の流れと代表的人物による事業を理解する。また、現代社会におけるこどもを取り巻く環境について考える。	第 2 章　石井十次、留岡幸助について先人の子ども家庭福祉に対する想いを探る
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの権利条約と、日本の社会的養護における、児童の権利擁護の方向性を理解し、アドボケイトの機能を理解する。	第 3 章　岡山孤児院12則を理解し、ノートに具体例を記述する。
4	社会的養護の基本原則	社会的養護の基本原理である愛着再構築、自立支援、自己領域の活用について学ぶ。	第 4 章　個の尊重及び 4 種の児童虐待の内容を調べてノートにまとめる。
5	社会的養護の制度と法体系	家庭養護が困難となった子ども達に対して行われる社会的養護の法体系と児童福祉施設の種別を理解する。	第 4 章　制度化されている養育体系の運用の仕組みについて、児童相談所の機能をとおして確認する。
6	社会的養護の対象	施設種別ごとの対象像（入退所の背景を含む）、現状と課題について理解する。	第 5 章　授業で提示する 5 つの施設の根拠条文と対象を確認する。
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護に至るルートの確認を通して、関連する組織・機関及び、施設の援助形態と職種を理解する。	第 7 章　虐待の発見から保護に至る過程に関わる組織をまとめる。(30 分)
8	社会的養護の専門職	社会的養護施設の職員配置と、配置される専門職について学ぶ。	第 5 章　施設機能の中の各専門職における役割を国の施策の中から導く
9	社会的養護の専門職２	各専門職と保育士の関係、子どもの成長に合わせた支援目標の策定の在り方を学ぶ	第6章　各専門職と、その中の保育士の役割についてまとめる。(30 分)
10	家庭養護と施設養護	里親制度・養子縁組制度について学び、その課題を理解する。また、家庭的養護の概要について学ぶ。	第 7 章　家庭養護、施設養護の長所短所をまとめる。
11	措置児童のパーマネンシープラン	施設入所に至る経緯と当事者である児童の想い、受け入れる保育士の役割について学ぶ。	第7章　家庭分離された子どもの想いを感じ取る。(GW)
12	施設等の運営管理	措置制度における施設運営の概要を知り、子どもたちにとってのより良い環境づくり、そのための職種のチームによるケアの重要性と施設の安全管理について理解する。	第 8 章　社会的養護がなぜ措置制度なのか、施設管理運営上に必要な事柄について、行政監査項目を参考に整理する。
13	被措置児童等の虐待防止	施設における権利侵害と権利擁護について、その背景にある子どもの特性と職員の対応について考え、予防的対応の在り方を学ぶ。	第 8 章　事例をとおして、施設内虐待の起こる原因や背景についてまとめ、現場実践の報告を聞く。
14	社会的養護と地域福祉	施設の地域小規模化、子育て支援機能など地域との関わりとアフターケアについて理解する。	リービングケアの実際について理解する。（事後学習 30 分）
15	児童福祉施設の支援者としての資質	社会的養護領域を担う保育士として、その専門性とは何か、その知識と技量を向上させるための取り組みについて学ぶ。	第 9 章　自己研鑽に主体的に取り組む現職者の講話を聴く。
16	試験	まとめとしての試験を行う。	

単位の認定について　単元ごとに行う小テストおよび授業プレゼンシートの整理状況の評価 30%、学期末試験 70%。
教科書・参考書　みらい　保育士をめざす人の社会的養護Ⅰ
授業外学習について　指示された授業外学習のほかに、教科書該当章を読み込み、重要な部分に下線を引くなど予習・復習に１時間をあてること。

授業科目名	社会的養護Ⅱ （科目コード:TNNTC202）							
資格取得との関連	保育士資格必修							
担当者	串間範一　n-kushima@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：子どもを養育保護する「社会的養護」のニーズを踏まえ、施設養育におけるプロセスと保育士としての基本的な養育姿勢を理解し、心の支援・親子関係の支援・地域支援そして児童福祉施設の運営管理等について事例検討や演習等を通して理解する・

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標　・社会的養護の目的とその実態に基づいた施設保育士としての基本姿勢を身に着ける。
・施設保育士として、こどもとその家族の持つ課題に対処できる具体的な養護技術の基礎を理解する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	社会的養護Ⅰの振り返り	社会的養護における保育士の役割について、社会的養護Ⅰの再確認しⅡでの学習課題を整理する。	社会的養護Ⅰでの学習プレゼンシートの確認を行う。
2	家庭養育下で起きる子どもの支援と社会的養育の必要性	事例「たかし君のケース」から家庭環境の中で生じる子どもの想いを推察し、社会的養育の必要性について理解を深める。	第１章　事例検討を通して、子どもの想いや家族に対する支援者として持つべき視点を考える。
3	児童福祉法の持つ養護姿勢と相談支援の体系	児童福祉施設の体系と類型及び児童相談所をはじめとした行政等の支援の種類と役割について理解する。	第１章　家庭養育への移行の意図、里親制度とそのしえんの現状と課題を調べる。
4	施設養護のプロセスと展開	事例「荒れるＡ君」のケースから、施設養護のプロセスとその展開の在り方について理解し、子どもにとって施設でくらすということ、家族とはなにかを考える。	第２章　施設で暮らす子供たちの心情を推察し保育士としてどのような姿勢が必要なのかを考える。
5	施設養護の実際	家庭養育が困難な子ども達に対して行われる社会的養護の日常支援に触れ、保育士として身に着ける具体的な専門性を理解し基本を身に着ける。	第３章　子どもたちに身に着けさせるべき基本的生活習慣や学力について実際の取り組みを知る。
6	心の支援　「愛着形成」	虐待体験等で心に傷を受けた子どもたちへの支援の現状を知り、「愛着」の大切さを感じ取る。	第４章　愛着関係を築くために必要な保育士の姿勢について考える。
7	心の支援　「新入児の受け入れ」	事例「新入児を迎えて」により子どもの心模様と受け入れる保育士の心模様を整理し互いの想いを予見する。	第４章　子どもの不安と向き合う、日々の関わり方について考える。
8	親子関係支援	家庭調整の難しさを知り、家族とこどもの心情を理解するための専門的アプローチを学ぶ。	第５章　家族復帰(再統合)に向けた施設の取り組みを調べる
9	地域・学校との関係づくり	事例「学校等との関係」により、子どもの生活環境のなかにある関係機関との連携の在り方を検証し、共通理解を図る取り組みの実際に触れる。	第６章　子どもが生活する領域の中で関係する他機関との連携を事例を通してその意味を理解する。
10	医療的支援・心理療育の現状	施設入所児の発達障害等に対する支援は、日常生活支援と並行して大切な取り組みである。その実際を知る	第６章　発達障害等の特性を調べ、ここに応じた具体的な支援の実際を知調べる。
11	自己実現・自立支援	子ども一人ひとりの可能性を踏まえた自立支援について、施設生活の中で行われる支援の現状を知り、自立支援計画の実際を知る。	第７章　自己選択・自己決定のためにどのような取り組みがなされているのかを調べる。
12	施設等の運営管理	措置制度における施設運営の概要を知り、子どもたちにとってのより良い環境づくり、そのための職種のチームによるケアの重要性と施設の安全管理について理解する。	第８章　社会的養護がなぜ措置制度なのか、施設管理運営上に必要な事柄について、行政監査項目を参考に整理する。
13	被措置児童等の虐待防止	施設における権利侵害と権利擁護について、その背景にある子どもの特性と職員の対応について考え、予防的対応の在り方を学ぶ。	第８章　事例をとおして、施設内虐待の起こる原因や背景についてまとめ、現場実践の報告を聞く。
14	社会的養護と地域福祉	施設の地域における子育て支援の役割について、その施設機能の理解とともに、実際の取り組み事例をとおして保育士の役割を理解する。	第９章　子育て支援機関の種類とその機能を調べ、児童福祉施設との関係性を理解する。
15	児童福祉施設の支援者としての資質	社会的養護領域を担う保育士として、その専門性とは何か、その知識と技量を向上させるための取り組みについて学ぶ。	第９章　自己研鑽に主体的に取り組む現職者の講話を聴く。
16	試験	まとめとしての試験を行う。	

単位の認定について　数単元ごとに行う小テストおよび授業プレゼンシートの整理状況による評価 30%、学期末試験 70%。

教科書・参考書　みらい　新保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ

授業科目名	社会福祉論 （科目コード:TNNTC107）							
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目							
担当者	木村　匡登							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： ※「福祉」を自分自身の生活と結び付けてとらえてもらいたい。

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
3. 社会福祉における相談援助について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標： 「社会」を視野に入れた（「個人」にとどまらない）考え方ができる。
「福祉」をめぐる概念や考え方を、自分なりに理解し説明できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	社会福祉の原理と政策	オリエンテーション、「生活」に関わる、社会福祉の概念・理念と意義。 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	辞書で、「福祉」を調べておく。 テキスト第1章。まとめプリントの復習（60分）
2	社会福祉の歴史的形成	社会福祉がどのように変遷してきたか。諸外国における社会福祉。社会保障の概要。 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで「戦災孤児」を調べる。 テキスト第 2 章。まとめプリントの復習（60分）
3	社会福祉の法律	社会福祉と社会保障の概念と制度の実際。 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで「福祉六法」「社会福祉法」を調べる。テキスト第3章。まとめプリントの復習（60分）
4	社会福祉の制度と実施体系	社会福祉を実施する代表的な機関・施設とお金の動き。（Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	辞書で「富の再分配」を調べる。ネットで「社会保障給付費の推移」を調べる。 テキスト第4章。まとめプリントの復習（60分）
5	社会福祉の民間活動	社会福祉の民間活動を学び、国、都道府県、市町村役割と、共助、自助の最適ミックスを考える （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで「ACHA Project」を調べる。 テキスト第 5 章。まとめプリントの復習（60分）
6	社会福祉専門職	社会福祉を実施する機関・施設における専門職とそれぞれの役割。 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで「社会福祉士」、「PT、OT、ST の仕事」を調べる。 テキスト第 6 章。まとめプリントの復習（60分）
7	ソーシャルワーク	相談援助の意義・対象・援助過程・方法。各専門職との連携と保育士 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する	ネットで「児童福祉司」「社会福祉主事任用資格」「こども家庭センター」を調べる。 テキスト第 6 章。まとめプリントの復習（60分）
8	権利擁護を支える法制度	（Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで「成年後見制度」について調べる。 辞書で「アドボカシー」を調べる。 施設見学実習のまとめを読み返す。テキスト第 8 章。まとめプリントの復習（60分）

9	子ども家庭福祉	現代の少子社会において、子どもと家庭を支援し、児童の福祉と「子どもの最善の利益」を実現する活動の具体的内容と課題 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	辞書で「子どもの最善の利益」を調べる。保育所見学実習のまとめを読み返す。 テキスト第 9 章。まとめプリントの復習（60分）
10	高齢者保健福祉	人口問題と高齢化を踏まえた高齢者の保健福祉と、年金保険の概要 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで、「人生 100 年時代」、「地域包括ケア」を調べる。 テキスト第 10 章。まとめプリントの復習（60分）
11	障がい者福祉	障がい児・者に関わる施策や現状を踏まえ、課題を考える （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで「身体障がい、知的障がい、精神障がい」、「被災障がい者」を調べる。 テキスト第 11 章。まとめプリントの復習（60分）
12	生活保護	格差・貧困、孤立を踏まえた生活保護の内容と課題 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで「母子世帯の貧困率」を調べる。 テキスト第 12 章。まとめプリントの復習（60分）
13	地域福祉	現代社会における在宅福祉・地域福祉について （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	宮崎市HPで「地域福祉計画」を調べる。ネットで「ヤングケアラー」について調べる。 第 13 章まとめプリントの復習（60分）
14	医療福祉	日本における医療福祉医療・保険の概要。看護と社会福祉の連携。 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。 Universal passport を使って小テストを行う。 次回授業内で解説する。	ネットで「周産期を支える都城」、「医療的ケア児」を調べる。 テキスト第 14 章。まとめプリントの復習（60分）
15	社会福祉の今後の課題	共生社会の意義と、それを実現するための課題 （Zoom での遠隔授業変更可能） 小グループによるディスカッションを行う。	辞書で「共生社会」を調べる。テキスト第 15 章。まとめプリントの復習（60分）
16	試験		

単位の認定について　定期試験の結果（70%）と毎回の受講態度及び課題・小テスト（30%）を総合して評価する。
教科書　勁草書房　社会福祉の拡大と形成［福祉の基本体系シリーズ］
参考書　ここでは特に指定しない。必要に応じて講義中で紹介する。
授業外学習について　予習としてシラバスに示すテキストの該当章を読み、重要と思われる部分に下線を引くこと。
毎回の課題、単元ごとに配布する復習まとめプリントに１時間の時間をあてること。適宜小テストを実施する。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック・採点後に適宜解説する。質問については、授業で解説するほか、質問内容により、メールにて回答する。

※この授業では、SDGsに関する内容（1.3.8.10.11.17）を取り入れます。

授業科目名	障がいと社会　（科目コード:TGHCS101）						
資格取得との関連	発達障がい児サポーター必修科目						
担当者	桐明　里美　　三宅　浩子　　松田　昭憲 武村　順子　　小澤　拓大						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科１年	開講時期	前期(集中)	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要・SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」「持続可能で多様性と包摂性のある社会」について、障がいやその他の社会的少数派の視点で議論する。
・多角的な視点で多様性について考え、誰もが安心して暮らせる社会を構築する一員としての自覚を持ち、自身の価値観を広げる。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ○	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標・「誰一人取り残さない」「持続可能で多様性と包摂製のある社会」について、自分の考えを持ち、他者に伝えることができる。
・他者の考えを尊重しながら、議論を進めることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 多様性の尊重とは (桐明)	・授業主旨と目的を理解する。 ・ワークを通して、人はもともと皆違うことを理解する。	「普通って何だろう」(YouTube)で検索して出てきた動画を１本視聴して感想を書いておく。(60 分)
2	障がいのある子もない子も共に育ち合う保育とは(三宅)	全ての子どもが共に育ち合う保育やインクルーシブ保育について学ぶとともに、ディスカッションを通して他者の意見に触れ、多様な考えがあることを知る。	インクルーシブ保育について調べる（30 分）
3	多様性の尊重とは	保育機関の事例を通して、発達の違いに留まらない多様性の尊重について学ぶ。	本時に講師より提示されるテーマについてのレポートを書く。(60 分)
4	人に優しいユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインを取り入れた身近な事例(分野別)をグループに分かれて IoT で調査する。また、「人に優しいデザイン」をさらに発展させるために必要なアイディアをグループ発表し、理解を深める。	ユニバーサルデザインとエルゴノミクスデザインの違いについて調べる。例:エルゴチェアはユニバーサルデザインなのか等（30 分）
5	学習障がい(限局性学習症)の理解(松田)	認知の仕組みを基礎に、学習障がいについて学ぶ	学習障がいの３つのタイプについて調べる（30 分）
6	注意欠如多動性障がいの理解(松田)	神経伝達の仕組みやワーキングメモリーを基礎に、注意欠如多動性障がいについて学ぶ	ワーキングメモリーについて調べる（30 分）
7	自閉スペクトラム症の理解(松田)	感覚の統合の仕組みを基礎に、自閉スペクトラム症について学ぶ	サバン症候群について調べる（30 分）
8	高等教育における障がい者の理解と支援 1(武村)	・ICF の理念から援助すべき項目を考える ・ディスカッションを通して当事者意識を深める	ICF について調べる。（60 分）
9	高等教育における障がい者の理解と支援 2(武村)	短大施設内での環境について探索をして、全ての学生が過ごし易い環境を考える。	学内施設や学内の学びの環境について日頃から注意を向けて、授業に役立てられるようにまとめておく。(60 分)
10	就労における障がい者の理解と支援	主に、発達障がいのある人の就労について学ぶ。	発達障害者の就労支援について、調べておく。(60 分)
11	少数派の困難(1)	少数派の生きづらさの理解を生活の視点から深める。	予習・自分自身や身近な人のことについて「少数派」だと感じることを数点挙げ、そこから来る生活上の制約などを具体的に例示できるようにしておく。
12	少数派の困難(2) －LGBTQ－（桐明）	少数派の生きづらさの理解を生活の視点から深める。	予習・自分自身や身近な人のことについて「少数派」だと感じることを数点挙げ、そこから来る生活上の制約などを具体的に例示できるようにしておく。
13	多様性とステレオタイプ(小澤)	多様性の尊重においてステレオタイプがどのように関わってくるのかについて学ぶ。	特定の集団に対する固定されたイメージを持つことが、何をもたらすのかについて自分なりに説明できるようにしておく。(30 分)

14	多様性の理解とチームビルディング (三宅)	感覚・思考・記憶の視点から発達の多様性について学び、多様性を尊重するチームビルディングについてグループ演習で考えを深めていく。	自身の感覚特性、思考の傾向、記憶の容量、得意な記憶術等について、説明できるようにしておく。(30 分)
15	まとめ グループ発表 (桐明)	「多様性が理解され尊重される社会の在り方」について、グループで考えをまとめて発表する。	15 回の授業を振り返り、多様性が尊重される社会についてまとめる。(30 分)

単位の認定について　講義内で提示される課題を各担当教員の指示に従って提出する。
課題提出 70%　意欲･態度 30%

教科書　オムニバス授業のため、教科書を使用せず、適宜資料を配布する。

参考書　担当教員がそれぞれの講義で紹介する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題については、授業内で解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れる。

※この授業では、SDGs に関する内容(4.5.10.11)を取り入れる。

授業科目名	障がいのある子どもと保育 （科目コード:TNHCS101）							
資格取得との関連	本学独自資格「発達障がい児サポーター」に関する科目（必修）							
担当者	三宅 浩子（h-miyake@mgjc.ac.jp） 桐明 里美							
オフィスアワー	授業終了時							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期（集中）	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：発達障がいや、発達障がいが心配される子どもの行動を発達的視点で理解して、適切な対応を学ぶ。また、多様な子どもたちが、安心して過ごせるクラス運営を社会モデルの視点で検討する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	③○

到達目標：発達の多様性に寛容になり、子どもを思いやる温かいマインドを持つ。
子どもの行動の背景を発達特性と環境の相互作用として理解することができる。
多様な子どもたちが在籍するクラスの保育や個別の支援を、社会モデルの視点で工夫することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	多様化する保育社会の課題と、発達障がい児サポーターに期待されることを知り、どの子も主体的に育つ保育を実現する保育者としての心構えを持つ。	これまでの実習を振り返り、保育が難しいと感じた子どもの行動と、保育者の対応について報告できるようにまとめておく。(60 分)
2	環境の支援	・実習で出会った子どもの姿を想像しながら、各園の環境設定とそのねらいや効果について学ぶ。	授業外学習課題シート Vol.1 を提出できるようにまとめておく。
3	発達の多様性 子どもの行動の捉え方	・行動とは何かを学び、良い行動を承認して増やす方法を学ぶ。	実習日誌を読み返し、子どもたちの姿と、指導者の対応等を見なおす。(60 分)
4	行動観察と記録	・子どもの実態を把握するための観察と記録の方法を学ぶ。	本時の課題を完成させる。(60 分)
5	感覚と記憶	園生活に馴染みにくい子どもの対応と、その背景、クラス運営を学ぶ。	子どもの特性に合わせた環境づくりを考えて図式化する(60 分)
6	感覚と覚醒レベル	ぼーっとしがち、気分が高揚しがちな子どもの対応とその背景、個別の配慮を学ぶ。	テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分)
7	固有覚と前庭覚	動きが多い子どもや、動きたがらない子どもの対応とその背景、個別の配慮(環境の支援)を学ぶ。	テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分)
8	思考のくせ	失敗に弱い、一番に拘る等の傾向が強い子どもの理解と対応を学ぶ。	テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分)
9	コミュニケーション能力と注目のパワー	子どもの困った行動の意味と対応を、行動・学習の理論を用いて学ぶ。	テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分)
10	シングルフォーカスと心の理論	自己主張が強すぎて、他児とトラブルになりやすい子どもの理解と対応を学ぶ。	テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分)
11	視知覚と姿勢保持	保育者の話を聞いていられない、姿勢が崩れやすい等、集合する場面での対応が難しい子どもの理解と配慮を学ぶ。	テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分)
12	氷山モデル 行動観察のポイント	子どもの言動を想定しながら、目に見えない部分(発達)をこれまで学んできた視点で理解する。	テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分)
13	遊びの発達と社会性	遊びの発達の捉え方とクラスの環境構成を学ぶ	遊びの発達に関する推奨動画を視聴して課題シートに記入する。
14	ケースで学ぶ	感覚統合の遊びを体験して保育への導入を計画する。	テキストとワークシートを使って、本時学んだ子どもの行動理解と支援を復習する。(30 分)
15	学びのチェックと解説	学びのチェックシート記入。	全ての回を復習してまとめる。(60 分)

単位の認定について ワークシート 40% 授業外学習課題シート提出 20% 学びのチェック 30% グループワーク 10%

教科書　「多様な子どもたちの発達支援　なぜこの行動？　なぜこの対応？　理解できる 10 の視点」Gakken
参考書　授業内で適宜紹介

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れる。

授業科目名	身体表現及び即興演奏法 （科目コード:TNMTH202/TNNTC222）						
資格取得との関連	音楽療法士2種必修科目						
担当者	星﨑 明里						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科2年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	2

授業概要： 音や音楽と、子どもの心身の発達の関係を理解した上で音楽の遊びを展開するための技術と身体の動きについて学ぶ。また、子どもの動きや発する声、音を瞬時に捉え、即興的に返す表現法を学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

評価指標： 子どもの発達を踏まえた作品を作り、声や音、身体の動きで表現することができる。
様々な楽器を選んで、心身の動きに合った音を即興的に作り出すことができる。
音や音楽、動きでコミュニケーションをとりながらグループワークができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 音と動きの活動①	授業についてのオリエンテーションを行う 音や音楽を聴きながら動く活動を行う	音付けの練習、授業の記録。(60 分)
2	音と動きの活動②	乳幼児の発達に合った身体遊びに音付けをする。 グループワークで行う「れんしゅう in はらっぱ」	乳幼児の遊びに合った音付けの練習を行う。(30 分)
3	音と動きの活動③	乳幼児の発達に合った身体遊びに音付けをする。 グループワークで行う「○のはなし」	乳幼児の遊びに合った音付けの練習を行う。(30 分)
4	絵譜による表現①	グループワークを行う「2 人はなかよし No.1、No.2」	作品発表の練習を行う。(60 分)
5	絵譜による表現②	グループワークを行う「でてこいよ」	作品発表の練習を行う。(60 分)
6	絵譜による表現③	グループワークを行う「tipo の行進」「パンはいかが」	作品発表の練習を行う。(60 分)
7	即興演奏①	様々な楽器を使った即興演奏を行う。	音の出し方を練習する。(30 分)
8	即興演奏②	音や音楽の即興演奏と動きの即興活動を行う。	音の出し方を練習する。(30 分)
9	素材と音、動き①	様々な感触・素材・形・大きさに合った音と動きの活動を行う。	課題を行う。(30 分)
10	素材と音、動き②	様々な感触・素材・形・大きさに合った音と動きの活動を行う。	課題を行う。(30 分)
11	声や音と動きの作品①	絵本を題材とした音・音楽・演技を伴う表現活動を行う	作品発表の練習、授業の記録(60 分)
12	声や音と動きの作品②	絵本を題材とした音・音楽・演技を伴う表現活動を行う	作品発表の練習、授業の記録(60 分)
13	声や音と動きの作品③	絵本を題材とした音・音楽・演技を伴う表現活動を行う	作品発表の練習、授業の記録(60 分)
14	声や音と動きの作品④	絵本を題材とした音・音楽・演技を伴う表現活動を行う	作品発表の練習、授業の記録(60 分)
15	作品発表	グループごとの発表を行う	レポートを提出する(60 分)

単位の認定について

実技試験 50%、活動への取り組み 30%、授業記録・レポートの提出 20%

教科書

「はらっぱ de 楽譜集」 中島恵子 (2010 第 3 版改訂版)こども音楽センター遊音印刷
「音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー」中島恵子 山下恵子 春秋社

授業外学習 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業の準備をすること。

※この授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れています。

授業科目名	声楽 （科目コード:TNMTH102）						
資格取得との関連	音楽療法士２種に関する科目（必修）						
担当者	太田宏美 h-oota@mgjc.ac.jp						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	2

授業概要： 正しい発声法に基づき、練習曲、日本歌曲、外国歌曲、童謡、ポピュラー曲などを教材としながら、歌うことに慣れ親しみ、豊かな表現力を養う。また、音楽療法の実践場面でどのように生かしていくかを実践的に学ぶことを目標とする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP					
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ◎	① ○	②	③			

到達目標： ・練習曲、日本歌曲、外国曲を豊かに表現できる。
・音楽療法実践場面で、歌の指導ができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション、発声法、呼吸法の基本	授業の概要を説明。発声、呼吸の基本の習得、練習曲の取り組み	楽譜の準備と発声練習（60分）
2	発声法の基本、歌唱実技①練習曲	発声法、呼吸法、歌い方①	発声練習、読譜（60 分）
3	発声法の基本、歌唱実技②練習曲	発声法の習得、歌い方②	発声練習、読譜（60 分）
4	歌唱実技③練習曲、日本曲	日本曲の歌い方①	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
5	歌唱実技④練習曲、日本曲	日本曲の歌い方②	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
6	歌唱実技⑤練習曲、外国曲	外国曲の歌い方①	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
7	歌唱実技⑥練習曲、外国曲	外国曲の歌い方②	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
8	歌唱実技⑦練習曲、童謡	童謡の歌い方①	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
9	歌唱実技⑧練習曲、童謡	童謡の歌い方②	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
10	歌唱実技⑨練習曲、ポピュラー	ポピュラー曲の歌い方①	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
11	歌唱実技⑩練習曲、ポピュラー	ポピュラー曲の歌い方②	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
12	歌唱実技のまとめ①	音楽劇での歌唱と表現①	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
13	歌唱実技まとめ②	音楽劇での歌唱と表現②	発声練習、読譜、歌唱（60 分）
14	歌唱実技まとめ③	音楽劇での歌唱と表現③	発声練習、歌唱（60 分）
15	歌唱実技まとめ④	音楽劇での歌唱と表現④	発声練習、事前の歌と伴奏合わせ（60 分）

単位の認定について 実技試験（30%）、受講状況（練習状況、態度等）（40%）、授業外学習・提出課題（30%）により評価

教科書・資料 授業内で配布する。

授業外学習について 授業外学習の他に、予習・復習（実技練習）を１時間やり、授業に備えること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	特別支援教育Ⅰ（科目コード:TNEDU116/TNNTC116）							
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目							
担当者	桐明 里美							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	1	

到達目標：発達障がいをはじめとする様々な障がいのある子どもの「発達」や「障がい特性」についての理解を深め、特別な教育的ニーズをもった子どもを含むノーマライゼーションにおける障がい児保育を支える理念(インテグレーション、インクルージョン)を学ぶとともに、その子どもの生活上の困難や個別の教育的ニーズに対する保育者の役割、関係機関との連携について必要な知識や支援方法を理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ○	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

評価指標：
- 子どもの発達と障がいについての基礎的特徴を理解し、保育をする上で基本的対応の理解ができる。
- 子どもの障がいの原因や特性について理解し、診断名ありきではなく正しい認識のもとに愛情をもって接する態度を身につける。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	「障がい児保育」の基本について	自分の障がいに対する認識を見つめなおし、国際生活機能分類(ICF)の障がいの概念と合わせて障がいに対する考えを深め、子どもに寄り添う態度を考える。	これまでの障がい児・者との出会いや、日常生活での体験についてまとめる。(30 分)
2	障がい児保育の理念とあゆみ	日本が歩んできた障がい児保育の歴史について知り、ノーマライゼーション及びインクルーシブ保育についての基礎知識を学ぶ。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説から、障がい児に関する箇所を調べる。(30 分)
3	視覚障がいの基本的な理解と支援	視覚の仕組みと基本的な障がいの原因・特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	視覚障がいの特性、対応の基本について調べる。(30 分)
4	聴覚障がいの基本的な理解と支援	聴覚の仕組みと基本的な障がいの原因・特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	聴覚障がいの特性、対応の基本について調べる。(30 分)
5	ことばの障がいの基本的な理解と支援	構音の仕組みと言語障がいの原因・特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	ことばの障がいについて調べる。(30 分)
6	肢体不自由の基本的な理解と支援	肢体不自由及び重症心身障がいの基本的な原因・特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	身体障がいの特性、対応の基本について調べる。(30 分)
7	知的障がいの基本的な理解と支援	知能検査について知り、知的障がいの原因・特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	知的障がいの特性、対応の基本について調べる。(30 分)
8	発達障がいの基本的な理解と支援①限局性学習症(LD・SLD)	７つの感覚並びに認知の仕組みについて知り、学習障がいの原因・特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	ＬＤの特性、対応の基本について調べる。(30 分)
9	発達障がいの基本的な理解と支援②注意欠如多動症(ADHD)	ヒトの脳の前頭前野の働きやワーキングメモリ等の機能について知り、ＡＤＨＤの特性を理解し、基本的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	ＡＤＨＤの特性、対応の基本について調べる。(30 分)
10	発達障がいの基本的な理解と支援③自閉スペクトラム症(ASD)	ヒトの脳についての基礎的な知識や「心の理論」について知り、ＡＳＤの特性を理解し、「構造化」や基本的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	ＡＳＤの特性、対応の基本について調べる。(30 分)
11	発達障がいと混同される傾向並びに「気になる子」や「特別な教育的ニーズをもつ子」の基本的な理解	愛着理論及び子どもの愛着形成について知り、愛着障がいの基礎的な知識を理解する。また、境界性パーソナリティ症やＨＳＣについて知り、基本的な支援方法を理解する。子どもの性別不合を知り、ジェンダーバイアスについて考え、基本的な支援方法を理解する。	どのような子どものことが「気になる子」なのかを、まとめる。(30 分)
12	子どもの行動の客観的な理解～応用行動分析学の活用	学習理論と応用行動分析学の理論や手法の基礎的な知識を知り、子どもの行動の客観的な見方と分析について学ぶ。	事例（子どもの行動）を客観的に分析し、行動の機能についてまとめる。(30 分)
13	障がい児保育の実際①TEACCH プログラム等の療育技法	TEACCH プログラム等の療育技法から、構造化された基本的な支援方法を理解する。グループで協議し、発表する。	インターネット等を活用しながら TEACCH プログラムについて調べる。(80 分)

14	障がい児保育の実際②家庭や関係機関との連携	家族の子どもの受容を見極めながら連携することの重要性について学び、保育者としての望ましい態度を理解する。関係機関との連携についてグループで協議し、発表する。	相談支援、子育て支援についての関係機関を調べる。（30 分）
15	障がい児支援の整理とまとめ	子どもの様々な発達や障がい特性、障がい児保育を支える理念や個別の教育的ニーズに対する保育者の役割、関係機関との連携について、整理し、理解を深める。	これまでの学びから、障がい別の支援方法についてまとめる。（60 分）
16	試験	まとめとしての試験を行う。	

単位の認定　期末試験 70%、学習課題レポート提出(ワークシート)20%、授業に取り組む態度 10%。60%以上で単位認定。
教科書　『よくわかる！保育士エクササイズ９　障害児保育演習ブック』松本峰雄監修　増南太志編著(ミネルヴァ書房)
参考書　『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
『配慮が必要な子どもの発達支援百科』藤原里美編著（中央法規）
『保育者・教育者になる人のための特別支援教育－当事者の声を聴く－』小林芳文監修・著（萌文書林）
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて行う。
※この授業ではインターネット等を活用して調査し、レポート作成や発表を行う。

授業科目名	特別支援教育Ⅱ（科目コード:TNEDU212/TNNTC212）							
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目							
担当者	桐明 里美							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	1	

到達目標：発達障がいや、特別な教育的ニーズをもつ様々な子どもの「発達」や「障がい特性」、障がい特性に応じた個別支援のあり方、他の子どもたちとの関わり合いの中で育ちあう保育実践について理解する。また、保護者の障がい受容、保護者支援のあり方や関係機関（教育・医療・労働・福祉等）との連携について理解を深める。特別の支援を要する子どもを、達成感を得させながら自己肯定感を高めるための基本的な支援ができる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

評価指標：・ 気になる子どもの行動特性と生育環境や障がいとの関係を理解し、保育のあり方を「周囲の環境」「子どもの行動」「保育者の対応」から考えることができる。
・ 障がい受容を、親・きょうだい児・保育者・社会の面から捉えるとともに、個別支援のあり方を園内・園外の支援体制、就学支援の保育関連施策の面から考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	「特別支援教育Ⅰ」のふりかえり	「特別支援教育Ⅰ」で学んだ発達障がいをはじめとする様々な子どもの「障がい特性」や「発達」についての理解、障がい児保育の歴史と理念（ノーマライゼーション、インテグレーション、インクルージョン）、子どもの生活上の困難や個別の教育的ニーズに対する保育者の役割、関係機関との連携について復習する。	「特別支援教育Ⅰ」で学んだ、すべての障がいの特性についてまとめる。（30 分）
2	視覚と身体面のサポートを必要とする子どもの理解と具体的支援	「見える」仕組みと視覚障がいの特性を理解し、支援について学び、具体的支援について理解する。 また、肢体不自由の特性を理解し、支援について学び、具体的支援について理解し、事例について考え、グループで協議し、発表する。	視覚障がいと身体障がいの特性、具体的な対応について検討したものをグループで協議し発表する。（60 分）
3	聴覚と言語面のサポートを必要とする子どもの理解と具体的支援	「聴こえる」仕組みと聴覚障がいの特性を理解し、支援について学び、具体的支援について理解する。 また、構音障がいや場面緘黙等の特性を理解し、支援について学び、具体的支援について理解し、事例について考え、グループで協議し、発表する。	聴覚障がいと構音障がいの特性、吃音と場面緘黙症の具体的な対応について検討したものをグループで協議し発表する。（60 分）
4	認知面にサポートを必要とする子どもの理解と具体的支援	知的発達と知的障がいの特性を理解し、支援について学び、具体的支援について理解する。 また、医療的ケアと重度重複障がい児について理解し、支援について学び、具体的支援について理解し、事例について考え、グループで協議し、発表する。	知的障がい児並びに重度重複障がい児の特性、具体的な対応について検討したものをグループで協議し発表する。（60 分）
5	発達障がいの基本的な理解と支援①限局性学習症(LD・SLD) 発達性協調運動症(DCD)	７つの感覚並びに認知の仕組みについて振り返り、学習障がいの原因・特性を理解し、具体的な支援方法を理解する。事例への対応について考え、グループで協議し、発表する。	ＬＤ児の特性、具体的な対応について検討したものをグループで協議し発表する。（60 分）
6	発達障がいの基本的な理解と支援②注意欠如多動症(ADHD)と高次脳機能障害	ヒトの脳の前頭前野の働きや覚醒、ワーキングメモリ等について振り返り、ＡＤＨＤの特性を理解し、具体的な支援方法を理解する。また、頭部外傷等による脳の機能障害について知り、事例について考え、グループで協議し、発表する。	ＡＤＨＤ児の特性、具体的な対応について検討したものをグループで協議し発表する。（60 分）
7	発達障がいの基本的な理解と支援③自閉スペクトラム症(ASD)	ヒトの脳についての基礎的な知識や「心の理論」について振り返り、ＡＳＤの特性を理解し、具体的な支援方法を理解する。また、言語発達症や吃音等のコミュニケーション障がいについて整理する。事例について考え、グループで協議し、発表する。	ＡＳＤ児の特性、具体的な対応について検討したものをグループで協議し発表する。（60 分）
8	発達障がいと混同される子どもや「気になる子」の理解と支援①	愛着理論及び子どもの愛着形成について振り返り、親の養育態度と愛着障がいの関係について理解する。また、子どもの心因性の習癖や愛情遮断症候群等について知り、具体的な支援方法を理解する。	特別な教育的ニーズをもつ子どもについての具体的な支援について検討したものをグループで協議し発表する。（60 分）
9	子どものアセスメント①心理検査	遠城寺式乳幼児分析的発達検査、KIDS 乳幼児発達スケール、WPPSI、田中ビネー、K-ABC 等のアセスメントについて知り、目的とそれに応じた検査法の選択について理解する。	検査結果を基に、子どもの特性を分析する。（60 分）

10	子どものアセスメント②行動観察	学習理論を振り返り、子どもの行動の客観的な見方と分析について理解を深める。また、子どもの意思を重視した行動分析について学ぶ。	子どもの行動の ABC 分析を行い、発表する。(30 分)
11	発達支援の技法 ～ＳＳＴ	社会生活の中で対人関係場面において、適切に反応するために用いられる言語的・非言語的な対人行動のトレーニング方法について知り、理解する。	インターネット等を用いてソーシャルスキルトレーニングについて調べる。(80 分)
12	子どもの行動の客観的な理解～応用行動分析学の活用①	応用行動分析学の理論や手法の基礎的な知識を振り返り、子どもの誤学習並びに未学習を望ましい行動の学習へとつなげるための知識を得る。事例についてグループで協議し、発表する。	事例(子どもの行動)を客観的に分析し、行動の機能についてまとめる。(30 分)
13	子どもの行動の客観的な理解～応用行動分析学の活用②	行動の問題についての視点を振り返り、事例の行動問題を解決するために、子どもの行動を分析して支援計画をつくる。グループで協議し、発表する。解説を聞いて、支援計画を完成させる。	事例（子どもの行動）の ABC 分析を行い、支援計画をつくり、発表する。(40 分)
14	子どもの行動の客観的な理解～応用行動分析学の活用③	事例の行動問題を解決するために、子どもの行動を分析して支援計画をつくる。グループで協議し、発表する。解説を聞いて、支援計画を完成させる。	事例（子どもの行動）の ABC 分析を行い、支援計画をつくり、発表する。(40 分)
15	障がい児保育の整理とまとめ	発達障がいをはじめ様々なニーズのある子どもへの、基本的な理解と具体的支援について整理し、保育者としての実践的な知識とする。	これまでの講義で取り扱った障がいのある子どもへの、具体的支援について整理する。(60 分)
16	試験	まとめとしての試験を行う。	

単位の認定　　期末試験 70%、学習課題レポート提出(ワークシート)20%、授業に取り組む態度 10%。60%以上で単位認定。
教科書　『よくわかる！保育士エクササイズ９　障害児保育演習ブック』松本峰雄監修　増南太志編著(ミネルヴァ書房)
参考書　『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)
『配慮が必要な子どもの発達支援百科』藤原里美編著（中央法規）
『保育者・教育者になる人のための特別支援教育－当事者の声を聴く－』小林芳文監修・著（萌文書林）
授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて行う。
※この授業ではインターネット等を活用して調査しレポートや発表を行う。

授業科目名	乳児保育Ⅰ（科目コード:TNNTC106）							
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目							
担当者	小川美由紀							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及びその役割等について理解する。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭においた保育を示す。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

評価指標： 乳児保育の意義や目的、役割を理解し、乳児保育の現状と課題について説明できる。
保育者間の連携・協働、及び地域の関係機関との連携に必要な知識が身についている。
3 歳未満児の発育・発達を踏まえた手作り玩具を作ることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 乳児保育とは何か	乳児保育の役割と機能を知り、乳児保育Ⅰの授業目標と意義を理解し、15 回の学修の見通しを持つ。	「3 歳児神話」と「母性神話」について調べ、まとめる。(30 分)
2	乳児保育の歴史と理念	乳児保育の歴史的変遷と「児童福祉法」における乳児保育の理念について学ぶ。	「児童福祉法第 39 条」「保育所保育指針・第 1 章」の穴埋め課題に取り組む。(30 分)
3	「保育所保育指針」における乳児保育の概要	「保育所保育指針」における乳児保育の概要について学ぶ。	「保育所保育指針・第 2 章」の穴埋め課題に取り組む。(60 分)
4	「養護に関する基本的事項」と乳児保育の基礎知識 1	「養護に関する基本的事項」について理解し、0 歳児保育の 3 つの視点と、1・2 歳児保育の 5 領域の関連について理解する。	「アタッチメント」と「非認知能力」について調べ、まとめる。(30 分)
5	6 ヶ月未満の子どもの育ちとあそび	6 ヶ月未満児の育ちの特徴と関わりの留意点、あそびについて学ぶ。	「新生児期に見られる反射行動」について調べ、まとめる。(30 分)
6	6 ヶ月以上 1 歳未満の子どもの育ちとあそび	6 ヶ月以上 1 歳未満児の育ちの特徴と関わりの留意点、あそびについて学ぶ。	乳児前期から後期までの運動発達、手指の発達、言語発達、対人関係についてまとめる。(60 分)
7	1 歳以上 2 歳未満の子どもの育ちとあそび	1 歳以上 2 歳未満児の育ちの特徴と関わりの留意点、あそびについて学ぶ。	1 歳児が楽しめる絵本を探し、リストアップする。(30 分)
8	2 歳～3 歳の子どもの育ちとあそび	主に 2 歳～3 歳の育ちの特徴と関わりの留意点、あそびについて学ぶ。	2 歳児が楽しめる手遊び歌について調べ、実践する。(30 分)
9	移行期の子どもへの関わり	主に 3 歳以降の育ちの特徴と、移行期の関わりの留意点について学ぶ。	移行期における環境づくりや保育者の関わりについて考える。(60 分)
10	乳児保育の基礎知識 3	2 つの発達理論と保育の実施における配慮事項、特別な配慮が必要な子どもへの支援について学ぶ。	食物アレルギーのある子どもへの対応についてまとめる。(30 分)
11	保育所・認定こども園における乳児保育	乳児保育における物的環境と人的環境、保育の体制について学ぶ。	スタディノートに記載の課題に取り組む(2 年課程・3 年課程別)。(30 分)
12	保育所・認定こども園以外の保育事業における乳児保育 1	乳児院及び家庭的保育事業、その他の保育事業における乳児保育の現状と課題をグループで調べる。	グループで役割分担し、担当する部分について調べる。(60 分)
13	保育所・認定こども園以外の保育事業における乳児保育 2	引き続き、発表準備を進める。 (録画での遠隔授業対応回)	発表準備を進める。(30 分)
14	保育所・認定こども園以外の保育事業における乳児保育 3	発表を通して情報の共有を行うことで、乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について学ぶ。	スタディノートに記載の事例を読み、子育て支援についての自分の考えをまとめる。(60 分)
15	乳児保育における保護者支援	乳児保育に必要な保護者との連携・連絡方法について学ぶ。	「乳児保育Ⅰ」の学びの振り返りを、スタディノートにまとめる。(60 分)
16	単位試験	前期試験	

単位の認定について 試験 50%、授業外学習・振り返りシート 30%、グループ発表 20%で評価。60 点以上で単位を認める。
教科書 「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中山書店
参考書 「保育所保育指針」フレーベル館,「乳児保育・演習ブック〔第 2 版〕」ミネルヴァ書房,「乳児の保育 新時代」 乳児保育研究会
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。
※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

授業科目名	乳児保育Ⅱ （科目コード:TNNTC203）						
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目						
担当者	小川美由紀						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	2

授業概要： 1. 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ○	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

評価指標： 子どもの主体性を尊重した乳児保育についての考えを深め、健やかな生活や遊びを支える環境や保育内容、保育者の対応について発表することができる。
玩具製作の経験や子どもの興味・関心と捉えた保育内容の立案を行い、乳児保育のねらいや活動内容について具体的に考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	乳児保育の基本から応用へ１	乳児保育の基本を復習し、実践に応用することについて学ぶ。	「はじめの 100 か月の育ちビジョン」について調べる。(30 分)
2	乳児保育の基本から応用へ２	3 歳未満児の主体性が尊重されるための関りや保育環境について考える。	こども基本法の 6 つの基本理念について調べ、“こどもまんなか社会”についての考えを深める。(60 分)
3	乳児の生活・保育内容の実際１	睡眠、栄養摂取、離乳食の概要、離乳の開始、排泄、衣服選びや着替えの援助についての知識を深める。	6 ヶ月未満児、6 ヶ月以上 1 歳未満児の「発育・発達のめやす」を見直す。(30 分)
4	乳児の生活・保育内容の実際２	保育内容の実際について、映像の観察、記録を通して学ぶ。	資料をもとに、トイレトレーニングの進め方についてまとめる。(30 分)
5	1 歳以上 2 歳未満児の生活・保育内容の実際１	睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全についての知識を深める。	1 歳児の「発育・発達のめやす」を見直す。(30 分)
6	1 歳以上 2 歳未満児の生活・保育内容の実際２	1 歳児の主体性を大事にした保育者のかかわりについて考える。	2 歳～3 歳の子どもの「発育・発達のめやす」を見直す。(30 分)
7	2 歳～3 歳の子どもの生活	睡眠、食事、排泄、着替え、安全についての知識を深める。	附属園の 3 歳未満児の姿や保育者とのかかわり、保育環境において印象に残ったことをまとめる。(30 分)
8	2 歳児の保育内容とその実際１	保育ウェブを用いて、クリスマス関連の保育内容についてグループで考える。	発表準備を進める。(60 分)
9	2 歳児の保育内容とその実際２	グループで立案した保育内容を発表する。	立案用紙に基づき、保育の計画を立てる。(60 分)
10	2 歳児の保育内容とその実際３	グループで立案した保育内容を発表する。	発表時の指導・助言をもとに、グループで実習指導案を立てる。(60 分)
11	乳児保育における計画と評価１	指導・助言を受けた内容で、実習指導案を作成する。	指導・助言をもとに、実習指導案を再考する。(60 分)
12	乳児保育における計画と評価２	乳児保育における観察の視点及び記録のポイントについて理解する。	演習課題に取り組む。(60 分)
13	乳児保育における連携・協働	職員間・地域の関係機関との連携が必要な場合の対応について、事例から学ぶ。	演習課題に取り組む。(60 分)
14	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境	保育所で工夫されている「魅力ある環境」について知り、保育現場での実践につなげる。	演習課題に取り組む。(60 分)
15	まとめ ～3 歳未満児の主体性を尊重する保育のために～	子どもの主体性を尊重した乳児保育についての考えを深め、健やかな生活や遊びを支えるための保育者の在り方について考える。	自分が目指す保育者像についての発表原稿を作成する。(30 分)
16	単位試験	後期試験	

単位の認定について 試験 50%、課題・レポート提出 30%、グループ発表・振り返りシート 20%で評価。60 点以上で単位を認める。
教科書 「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中山書店
参考書 「保育所保育指針」 フレーベル館 「乳児の保育 新時代」 乳児保育研究会
授業外学習について 指示された課題の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。
※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

授業科目名	発達障がい児支援実習(科目コード:　　)							
資格取得との関連								
担当者	桐明里美							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	通年	授業の種類	実習	単位数	1	

授業概要：発達障がい児及び発達障がいの傾向があり、支援が必要な園児が在籍する保育所や幼稚園等で、その園児の言動や他の園児との関わり、保育者の配慮などを観察し理解を深めたい。
実習を通して、発達障がいやその傾向がある幼児がどのように過ごしているのか、個の育ちを保障しながら周りの幼児との関係性はどうなのか等、支援に必要な知識・能力の育成を図りながら、学内での学びとは異なる気づきや新たな学びを促進する。また、保育者の具体的な支援の方法を学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標

1．対象児と積極的に関わりをもつことができる。
2．大学での学びと実際の園での学びを結びつけて考えることができる。
3．個別日誌の書き方ができるようになる。

授業計画表

概　　要

実習前指導
1. オリエンテーション：実習先の希望調査を行う。
2. 発達障がい児支援実習の概要の説明、及び日誌の書き方、配当表の確認を行う。

実習期間
1. 原則夏季休業中 4 日間の支援実習を実施する。
2. 実習先の担当者に毎日、日誌を提出し、コメントしていただく。

実習後指導
1. 実習についての振り返り

単位の認定について
実習先からの評価、実習記録簿の提出等を総合して評価する。

参考書
必要に応じて配布する。

授業外学習について
業務上必要な知識の修得、受け入れ先の担当者からの指導に伴う学修等。

課題に対するフィードバックの方法
面談等を行い、実習内容についての振り返りを行う。

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園） （科目コード:TNEDU303/TNNTC303）							
資格取得との関連	教育の基礎的理解に関する科目							
担当者	大坪祥子（**実務家教員**） 髙妻弘子 椎葉恵子 久松尚美（**実務家教員**） 木村匡登 小澤真美子 鷲﨑公彦 桐明里美（実務家教員） 菊田恭子 土田悦子 甲斐磨有美 日高彩子 熊田原匡子 山口清美							
オフィスアワー	常勤教員は火曜日の放課後、非常勤教員は授業終了後							
授業対象	保育科２年	**開講時期**	後期	**授業の種類**	演習	**単位数**	2	

授業概要： これまで学んできたことが現場で生かせるよう、具体的な実践演習を通して、その資質・能力・態度を身に付ける。また自己を顧みることにより自己課題を自覚し、自分に必要な知識や技能等を身に付け、現場で円滑にスタートすることができる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				
	Ⅰ○	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ○	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：①保育者として身につけておくべき基本的知識や技術が身に付いているか
②現場で起こりうる様々な事態への対応の仕方などを理解し、実践することができるか
③自己課題の克服に向けて真摯に向き合い、自己を向上させることができたか

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション クラス担任の役割	授業のねらい、具体的な内容、学び方などについて理解する（教職課程履修カルテの記入） クラス担任としての心構えや仕事内容を理解し、園生活一年間の見通しをもつ	保育者として現場で必要な素養と自己課題について考える 1年間の園生活についてどのような行事があるか調べる（30 分）
2	保育者の職務内容及び 子どもに対する責務	幼稚園・保育所・認定こども園それぞれの職務内容（特に要録などの記録について具体的に学ぶ）や服務について学ぶ	幼稚園・保育所・認定こども園の職務内容について調べノートにまとめる（45 分）
3	保育の計画の実際	全体的な計画、教育課程の編成から指導計画作成までの流れやその実際について学ぶ	就職先や実習先の園の教育課程や保育課程について調べる（30 分）
4	模擬保育の実施及び事後研究会	保育指導案をもとに模擬保育を行い、保育の改善へ繋げる研究会のあり方について学ぶ	模擬授業を行うための事前準備や打合せを行った上で臨む（60 分）
5	模擬保育の実施及び事後研究会	保育指導案をもとに模擬保育を行い、保育の改善へ繋げる研究会のあり方について学ぶ	模擬授業を行うための事前準備や打合せを行った上で臨む（60 分）
6	気になる子どもへの対応	子どもの「気になる行動」の捉え方や支援体制について学ぶ（家庭、地域、各専門機関との連携のとり方など）	LD、ADHD・ASDの特徴について調べまとめる（45 分）
7	保護者への対応	子育て支援を視野に入れた対応の仕方について、グループ討議やロールプレイングなどの方法を活用し学ぶ ※連絡帳の書き方	保護者からどのような相談が寄せられるのかを考え、ノートにまとめる（30 分）
8	自己課題の補完①	現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ（教職課程履修カルテの記入）	それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分）
9	自己課題の補完②	現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ	それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分）
10	自己課題の補完③	現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ	それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分）
11	自己課題の補完④	現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ	それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分）
12	自己課題の補完⑤	現場で円滑にスタートするために必要な自己課題について学ぶ	それぞれのテーマごとに与えられる課題について取り組む （60 分）
13	組織的に行われる保育の実際	学年、学級経営などを含む職員間の連携の在り方や保育カンファレンスについて実習を振り返りながら意見交換し視野を広げる	学級経営や保育における昨今の子どもの育ちの課題について調べる （30 分）
14	保育と人権教育	人権教育の大切さについて学び、ロールプレイングの実践から子ども、保護者の気持ちに気付く	人権教育の基本認識と具体的事象について考える （45 分）
15	保育者の倫理観	自分の目指す保育者像を明らかにし、保育者としての目標や決意をまとめる	自分の目指す保育者像についてレポートをまとめる （60 分）

単位の認定について ワークシート等の記入、グループ活動への参加度、課題の提出、レポートなど毎時間評価を行い、60 点以上で単位認定。

教科書 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

参考書 適宜紹介

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は添削、チェック後に返却し解説する。

その他 ＩＣＴを活用した授業内容アンケートを実施し、授業内でフィードバックする。

※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れておこないます。

※ 幼稚園教諭の勤務経験を持つ教員が、具体的な実践演習を通して、保育者としての資質・能力・態度を身につける。

授業科目名	保育原理 （科目コード:TNNTC102）							
資格取得との関連	専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目） 卒業必修・保育士資格必修							
担当者	久松尚美（実務家教員） 山下愛実（myamashita@miu.ac.jp）							
オフィスアワー	火曜日の放課後　　授業終了後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 誕生から就学前の乳幼児の保育についての基本的な見方や考え方、保育の理論を学び、保育所が担う社会的な役割や子どもの主体性を尊重した保育について解説する。また、保育の思想や歴史的な背景、保育にかかわる法律や制度などについて解説する。ICT を活用した双方向型授業を展開する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	V○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標： 子どもを取り巻く社会状況や環境を踏まえた保育の意義や目的、社会的な役割について理解する。また保育の思想や歴史について理解し、子どもの主体性を尊重した保育について、自分なりの見方や考え方をもつことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 保育の理念や概念	「保育」「子ども」「遊び」などを大きな骨組みがわかり、「保育原理」を学ぶ意義を理解する。	保育原理でどのようなことを学ぶか、シラバスを読んでくる。（30 分）
2	保育所の保育	保育所保育指針とは何か、また保育所における養護や子どもの最善の利益を考慮した保育について学ぶ。	保育所保育指針の第 1 章「総則」1・2 を読んでくる。（30 分）
3	保育の意義・目標	生きる力の基礎を培うためにどのような目標のもと、保育がなされていくのかについて学ぶ。	ニュースや新聞の記事など保育に関する記事について調べる。（30 分）
4	保育の社会的役割と責任	子ども家庭福祉の観点から保育の役割や虐待防止等について学ぶ。	児童虐待の種類や現状について調べる（60 分）
5	保育の実施体系	保育施設の設置及び運営の基準や、支給認定、教育・保育給付の仕組みについて学ぶ。	子どもが保育を受けるまでの流れやその要件について調べる。（60 分）
6	保育所・幼稚園・認定こども園	保育を支える法規や保育所・幼稚園・認定こども園の特性・目的などを理解する。	保育所と幼稚園、認定こども園の違いについて調べる。（60 分）
7	子どもの発達の特性①	乳児、1 歳以上 3 歳未満児それぞれの発達の特性を理解し、発達の連続性を踏まえた保育について学ぶ。	保育所保育指針の第 2 章「保育の内容」1.2 を読んでくる。（30 分）
8	子どもの発達の特性②	3 歳以上児の保育の基礎を理解するとともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活用した保育の可視化について考える。	保育所保育指針の第 2 章「保育の内容」3 を読んでくる。（30 分）
9	子どもの主体性を尊重した保育	乳幼児期において育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりに、主体的で対話的で深い学びとは何かを考える。	保育所保育指針総則の「幼児教育を行う施設において共有すべき事項」を読む。（30 分）
10	保育方法	保育の目的や目標を達成するため方法や“個と集団”について学ぶ。	ニュースや新聞の記事など保育に関する記事について調べる。（30 分）
11	保育の環境	保育における「環境」、「環境による保育」とは何かを理解する。	保育の 4 つの環境について、園内にどのようなものがあるか調べる。（60 分）
12	保育と遊び	乳幼児期の遊びの特徴や生活や遊びを通しての育ちについて考える。	子どもの頃にしていた遊びについて調べる。（30 分）
13	保育のあゆみ（諸外国）	保育の歴史や保育制度の変遷について学ぶ。	ニュースや新聞の記事など保育に関する記事について調べる。（30 分）
14	保育のあゆみ（日本）	保育の歴史や保育制度の変遷について学ぶ。	どのような流れで保育の考え方が伝わっていったのかまとめる。（30 分）
15	保育の現状と課題	現代の保育における課題とその展望について、グループワークを行い考える。	現代の保育における課題について考えをノートにまとめる。（30 分）
16	試験	期末試験を行う。	

単位の認定について　期末試験 80%、小テスト・演習課題・ワークシート等 20%、計 60 点以上獲得で単位認定。
教科書　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
参考書　適宜紹介する。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	保育実習Ⅰa（科目コード:TNNTC302）						
資格取得との関連	保育士資格必修科目						
担当者	江田菜穂子						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科１年･2 年	開講時期	後期	授業の種類	実習	単位数	2

授業概要：

※保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児･児童･障害者等の理解、勤務の形態、保育･介護の方法等）を具体的に体験し、将来の保育士としての資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力を身につけることを目的とする。

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画･観察･記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標： 児童に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。
1.保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明することができる。
2.観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、子どもの発達について説明することができる。
3.既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について説明することができる。
4.保育の計画･観察･記録及び自己評価等の方法について身につけることができる。
5.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明することができる。

授業計画表

トピック名	概要
保育所の役割と機能	(1)保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2)保育所保育指針に基づく保育の展開
子どもの理解	(1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助や関わり
保育内容･保育環境	(1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育環境 (4)子どもの健康と安全
保育の計画･観察･記録	(1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2)記録に基づく省察･自己評価
専門職としての保育士の役割と職業倫理	(1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携･協働 (3)保育士の役割と職業倫理

単位の認定について 実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。

教科書 「実習の手引き」「実習記録簿」その他、講義中において別途紹介する。

参考書 講義中において別途紹介する。

授業外学習について 実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

課題に対するフィードバックの方法 実習指導の中で行う。

※保育士･幼稚園教諭等の勤務経験を持つ教員や、実習先の保育者が、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を指導するとともに、保育士の業務内容や職業倫理を指導する。

授業科目名	保育実習Ⅰb（科目コード:TNNTC303）						
資格取得との関連	保育士資格必修科目						
担当者	髙妻瑠弥乃						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科１年･2 年	開講時期	後期	授業の種類	実習	単位数	2

授業概要：

※保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児･児童･障害者等の理解、勤務の形態、保育･介護の方法等）を具体的に体験し、将来の「保育士取得」に対する保育士の資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力をもたせたい。

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画･観察･記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ○	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ○

到達目標： 児童に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。
1.保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明することができる。
2.観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深め、子どもの発達について説明することができる。
3.既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について説明することができる。
4.保育の計画･観察･記録及び自己評価等の方法について身につけることができる。
5.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明することができる。

授業計画表

トピック名	概要
施設の役割と機能	(1)施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2)施設の役割と機能
子どもの理解	(1)子どもの観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助や関わり
施設における子どもの生活と環境	(1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3)子どもの活動と環境 (4)健康管理、安全対策の理解
計画と記録	(1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察･自己評価
専門職としての保育士の役割と職業倫理	(1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理

単位の認定について 実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。

教科書 講義中において別途紹介する。

参考書

授業外学習について 実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

課題に対するフィードバックの方法 実習指導の中で行う。

※福祉施設において児童指導員の勤務経験を持つ教員や、実習先における福祉施設指導員が、施設における子どもの保育及び保護者への支援について総合的に指導する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れています。

※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（1.3.4）を取り入れます

授業科目名	保育実習Ⅱ （科目コード:TNNTC304）						
資格取得との関連	保育士資格必修						
担当者	江田菜穂子						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	実習	単位数	2

授業概要：保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児・児童・障害者等の理解、勤務の形態、保育・介護の方法等）を具体的に体験し、将来の保育士としての資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力を身につけることを目的とする。

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：自らの実践を通して具体的に学びながら、保育所の役割や機能、保育の計画―実践―記録と省察について、実際に体験しながら理解を深めることができる。

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深め、説明することができる。
2. 子どもとの観察や関わりの視点を明確にし、保育の理解を深めることができる。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解することができる。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、取り組みを通して身につけることができる。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。
6. 実習における自己の課題を明確化することができる。

授業計画表

トピック名	概要
保育所の役割や機能の具体的展開	(1)養護と教育が一体となって行われる保育 (2)保育所の社会的役割と責任
観察に基づく保育の理解	(1)子どもの心身の状態や活動の観察 (2)保育士等の援助や関わり (3)保育所の生活の流れや展開の把握
子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	(1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 (2)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 (3)関係機関や地域社会との連携・協働
指導計画の作成・実践・観察・記録・評価	(1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価
保育士の業務と職業倫理	(1)多様な保育の展開と保育士の業務 (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理
自己の課題の明確化	自らの実践を振り返り、反省会での指導内容を受け止めながら課題を整理し、保育士を目指す自己の課題を明確化する。

単位の認定について　実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）。

教科書　「実習の手引き」「実習記録簿」その他、講義中において別途紹介する。

参考書　講義中において別途紹介する。

授業外学習について　実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

課題に対するフィードバックの方法　実習指導の中で行う。

※保育士・幼稚園教諭等の勤務経験を持つ教員や、実習先の保育者が、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を指導するとともに、保育士の業務内容や職業倫理を指導する。

授業科目名	保育実習Ⅲ （科目コード:TNNTC305）						
資格取得との関連	保育士資格必修科目						
担当者	髙妻瑠弥乃						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	実習	単位数	2

授業概要：

保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児・児童・障害者等の理解、勤務の形態、保育・介護の方法等）を具体的に体験し、将来の「保育士取得」に対する保育士の資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力をもたせたい。

1.既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童養護施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
2.家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する
4.実習における自己の課題を理解する

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標：

児童に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。
講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。

1.既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童養護施設等（保育所以外）の役割や機能について説明することができる。
2.家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を身につけることができる。
3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて身につけることができる。
4.実習における自己の課題を明確にすることができる。

授業計画表

トピック名	概要
児童福祉施設等の役割と機能	(1)施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2)施設の役割と機能
施設における支援の実際	(1)受容し、共感する態度 (2)個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズ把握と子ども理解 (3)個別支援計画の作成と実践 (4)子ども(利用者)の家族への支援と対応 (5)各施設における多様な専門職との連携・協働 (6)地域社会との連携・協働
保育士の多様な業務と職業倫理	(1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理
保育士としての自己課題の明確化	(1)記録に基づく省察・自己評価

単位の認定について 実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）

教科書 講義中において別途紹介する。

参考書

授業外学習について 実習に必要な知識の調べ学習や指導者からの指導を受けての学習、実習記録簿の作成などは、実習期間を通して行う。

課題に対するフィードバックの方法 実習指導の中で行う。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れています。

※この授業では、ＳＤＧｓに関する内容（1.3.4）を取り入れます

授業科目名	保育実習指導Ⅰ（科目コード:TNNTC306）						
資格取得との関連	保育士資格必修科目、幼稚園教諭二種免許状必修科目						
担当者	代表 久松尚美、髙妻瑠弥乃、 保育科教員						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科1年･2年	開講時期	通年	授業の種類	実習	単位数	2

授業概要：保育実習は、保育士資格取得のために不可欠のものである。これらの実習を通して保育所及び保育所以外の福祉施設の実態（幼児・児童・障がい者等の理解、勤務の形態、保育・介護の方法等）を具体的に体験し、将来の「保育士取得」に対する保育士の資質を培い、知識、技能を基礎とし総合的に実践する応用力をもたせたい。そこで、保育実習にあたっての事前・事後指導として「保育実習指導Ⅰ」を実施する。これは保育実習Ⅰa 及び保育実習Ⅰb にあたっての事前・事後指導として、学内における実習指導を保育実習に併せて行うものである。

1.保育実習の意義・目的を理解する。
2.実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3.実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4.実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：児童に対する理解を通して保育の理論と実践の関係について、自分で考え説明できる。講義で学んだ事柄を、実習の体験に即して展開して考えられる。

1.保育実習の意義･目的を説明することができる。
2.実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。
3.実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができる。
4.実習の計画･実践･観察･記録･評価の方法を身につけることができる。
5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。

授業計画表

トピック名	概要
保育実習の意義	(1)実習の目的 (2)実習の概要
実習の内容と課題の明確化	(1)実習の内容 (2)実習の課題
実習に際しての留意事項	(1)子どもの人権と最善の利益の考慮 (2)プライバシーの保護と守秘義務 (3)実習生としての心構え
実習の計画と記録	(1)実習における計画と実践 (2)実習における観察。記録及び評価
事後指導における実習の総括と課題の明確化	(1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化

※毎時の具体的な内容については、実習指導計画を参照

単位の認定について 実習先評価と保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する）

教科書 実習の手引き

参考書 講義中において別途紹介する。

授業外学習について 実習に必要な知識の調べ学習や実習に向けての準備（実習の課題の明確化）、指導者からの指導を受けての学習は実習期間とその前後を通して行う。

課題に対するフィードバックの方法 実習指導の中で行う。

※幼稚園教諭や保育士としての勤務経験を持つ教員や、幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設に勤務している外部講師が、講義・演習形式にて実施し、実習に対する心構えや留意事項を踏まえながら、円滑な保育実習が行えるよう指導する。

授業科目名	保育実習指導Ⅱ （科目コード:TNNTC307）						
資格取得との関連	保育士資格必修科目、幼稚園教諭二種免許状必修科目						
担当者	代表 久松尚美、江田菜穂子、 保育科教員						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科２年	開講時期	通年	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：保育実習指導Ⅱでは、保育実習Ⅰa(保育所)で気づいた自己の課題及び既習の教科目の内容をもとに、新たな目標を設定し、総合的に保育をとらえる意識をもって保育実習Ⅱに臨み、実習の総括と課題の明確化を行うことを目的とする。

1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：保育実習Ⅰaで気づいた自己の課題及び既習の教科目の内容をもとに、新たな目標を設定し総合的に保育をとらえる意識をもって保育実習Ⅱに臨むことができる。また、保育実習Ⅱ終了後、実習の総括と自己評価を通して、今後の課題を明確にすることができる。

1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解することができる。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得できる。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解を深めることができる。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。

授業計画表

トピック名	概要
保育実習による総合的な学び	(1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2)子どもの保育と保護者支援
保育の実践力の育成	(1)子ども(利用者)の状況に応じた適切な関わり (2)保育の知識・技術を活かした保育実践
計画と観察、記録、自己評価	(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
保育士の専門性と職業倫理	「全国保育士会倫理綱領」などを参照し、実習中に保育士の言動を観察したり、自ら体験したりする中で、保育士の職業倫理の意義を考察できるようにする。
事後指導における実習の総括と評価	(1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化

※毎時の具体的な内容については、実習指導計画を参照

単位の認定について 保育実習指導を総合して評価する。（詳細な評価基準は講義の中で提示する。）
教科書 実習の手引き
参考書 講義中において別途紹介する。
授業外学習について 実習に必要な知識の調べ学習や実習に向けての準備（実習の課題の明確化）、指導者からの指導を受けての学習は実習期間とその前後を通して行う。
課題に対するフィードバックの方法 実習指導の中で行う。
※幼稚園教諭や保育士としての勤務経験を持つ教員や、幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設に勤務している外部講師が、講義・演習形式にて実施し、実習に対する心構えや留意事項を踏まえながら、円滑な保育実習が行えるよう指導する。

授業科目名	保育者論 （科目コード:TNNTC109）							
資格取得との関連	専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目） 卒業必修・保育士資格必修							
担当者	大坪祥子（実務家教員）　　間所あゆみ（a-madokoro@mgjc.ac.jp）							
オフィスアワー	火曜日の放課後　　授業終了後							
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：近年、子どもや家庭を取り巻く環境の変化や保護者の就労状況等の多様化などにより、保育現場においては業務量の拡大や業務内容の多様化などがもたらされている。そこで保育者が子どもとのかかわりの中で大切にすべきことや、保育の計画について学ぶ。また同僚、保護者、地域の関係機関との連携や子育て支援など、役割を果たす上で必要な知識や、多様な専門性を持つ人々との協働などについて学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標：保育者の役割や保育者に必要な倫理や専門性について理解する。また子どもの健康や安全を守るための環境や体制について理解する。子育て支援の方法や考え方を理解する。保育者の資質向上の重要性と組織的な取り組みについて理解する。タブレット端末を利用した双方向型授業を展開する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	「保育者論」を学ぶ意義について学ぶ。	保育者論でどのようなことを学ぶか、シラバスを見ておく。(30 分)
2	保育者の職務内容	保育所における保育士の1日及び1年の流れから具体的な職務内容について学ぶ。	保育に関する仕事や保育以外の仕事について調べる。(30 分)
3	保育者の役割と倫理（子どもの人権）	保育者にはどのような役割があるのか、また保育者に必要な倫理観とは何かを学ぶ。	全国保育士会倫理綱領を読んで、プリントを仕上げる。(30 分)
4	保育士の制度的位置づけ	保育士の定義や必要な資格や要件、また告示化されたことで明確になった責務について学ぶ。	児童福祉法における保育士の定義について調べる。(30 分)
5	保育所保育の特性	養護と教育が一体となって展開される保育所保育の特性について学ぶ。	保育所で行われている「養護」についてどのような活動があるか調べる。(60 分)
6	保育士の資質・能力	保育士に求められる資質や能力にはどのようなものがあるのかについて、グループワークを行い考える。	保育士に求められる資質や能力についてどのようなものがあるか調べる。(60 分)
7	保育士の専門性	保育所の役割や機能が適切に発揮されるために必要な専門的な知識、技術について、グループワークを行い考える。	保育所保育指針の第1章「総則」を読んでおく。(30 分)
8	保育の計画・全体的な計画	保育の計画、活動、評価、改善など保育の一連の流れを理解し、全体的な計画との関連について学ぶ。	保育所保育指針の第 1 章「総則」3.4 を読んでおく。(30 分)
9	保育の展開と自己評価	自己評価、組織としての評価を通して改善され保育の質が向上していく仕組みを理解し、それに必要な記録や評価について学ぶ。	保育所保育の取り組みのプリントを仕上げる。(30 分)
10	健康及び安全	子どもの健康・安全を守るための必要な知識や体制について学ぶ。	登園時の子どもの健康状態の把握の視点について考える。(60 分)
11	保育と子育て支援	子育て支援の在り方について学ぶ。また信用失墜行為や秘密保持	保護者が保育者に対して相談する内容についてどのようなものがあるか調べる。(60 分)
12	保育者の連携・協働	保育所における職員間の連携・協働について学ぶ。	保育所内の専門職とその役割について調べる。(60 分)
13	保護者及び地域社会との協働	保護者との協働や地域の専門職員や専門機関との連携の考え方や方法について学ぶ。	地域にどのような子育て支援に関する機関があるか調べる。(60 分)
14	専門性の発達	保育の専門家として保育指導を高めて行くため取り組みについて学ぶ。	保育指導の事例プリントを仕上げる。(30 分)
15	職員の資質向上	キャリア形成の意義とそのために必要な組織としてあるいは個人としての取り組みについて学ぶ。	キャリアアップのための国の取組について調べる。(30 分)
16	期末試験	期末試験を行う。	

単位の認定について　最終試験 80%、授業への取り組み・受講姿勢・ワークシート等で 20%、計 60 点以上獲得で単位認定。

教科書　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

参考書　適宜紹介する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間あて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	保育内容「環境」の指導法 （科目コード:TNEDU207/TNNTC207）						
資格取得との関連	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）						
担当者	大坪祥子　満行知花						
オフィスアワー	火曜の放課後						
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：保育内容「環境」の指導法では、子どもを取り巻く「環境」とは何か、その意味を理解する。また、具体的な保育の場面や子どもの姿を想定し、環境へのかかわり方や保育者の支援の在り方について考え、主体的活動を引き出す環境やそれを構成する力を身に付けることを目標とする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：①子どもを取り巻く様々な環境（人、物等）について理解できたか。
②子どもの興味・関心を引き出す環境構成の大切さについて理解できたか。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	「環境を通して行う保育」の重要性を踏まえ、領域「環境」や他の領域との関係性について理解する。	保育所保育指針を読み、どのように変化していくか書いてくる。（30 分）
2	領域「環境」のねらいと内容（乳児）	「乳児保育に関するねらい及び内容」等について理解する。	保育所保育指針を読み、小学校とどのようにつながるか考える。（30 分）
3	領域「環境」のねらいと内容（1 歳以上３歳未満児）	「1 歳以上 3 歳未満児の保育に関するねらい及び内容」等について理解する。	保育所保育指針を読み、小学校とどのようにつながるか考える。（30 分）
4	領域「環境」のねらいと内容（3歳以上児）	「3 歳以上児の保育に関するねらい及び内容」等について理解する。小学校における学びとのつながりについても理解する。	保育所保育指針を読み、小学校とどのようにつながるか考える。（30 分）
5	自然とのかかわり(1)	子ども自らが自然にかかわり、身近なものとして感じられる仕組みについて、事例を通して理解する。	子どもを取り巻く自然環境について調べる。（30 分）
6	自然とのかかわり(2)	子ども自らが自然にかかわり、身近なものとして感じられる仕組みについて、ワークを通して理解する。	子どもを取り巻く自然環境について調べる。（30 分）
7	ものとのかかわり	子ども自身が興味を示し、手に取り、かかわりが生まれるには、どのようにしたらよいかについて事例を通して理解する。	子どもを取り巻く物的環境について調べる。（30 分）
8	社会とのかかわり	子どもの育ちを支える社会的環境について事例を通して理解する。	園の地域における役割についてまとめる。（30 分）
9	指導案作成(1)	予想される子どもの姿から環境構成を考え、指導案を作成する。	子どもの興味・関心にあった環境構成について考え、必要な参考文献を持参する。（30 分）
10	指導案作成(2)	予想される子どもの姿から環境構成を考え、指導案を作成する。	子どもの興味・関心にあった環境構成について考え、必要な参考文献を持参する。（30 分）
11	模擬保育報告会（1）	模擬保育を振り返り、相互に質問し、ねらい、内容、環境構成などを自己評価し、改善につなげる。	発表の練習をする。司会など役割の準備をする。（30 分）
12	模擬保育報告会（2）	模擬保育を振り返り、相互に質問し、ねらい、内容、環境構成などを自己評価し、改善につなげる。	発表の練習をする。司会など役割の準備をする。（30 分）
13	模擬保育報告会（3）	模擬保育を振り返り、相互に質問し、ねらい、内容、環境構成などを自己評価し、改善につなげる。	発表の練習をする。司会など役割の準備をする。（30 分）
14	模擬保育報告会（4）	模擬保育を振り返り、相互に質問し、ねらい、内容、環境構成などを自己評価し、改善につなげる。	発表の練習をする。司会など役割の準備をする。（30 分）
15	まとめ	乳幼児が育つ中で、どのように領域「環境」のねらいと内容が変化していき、そのことをどう捉えるかについて、具体例を挙げて自分の言葉でまとめを行う。	領域「環境」の変遷についてまとめる。（45 分）

単位の認定について　ワークシート・筆記試験 50%、教材研究・報告会での発表等 50%、合計 60 点以上で単位認定。
教科書・参考書　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
授業外学習について　予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。
※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	保育内容「健康」の指導法 （科目コード:TNEDU205／TNNTC205）							
資格取得との関連	幼稚園教諭二種免許状必修科目、保育士資格必修科目							
担当者	城戸 佐智子　s-kido@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：
子どもの発達を領域「健康」の観点からとらえ、自ら健康で安全な生活を作り出す資質的能力が主体的・対話的体験を通して育まれることを理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：
・領域「健康」におけるねらい及び内容を理解している。
・幼児の健康の育ち（発育・発達）、問題点、対応等について理解ができている。
・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想すること（模擬保育）ができる。
・情報機器を活用した情報の収集と記録、指導案の作成、情報機器等を活用した保育構想ができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション／健康の定義	健康の定義についてWHO憲章をもとに再考し、現代の子どもの健康を取り巻く状況について意見交換しながらその課題を考える。	自分自身の健康観や健康に関する問題意識を明確にするとともに、WHO憲章について調べる（30 分）。
2	幼稚園教育要領等の領域「健康」のねらい及び内容①	3 歳未満児の領域「健康」のねらい及び内容はどのような子どもの姿を目指しているのか意見交換しながら理解する。	3 歳未満児の領域「健康」に関する教育要領、保育指針等を読み十分理解する（30 分）。
3	領域「健康」のねらい及び内容②	3 歳以上児の領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点について、具体的な指導場面をイメージしやすい映像等を参考にしながら理解する。	3 歳以上児の領域「健康」に関する教育要領、保育指針等を読み十分理解する（30 分）。
4	領域「健康」のねらい及び内容③	領域「健康」のねらい及び内容に関連した事例を実習体験の中から振り返り、子どもが経験し身に付けていくことをより深く理解する。	実習中に行われた「健康」に関する指導の際の子どもの姿、その後の子どもの変化を思い出し整理する（60 分）。
5	健康異変と環境 子どもの生活習慣の現状と課題	乳幼児の健康異変と子どもを取り巻く環境状況について調べ、問題点・生活リズム・睡眠・排泄・活動・食事などその対策や保育者の役割について考える。	今日の子どもの健康問題（家庭環境含む）にどのようなことがあるか、他科目の学びを踏まえて整理する（60 分）。
6	幼児の発育・発達 基本的生活習慣の理解と形成	幼児の発育の概念や特徴、体・心・社会性・脳の発達について学び、子どもの実態と関連付けて理解する。基本的生活習慣の形成におけるポイントを考察し、保育士としての対応をグループで協議しながら視野を広げる。	体・心・社会性・脳の発達の特徴、基本的生活習慣の形成で考えられる問題点について、ICTなどで調べまとめておく（60 分）。
7	子どもの健康管理 感染症の対策と指導	子どもの健康状態把握の仕方や日々の健康観察の大切さ、集団感染しやすい感染症や子どもに多い疾病と生活の中での指導や対策について具体的な場面をとらえながら理解する。	子どもの健康状態把握の仕方や子どもの感染症について、実習経験、図書館や情報機器を活用しながら予習、考察する（60 分）。
8	食育について	実習体験の振り返りから保育者の関わりについて具体的場面をとらえ理解し、食育を通して育みたい力について子どもの心情、認識、思考及び動き等を踏まえ発達を見通した計画・実践について、映像等により学ぶ。	子どもの具体的な食育の方法について実習経験を参考にしながら、自分なりのアイデアを考える（60 分）。
9	身体活動の現状と課題、運動遊びの効果	身体活動の現状と課題、運動遊びの効果を理解し、保育者の関わりについて具体的な場面をとらえて考察する。さくらんぼリズムの紹介をおこなう。	子どもの運動遊びの援助方法について、これまでの授業や実習経験を踏まえて考察する（30 分）。
10	室内・室外遊びの援助・配慮	子どもの発達の特性を踏まえた室内遊び・戸外遊びの援助について考え、他の領域と関連性を持ち総合的に遊びが展開することを理解する。	室内・室外の遊びにはどんなものがあるか考え、それに対する援助や発展をまとめてくる。（60 分）
11	指導案作成	対象児の発達に沿った指導の留意点と保育者の役割を具体的な場面に基づいて考え指導案を作成し、環境構成や準備物など模擬保育に向けての準備をする。	子どもの生活習慣確立や運動遊びなど具体的な保育活動について、自分なりのアイデアを考える（60 分）。

12	模擬保育及び研究会①	模擬保育指導案の発表を通して、子ども、保育者の立場から意見交換し、良かった点や疑問点など、研究会をおこなう中で、次に活かすことの意味を理解する。	模擬保育指導案発表に必要な用具等の準備とシミュレーションをする(60 分)。
13	模擬保育及び研究会②	模擬保育指導案の発表を通して、子ども、保育者の立場から意見交換し、良かった点や疑問点など、研究会をおこなう中で、次に活かすことの意味を理解する。	模擬保育指導案発表に必要な用具等の準備とシミュレーションをする(60 分)。
14	安全管理について	事故の発生場所や安全管理について学び、危険に対する判断力と行動力を身につける重要性を理解する。	子どもの事故への対応と予防について「健康」に関連する保育が果たせる役割について考える(60 分)。
15	小学校とのつながり まとめ	小学校とのつながりについてカリキュラムや映像等から、幼児が経験し身に付けていく内容とのつながりを理解する。 今まで学んできたことの復習とまとめ。	10 の姿および小学校教育に対して「健康」に関連する保育が果たせる役割について考える(60 分)。
16	定期試験	定期試験をおこなう。	全講義を振り返り、内容をまとめておく。

単位の認定について　定期試験 70%、課題提出、取組姿勢、指導案、発表 30%　合計 60 点以上で単位認定

教科書・参考書　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)
「実践例から学びを深める健康指導法」(わかば社)

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間あて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は添削、チェック後に返却し解説する

その他　ＩＣＴを活用した授業内容アンケートを実施し、授業内でフィードバックする。

※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れておこないます。

授業科目名	保育内容「言葉」の指導法（科目コード:TNEDU208／TNNTC208）						
資格取得との関連	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
担当者	髙妻弘子						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：幼児期の言葉をどのように育むか、「言葉」の領域におけるねらいや内容を踏まえ、言葉の発達や言語獲得による心の成長等と関連付けて理解する。また、言葉を育む保育者の役割とは何か、具体的な活動場面を想定した実践や指導案作成、模擬保育のなかで振り返りをおこない、個に応じた援助のあり方や評価の観点、環境構成の意味や保育を改善する視点を身に付ける。さらに、配慮の必要な子どもの特性に応じた関りや情報機器、教材を活用した保育方法について学びを深める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ ①◎	Ⅱ②◎	③	

到達目標： ①領域「言葉」のねらい及び内容を幼児の発達や学びの過程と関連付け、知識理解に繋げる
②指導案作成や模擬保育等を通して、保育の連続性や評価の考え方、保育改善の視点を身につける
③幼児の特性に応じた関わり、情報機器や教材を活用した保育のあり方等について学びを深める

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	乳幼児と言葉	言葉とは何か。人にとっての言葉、乳幼児にとっての言葉、言葉がなかったら…等、言葉の存在や5領域に「言葉」が含まれている意味について考察する	言葉の獲得とはどのような手段を得ていくことなのか、言葉の存在や5領域に「言葉」が含まれている意味について考察する（30分）
2	領域「言葉」のねらいと内容	領域「言葉」のねらいと内容について乳幼児の発達過程や実態と結びつけ、保育活動の実践例等を参考にしながら視聴覚教材を通して理解する	領域「言葉」に書かれている内容を読んでおく。（60分）
3	言葉のめばえと乳児期の保育	初語が出現する1歳頃までの発達や、その基盤には信頼関係が不可欠なこと、非言語的なコミュニケーションの重要性等について映像資料や事例から理解する	1歳頃までの言葉獲得までの発達過程について事前に調べ、まとめておく。（各30分）
4	言葉を育む保育者の関わり（1）	3歳頃までの語彙の拡大と話し言葉の発達過程を知り、言葉を遊びの中でどのように育み、関わり、援助していくのか、そのあり方や保育について考える	3歳頃までの言葉の発達過程を調べ、語彙を広げる遊びや関わりについてまとめる（60分）
5	言葉を育む保育者の関わり（2）	3歳以上児の言葉の発達過程を映像や事例で具体的に理解し、幼児が相互に思いを伝え合うための援助のあり方や関わりについて考える	3歳以上児の言葉の発達過程を調べ、思いを伝え合うためにどのような関わりが必要か考察する（30分）
6	言葉の感覚やイメージを育む保育	言葉の感覚やイメージを育む保育にはどんな活動があるかグループ協議し、実演する中で言葉あそびの面白さや意義について理解する	これまで体験した保育現場の具体的な子どもの姿に基づき、言葉を広げる教材、遊びについてまとめる。（各60分）

7	絵本を用いた保育の展開と保育指導案	絵本を用いてどのような保育展開ができるかグループ協議し、発表を通して多角的視点から保育を構想する力をつける	絵本からどのような保育活動が生まれるか､子どもの姿をイメージしながらウェヴ作成をする（30 分）
8	読み・書き言葉と記号	遊びや生活の中で文字や記号の有用性、必要性に気付き、読み・書き言葉への興味や関心を育てる環境の構成や保育活動など、視聴覚教材や事例を通して理解する	読み書きへの興味･関心を高める保育活動についてまとめ､グループ内での演習に生かす。（各 60 分）
9	保育指導案の作成	子どもの姿を仮定し、現在の姿から活動の流れにそった環境構成や援助・配慮の在り方を多角的にとらえながら保育指導案を作成する。	保育指導案作成に向けておおまかに構想をまとめておく（60 分）
10	保育指導案の見直しと模擬保育準備	前回計画した保育指導案を見直し、加筆修正を加えながら適切な教材準備をおこなう。また、模擬保育に向けての役割分担をする	保育の中にＩＣＴを取り入れる方法を検討し、具体的にまとめる（60 分）
11	模擬保育① 保育の実際と保育者の役割	グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行い、振り返りのなかで幼児の実態に合った保育計画や保育者の役割に気付く	模擬保育に対するシミュレーションや教材研究を行ない､事後の振り返りを次の実践へとつなげる。（90 分）
12	模擬保育② 保育の実際と援助・配慮のあり方	グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行い、振り返りのなかで幼児の実態に合った援助・配慮のあり方、保育を改善する視点に気付く	模擬保育に対するシミュレーションや教材研究を行ない､事後の振り返りを次の実践へとつなげる。（90 分）
13	模擬保育③ 保育の実際と評価のあり方	グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行い臨機応変な対応や援助のあり方、評価の観点、環境構成の意味や保育を改善する視点に気付く	模擬保育に対するシミュレーションや教材研究を行ない､事後の振り返りを次の実践へとつなげる。（90 分）
14	10の姿と小学校との連携	幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿と小学校での学習のつながりについて考察する。また、ＩＣＴを使った保育事例を通して活用法を習得する	10 の姿の見直しをする。 ＩＣＴを使った保育のメリット､デメリットについてまとめる（60 分）
15	言葉の面で特別なニーズをもつ子ども	言葉の面で配慮が必要とされる子どもの特徴や心情を理解し、事例を通して教師の援助のあり方を具体的に学ぶ	言葉の遅れや障がいに気づくための視点について考えてみる。（60 分）
16	定期試験		

教科書　※【シリーズ知のゆりかご】子どもの姿からはじめる領域・言葉
参考書　※「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
その他適宜資料配付
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	保育内容「人間関係」の指導法 （科目コード:TNEDU212／TNNTC203）							
科目	教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）							
担当者	江田　菜穂子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：乳幼児期における「基礎的な人とかかわる力」についての基本的な考え方や意義について理解する。また、領域「人間関係」のねらい・内容や子どもの発達について理解するとともに、具体的な場面を想定した指導・援助のあり方を実践的に身に付ける。保育指導案の作成方法を理解し、発達に応じた指導案が作成できる。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ○	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ○	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：乳幼児における「人とかかわる力」について基本的な考え方や意義を理解し、「人間関係」の領域におけるねらいや内容、子どもの社会性の発達やコミュニケーション能力の発達について、実践例を通して理解する。さらに、具体的な場面を想定した援助方法等のあり方を配慮した保育指導案を作成する。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	領域「人間関係」を学ぶ意義について理解を深める。	5領域の復習をする（30分）
2	領域「人間関係」のねらいと内容（1）	幼稚園教育要領等における3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容について、理解する。	養護に関わるねらい及び内容についての理解を深め、まとめる。（30 分）
3	領域「人間関係」のねらいと内容（2）	幼稚園教育要領等における3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容について、理解する。また小学校における学びとの関連についても考える。	教育に関わるねらい及び内容についての理解を深めまとめる。（30 分）
4	乳幼児期の人間関係の発達（1）	0･1･2 歳児の発達の特性（自我、愛着、安全基地）について事例を通して理解する。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。（各 30 分）
5	乳幼児期の人間関係の発達（2）	3 歳児の発達の特性（居場所、共感）について事例を通して理解する。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。（各 30 分）
6	乳幼児期の人間関係の発達（3）	4 歳児の発達の特性（自己主張、自己抑制、いざこざ）について事例を通して理解する。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。（各 30 分）
7	乳幼児期の人間関係の発達（4）	5歳児の発達の特性（共同性の育ち）について事例を通して理解する。	子どもの発達に関する事例を読み、自分の考えをまとめる。（各 30 分）
8	保育指導案の作成	保育指導案の形式を理解し、「人とのかかわり」に関する具体的な保育実践例により、指導場面と指導案の関係を理解する。	保育指導案について理解し、具体的な実践例を調べ、模擬保育の指導案を考える。（90 分）
9	保育指導案の実践	作成した指導案の実践（模擬保育）を通して、保育指導案には必要な記述がなされていることを理解し、言葉を選んで記述することの大切さを理解する。	指導案の実践（模擬保育）に必要な準備を行う。（60 分）
10	保育指導案の実践	作成した指導案の実践（模擬保育）を通して、保育指導案には必要な記述がなされていることを理解し、言葉を選んで記述することの大切さを理解する。	指導案の実践（模擬保育）に必要な準備を行う。（60 分）
11	保育指導案の実践	作成した指導案の実践（模擬保育）を通して、保育指導案には必要な記述がなされていることを理解し、言葉を選んで記述することの大切さを理解する。	指導案の実践（模擬保育）に必要な準備を行う。（60 分）
12	遊びの中の人とのかかわり	遊びの中で生じる子ども同士のさまざまな関係について学ぶ。また、視聴覚教材をはじめとした友達とのかかわりを深める教材やその活用について研究する。	子ども同士のかかわりを育む教材について調べる。（60 分）
13	保護者とのかかわり	保育者の専門性を生かし、保護者との良好な関係性を構築する大切さについて、事例のディスカッションを通して学ぶ。	保護者との関係性構築に関する事例を読み、考えをまとめる。（30 分）
14	保育者同士の連携	保育者が共通理解の下で協働して保育を進める大切さについて、保育カンファレンス等の事例を通して理解する。	保育者同士の連携に関する事例を読み、考えをまとめる。（30 分）
14	総括	領域「人間関係」のねらいと内容が十分に実現されるように教育･保育することが「人とかかわる力」を養うことの礎を培うことについて自分の言葉でまとめを行う。	「人とかかわる力」を養う礎を培うことについてまとめる。（45 分）
15	期末試験	期末試験を行う	

単位の認定について　　期末試験：60%、提出物・授業態度等：40%から総合的に評価し、60%以上を合格とする。
教科書・参考書　　『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育･保育要領』その他適宜紹介する。
授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、準備すること。
課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題はチェック後に解説する。
※　この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	保育内容「表現」の指導法Ⅰ （科目コード:TNEDU215／TNNTC206）							
科目	教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）							
担当者	後藤祐子、星﨑明里							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：子どもの発達に合わせた様々な音楽表現遊びを学生自身が体験し、領域「表現」のねらい及び内容についての理解を深める。また、子どもの音楽遊びの実践を行うことにより、具体的な指導場面の経験を通して子どもの主体的な表現を促す手法を身につける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ○	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：・領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが体験し身につけていく内容と指導・援助の留意点を理解している。
・子どもの発達の過程を理解し、子どもの姿に合った音楽表現遊びを実践することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	領域「表現」のねらい及び内容について理解する。（録画での遠隔授業対応回）	領域「表現」に書かれている内容を読んでくる。
2	音や音楽と動きの遊び(1)	音や音楽に合わせて動くことの意味を考え、幼児の表現について音遊びの体験を通して考える。	幼児の表現遊びにどのようなものがあるのかを調べてくる。(60 分)
3	音や音楽と動きの遊び(2)	子どもの動きとピアノ伴奏について身体表現遊びの実践を通して学ぶ。	表現の手がかりとなるピアノ伴奏譜を練習する。(60 分)
4	音や音楽と動きの遊び(3)	楽器の音と子どもの動きについて考え、発達段階に応じた使用方法を学ぶ。	発達段階について調べ、年齢ごとにまとめる。(40 分)
5	音や音楽と動きの遊び(4)	多様な素材・道具を使った遊びの体験を通して、子どもの遊びと音楽のつながりについて考える。	素材・道具を使った遊びの展開をグループで考え練習する。(60 分)
6	音や音楽と動きの遊び(5)	音楽を聴いて描く体験を通して多様な表現方法について知る。	幼児の表現に音楽がどのように活用されているのか調べてくる。(60分)
7	音や音楽と動きの遊び(6)	ノンバーバル・コミュニケーションを体験し、楽器の活用方法について知る。	打楽器の奏法、名称について調べる。(60 分)
8	子どもの歌と楽器の遊び(1)	多様な打楽器に触れ、打楽器基礎奏法を知る。また音や音楽と身体表現の繋がりについて理解する。	楽器を用いた動きと音の身体表現の遊びをグループで考え練習する。(60 分)
9	子どもの歌と楽器の遊び(2)	幼児の発達に応じた音楽遊びの体験を通して、子どもの遊びの企画を行う。	乳幼児の音遊びの意義について考えレポートにまとめる。(60 分)
10	子どもの歌と楽器の遊び(3)	より豊かに歌を表現する方法を考え、楽器や道具を用いて表現する。	年齢や発達段階にふさわしい音楽について調べる。(60 分)
11	子どもの歌と楽器の遊び(4)	ピアノやその他鍵盤楽器、打楽器の活用法を知り、幼児の表現遊びの展開を考える。	幼児の音遊びの実践の映像を観て感想をまとめる。(60 分)
12	子どもの音楽遊びの実際(1)	子どもの発達段階と表現のねらいをグループごとのディスカッションにより理解する。	こどもの音楽遊びの資料などをもとに計画を立てる。(90 分)
13	子どもの音楽遊びの実際(2)	発達に合わせた音楽表現あそびの企画をグループで行い、音や音楽の使い方について吟味する。	計画案の内容にそって活動が展開できるように練習する。(90 分)
14	子どもの音楽遊びの実際(3)	企画した音楽表現あそびの実践練習を行い、グループワークを通してあそびの目的を明確にする。	計画案もとに音遊びの活動を仕上げる。(60 分)
15	子どもの音楽遊びの実際(4)	音楽表現あそびの実践をグループで行い、改善点に気づく。	幼児の発達と音楽表現についてまとめる。(60 分)

単位の認定について　活動への参加状況(20%)　授業内での実技試験(60%)　毎時間の授業記録及び感想(20%)
教科書・参考書　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)
参考資料等は適宜配布する
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間あて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は添削、チェック後に返却し解説する。
※この授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れています。

授業科目名	保育内容「表現」の指導法Ⅱ （科目コード:TNEDU210／TNNTC210）							
科目	教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）							
担当者	後藤祐子、星﨑明里、鷲﨑公彦							
オフィスアワー	火曜日の放課後　授業終了後							
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要： 子どもが豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするためには乳幼児期における主体的・対話的体験が不可欠であることを理解し、子ども一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

評価指標： 領域「表現」のねらい及び内容を理解している。
乳幼児の身体表現活動及び造形表現活動の発達と特徴について理解している。
造形で用いる素材及び造形表現活動の特性を理解し、製作の表現遊びの具体的な保育を構想することができる。
身体表現活動で用いる教材および身体表現活動の特性を理解し、身体表現遊びの具体的な保育を構想することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	領域「表現」のねらい及び内容	造形・身体表現を行う幼児の映像から、その表現における幼児の気付きや思いを読み取ることを通して、幼稚園教育要領に示される領域「表現」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達を理解するために必要な教師の視点について考える。（録画での遠隔授業対応回）	領域「表現」に関する教育要領、保育指針等を読み十分理解する。（60 分）
2	乳幼児の身体表現の特徴	模倣遊びの事例および実践を通して、幼児が身近にある植物や空、興味のある生き物の形や色や大きさに気付き、イメージを豊かにするための環境構成と言葉掛けについて考える。（録画での遠隔授業対応回）	表現の手掛かりとなる、身の回りの自然、動物、機械、乗り物などをよく観察し、動きのデッサンをする。（60 分）
3	身体表現の指導（表現遊び）	音楽を活用した表現遊びの実践を通して、子どもが自分なりに表現する姿を導く言葉掛けや、より楽しめる遊びの工夫について考え、学生相互に共有する。（zoom での遠隔授業対応回）	園で実践されている音楽を活用した身体表現遊びについて、情報機器を活用して調べる。（60 分）
4	身体表現活動の教材	視聴覚教材などの ICT を活用し、幼児の身体表現活動の意欲を高めたり、幼児の様々な表現を引き出す教材の活用方法についての理解を深める。（zoom での遠隔授業対応回）	保育における ICT の活用について図書館および情報機器を活用して調べる。（60 分）
5	身体表現活動の発展	グループにて絵本をテーマに身体表現遊びを工夫して実践する活動を通して、乳幼児の表現活動を様々な視点から考える機会を持つ。（zoomでの遠隔授業対応回）	身体表現遊びに発展できそうな絵本を調べ、活動展開を考える。（60 分）
6	身体表現活動の指導案	身体表現遊びをテーマとした表現活動指導について小グループで議論し、指導案を作成する。（zoom での遠隔授業対応回）	グループで事前に相談し、活動案について予め決める。（90 分）
7	身体表現活動の模擬保育の実践①	幼児の生活経験や発達に応じた身体表現の保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育を行う。	自分なりの身体表現活動の指導案を作成し、模擬保育に必要な用具等を準備する。（120 分）
8	身体表現活動の模擬保育の実践②	幼児の生活経験や発達に応じた身体表現の保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育を行い、グループワークを通して振り返りを行う。	模擬保育の振り返りを行い、乳幼児の豊かな表現を引き出すための指導についてレポートにまとめる。（60 分）

9	幼児の造形活動の発達と特徴	幼児の造形活動の発達と特徴について具体的な作品を通して学ぶとともに、ふさわしい援助について考える。	配布資料や情報機器を活用して幼児の造形活動について調べる。(60 分)
10	子どものおもちゃ作り(基礎)	子どもの年齢別グループに分かれ、材料や用具を工夫しながら幼児の発達にふさわしいおもちゃを製作する。	年齢や発達段階にふさわしい製作物について調べ、材料を用意する。(90 分)
11	子どものおもちゃ作り(応用)	材料や用具を工夫しながら幼児の発達にふさわしいおもちゃを各自製作する。	基礎で製作した作品の反省をいかし、より幼児の発達段階にふさわしい内容を考え材料を準備する。(60 分)
12	造形表現活動の指導案	幼児の姿をイメージしながら環境構成や援助のあり方を考え、指導案を作成する。	指導案の具体例について資料などをもとに計画を立てる。(90 分)
13	造形表現活動の模擬保育の実践	作成した指導案をもとに保育者役と設定した年齢の子ども役に分かれ模擬保育と振り返りを行う。	指導案の内容にそって活動しやすいように教材を準備する。(90 分)
14	造形表現活動の実践と援助	前回の反省をいかし、改善した指導案をもとに保育者役と設定した年齢の子ども役に分かれ模擬保育と振り返りを行う。	前回使用した指導案を改善し、仕上げる。(60 分)
15	幼児造形の現状と小学校教育との関連	各地で行われている様々な幼児の造形の実践活動や小学校の図工の内容や活動を知り、自らの保育観に基づいた幼児造形について考える。	本や情報機器を活用して実践例を調べる。(60 分)
16	定期試験		

単位の認定について　定期試験 60%、提出物 40%

教科書・参考書　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)
参考資料等は授業中に適宜配布する

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間あて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は添削、チェック後に返却し解説する

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	保育内容総論 （科目コード:TNNTC101）							
資格取得との関連	保育士資格　必修							
担当者	久松尚美　泰田久史(h-yasuda@mgjc.ac.jp)　間所あゆみ(a-madokoro@mgjc.ac.jp)							
オフィスアワー	火曜日の放課後　授業終了後							
授業対象	保育科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要： １．保育所保育指針における「保育の目標」、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。
４．保育の多様な展開について具体的に理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②	③	

到達目標： １．保育所保育指針における「保育の目標」、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連について説明できる。
２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できている。
３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷について説明できる。
４．子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解できている。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 保育の基本的な考え方	「保育内容総論」の内容及び学ぶ意義を理解する。 保育の基本と保育者の役割について考える。	保育の基本と保育者の役割について、自分の考えをまとめる。(30 分)
2	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解(1)	養護について考え、「養護に関わるねらい及び内容」の概要を理解する。	発達段階と養護にかかわる「ねらい」や「内容」を踏まえ、「生命の保持」と「情緒の安定」を図るために保育者が行う援助やかかわりについてまとめる。(30 分)
3	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解(2)	教育について考え、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、指針解説等を用いてまとめる。(60 分)
4	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景	保育内容の歴史的変遷を理解し、保育者に求められる保育内容の基準について学ぶ。	保育の発展に寄与した歴史上の人物について調べ、概要をまとめる。(60 分)
5	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方	保育所保育指針をもとに、乳幼児期の発達特性と各年齢における発達の過程、それに応じたふさわしい保育の内容や環境について理解する。	これまで観察した子どもの様子、保育における環境について、体験をエピソードとしてまとめる。(30 分)
6	養護及び教育が一体的に展開する保育	遊びを通して行われる養護と教育が一体となった保育について考える。	「養護」と「教育」について、指針解説等を用いてまとめる。(30 分)
7	子どもの主体性を尊重する保育	子どもの主体性を尊重する保育とは何か、また保育者としてどのようなことに留意すればよいのか考える。	これまでの子どもとの関わりのなかで、子どもの気持ちを尊重したいが、上手く対応できなかった事例について、エピソードをまとめる。(30 分)
8	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育とは何かを理解し、保育者の役割を考える。	「どのような環境を整えたらよいのか」、「どのようなことに留意して環境を整えるのか」について、書き出し整理をする。(60 分)
9	生活や遊びによる総合的な保育	生活や遊びによる総合的な保育について考える。	子どもにとって、遊びとはどのような意味があるのか、その必要性についてまとめる。(30 分)
10	個と集団の発達を踏まえた保育	子ども一人ひとりの育ちと、友だち同士との集団での育ちについて考える。	発達過程における、「個の発達」と「集団の発達」について、まとめる。(60 分)
11	家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育	家庭、地域・関係する他機関、小学校との連携・接続を踏まえた保育の意義や方法について学ぶ。	家庭や地域、小学校等との連携において、どのようなことが保育者に求められているのか考え、まとめる。(30 分)

12	幼児の理解と保育の理念	幼児の発達的特徴や保育理念等、保育の発展に寄与した歴史的人物について、調べた内容をグループにて発表する(グループワーク・プレゼンテーション)。	発表に向けての役割分担を行い、事前準備(発表資料作成・原稿作成)を整える。(60 分)
13	保育の多様な展開(1)	長時間保育の実施にあたっての配慮事項について理解する。	長時間保育における、子どもに対する配慮、保護者に対する支援として、考えられることをまとめる。(30 分)
14	保育の多様な展開(2)	特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育について考える。	配慮を要する子どもの保育及び多文化共生の保育について、自分の考えをまとめる。(30 分)
15	まとめ	保育所保育指針、子どもの発達過程の概要、総合的に展開される保育について振り返り、保育における課題や自分の考えをまとめる。	現代の保育における課題について自分の考えをまとめる。(30 分)
16	定期試験	期末試験を行う。	

単位の認定について　期末試験:50%、演習課題・レポート・演習への取組 50%から総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

教科書　講義において別途紹介する。

参考書　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェックの後、必要に応じて個別にコメントを記載する。
また、全体に対してもフィードバックを行う。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	保育の心理学 （科目コード:TNEDU211/TNNTC211）							
資格取得との関連	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）							
担当者	小澤拓大							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	保育科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：「教育心理学」の講義で学習した内容を基礎とし、子どもの心身の発達と保育実践について、学生同士の話合いやグループでの協同学習といった演習形式の学習方法により理解することを目指す。また、日常の生活と遊びなどにおける経験から子どもは何をどのように学んでいるのかについて、子どもの学習の過程を理解する。さらに、こうした保育場面における子どもの発達を促すために保育者はどのような発達支援を行えばよいのかについて学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP					
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ○	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ		

到達目標：
・子どもの発達や発達支援について理解できる。
・適切な保育観、子ども観を持つことができる。
・協同学習を通じて、仲間と協力し合いながら学ぶことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	発達の理解	子どもの発達を理解するために、発達をどのように捉え、またその様子をどのように観察するのかについて学ぶ。	保育をする上で発達をどのように捉えたらよいかを考えてくる(30 分)。
2	個人差と発達過程	人格、情動、認知的側面における子どもの個人差について、発達との関わりから理解する。	子どもの個人差についてどのように向き合うべきかについて考えてくる(30 分)。
3	運動と環境	運動をはじめとする身体感覚を伴う多様な経験が環境との相互作用を通して、子どもの発達にどのように影響するのかについて学ぶ。	子どもの身体的機能と運動機能の発達についてまとめておく(30 分)。
4	保育者との関係	保育者との愛着の形成をはじめ、保育者との関係はどのように作られ、どのように発達するのかについて学ぶ。	子どもにとって保育者はどのような存在であるべきかを考えてくる(30 分)。
5	仲間との関係	子ども同士の相互の関わりと関係づくりについて、自己主張と自己統制の発達との関連から理解する。	子どもの仲間との関係について考え、発表することができるようにしておく(30 分)。
6	子ども集団と保育の環境	保育場面における子ども集団の特徴とその発達的変化について、環境との関わりを中心に理解する。	保育場面における子ども集団の特徴について自分の意見をまとめてくる(30 分)。
7	子どもの生活と学び	子どもの日常生活における学びとはどのようなものか、またどのような過程で学んでいくのかについてディスカッションを通して考える。	子どもの学びについて自分なりに考えを持ち、他者に主張ができるようにしてくる(30 分)。
8	子どもの遊びと学び	遊びを通して、子どもの発達はどのように理解され、また促されるかについて、実践場面を参照しながらディスカッションを通して学ぶ。	教育心理学で学習した遊びの内容を基に、子どもの発達と遊びの関係についてまとめてくる(30 分)。
9	発達援助のあり方1	子どもが基本的生活習慣を獲得する過程における発達援助についてディスカッションを通して学ぶ。	子どもの基本的生活習慣における発達援助について、意見をまとめてくる(30 分)。
10	発達援助のあり方2	子どもの主体性形成における発達援助についてディスカッションを通して学ぶ。	子どもの主体性形成における発達援助について、自分の考えを整理してくる(30 分)。
11	発達課題と援助	子どもの発達課題に応じた援助はいかに行われるべきかについてディスカッションを通して学ぶ。	子どもの発達課題に応じた援助はいかに行われるべきかについて考えてくる(30 分)。
12	就学への支援	小学校への環境移行における問題点とその対策としての発達援助のあり方について学ぶ。	小学校への環境移行時における問題について、まとめてくる(30 分)。
13	発達援助のための協働	子どもの発達を支援する上で、保育者同士の協働はいかに行われるべきかに、その課題と実践についてディスカッションを通して学ぶ。	保育者同士の協働について、その意味と重要性について考えてくる(30 分)。
14	発達と保育の課題	子どもの発達における保育の今日的課題について、心理学の立場から理解する。	保育の今日的課題について、グループ内で意見が出し合えるように準備をしてくる(30 分)。
15	まとめ	これまで学んだ内容についてまとめ、記述する。	これまでに学んだ授業内容を自分の言葉で、自分の考えを含め述べることができるようにしておく(30 分)。
16	試験	これまで学んだ内容の習得状況を確認、評価するための試験を行う。	

単位の認定について　試験 70%　授業態度 20%　授業外学習 10%。

教科書・参考書　「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
その他、必要に応じて担当者が伝える。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェック後に解説する。

授業科目名	幼児教育相談 （科目コード:TNEDU225/TNNTC231）						
資格取得との関連	幼稚園二種免許状 必修 ・ 保育士資格 選択						
担当者	久松尚美(実務家教員)						
オフィスアワー	火曜日の放課後 授業終了後						
授業対象	保育科２年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児を理解するための原理や対応の方法を学ぶ。さらに幼児の発達の状況に即しつつ、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基本的知識)を修得することを目的とする。授業内ワークにおいては、ディスカッションやグループワークを取り入れ実施する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ○	Ⅱ○	Ⅲ○	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	③◎	

到達目標：１.幼児の実態に即して、理解するための原理や対応の方法について説明できる。
２.支援(教育相談)を進める際に必要な基礎的知識を理解し、具体的な進め方やポイントについて説明できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 幼児教育相談の意義	子育てをめぐる現状と課題、幼児理解や教育相談の意義について考える。	幼児理解を基盤とした教育相談の意義と必要性について、自分の考えをまとめる。(30 分)
2	幼児理解の意義と原理1	幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解する。	子どもを理解する方法について、これまでの実習を振り返り、まとめる。(30 分)
3	幼児理解の意義と原理2	幼児理解を深めるための保育者の基本的な態度について考える。	幼児理解を深めるための、保育者の姿勢や態度について、まとめる。(30 分)
4	幼児理解の方法1	幼児理解を深めるための、保育者の姿勢や態度について、まとめる。(30 分)	観察や記録の意義、方法についてまとめる。(60 分)
5	幼児理解の方法2	個と集団の関係を捉える意義や方法を理解する。	個と集団の関係を捉える幼児理解の方法についてまとめる。(180 分)
6	幼児理解の方法3	幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解する方法を学ぶ。	自我の発達にかかわるつまずきと、保育者の具体的なかかわりや配慮について、まとめる。(30 分)
7	幼児理解の方法4	保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解する。	保護者対応における課題についてまとめる。(30 分)
8	教育相談の意義と理論1	幼稚園・認定こども園・保育所における教育相談の意義と課題を理解する。	教育相談の意義と課題をまとめる。(60 分)
9	教育相談の意義と理論2	教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。	教育相談に関わる基礎的な理論・概念をまとめる。(60 分)
10	教育相談の方法1	幼児の不適応や問題行動の背景や要因、並びにそれらに気づき把握する方法を理解する。	遊戯療法・絵画療法・箱庭療法について調べ、まとめる。(60 分)
11	教育相談の方法2	幼児教育におけるカウンセリングマインドの必要性や、カウンセリングの基本的な姿勢や技法を理解する。	カウンセリングにおける基本姿勢や技法について、自分の言葉で説明できるよう、まとめる。(30 分)
12	教育相談の展開1	幼児及び保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を学ぶ。	カウンセリングの基本的な進め方や内容についてまとめる。(30 分)
13	教育相談の展開1	不登園・虐待等の課題に対する幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解する。	事例を通した保育現場での対応について、まとめたり疑問点を調べたりする。(60 分)
14	教育相談の展開3	教育相談の計画の作成や必要な園内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解する。	居住する地域の子育てに関連する関連機関等について調べまとめる。(60 分)
15	教育相談の展開4	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する。	調べてまとめた地域の子育てに関連する関連機関等を基に、マップを作成する。(60 分)
16	定期試験	期末試験を行う。	

単位の認定について　期末試験:60%、演習課題・レポート・演習への取組 40%から総合的に評価し、60 点以上を合格とする。
教科書　講義において別途紹介する。
参考書　『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題はチェックの後、必要に応じて個別にコメントを記載する。また、全体に対してもフィードバックを行う。
※幼稚園教諭の勤務経験を持つ教員が、幼児理解についての知識や考え方、基礎的態度を指導する。
※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	IT パスポート対策講座							
資格取得との関連	上級情報処理士(選択) 経済産業省　情報処理技術者　IT パスポート試験							
担当者	平川　貴之(t-hirakawa@mgjc.ac.jp)							
オフィスアワー	授業終了時							
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：本講義では、IT に関する基礎的な知識を幅広く問う国家試験である「情報処理技術者試験」区分である《IT パスポート試験》の対策を行うものである。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ○	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：IT の基礎知識を持ち、ビジネスに役立てられる人材であることを証明すること。
ストラテジ系（経営・企業活動）・マネジメント系（IT 管理）・テクノロジ系（IT 技術）などのスキルを身につけ利活用できること。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	IT パスポート試験の概要理解と今後の取り組み目標を定める。	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
2	第1章　企業と法務	企業活動の仕組みや会計・財務の基礎、知的財産や契約、労働関連法規など、ビジネスを行う上で必要な法務や社会ルールを学ぶ	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
3	第2章　経営戦略	企業が長期的に成長するための戦略立案や、業界動向・ビジネスモデル、技術活用の考え方などを学ぶ	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
4	第3章　システム戦略	経営戦略を支えるために、情報システムをどう企画・導入していくかを学ぶ。(システム化の目的や要件定義の考え方も含む)	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
5	第4章　開発技術	情報システムやソフトウェアを開発するための方法論やプロセスを学ぶ。	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
6	第5章 プロジェクトマネジメント	システム開発や業務改善を「プロジェクト」として進めるための管理手法を扱う分野を学ぶ。	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
7	第6章 サービスマネジメント	IT サービスを安定的に提供・運用する仕組みや、その評価・改善を行う考え方を学ぶ。	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
8	第7章 基礎理論(テクノロジ)	情報の表現方法、データ構造、アルゴリズム、数学の基礎、プログラミングの概念など、コンピュータの基盤となる理論を扱う分野を学ぶ。	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
9	第8章 コンピュータシステム	ハードウェア(CPU・メモリ・入出力装置など)、ソフトウェア(OS・ミドルウェア)、システム構成の基本を学ぶ。	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
10	第9章　技術要素(1)	情報デザイン・データベース (IT を使うための基盤技術を幅広く学ぶ分野)	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
11	第9章　技術要素(2)	ネットワーク・セキュリティ (IT を使うための基盤技術を幅広く学ぶ分野)	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
12	ストラテジ・マネジメント総復習	過去問を元にストラテジ・マネジメント分野試験攻略	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
13	テクノロジ総復習(1)	過去問を元にテクノロジ分野試験攻略	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
14	テクノロジ総復習(2)	過去問を元にテクノロジ分野試験攻略	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評

			価を行い、改善・軌道修正を行う。
15	総復習	本試験を想定した問題プログラム(アプリ)を使った模擬試験	試験本番に備えての心得と用語の再チェック

単位の認定について　授業の取り組み状況（50%）、総合試験（50%）
教科書　※「IT パスポート試験対策テキスト＆過去問題集」(FOM 出版)
参考書　※「IT パスポートパーフェクトラーニング過去問題集」(技術評論社)
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	アニメーション表現(科目コード:TCCMM105)							
資格取得との関連	上級情報処理士(選択)、プレゼンテーション実務士(選択)							
担当者	山本 辰典(tyamamoto@miu.ac.jp)							
オフィスアワー								
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	２	

授業概要：アニメーションの歴史や基本概念を学び、動きの表現技法や演出手法を考察する。ストーリー構成やカメラワーク、音響効果などの視覚的表現を分析し、アニメーション作品の特徴や意図を論理的に評価する力を養う。最終的には、ツールを使ったアニメーション制作を通じて自分の意図を的確に表現する力を身に着ける。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標： ・アニメーションの基本概念と表現技法を理解する
・視覚的メディアの役割を理解する
・基本的なアニメーション技法を身につけ、自分の意図を的確に表現できるようになる

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	アニメーションの歴史と原則を学び、動きの表現の基礎を理解する。	アニメーション作品を考察する(30 分)
2	アニメーション表現	アニメーション表現における視覚的な動きの設計方法を理解する。	ツールの機能を整理する(60 分)
3	視線誘導	視線の流れを考えた動きについて学ぶ	アニメーション広告を考察する(60 分)
4	ループ表現	繰り返しの動きの効果を学ぶ。	ループ映像を考察する(60 分)
5	ストーリーと絵コンテ	ストーリーの構成方法を学ぶ	絵コンテを作成する(60 分)
6	キャラクター表現	表情や動きで感情を伝える方法を学ぶ。	PC を使って指示された課題を実施する(60 分)
7	カメラワーク	視線誘導や演出を学ぶ。	PC を使って指示された課題を実施する(60 分)
8	作品の考察	作成した作品を分析し、ディスカッションにより改善点を考える。	PC を使って指示された課題を実施する(60 分)
9	より高度な表現技法	表現方法の違いを理解する。	ツールの機能を整理する(60 分)
10	シンボルの動き	キーフレームとシンボルの基礎を学ぶ。	PC を使って指示された課題を実施する(60 分)
11	キャラクターの動き	キャラクターの表情やジェスチャーの表現を学ぶ。	PC を使って指示された課題を実施する(60 分)
12	制作	より高度なアニメーション表現の可能性を考察する	PC を使って指示された課題を実施する(60 分)
13	発表準備	作品の意図や演出を整理する	自分の発表の要点をまとめる(60 分)
14	発表	作品の工夫についてプレゼンテーションをおこない、改善点を検討する。	振り返りの結果をまとめる(60 分)
15	まとめ	今後の学習の方向性や可能性について考える	授業の学びを整理する(60 分)

単位の認定について　提出物(40%)　課題発表(40%)　授業への取り組み(20%)

教科書・参考書　授業内で指示する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	アメリカの文化と言語						
資格取得との関連							
担当者	長島洋介 （メールアドレス:y-nagashima@mgjc.ac.jp ）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科2年生	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： アメリカの歴史・経済・政治がアメリカ文化構築にどのように反映しているか、そしてそのアメリカ文化が世界にどのような影響を与えているかをアクティブラーニングのグループワークやペアワークで研究や発表をおこない、実践的にアメリカの文化と言語を学ぶ。また、日本の歴史や政治なども含めて比較文化の学習にも取り組む。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	

到達目標： 各アメリカの州の州法などの違い、アメリカの歴史、アメリカの歴代大統領の功績、そして日米関係を学び、各自の生活の中で応用できるようにする。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	シラバス確認 基礎アメリカ知識	シラバスの内容とスケジュールの確認 アメリカ合衆国の各学生のイメージ 日米の文化比較と人体構造の違い	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
2	アメリカの自然・地理① 歴代アメリカ大統領①	アメリカの国土(50州)・領土について学び アメリカの簡単な歴史と現在 初代～5代 アメリカ大統領と功績を学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
3	アメリカの自然・地理② 歴代アメリカ大統領②	アメリカの界遺産・気候・環境について学び 6代～10代 アメリカ大統領と功績を学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
4	アメリカの祝日と行事① 歴代アメリカ大統領③	Thanks Giving Days, Christmas, and New Year 11代～15代 アメリカ大統領と功績を学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
5	米国 事件簿学習	「服部君事件」の内容について学ぶ 「ケネディ大統領暗殺事件」について学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
6	アメリカの社会① 歴代アメリカ大統領③	多民族国家・宗教について学ぶ 16代～20代 アメリカ大統領と功績を学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
7	アメリカの社会② 歴代アメリカ大統領④	軍隊・公用語について学ぶ 21代～25代 アメリカ大統領と功績を学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
8	アメリカの社会③ 歴代アメリカ大統領⑤	健康問題・銃と薬物問題について学ぶ 26代～30代 アメリカ大統領と功績を学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
9	米国学習①	米国大統領の役割と勤務状態について学ぶ 紙幣印刷人物・硬貨の歴史と背景 米ドルを使って買い物をしてみよう！	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
10	アメリカの社会① 歴代アメリカ大統領⑥	多民族国家・宗教について学ぶ 31代～35代 アメリカ大統領と功績を学ぶ JFK 暗殺事件の真相	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
11	アメリカの社会② 歴代アメリカ大統領⑦	義務教育・教育システムについて学ぶ 36代～40代 アメリカ大統領と功績を学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
12	米国学習①	米国の経済・産業について学ぶ 米国発祥のファーストフードについて学ぶ	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
13	米国学習②	米国大学教育システムについて学ぶ 米国と日本の子育ての違い 「個人文化」「団体文化」の衝突	講義内容の確認 1時間の次週の予習と準備
14	講義まとめ①	講義内容の確認とレビュー①	講義内容の確認 期末試験の準備
15	講義まとめ②	講義内容の確認とレビュー②	

単位の認定について 試験：４０％ 授業態度：２０％ 授業への参加：２０％ 授業外学習（課題）：２０％

- **教科書** ※「１２歳からの新アメリカ - 教科書には載っていない５３の教養知識」（カンゼン出版社）
- **参考書** ※「アメリカ文化５５」（ミネルヴァ書房）

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	インタフェースデザイン論(科目コード:　　)						
資格取得との関連	上級情報処理士(選択)						
担当者	伊賀 彩子						
オフィスアワー							
授業対象	現代ビジネス科 1 年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：本授業では、UI/UX の基本概念を学び、「使いやすさ」からデザインの原則を理解する。身近な UI の観察を通じてユーザー視点を養い、ワイヤーフレームやプロトタイプを作成する。発表・フィードバックを重ねながら、理論と実践を組み合わせたデザインの改善方法を学び、インタアフェースデザインの基礎を身につける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：
・UI/UX の基本概念を理解し、身近なインタフェースの使いやすさを分析できる。
・ユーザー視点を意識し、論理的にデザインの改善点を説明できる。
・ワイヤーフレームやプロトタイプを作成し、簡単な UI 設計ができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	インタフェースデザインの基本概念を学ぶ。優れた UI/UX の事例を紹介し、使いやすさとは何かを考える。	身近なアプリを 1 つ選び、良い点・改善点をまとめる。(60 分)
2	身近な UI の観察	グループで学内の自動販売機、電気スイッチなどの UI を観察し、使いやすさの工夫を見つける。	観察した UI の気づきをノートにまとめる。(60 分)
3	アプリの UI 分析	よく使うアプリを観察し、UI の特徴や操作性を評価する。	使用アプリの UI をスクリーンショットで記録し、使いやすさを分析。(60 分)
4	UI デザインの基本理論	UI の基本理論を学び、使いやすさの原則を学ぶ。	各概念について簡単に説明できるようにまとめる。(60 分)
5	観察結果の発表	これまでの観察結果を整理し、発表する	授業資料を復習し、過去のノートを整理する。(60 分)
6	UI をデザインする①	デザインするアプリのコンセプトを設計する。	ツールの使用方法を予習する。(30 分)
7	UI をデザインする②	デザインするアプリのワイヤーフレームを設計する。	ワイヤーフレームのラフスケッチを作成する。(60 分)
8	UI をデザインする③	アプリの UI を制作する。	制作物をブラッシュアップする。(60 分)
9	UI をデザインする④	アプリの UI を制作する。	制作物をブラッシュアップする。(60 分)
10	中間発表会	途中段階のデザインを発表し、相互フィードバックを受ける。	受けたフィードバックを元に、修正点をリストアップする。(60 分)
11	デザイン評価	UI の見た目や使いやすさを向上させるために色やレイアウトを調整する。	受けたフィードバックを元に、修正点をリストアップする。(60 分)
12	ユーザー評価	ユーザーテストを実施し、改善点を考える。	受けたフィードバックを元に、修正点をリストアップする。(60 分)
13	最終発表会準備	UI の最終デザインを調整し、発表の準備を行う。	プレゼン用のスライドやデモ動画を作成する。(60 分)
14	最終発表会	完成した UI デザインを発表し、相互評価を行う。	発表後のフィードバックを整理し、最終的な気づきをレポートにまとめる。(60 分)
15	まとめ	今後の学習の方向性や可能性について考える	授業の学びを整理する(60 分)

単位の認定について　提出物(40%)　最終発表(40%)　授業への取り組み(20%)
教科書・参考書　授業内で指示する。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する

授業科目名	異文化コミュニケーション入門						
資格取得との関連	観光実務士選択科目						
担当者	長島洋介						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科１年生	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： 日本内外の異文化を講義（座学）で学び、アクティブラーニングにて実践学習と理解を深める。そして、自分の考えを発信する力（アウトプット）と他の意見を聞く（インプット）を学び、国際的な価値観や文化の違いを深く学ぶ

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

到達目標： 国際力におけるコミュニケーション分野と異文化理解を学び、文化の異なる人々との間で適切なコミュニケーションを取ることができるよう養成する。そして、ペアワークやグループワークで違う意見や価値観を学ぶ。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	シラバス確認など	Introduction 講義内容の確認、アクティブラーニングの説明、異文化とは？	課題、講義内容の予習と復習（60分）
2	異文化コミュニケーション	第１章:異文化コミュニケーションとは？ 新しい常識発見、ステレオタイプ、異文化理解への態度、文化とコミュニケーション	課題、講義内容の予習と復習（60分）
3	コミュニケーション・スタイル	第2章:コミュニケーション・スタイル 「個人文化」と「集団文化」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
4	言語コミュニケーション	第3章:言語コミュニケーション 「ほめ方」「叱り方」「謝り方」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
5	言語コミュニケーション	第3章:言語コミュニケーション 「自己紹介」「誘い方と断り方」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
6	非言語コミュニケーション	第4章:非言語コミュニケーション 「表情」「アイコンタクト」「しぐさとジェスチャー」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
7	非言語コミュニケーション	第4章:非言語コミュニケーション 「タッチング」「空間と対人距離」「時間の感覚」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
8	価値観	第5章:価値観 「ことわざ」「異文化ケース・スタディ」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
9	価値観	第5章:価値観 「基本価値志向」 ケース・スタディ	課題、講義内容の予習と復習（60分）
10	自分を知る	第6章:自分を知る 「対人管理スタイル」「異文化適応力チェック」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
11	自分を知る	第6章:自分を知る 「共感」 ケース・スタディ	課題、講義内容の予習と復習（60分）
12	異文化コミュニケーション・スキル	第7章:スキル 「D.I.E.メソット」「アサーティブ・コミュニケーション」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
13	異文化コミュニケーション・スキル	第7章:スキル 相手の話を聞く」「相手を責めない」「アサーション」	課題、講義内容の予習と復習（60分）
14	試験対策とレビュー①	講義内容の確認	課題、講義内容の予習と復習（60分）
15	試験対策とレビュー②	講義内容の確認	

単位の認定について 試験：４０％ 授業態度：２０％ 授業への参加：２０％ 授業外学習（課題）：２０％

教科書 ※「異文化コミュニケーションワークブック」 矢代京子・荒木晶子 他 編著（三修社出版）

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	医学一般(科目コード:)						
資格取得との関連	上級秘書士(メディカル)選択科目						
担当者	桑迫 信子						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	現代ビジネス科1年生	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2
授業概要：医療のリアルな現場で使われている知識や求められる資質などを現役薬剤師の視点からお伝えする。							

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ◎	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ○	Ⅱ○	Ⅲ

到達目標：医学(人間の健康と病気に関する科学と技術の体系)を理解し、概要を説明することができる。
分からない箇所を互いに教え合うなど助け合いができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション 勉強の方法について	勉強方法を見直し、実際に方法を組み合わせてやってみる(30～60分)
2	現在地の確認	今知っている、または想像する医療現場をKJ法でまとめる	想像した現場について真偽をネットで調べる(30～60分)
3	超基礎医学①	現場で求められる知識や資質についての私見 基礎医学(生理、解剖、生化、薬理など)に向けて	基礎医学についてアウトプットする(30～60分)
4	超基礎医学②	身体について 超基本的な身体の構造 臨床医学(診察、検査、診断、治療など)に向けて	臓器の役割についてアウトプットする(30～60分)
5	ざっくり臨床医学①	検査について 検査の重要性と分類	検査の分類についてアウトプットする(30～60分)
6	ざっくり臨床医学②	検査について 診断と具体的な検査について	学習した内容についてアウトプットする(30～60分)
7	ざっくり臨床医学③	薬について 薬とは何か	医薬品と OTC、サプリメントの違いについてアウトプットする(30～60分)
8	ざっくり臨床医学④	薬について 相互作用や世代による注意点	具体的に注意すべき相互作用についてアウトプットする(30～60分)
9	ざっくり臨床医学⑤	薬について 代表的な病気と治療薬	病気と治療薬についてアウトプットする(30～60分)
10	ざっくり臨床医学⑥	予防や手術について	具体的な予防策や手術の方法についてアウトプットする(30～60分)
11	超高齢社会を超えて	往診について 地域のチーム医療	携わる多くの関係者をアウトプットする(30～60分)
12	大地震に備えて	災害について 被災への備えや支援の方法	学習した内容についてアウトプットする(30～60分)
13	求められる医療の質	医療と AI について 情報提供書の要約や薬歴の作成を実演する	すでに活用されている AI について調べる(30～60分)
14	到達点の確認	得られた知識も活用して医療現場をKJ法でまとめる	自身が携わりそうな分野について調べる(30～60分)
15	まとめ 最新情報	全体の総復習 現場で話題のトピック	総復習で覚えていなかったことに関して自己学習する(30～60分)

単位の認定について 単位テスト60% 授業態度 20% レポート・ノート等評価20%
教科書・参考書 なし
授業外学習について 予習より復習に力を入れ、授業外学習に1時間をあてる。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説・返却する。

授業科目名	医療･介護マネジメント(科目コード:　　)							
資格取得との関連								
担当者	武村順子、桑迫信子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科2年 メディカル秘書コース	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 日本の医療・介護の現状と課題を踏まえ、「医療の質」と「経営の質」向上のための基礎的マネジメントの知識を学ぶ。また、受講生が「医療・介護業界で働くこと」を視点に持ちながら、実習などで体験した事象を振り返るとともに、生涯にわたる継続教育やキャリア開発に挑戦するための基礎力を身に付ける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ○	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

到達目標： ･医療･介護経営においての、専門用語を理解している。
･テーマに沿った検索や調べたことについて、レポートにまとめられる。
･経営指標の推移を示すグラフを読み取り、自分の意見としてまとめることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	科目ガイダンスを行う。	資料を読む。（30 分）
2	医療･介護経営を取り巻く環境 1	疾病構造の変化や患者の高齢化、国民の意識についての事象など、医療に関する変化について確認をする。	疾病構造の変化についてまとめる。（30 分）
3	医療･介護経営を取り巻く環境 2	日本の医療費の高騰と求められる医療制度改革について考える。	医療制度改革についてまとめる。（30 分）
4	医療機関･介護施設の概要	医療サービス、介護サービス提供の仕組み、関連法規、施設の種類を学ぶ。	施設の種類を検索する。（30 分）
5	医療経営についての特徴 1	サービスの視点から見た医療について、実習で体験したことと繋げて考える。	実習先の医療機関の組織をまとめる。（30 分）
6	医療経営についての特徴 2	非営利組織としての医療機関について考える。 ドラッカーについて学ぶ。 患者主権と医療のコモドディ化について学ぶ。	検索した結果を指示された様式にまとめる。（30 分）
7	介護経営についての特徴 1	サービスの視点から見た介護について、実習で体験したことや身近な問題と繋げて考える。	介護保険についてまとめる。（30 分）
8	介護経営についての特徴 2	非営利組織としての介護施設について考える。 ケアの形態や介護ワーカーについて学ぶ。	介護保険についてまとめる。（30 分）
9	医療・介護組織の特徴	企業との比較から、医療・介護組織の特徴を学ぶ。	企業と医療についての組織の違いをまとめる。（30 分）
10	医療･介護組織の事例検討 1	組織形態、病床数、標榜診療科、経営理念などの検索から、事例となる医療機関について調べる。	医業収益、利益、紹介率、入院単価、新入院数などの用語を調べる。（30 分）
11	医療･介護組織の事例検討 2	検索した医療機関について、事例として紹介し、どのような運営がなされているのかディスカッションを通して、検討していく。	財務の視点、顧客の視点について、自分の意見をまとめる。（30 分）
12	医療･介護の質と経営効率 1	経営効率が成功した事例の収益変化のグラフを読み解く。何が功を奏したのが、ディスカッションを通して、検討していく。	内発的、外発的動機付けなどの用語を調べまとめる。（30 分）
13	医療･介護の質と経営効率 2	バランススコアカードの基本構造について学ぶ。 既存の医療感覚にとらわれない運営について、ディスカッションを通して、検討していく。	クリティカルパスについて復習する。（30 分）
14	動機付け （モチベーション）	職員の能力を発揮させるマネジメントの在り方を学ぶ。また、エニアグラム診断を通して、自分の「動機」についての理解を深める。	内発的、外発的動機付けなどの用語を調べまとめる。（30 分）
15	まとめ	学んだことについての確認を行う。	指示された課題について、レポートにまとめる。（30 分）

単位の認定について 討議課題 20%、研究課題 20%、記述テスト 50%、授業への取組 10%の 6 割点で単位が認められる。
教科書　授業内で資料を配布する
参考書　「医療経営概論」「人的資源管理論」日本医療企画出版「はじめての医療経営論」有斐閣出版
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習･復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバック　提出された課題は、チェック後に解説する。
※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	医療事務演習Ⅰ（科目コード:　　）						
資格取得との関連	上級秘書士〈メディカル秘書〉（選択科目）						
担当者	馬原　裕加里（メールアドレス:y-mahara@mgjc.ac.jp）						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：診療報酬のしくみを理解するとともに各医療行為を算定し、医科レセプトを作成するまでの一連の事務処理を、実務演習を通して修得する。また、請求事務に係る帳票についても理解し医療機関での事務業務に役立つようにする。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②○	③○	

到達目標：医療法規と医療処置、各診療行為算定の知識を応用し、カルテから正確なレセプト作成ができる。
グループ内の他者と協力し、より正確なレセプトを作成できる。
レセプト作成に必要な知識を他者に説明できる。
条例改正に伴う作業の変更を正しく実行することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	医療保険制度のしくみ	医療保険制度を理解し、保険の種類や被保険者証の見方がわかる。被保険者証からカルテの上書きができる。給付率と負担率から、患者一部負担金を算出する。	社保や国保の加入対象者を確認し、患者負担割合のルールを理解する。
2	診察料①	初診料について算定の原則および加算のルールを理解し、医療機関の規模の違いにより点数が変わることを理解する。	初診料の問題を解きながらレセプト化して覚える。（1時間）
3	診察料②	再診料についてレセプトの表記法を覚える。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。	再診料の問題を解きながらレセプト化して覚える。（1時間）
4	医学管理料	医学管理の各管理料の疾病との関わり、また標榜する病床数や診療科により算定が異なること、および点数構成について覚える。	医学管理料の課題を解く（60 分）
5	投薬料①	内服薬、頓服薬、外用薬について、薬剤ごとに算定の原則を理解し、正しい薬剤料の算定ができる。	投薬料の課題を解く。
6	投薬料②	上記について、点数化の方法を理解し記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。	投薬料の問題を解きながらレセプト化して覚える。（1時間）
7	注射料①	皮下・筋肉内注射、静脈内注射、その他注射について、算定の原則を理解する。	注射料の課題を解く（60 分）
8	注射料②	上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。	例題のカルテからレセプト化して覚える。（60 分）
9	処置料①	処置料について、各診療科による算定、また外来と入院においての算定原則および加算のルールを理解し、正しく算定できる。	処置料の課題を解く（60 分）
10	処置料②	上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。	例題のカルテからレセプト化して覚える。（60 分）
11	手術料①	手術について算定の原則および加算のルールを理解し、正しく算定できる。	手術料の課題を解く（60 分）
12	手術料②	手術について算定の原則および加算のルールを理解し、記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。	麻酔料の課題を解く（60 分）

13	麻酔料	麻酔について算定の原則および加算のルールを理解し、記載要綱にしたがって正しくレセプト記載できるようにする。グループワークを通じて、解釈や意見の交換を行い、解答の精度を高める。	麻酔料の課題を解く(60 分)
14	輸血料	輸血について算定の原則および加算のルールを理解し、正しく算定できる。	輸血料の課題を解く(60 分)
15	まとめ	これまでに学習した内容のカルテ記載より、レセプトを作成する。（まとめ）	例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分)

単位の認定について　授業内での確認テスト 50%　グループワークへの参加状況 20%　レポート課題の提出と内容 20%　授業への取り組み 10%

教科書　「診療点数早見表 2024 年版」医学通信社　「資料ブック」ソラスト

参考書　「医科カルテ例題集」ケアアンドコミュニケーション

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	医療事務演習Ⅱ(科目コード:　　)						
資格取得との関連	上級秘書士〈メディカル秘書〉(選択科目)						
担当者	馬原　裕加里(メールアドレス:y-mahara@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開港時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要: 診療報酬のしくみを理解するとともに各医療行為を算定し、医科レセプトを作成するまでの一連の事務処理を、実務演習を通して修得する。また、請求事務に係る帳票についても理解し医療機関での事務業務に役立つようにする。

DPとの関わり	全学DP					全学DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②○	③○	

到達目標: 医療法規と医療処置、各診療行為算定の知識を応用し、カルテから正確なレセプト作成ができる。
グループ内の他者と協力し、より正確なレセプトを作成できる。
レセプト作成に必要な知識を他者に説明できる。
条例改正に伴う作業の変更を正しく実行することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	1年後期にあたっての導入	1年前期で学習した内容を復習し、診療報酬算定とレセプト作成において、不明点がないか確認する。	1年前期で学習した内容の復習課題を解く(60分)
2	検体検査料①	検体検査料について、算定の原則を理解する。	検体検査科の課題を解く(60分)
3	検体検査料②	上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。	例題のカルテからレセプト化して覚える。(60分)
4	生体検査料①	生体検査料について、算定の原則を理解する。	生体検査科の課題を解く(60分)
5	生体検査料②	上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。	例題のカルテからレセプト化して覚える。(60分)
6	画像診断料①	画像診断料について、算定の原則を理解する。	画像診断科の課題を解く(60分)
7	画像診断料②	上記について点数化し、記載要綱にしたがって正しく記載できるようにする。	例題のカルテからレセプト化して覚える。(60分)
8	在宅医療	在宅患者の往診料、在宅療養の点数について覚える。	在宅医療の課題を解く(60分)
9	リハビリテーション料①	リハビリテーション料の点数構成について覚える。	リハビリテーション料の課題を解く(60分)
10	リハビリテーション料②	上記について点数化し、記載要綱にしたがってカルテ記載より、レセプトを作成する。	例題のカルテからレセプト化して覚える。(60分)
11	精神科専門療法	精神科専門療法の点数構成について覚える。	精神科専門療法の課題を解く(60分)
12	放射線料	放射線料の点数構成について覚える。	放射線料の課題を解く(60分)
13	入院料①	入院料について点数の構成について覚える。	入院科の課題を解く(60分)

14	入院料②	上記について点数化し、記載要綱にしたがってカルテ記載よりレセプトを正しく作成できるようにする。	例題のカルテからレセプト化して覚える。(60 分)
15	まとめ	これまでに学習した内容のカルテ記載より、レセプトを作成する。（まとめ）診療報酬について、請求業務の流れを理解する。	レセプト提出時の点検の流れを覚える。(60 分)

単位の認定について　授業内での確認テスト 50%　グループワークへの参加状況 20%　レポート課題の提出と内容 20%　授業への取り組み 10%

教科書　「診療点数早見表 2024 年版」医学通信社　「資料ブック」ソラスト

参考書　「医科カルテ例題集」ケアアンドコミュニケーション

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	医療秘書概論(科目コード:　　)							
資格取得との関連	上級秘書士〈メディカル秘書〉(必修)							
担当者	武村 順子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科 1年 メディカルマネジメントコース	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 医療秘書の職務や行動について理論的に理解し、専門的知識やスキルを駆使して、医療秘書業務を目的に沿って的確に処理する能力を習得する。また、医療機関実習Ⅰにおいて必要な医療機関の知識を学修する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②○	Ⅲ○	

到達目標：
・医療機関組織について理解できる。
・医療機関における医療秘書の役割を理解できる。
・医療秘書業務の遂行のための知識やスキルについて、説明できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	医療秘書について学ぶべき課題を確認する。	指示された課題の検索を行う。(30 分)
2	日本の医療、医療界の現状	我が国の医療の特徴と最新の現状を理解する。医療秘書の出現について学ぶ	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
3	医療秘書とは	医療秘書の役割について学ぶ。	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
4	派生する職務について	クラーク業務との関係性について学ぶ。 一般の医療事務職との違いについて考える。	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
5	医療機関とは-1	医療機関の組織や構成する医療専門資格者、医療機関の種類について学ぶ。 法人などの設置主体について、情報収集を行い、ディスカッションをする。	指示された課題について、データ提出を行う。(30 分)
6	医療機関とは-2	地域連携の中での医療機関の役割について学ぶ。医療構想について情報収集を行い、ディスカッションをする。	指示された課題について、データ提出を行う。(30 分)
7	病院システム管理	診療情報管理について学ぶ。チーム医療の中での医療秘書や医療事務職者の役割について学ぶ。	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
8	医療秘書の形態	秘書のサポート業務の概要を理解し、職種ごとの違いを学ぶ。	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
9	医療秘書の業務-1	医療秘書の業務について学び、グループでロールプレイを行う。 患者対応、電話対応、院内業務	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
10	医療秘書の業務-2	医療秘書の業務について学び、グループでロールプレイを行う。 医師事務作業補助業務	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
11	業務に必要な資質・能力	どのような資質と能力が必要なのか、グループワークを通して、意見の交換や討議を行う。	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
12	実践に必要な技術	マナーや立ち居振る舞いについて、現場を想定しながら考える。	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
13	インバスケット-1	多様な指示や業務の優先順位をつけ、業務を遂行するためのワークを行う（医事課業務）	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
14	インバスケット-2	多様な指示や業務の優先順位をつけ、業務を遂行するためのワークを行う。（医師事務作業補助業務）	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)
15	まとめ	学んだことについての確認を行う。	指示された課題について、レポートにまとめる。(30 分)

単位の認定について　討議課題発表 30%、研究課題レポート 50%、確認小テスト 10%、授業への取組 10%の6割点で単位が認められる。

教科書　レジュメを配布する

参考書　『現代医療秘書　役割と実務』(西文社)

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバック　提出された課題は、チェック後に解説する。

タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	医療用語(科目コード:　　)							
資格取得との関連	上級秘書士(メディカル秘書)(必修)							
担当者	桑迫信子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科 1 年 メディカルマネジメントコース	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：医療業界や医療組織を理解するため、診療、検査などで使われる用語を学び、医療専門スタッフと連携がとれるよう医療知識を習得する。医療機関実習への参加のためには、履修が必要な授業である。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②○	Ⅲ○	

到達目標：・医療に関する基礎知識を身につけ、口頭での質問に答えたり説明したりできる。
・検索学修を行い、出典や引用元を明示し成果をレポートにまとめることができる。
・調べたことをグループワークでの作業に活かすことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	医療機関について	医療機関の組織構造について理解する。 医療機関の役割について学ぶ。	医療機関は、どのような部署から成り立っているのか、まとめる。(40 分)
2	医療機関について	医療事務・医療秘書・クラーク職について知る。 「医療法」定められた医療機関の種類について理解する。	病院と診療所の違いについて調べ、まとめる。(40 分)
3	診療過程について	診察技法の名称や内容､大枠での検査の種類や名称などを学ぶ。	診療支援、診察について調べまとめる。(40 分)
4	診療過程について	診察に用いられる反射の種類とその意味について学ぶ。	電子カルテの特徴や、法的保存期間について調べまとめる。(40 分)
5	診療過程について	放射線検査、臨床検査に用いられる検査を学ぶ。 病床区分、医療圏について学ぶ。	指示された事例の記録を行う。(40 分)
6	診療過程について	電子カルテの特徴を理解し､診療録に使われる用語を学ぶ。	バイタルサインに含まれる項目について調べまとめる。(40 分)
7	診療過程について	SOAP による記録法を理解し、事例について情報を整理し、記載の方法を学ぶ。	症状と検査について調べ、レポートにまとめる。(40 分)
8	症状・診察に使う用語	胸腹部、頭頸部、眼についての医療用語を学ぶ。	頭頸部・眼の疾病、対応診療科について調べまとめる。(40 分)
9	症状・診察に使う用語	精神症状についての医療用語を学ぶ。	精神科領域の疾病についてレポートにまとめる。(40 分)
10	症状・診察に使う用語	腫瘍、創傷の症状・診察の用語について理解する。	褥創について調べ、レポートにまとめる。(40 分)
11	疾患理解のための用語	急性腹症の症例をもとに、医療用語を学ぶ。	指摘を受けた箇所の訂正や加筆を行いデータで提出する。(40 分)
12	疾患理解のための用語	周産期の異常やその防止対策について理解する。	病態生理について調べ、レポートにまとめる。(40 分)
13	医療保険制度の用語	標榜診療科と疾患の関連について学ぶ。	家族、自分の健康保険について理解する。(40 分)
14	公衆衛生の用語	公衆衛生、疾病予防、食中毒、精神保健、環境に関連する用語について理解する。	公衆衛生の役割について調べまとめる。(40 分)
15	まとめ	診療の流れ、医療機関に所属する専門職、組織、診察方法、検査などの理解度を確認する。	授業資料をもとに、予習を行う。(40 分)

単位の認定について　記述試験 50%　授業態度 20%※ファイルの綴じ方や授業内のメモも含む　レポート評価 30%
6 割点で単位が認められる。

教科書　授業で指示する。

参考書　「病院で受ける検査がわかる本」法研出版　「病院の言葉を分かりやすく」勁草書房出版

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	医療倫理(科目コード:TCBMS202)							
資格取得との関連	上級秘書士(メディカル秘書)選択科目							
担当者	武村 順子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科 2年 メディカルマネジメントコース	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：患者の抱える問題を理解し、社会的、精神的に及ぼす影響を考え、患者と医師、患者と看護師、患者とその家族の橋渡しができるように学修することを目指す。また、倫理の本質を学び、医療に携わる職業人としての役割や社会的な使命を認識でき、現行の医療体制の問題や課題について深く考え、自分の見解を示すことができるよう授業を進める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ○	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

到達目標：・患者の身体的、精神的苦痛を知り、患者の潜在的な悩みは何かを理解し説明できる。
・医療に携わる職業人として、患者の人権を守るための責務を、自分の言葉で表すことができる。
・医療専門分野の倫理要綱を理解し、事例などから自分の考えをまとめ、発表できる。
・グループで話しあうことで、自分の考えを深めることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	病気と医療の歴史	歴史の変遷を理解し、患者とは何かを考える。	医療倫理の歴史を調べまとめる。(40 分)
2	患者の心理・権利	ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言を学び、患者の権利の必要性を理解する。	倫理の基本となっている歴史的事実を調べ、ノートにまとめる。(40 分)
3	患者の心理・権利	余命を宣告された患者の心理過程について事例から学ぶ。セカンドオピニオンについて、患者の権利の視点でディスカッションを行う。	死にゆく患者の心理過程を調べまとめる。(40 分)
4	患者と社会との関係	患者と家族や職場、地域などの関係を学ぶ。患者になることで影響される「社会的活動」について、ディスカッションを行う。	患者になるということの社会的影響を考えまとめる。(40 分)
5	患者と医療者との関係	インフォームドコンセントをしっかり機能させることの重要性を学ぶ。糖尿病の事例について考え、ディスカッションを行う。	自分が患者となった場合のことを考えまとめる。(40 分)
6	患者と医療者との関係	治療としてのメディカルケアの中にもセルフケアが重要であることを知る。患者がその役割を果たすための関わりについてディスカッションを行う。	患者の役割行動について考えまとめる。(40 分)
7	終末期の患者ケア	治療・ケアの場の違いによる患者像、緩和ケア、ターミナルケアについて、事例より学ぶ。人生最後の段階で、大切にしなくてはならないことは何なのか「人生会議」の模擬体験の後ディスカッションを行う。	積極的治療を行うことの弊害について調べまとめる。(40 分)
8	倫理 4 原則	アメリカ型やヨーロッパ型など、国や地域による考えの違いを学ぶ。また、日本の医療においても、医療機関の種類、診療領域の違いなどからくる倫理の問題について考えディスカッションを行う。	医療秘書(医療系事務職)として求められる倫理観について考えまとめる。(40 分)
9	出生前診断・生殖補助医療の医療倫理	命の始まりに関わる倫理的問題点を考え、ディスカッションを行う。	出生前診断・生殖補助医療の医療倫理について調べ、まとめる。(40 分)
10	遺伝子検査・治療の医療倫理	遺伝カウンセリングについて学び、倫理的問題点を考え、ディスカッションを行う。	現在実施されている遺伝子検査について調べまとめる。(40 分)
11	再生医療の医療倫理	再生医療について学び、倫理的問題点を考え、ディスカッションを行う。	再生医療の種類について調べまとめる。(40 分)
12	脳死・臓器移植の医療倫理	脳死、臓器移植について学び、倫理的問題点を考え、ディスカッションを行う。	脳死・臓器移植の医療倫理について調べまとめる。。(40 分)
13	積極的安楽死・尊厳死・終末期における医療倫理	自殺幇助、慈悲殺、医療行為中止による患者の死について学び、ディスカッションを行う。	積極的安楽死・尊厳死、終末期における医療倫理について調べまとめる。。(40 分)
14	災害時の医療倫理	災害医療においては、医療専門職のマネジメントが必要となること、また、DMAT には事務職人材もメンバ	災害拠点病院、災害基幹病院について調べまとめる。

		ーとして加わることを知り、患者だけではなく医療サービス提供者も含む倫理について学ぶ。	
15	まとめ	医療に関わる職業人としての倫理的態度について、また、医療機関のあるべき姿を考える。	新聞やインターネットでの検索の結果などをレポートにまとめる。(40 分)

単位の認定について　記述試験 50%　授業態度・発表 30%※ディスカッションへの参加についての評価を重視する
レポート・ノート 20%の 6 割点で単位が認められる。

教科書　レジュメを配布する

参考書　「看護学概論」医学書院出版、「看護倫理」医学書院出版、「社会福祉と権利擁護」NHK 出版、
「ケースブック医療倫理」医学書院出版　「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバック　　提出された課題は、チェック後に解説する。

※タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	Webデザイン演習(科目コード:　)							
科目名								
担当者	河野美香子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：本講義では、Web 制作の基礎技術を習得し、自分のアイデアを Web ページとして形にできる力を身につけることを目的とします。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

評価指標：・インターネットや Web ページがどのように動作しているかを説明できる。。
・学んだ技術を活用して自分の Web ページを構築できる

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション・Web の仕組みと流れ	Web の基本構造と授業の流れを理解する	毎時の授業で学んだ機能について復習する。(30 分)
2	Web デザイン基礎	Web デザインの基礎を理解する	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
3	HTML の基礎①（タグ・構造）	HTML の基本タグを使ってページ構造を作成できる	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
4	HTML の基礎②（リンク・画像・リスト）	リンクや画像の挿入、リストの作成ができる	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
5	CSS の基礎①（セレクタ・プロパティ）	CSS で文字や背景のスタイルを変更できる	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
6	CSS 応用（レスポンシブデザイン入門）	レスポンシブデザインを理解する	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
7	Web ページ制作演習	HTML と CSS を使って商品案内ページを作成する	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
8	動画コンテンツ基礎	動画制作の基礎を理解する	毎時の授業で学んだ技術・操作について復習する。(30 分)
9	動画コンテンツ応用	動画制作の技術を理解する	毎時の授業で学んだ技術・操作について復習する。(30 分)
10	サーバーアップロード基礎	サーバーアップロードと インターネット公開について理解する	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
11	SNS プロモーション	SNS 運用とプロモーションについて理解する	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
12	ディレクションの基礎	サイトコンセプト策定から要件定義までを理解する	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
13	最終課題制作①	サンプル Web サイトを企画・制作する	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
14	最終課題制作②	サンプル Web サイトを企画・制作する	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
15	発表・振り返り	制作物の発表と授業の総括を行う	まとめの課題に取り組む。(30 分)

単位の認定について　取り組み状況、課題（30%）、制作物（70%）
教科書
参考書　授業内で指定
授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説を行う。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	映像撮影論(科目コード:　　)							
資格取得との関連								
担当者	一栁 智子							
オフィスアワー								
授業対象	現代ビジネス科 2 年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	1	

授業概要：映像制作の基礎（構成・撮影・編集）を、UMK（株式会社テレビ宮崎）との連携を通して学ぶ。放送局が担う公共的使命を理解し、映像が社会に与える影響を踏まえて学習を進める。Day1 では映像の原則と企画・絵コンテを学び、Day2 では PR 映像の撮影・編集を行う。短期間で企画から制作までを経験し、「何を・誰に・どう伝えるか」を理解して表現力を高めることを目指す。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ

到達目標：
・PR 映像の役割・構成要素、および映像が社会に与える影響を説明できる
・絵コンテの目的と構成方法を理解し、映像の流れを理論的に説明できる
・撮影・編集の基礎的な考え方を理解し、適切に活用できる

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	Day1 オリエンテーション	PR 映像制作の全体像について基本的な流れを学ぶ。また、放送局が担う社会的使命について理解し、映像表現が持つ社会的意義や責任について考える。	放送局の社会的使命について自分が重要だと感じた点をまとめる(30 分)
2	Day1 構成づくりの基礎	ターゲット設定、メッセージ設計、カット構成など、PR 映像に必要な「伝え方の基本原則」を学ぶ。	参考映像を視聴し考察する(60 分)
3	Day1 絵コンテ作成	PR 映像の流れを整理し、画角・構図を踏まえた絵コンテ(設計図)を制作する。	絵コンテの不足部分や追加したいカットを各自で整理しておく(60 分)
4	Day1 撮影現場視察	UMK のスタジオや撮影現場等を見学し、報道・番組制作の現場でどのように情報が整理され、正確性・公共性が確保されているかを学ぶ。	視察で気づいた点を挙げ、Day2 の企画や撮影に生かす準備をする(60 分)
5	Day2 撮影準備	絵コンテの最終調整を行い、使用機材の操作確認やロケ場所の検討を通して撮影の段取りを整える。	撮影に必要なものを準備する(60 分)
6	Day2 撮影実習	絵コンテに沿って校内で PR 映像の撮影を行い、必要に応じて追加カットも撮影する。	撮影素材を整理する(60 分)
7	Day2 編集基礎	編集ソフトを使い、カット編集・テロップ・BGM を加えて PR 映像の形に仕上げる。	改善点を整理する(60 分)
8	Day2 発表・講評・振り返り	完成した PR 映像を発表し、教員および視聴者からの講評を受け、制作過程を振り返る	授業全体の学びと今後に生かしたい点をまとめる(60 分)

単位の認定について　最終 PR 映像(50%)　絵コンテおよび構成説明(30%)　振り返りレポート(20%)
教科書・参考書　授業内で指示する。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　講義内での口頭フィードバックを基本とする

授業科目名	英語プレゼンテーション演習						
資格取得との関連	プレゼンテーション実務士選択科目						
担当者	長島洋介						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科１年生	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： プレゼンテーションの基礎を演習授業としてペアワークやグループワークで学び、自信をもって英語で自分の意見を発信できる練習を数多くこなす学習を行う。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②○	Ⅲ○	

到達目標： 「英語」に対する大きな壁を乗り越え、国際的に通用する人材に成長する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	自己紹介・講義内容説明・基本英語学習	自己紹介(氏名・出身校・卒業後の目標・好きな色・好きな食べ物・行ってみたい国等)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
2	上手なプレゼンテーションとは？	日本語と英語でのプレゼンテーション構成の違い	課題、講義内容の予習と復習（60分）
3	英語で自己紹介	英語で自己紹介・出身校・卒業後・趣味・等	課題、講義内容の予習と復習（60分）
4	海外の授業内容	海外のプレゼンテーションの関する授業内容確認	課題、講義内容の予習と復習（60分）
5	日本国内プレゼンテーション準備①	都道府県を一つ選び発表の準備①	課題、講義内容の予習と復習（60分）
6	日本国内プレゼンテーション準備②	都道府県を一つ選び発表の準備②	課題、講義内容の予習と復習（60分）
7	日本国内プレゼンテーション発表と講評	パワーポイントによる発表	課題、講義内容の予習と復習（60分）
8	上手なプレゼンテーション？②	発表時の話す速さ、語彙選択、ポウジングなどのスピーチのテクニークについて学ぶ	課題、講義内容の予習と復習（60分）
9	海外プレゼンテーション準備①	国を一つ選び発表の準備①	課題、講義内容の予習と復習（60分）
10	海外プレゼンテーション準備②	国を一つ選び発表の準備②	課題、講義内容の予習と復習（60分）
11	海外プレゼンテーション発表と講評	パワーポイントによる発表	課題、講義内容の予習と復習（60分）
12	自分の将来の夢 プレゼン準備①	卒業後・5年後・10年後の自分の目標について	課題、講義内容の予習と復習（60分）
13	プレゼンテーション発表と講評	パワーポイントによる発表 最終プレゼンテーションについて説明 講義の総まとめ	課題、講義内容の予習と復習（60分）
14	プレゼンテーション発表と講評	パワーポイントによる発表 最終プレゼンテーションについて説明 講義の総まとめ	課題、講義内容の予習と復習（60分）
15	まとめ	まとめ内容の確認	

単位の認定について 試験:40% 授業態度:20% 授業への参加:20% 授業外学習(課題):20%
教科書 ※「プレゼンテーションの英語表現」 デイビット・セイン／マーク・スプーン著（日本経済新聞出版社)。
参考書 ※
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	観光英会話							
資格取得との関連	観光実務士選択科目							
担当者	長島洋介							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科１年生	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：ホスピタリティ業界専門用語やケーススタディをペアワークやディスカッションを演習授業にて取り入れて英語で学習し、実践的な接遇英語やビジネス英語を学習

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①○	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：ホスピタリティ業界専門用語を実用的に学び、アウトプットを可能にする

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	自己紹介・講義内容説明・基本英語学習	英語で自己紹介、講義内容と評価方法などを説明。日本の義務教育で学んできた英語よりさらにレベルアップした実践英語の学習法について説明	課題、講義内容の予習と復習（60分）
2	Recommending a tour	旅行代理店の職員としてお客様に提案する(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
3	Taking a tour booking	旅行代理店の職員として予約・購入手続きを学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
4	Welcoming international tourists	旅行代理店の職員として外国人旅行者サポートについて学ぶ　(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
5	Taking reservations	予約センター職員として航空チケット予約を学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
6	Giving flight information	航空会社職員として飛行機移動について説明する(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
7	Helping passengers	フライトアテンダントとして搭乗者のサポートを学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
8	Helping passengers	フライトアテンダントとして搭乗者のサポートを学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
9	Working at the boarding gate	空港職員として旅行者入国サポートについて学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
10	Giving CIQ information	空港職員として旅行者入国サポートについて学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
11	Taking room reservations	宿泊施設職員として部屋の予約について学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
12	Welcoming guests	宿泊施設職員としてお出迎えについて学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
13	Helping guests	宿泊施設職員として利用者サポートついて学ぶ(ペア・グループワーク)	課題、講義内容の予習と復習（60分）
14	Dealing with complaints	宿泊施設職員としてクレーム対応について学ぶ(ペア・グループワーク) 最終プレゼンテーションの準備	課題、講義内容の予習と復習（60分）
15	まとめ	まとめ内容の確認	

単位の認定について　試験:40%　授業態度:20%　授業への参加:20%　授業外学習(課題):20%

教科書　※「English for Tourism Professionals」Reiko Fujita 著（ナショナルジオグラフィックラーニング出版)。

参考書　※

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	観光概論						
資格取得との関連	観光実務士						
担当者	吉田 秀政 （メールアドレス: ）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科	開講時期	2年前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：本授業では、観光の基本的な考え方や仕組みについて学ぶ。観光は単なる旅行ではなく、人の移動を通じて地域に価値を生み出す仕組みである。観光の種類、観光客の特徴、観光関連産業の構造、地域への影響を具体例を通して理解する。また、観光に関わる仕事の広がりや役割について学び、観光で働くことの意義を考える。さらに、デジタル技術の進展により観光の仕事がどのように変化しているかを理解する。最後はグループ発表と振り返りを行い理解を深める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：学生は本授業を通じて、次のことができるようになる。
1. 観光の基本的な仕組みや役割を理解し、説明できる。
2. 観光の種類や観光客の特徴を理解できる。
3. 観光関連産業の構造と地域との関係を理解できる。
4. 観光に関わる仕事の役割を理解し、自分の言葉で説明できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	観光とは何か	観光の意味と役割に加えて、授業内容、進め方、到達目標、評価方法を理解する。	リフレクションペーパー（学んだこと・気づいたこと・疑問に思ったこと）提出
2	観光の種類①（旅行の形態）	団体旅行と個人旅行の違いを学び、それぞれの特徴や利点を具体的に理解する。	リフレクションペーパー提出
3	観光の種類②（目的別）	観光・ビジネス・交流・MICE など、旅行の目的による違いと背景を理解する。	リフレクションペーパー提出
4	観光の種類③（新しい観光）	エコツーリズムや体験型観光など、新しい観光の特徴と意義を理解する。	リフレクションペーパー提出
5	観光客とは何か	観光客の行動や旅行の理由を学び、その特徴や傾向を具体的に理解する。	リフレクションペーパー提出
6	観光関連産業と仕事の広がり	観光に関わる仕事の種類と役割を学び、観光関連産業で働く意義や可能性を理解する。	リフレクションペーパー提出
7	観光関連産業の仕組み	宿泊・交通・飲食などのつながりから観光の仕組みと流れを理解する。	リフレクションペーパー提出
8	観光と地域経済	観光が地域の経済や雇用に与える影響とその広がりを理解する。	リフレクションペーパー提出
9	観光の利点と課題	観光の利点と課題を学び、その影響を具体例を通して多面的に理解する。	リフレクションペーパー提出
10	観光とデジタル技術（AI・データ）	予約や口コミ、AI などにより観光の仕事がどう変化しているかを具体的に理解する。	リフレクションペーパー提出
11	観光を続けるための条件	観光事業を続けるための考え方を学び、持続可能な観光の重要性を理解する。	リフレクションペーパー提出
12	観光地域づくりの本質	観光を活かした地域づくりの方法とその役割や効果を理解する。	リフレクションペーパー提出
13	総合演習①（グループワーク）	これまで学んだ内容から、特に興味深いテーマをグループで選び、皆に深く理解してもらうための発表方針を決め、発表用資料を作成する。	発表用資料作成準備
14	総合演習②（グループワーク）	グループで発表用資料を作成の続きを行い、完成後、グループ分担発表練習を行う。	発表準備
15	総合演習③（グループワーク）	グループ分担発表と振り返りを行い、学びを整理する。	リフレクションペーパー提出
16	定期試験		

単位の認定について　定期試験 20%、リフレクションペーパー 30%、グループ分担発表 30%、授業取組み態度 20%
教科書　授業で使用する資料はデジタルデバイスを通じて、前日までに PDF で配布する。
参考書　授業中に適宜紹介する。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※本授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。※本授業では、PC、タブレットの使用を積極的に推奨する。
※担当教員は、旅行業、DMO 経営、道の駅経営、地方創生行政等の実務経験と研究知見を活かして授業を行う。

授業科目名	企業実習Ⅰ（科目コード:TCBSC321）						
資格取得との関連	ビジネス実務士（必修）、観光実務士（必修）、上級情報処理士（選択）、実践キャリア実務士（選択）、上級ビジネス実務士（選択）、プレゼンテーション実務士（選択）						
担当者	河野　美香子（実務家教員）　　・実習先担当者						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	前期	授業の種類	実習	単位数	1

実習の目的： 実際に職場で就業体験することにより、高等教育での学習内容を深めるとともに、将来の進路選択の参考にすることを目的としている。

授業概要： インターンシップを通して、社会的自立や職業生活に必要な能力の育成を図り、日常の学修とは異なる一般社会からの気付きや新たな学びを促す。さらに、自らの専攻や将来希望する職業に関連した職場で業務を体験することを通じ、高等教育での学びと社会との関連性や課題を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、専門知識の有用性や職業自体について具体的に理解することを目指す。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

評価指標

1．実社会における実際的な知識・技術を学ぶことができる。
2．大学での学びと職業を結びつけて考えることができる。
3．進路選択能力や働くことに対する望ましい見方・考え方ができる。
4．様々な世代の人たちとのコミュニケーション能力を高め、社会人としてのマナーを身につけることができる。

授業計画表

概要

実習前指導（2コマ）

1. インターンシップの意義について　2. インターンシップの実施について　3. インターンシップ終了後の活動内容について
4. ビジネスマナー研修　5. インターンシップノートの記入方法ならびに報告書の作成について

※ 1～5については、学内の前指導で実施。
※ インターンシップ先の登録については、前指導以前に宮崎県総合政策部フードビジネス推進課、宮崎県経営者協会の実施するインターンシップ募集に伴い、それぞれの募集要項に沿って決定する。
※ 前指導の一環として、宮崎コンソーシアム主催のインターンシップ研修会への参加も必須とする。

実習期間（12コマ）

1. 受入れ事業所で就業体験
前期終了後ならびに夏休み期間中に5日間以上の就業体験を実施。
2. 実習中の記録
日々の活動を記録し（インターンシップノート）、受け入れ事業所のインターンシップ担当者よりコメントを頂戴する。
3. 報告書の作成
実習終了後、1週間以内に、報告書を作成し（インターンシップノート）、担当教員に提出する。

実習後指導（1コマ）

1. 実習の報告
担当教員への報告書提出に際し、実習の報告を行う。
2. 実習についての振り返り

単位の認定について

・実習前指導（20%）、受け入れ企業からの評価（50%）、インターンシップノート（20%）、実習後指導（10%）

参考書

企業実習Ⅰ（インターンシップ）手引き

授業外学習について

業務上必要な知識の修得、受け入れ先企業の担当者からの指導に伴う学修、実習記録の作成等。

課題に対するフィードバックの方法

実習後指導の中で、個人面談を行い実習内容についての振り返りを行う。

【単位認定の詳細】

・実習前指導（20%）：学内外前指導、実習中の態度等　・受け入れ企業からの評価（50%）：実習先からの評価を点数化
・インターンシップノート（20%）：実習中の記録　・実習後指導（10%）：担当教員からの後指導、お礼状、報告書等

※一般企業での勤務経験のある教員や、実習先企業の担当者が、実社会における実際的な知識・技術を指導する。

授業科目名	企業実習Ⅱ(科目コード:　　)						
資格取得との関連	実践キャリア実務士(選択)、ビジネス実務士(選択)、上級ビジネス実務士(選択)、プレゼンテーション実務士(選択)、観光実務士(選択)						
担当者	河野　美香子						
オフィスアワー							
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	前期	授業の種類	実習	単位数	1

実習の目的：

実際に職場で就業体験することにより、高等教育での学習内容を深めるとともに、将来の進路選択の参考にすることを目的としている。

授業概要：

包括連携協定を通して学生が企業の就業に参加することで課題解決を図り、組織の構成員としての役割を理解し、適切な行動をとることができる実践的な人材に成長することを目指す。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②○	Ⅲ○	

到達目標：

1．実習先組織における個々の役割を理解し、役割に応じた行動をとることができる。
2．役割に応じた行動をとるために自己の目標を設定し、目標の達成を目指して実践することができる。

授業計画表

概要

実習前指導(2コマ)

1. インターンシップの意義について　2. インターンシップの実施について　3. インターンシップ終了後の活動内容について
4. 企業実習Ⅰの振り返り　5. ビジネスマナーの確認　6．企業研究　7．自己の目標設定
8．インターンシップノートの記入方法ならびに報告書の作成についての確認

※ 1～8については、学内の前指導で実施。

※ インターンシップ先については、宮崎商工会議所連合会の協力の下、決定する。

実習期間

1. 受入れ事業所で就業体験

前期終了後ならびに夏休み期間中に5日間以上の就業体験を実施。

2. 実習中の記録

日々の活動を記録し(インターンシップノート)、受け入れ事業所のインターンシップ担当者よりコメントを頂戴する。

3. 報告書の作成

実習終了後、1週間以内に、報告書を作成し(インターンシップノート)、担当教員に提出する。

実習後指導(1コマ)

1. 実習の報告

担当教員への報告書提出に際し、実習の報告を行う。

2. 実習についての振り返り

単位の認定について

実習前指導(20%)、受け入れ企業からの評価(50%)、インターンシップノート(20%)、実習後指導(10%)

参考書　企業実習Ⅱ（インターンシップ）手引き

授業外学習について

業務上必要な知識の修得、受け入れ先企業の担当者からの指導に伴う学修、実習記録の作成等。

課題に対するフィードバックの方法

実習後指導の中で、個人面談を行い実習内容についての振り返りを行う。

【単位認定の詳細】

・実習前指導(20%)　：　学内外前指導、実習中の態度等
・受け入れ企業からの評価(50%)　：　実習先からの評価を点数化
・インターンシップノート(20%)　：　実習中の記録
・実習後指導(10%)　：　担当教員からの後指導、お礼状、報告書等

※一般企業での勤務経験のある教員や、実習先企業の担当者が、実社会における実際的な知識・技術を指導する。

授業科目名	基礎英語						
資格取得との関連							
担当者	長島洋介						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科１年生	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：英文法事項の整理・確認と英作文の展開を融合させたテキストを用いる。演習で英文法の基礎的な事項を復習し確認しながら英文を書く基礎を身につける。また、各課の重要事項を踏まえたうえで自ら相手に伝えたいことを英語で書く訓練も合わせて Active learning の発表やグループディスカッションなどの学びで積んでいく中で、英文法や記述に特化したビジネス英語や英語メール対応等の学習を必要に応じて導入し、より実践的なコミュニケーション能力としての「書く」技術をより実践的に養成していく。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

到達目標： 英語学習に必要な基本的な事項の復習と確認を発表やグループディスカッションを導入し、各受講者は実際に基礎的な4機能（聞く・書く・話す・読む）を自分で考えて実践的に使用する事ができるようする。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	シラバス確認と紹介	シラバス確認と英語自己紹介･基本英語の確認	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
2	文型	第1文型～第 5 文型	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
3	修飾語①	形容詞と副詞	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
4	動詞の活用	動詞(原形･過去形･過去分詞)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
5	未来系･進行形	未来系文と進行形の文構成	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
6	未来系･進行形	未来系文と進行形の文構成	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
7	完了文	現在･過去･未来完了	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
8	受動態	受動態文の構成	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
9	不定詞の用法	名詞･形容詞･副詞の不定詞	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
10	動名詞･分詞	動名詞･分詞の構成	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
11	代名詞	代名詞の使い方	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
12	比較級･最上級	比較級と最上級文の構成	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
13	関係代名詞	関係代名詞の文構成	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
14	仮定法･前置詞･接続詞	基本構成の学習　授業の総まとめ	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
15	まとめ	まとめ内容の確認	

単位の認定について　試験:40%　授業態度:20%　授業への参加:20%　授業外学習(課題):20%

教科書　※「シグマ基本問題集　英文法」文英堂編集部　出版

参考書　※

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	基礎経済(科目コード:TCBSC124)						
資格取得との関連	実践キャリア実務士(選択)、上級ビジネス実務士(選択)、社会福祉主事任用資格(選択)						
担当者	狩野 秀之						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：ミクロ経済:家計の消費活動や企業の生産活動といった個別経済を分析し、市場を通じて財の配分や価格決定がどのように調整されているかを考察する学問。
マクロ経済:国家や国民、市場といった大きな視点から経済のメカニズムを研究する学問。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①○	Ⅱ②	Ⅲ	

到達目標：
①経済学の基本概念を理解し説明できる。
②需要と供給の仕組みを理解し、グラフで表現できる。
③国民経済の基本指標を理解し、読み取ることができる。
④財政政策・金融政策の基本的な仕組みを説明できる。
⑤為替レートの基本的な仕組みを説明できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	経済学のはじまりについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
2	需要と供給	需要と供給について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
3	家計の行動(1)	限界効用と効用の最大化、限界効用逓減則について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
4	家計の行動(2)	無差別曲線と予算線について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
5	家計の行動(3)	代替財と補完財、上級財と下級財、所得効果 代替効果について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
6	企業の行動(1)	稀少性と機会費用について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
7	企業の行動(2)	費用と収入、損益分岐点と操業停止点について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。)
8	GDPと三面等価の原則	GDP とGNPの概念、三面等価の原則について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
9	経済成長と景気循環	ＧＤＰと経済成長率、インフレーションとデフレーションについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
10	財政政策	ケインズ経済学、ビルトイン・スタビライザー、フィスカルポリシーについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
11	金融政策	貨幣市場、貨幣需要と貨幣供給、日銀による金融政策ついて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。

12	財政政策と金融政策	財市場と貨幣市場、ＩＳＬＭ曲線について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
13	貿易と海外投資(1)	国際収支の構造について学修する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
14	貿易と海外投資(2)	為替レートの仕組みについて学修する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
15	まとめ	授業で学んだ内容の振り返り	

単位の認定について　学習時の取り組み態度(20%)、課題(20%)、期末テスト(60%)
教科書　授業で配付するプリント。
参考書　授業内で指定する。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	コミュニケーションデザイン(科目コード:　)						
資格取得との関連	上級情報処理士(選択)、プレゼンテーション実務士(選択)						
担当者	河野　美香子（実務家教員）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： デザインの基礎を学び、表現に必要な様々な技法を知り、身の周りの物を観察し表現できることを習得する。また、感じた事を相手に伝わる表現について学修する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①○	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

評価指標： 視野の広い自由な発想で、モノの形を捉え描くことができ、画面・色彩構成に関しても理解することができる。
構成要素について理解し、自分の表現について考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	色について(RGB カラーと CMYK カラー)	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
2	色・形の表現1	色鉛筆や絵の具、コピックを用い、表現方法を学ぶ	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
3	色・形の表現2	身近なものを観察し、表現する	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
4	色・形の表現3	色から連想し、表現する	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
5	構成要素の理解1	図形機能を使い幾何学模様をデザインする	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
6	構成要素の理解2	手書きをスキャニングし、解像度について学ぶ	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
7	構成要素の理解3	テーマに沿った幾何学模様をデザインする	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
8	イラスト制作1	ベジェ曲線の基礎を学び、イラストを制作する	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
9	イラスト制作2	画像処理ソフトの基礎を学ぶ	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
10	イラスト制作3	デザインのルールや著作権について学ぶ	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
11	文書デザイン制作1	最終課題のテーマに沿った文書デザインを制作する	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
12	文書デザイン制作2	最終課題のテーマに沿った文書デザインを制作する	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
13	文書デザイン制作3	最終課題のテーマに沿った文書デザインを制作する	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
14	文書デザイン制作4	最終課題のテーマに沿った文書デザインを制作する	発表の準備を行う。(60 分)
15	まとめ	成果発表とまとめ	授業のまとめを行う。(30 分)

単位の認定について
制作物の提出（50%）　課題（30%）　授業態度(20%)
教科書　プリント資料配布
参考書　授業内で指定
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバック　提出された課題は、チェック後に解説する。
タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	コンピュータ会計							
資格取得との関連								
担当者	兒玉 京子 k-kodama@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：現代の企業では、会計業務の多くがコンピュータによって処理されている。本授業では、実際の企業で使用されている会計ソフト（弥生会計）を用い、日常の経理処理を中心に基本操作を学ぶ。証ひょうからの仕訳入力、帳票の確認・活用、入力データの修正などの実習を通して、企業における会計実務の基礎を身につける。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：・会計ソフトの基本操作を理解し、正確に仕訳入力ができる。
・証ひょうに基づいて起票し、日常取引のデータを適切に処理できる。
・入力内容を確認し、必要に応じてデータの修正ができる。
・作成された帳票の内容を読み取り、会計情報を基礎的に活用できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	企業活動と会計処理	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
2	会計ソフトの操作	コンピュータ関連知識 会計データの入力	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
3	会計ソフトの操作	コンピュータ関連知識の確認 振替伝票による入力練習	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
4	会計ソフトの操作	振替伝票による入力練習 振替伝票の修正・削除・コピー　摘要データ登録	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
5	企業の業務と会計処理	現金預金についての会計処理 仕入についての会計処理	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
6	企業の業務と会計処理	売上についての会計処理 経費についての会計処理	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
7	企業の業務と会計処理	その他の債権・債務についての会計処理 給与についての会計処理	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
8	企業の業務と会計処理	企業が関係する税金 国税、地方税、法人税	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
9	企業の業務と会計処理	消費税 インボイス制度	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
10	企業の業務と会計処理	証ひょうにもとづく起票とデータ入力	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
11	会計データの入力処理と集計	証ひょうによるデータ入力	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
12	会計データの入力処理と集計	証ひょうによるデータ入力 残高のチェック	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
13	会計情報の活用	会計データの集計と活用 月次決算の会計処理	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
14	総合練習問題	証ひょうにもとづく起票とデータ入力	毎時の授業で学んだ内容について復習する。（毎時 30 分）
15	まとめ	学んだことをまとめ、理解度を確認する。	振り返りをする。（30 分）

単位の認定について　学習時の取り組み態度（30%）　総合課題演習（70%）　60 点以上で合格

教科書　参考書　授業内で指定する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	国際ビジネス英語Ⅰ						
資格取得との関連	上級ビジネス実務士選択科目						
担当者	長島洋介 （メールアドレス:y-nagashima@mgjc.ac.jp ）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス学科2年生	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： 基礎英語力を基盤に、アクティブラーニングを導入して職場で使用するビジネス英語を中心的に Case Study、説明、交渉、英文ビジネス文書の作成（履歴書・書類）、プレゼンテーション、名刺交換など専門的な英単語を数多く学び使いこなす学習をする。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	

到達目標： 基礎的な英語知識を上回るビジネス英語を使いこなすスキルを養う。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	確認	シラバス内容の確認 英会話とビジネス英会話の違 Introduction and Meeting for the first time	講義内容の確認 次週の予習と準備
2	UNIT1: Meet for the First Time Scene 1: At Reception	Scene1: At Reception Language Notes, Video Watching, Useful Expressions,	講義内容の確認 次週の予習と準備
3	UNIT1: Meet for the First Time Scene 2: Meeting Guests	Scene2: Meeting Company Guests Language Notes, Video Watching, Useful Expressions, and Reading Comprehension	講義内容の確認 次週の予習と準備
4	Applied practice for Unit 1	Group Active Learning	講義内容の確認 次週の予習と準備
5	UNIT2: Welcoming a Newcomer Scene1: Work facilities	Scene1: Work Environment and Facilities 1. Language Notes, 2. Video Watching, 3. Useful Expressions,	講義内容の確認 次週の予習と準備
6	UNIT2: Welcoming a Newcomer Scene 2: Company's rules	Scene2: The Company's Rules 1. Language Notes, 2. Video Watching, 3. Useful Expressions, 4. Reading Comprehension	講義内容の確認 次週の予習と準備
7	Applied practice for Unit 2	Group Active Learning	講義内容の確認 次週の予習と準備
8	UNIT3: Tel Communication Scene1: Incoming calls	Scene1: Incoming Calls 1. Language Notes, 2. Video Watching, 3. Useful Expressions,	講義内容の確認 次週の予習と準備
9	UNIT3: Tel Communication Scene2: Appointment	Scene2: Rescheduling an Appointment 1. Language Notes, 2. Video Watching, 3. Useful Expressions, 4. Reading Comprehension	講義内容の確認 次週の予習と準備
10	Applied practice for Unit 3	Group Active Learning	講義内容の確認 次週の予習と準備
11	UNIT4: Office Issues Scene1: Taking time off	Scene1: Taking Time Off 1. Language Notes, 2. Video Watching, 3. Useful Expressions,	講義内容の確認 次週の予習と準備
12	UNIT4: Office Issues Scene2: Replacement	Scene2: Finding A Replacement 1. Language Notes, 2. Video Watching, 3. Useful Expressions, 4. Reading Comprehension	講義内容の確認 次週の予習と準備
13	Applied practice for Unit 4	Group Active Learning	講義内容の確認 次週の予習と準備
14	Class Review①	Q&A, Content review	期末試験の予習と準備
15	Class Review②	Q&A, Content review	

単位の認定について 試験：４０％ 授業態度：２０％ 授業への参加：２０％ 授業外学習（課題）：２０％

教科書 ※「English for the Global Workplace」（成美堂出版社）

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	国際ビジネス英語 II						
資格取得との関連	上級ビジネス実務士選択科目						
担当者	長島洋介 （メールアドレス:y-nagashima@mgjc.ac.jp ）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス学科2年生	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： 基礎英語力を基盤に、アクティブラーニングを導入して職場で使用するビジネス英語を中心的に Case Study、説明、交渉、英文ビジネス文書の作成（履歴書・書類）、プレゼンテーション、名刺交換など専門的な英単語を数多く学び使いこなす学習をする。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	

到達目標： 基礎的な英語知識を上回るビジネス英語を使いこなすスキルを養う。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	確認	シラバス内容の確認 英会話とビジネス英会話の違い	講義内容の確認 次週の予習と準備
2	UNIT8: Job Interviews Scene1: Self Introduction	Scene1: Talking About Yourself Language Notes, Video Watching, Useful Expressions	講義内容の確認 次週の予習と準備
3	UNIT8: Job Interviews Scene2: Asking about the job	Scene2: Asking About the Job Language Notes, Video Watching, Useful Expressions, and Reading Comprehension	講義内容の確認 次週の予習と準備
4	Applied Practice for Unit 8	Group Active Learning Creating English Resumes	講義内容の確認 次週の予習と準備
5	Applied Practice for Unit 8	Group Active Learning Creating English Resumes	講義内容の確認 次週の予習と準備
5	UNIT5: Arranging a meeting Scene1: Meeting Preparations	Scene1: Meeting preparations Language Notes, Video Watching, Useful Expressions	講義内容の確認 次週の予習と準備
6	UNIT5: Arranging a meeting Scene1: Making arrangements	Scene2: Making arrangements Language Notes, Video Watching, Useful Expressions	講義内容の確認 次週の予習と準備
7	Applied Practice for Unit 5	Group Active Learning	講義内容の確認 次週の予習と準備
8	UNIT9: Business Travels Scene1: Being picked up	Scene1: Being Picked Up Language Notes, Video Watching, Useful Expressions	講義内容の確認 次週の予習と準備
9	UNIT9: Business Travels Scene2: Accommodations	Scene2: Accommodations Language Notes, Video Watching, Useful Expressions	講義内容の確認 次週の予習と準備
10	Applied Practice for Unit 9	Group Active Learning	講義内容の確認 次週の予習と準備
11	UNIT11: Clients Scene1: Company Intro	Scene1: Company Introductions Language Notes, Video Watching, Useful Expressions	講義内容の確認 次週の予習と準備
12	UNIT11: Clients Scene1: Products & service	Scene2: Introducing products and services Language Notes, Video Watching, Useful Expressions	講義内容の確認 次週の予習と準備
13	Applied Practice for Unit 11		
14	Class Review①	Q&A, Content review①	講義内容の確認 期末試験の予習と準備
15	Class Review②	Q&A, Content review②	

単位の認定について 試験：４０％ 授業態度：２０％ 授業への参加：２０％ 授業外学習（課題）：２０％

教科書 ※「English for the Global Workplace」（成美堂出版社）

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	児童サービス論(科目コード:TGSSC106)							
資格取得との関連	司書資格（必修）							
担当者	佐藤 由紀枝　y-sato@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科 2 年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：子ども時代の読書の意義と重要性を理解し、公共図書館における児童サービスに必要な基本的な知識と技術について理解を深め、読み聞かせやブックトークなどの実践的なサービスを行う事ができる。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：1 子どもの成長と読書の関連性について説明ができる。
2 公共図書館の児童サービスの意義と役割、関係機関等との連携のあり方を理解する。
3 児童サービスの具体的な方法と技術を習得する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 児童サービスとは何か	児童サービスの概要を理解する	自分の子ども時代の絵本、本との関わりを回想し、まとめる（30 分）
2	“子ども”への理解	子どもの各発達段階を理解する	子どもの成長と各発達段階の特徴をまとめる（30 分）
3	児童サービスの資料と特徴①絵本とは	絵本というメディアの仕組みや基礎的な知識を学ぶ	電子メディアとの違いについて考える。(60 分)
4	児童サービスの資料と特徴②絵本の種類について	資料の種類、特色などについて理解する	発達段階ごとに必要な資料について調べ、自身の読書経験などをふまえてまとめる。60 分）
5	児童サービスのコレクションの構成、 環境づくりと児童図書館員のあり方	児童サービスならではの特色・注意点について理解するとともに、相応しい環境や児童図書館員としての専門性や相応しいパーソナリティーなどについて学ぶ	近隣の公共図書館での児童サービスについて、種類や具体的な活動について調べる（60 分）
6	資料や情報の提供に関するサービス①	閲覧や貸出だけでなく、読書アドバイスや育児支援・乳幼児サービスなど、多岐にわたる情報の提供について理解する	近隣の公共図書館での児童サービス活動について調べた事を踏まえ、改善点や新たに取り組むべきサービスについて考察する（60 分）
7	資料や情報の提供に関するサービス②	特別支援や多文化サービスなどの必要性と方法、具体的な事例などを学ぶ	近隣の公共図書館における特別支援や多文化サービスに関する取り組みを調べ、まとめる（60 分）
8	子どもと本を繋ぐ活動 ①読み聞かせに	読み聞かせの仕方、発声方法など実技を学ぶ	グループでおはなし会のプログラムを考える（30 分）
9	子どもと本を繋ぐ活動 ②読み聞かせに	おはなし会等に関わる著作権について（オンライン含む）学び、企画・選書を行う（グループワーク）	グループでおはなし会のプログラムを考え、選書・練習を行う（90 分）
10	子どもと本を繋ぐ活動 ③ブックトーク	ブックトークについて学び企画・選書を行う	ブックトークを作成する（90 分）
11	子どもと本を繋ぐ活動 ④その他活動	アニマシオンやストーリーテリングなどについて学ぶ	近隣の公共図書館で行われている児童向けのイベントについて調べる（60 分）
12	子どもと本を繋ぐ活動 ⑤実演	おはなし会、ブックトークの実演、評価を行う	近隣の公共図書館で行われているおはなし会に参加する（30 分）
13	YA サービス	児童図書及びヤングアダルトサービスについて理解する	近隣の公共図書館で行われている YA サービスを利用してみる（60 分）
14	学校図書館について	学校図書館の特性について学び、公共図書館との連携について理解する	学校図書館の特性と公共図書館の連携について整理する（30 分）
15	まとめ	児童サービス全体について復習すると共に、児童サービスにおける電子資料の可能性と問題点を考える	児童サービスの運営について、サービス内容をまとめる（30 分）

単位の認定について　授業への取り組み（30%）、企画や実演に関する評価（70%）
教科書　授業内容についてはプリントを配布する。
参考書『児童サービス論』JLA テキストシリーズ日本図書館協会（2020）『児童サービス論』図書館情報学 7 学文社（2022）など
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。
※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

授業科目名	情報サービス演習Ⅰ（科目コード:TCLSC203）						
資格取得との関連	司書資格（必修）						
担当者	佐藤 由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	現代ビジネス科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：情報サービスの設計から評価に至る各種の業務を学ぶ。情報検索サービスだけでなく利用者のレファレンスに対応するためのレファレンスインタビューなどの技法も学び、演習を通じて実践的な能力を身につけ、レファレンスワークを中心とする情報サービスを行う事が出来る。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標： レファレンスサービスと情報検索サービスの演習を通して実践的な能力を習得している。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	レファレンスコレクションの構成	情報源の評価と組織化	図書館のレファレンスブックの蔵書構成を見てみる（30 分）
2	文献検索	文献探索：図書・叢書情報の探索	検索課題に取り組む（30 分）
3	文献検索	文献探索：新聞・雑誌情報の探索	検索課題に取り組む（30 分）
4	文献検索	文献探索：データベース情報の探索	検索課題に取り組む（30 分）
5	事実検索	事実探索：言葉・情報の探索	検索課題に取り組む（30 分）
6	事実検索	事実探索：事柄・事象情報の探索	検索課題に取り組む（30 分）
7	事実検索	事実探索：人物・団体情報の探索	検索課題に取り組む（30 分）
8	事実検索	事実探索：歴史・日時情報の探索	検索課題に取り組む（30 分）
9	事実検索	事実探索：地理・地名・統計情報の探索	検索課題に取り組む（30 分）
10	レファレンスサービス演習①	レファレンスサービス演習① レファレンスインタビューの技法と実際	接客に必要なマナーを調べ、実践する（30 分）
11	レファレンスサービス演習①	レファレンスサービス演習② 利用者への応対ロールプレイ	レファレンスのプロセスを振り返る（30 分）
12	レファレンスサービス演習①	レファレンスサービス演習② 利用者への応対ロールプレイ	レファレンスのプロセスを振り返る（30 分）
13	レファレンスサービス演習①	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	実践的な課題に取り組む（30 分）
14	レファレンスサービス演習①	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	実践的な課題に取り組む（30 分）
15	レファレンスサービス演習①	レファレンス回答集の作成、評価	レファレンスのプロセスを振り返り、改善点(接遇、蔵書)を考える（30 分）

単位の認定について　授業、演習への取り組み姿勢（40%）、課題（60%）

教科書　授業内容についてはプリントを配布する

参考書　『情報サービス演習』樹村房（2021）　『情報サービス論及び演習』学文社（2023）『事例で学ぶ情報サービス演習』青弓社（2024）など。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※図書館司書として勤務経験のある教員が、図書館におけるレファレンスインタビューなどの技法を指導する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

授業科目名	情報サービス演習Ⅱ（科目コード:TCLSC203）							
資格取得との関連	司書資格（必修）							
担当者	佐藤　由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：情報サービスの設計から評価に至る各種の業務を学ぶ。情報検索サービスだけでなく利用者の質問に対するレファレンスインタビューなどの技法も学び、演習を通じて実践的な能力を身につけ、レファレンスワークを中心とする情報サービスを行う事が出来る。

DPとの関わり	全学DP					学科DP			
	Ⅰ◎	Ⅱ○	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎

到達目標： レファレンスサービスと情報検索サービスの演習を通して実践的な能力を習得している。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	レファレンスサービス演習②	レファレンス回答集の評価	レファレンスのプロセスを振り返り、改善点(接遇、蔵書)を考える（30 分）
2	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
3	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
4	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
5	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:データベース･インターネットでの探索	より実践的な課題に取り組む（30 分）
6	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:データベース･インターネットでの探索	より実践的な課題に取り組む（30 分）
7	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
8	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
9	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
10	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
11	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
12	レファレンスサービス演習②	文献･事実探索:図書・叢書情報の探索（図書館での演習）	より実践的な課題に取り組む（30 分）
13	レファレンスサービス演習②	レファレンス回答集の作成・評価	レファレンスのプロセスを振り返り、改善点(接遇、蔵書)を考え。（30 分）
14	レファレンスサービス演習②	レファレンス回答集の評価	レファレンスのプロセスを振り返り、改善点(接遇、蔵書)を考える（30 分）
15	まとめ	図書館、情報サービスについてのまとめ、最新の動向について学習する	今までの復習、まとめをする（30 分）

単位の認定について　授業、演習への取り組み姿勢（40%）、課題（60%）

教科書　授業内容についてはプリントを配布する。

参考書　『情報サービス演習』樹村房（2021）　『情報サービス論及び演習』学文社（2023）『事例で学ぶ情報サービス演習』青弓社（2024）など。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※図書館司書として勤務経験のある教員が、図書館におけるレファレンスインタビューなどの技法を指導する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

授業科目名	情報サービス論(科目コード:TCITC103)							
資格取得との関連	司書資格（必修）							
担当者	佐藤　由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科２年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：図書館の情報サービスの本質・種類を理解し、直接サービスの中核であるレファレンスサービスについて、検索方法やレファレンスプロセスを学び、レファレンスインタビューなどのテクニックを習得し、実践に役立つ能力を養成する。また、各種図書館における情報サービスの運営やレファレンスコレクションの形成などの間接サービスについても理解を深め、図書館の情報サービスについて理解したうえで、実践する事ができる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：図書館の情報サービスの本質・種類を理解し、直接サービスであるレファレンスサービスのスキルを習得。また、レファレンスサービスを支える基盤となるレファレンスコレクションの形成、維持、評価の方法を解説できる。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	情報社会と図書館	情報社会の中での図書館の果たすべき役割と情報サービスの意義を学習する	今と昔の図書館の違いについて調べる（30 分）
2	情報サービスの内容①	レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントウエアネスサービスなどについて学習する	図書館以外の情報機関について調べる（30 分）
3	情報サービスの内容②	読書相談やビジネス支援などの専門的な情報提供について学習する	情報社会ならではの図書館の役割を考える（30 分）
4	情報サービスの内容③	バリアフリー法の促進の為に必要なツールなどについて学習する	LL ブックや、やさしい日本語で書かれたものを探し、読んでみる（60 分）
5	発信型情報サービス	発信型情報サービス、非来館サービスの展開と課題について学習する	SNS などを使ったサービスの可能性について考える(30 分)
6	情報サービスの範囲 業務としての情報サービス、組織について	館種の違いによるサービス範囲の違いや、図書館組織について学習する	利用者の目線になり、各図書の利用の仕方を考える(30 分)
7	図書館員としての資質と、その向上について	担当者の資質、担当職員の研修の必要性などについて学習し、接遇のロールプレイなどを行う	担当者の資質を踏まえ、自己ＰＲをしてみる（30 分）
8	レファレンスコレクションとその構成、管理①	レファレンスコレクションの選択、排架、更新、破棄の仕方及び、館内表示、ユニバーサルデザイン等について学習する	フィールドワークをして、色々な表示、看板を集める（60 分）
9	レファレンスコレクションとその構成、管理②	自館作成ファイル（パスファインダー)、自館収集ファイル、館外情報ファイルの構成について学習する	パスファインダーを作成する（60 分）
10	情報探索のプロセス①	情報ニーズを持っている利用者の問題状況、情報の必要性、質問内容の理解の仕方を学び、レファレンスプロセスを理解する	ビジネスマナーについて調べる（30 分）
11	情報探索のプロセス②	レファレンスインタビューの必要性とそのテクニックを学習する	ビジネスマナーについて調べ、実践してみる（30 分）
12	情報の検索と回答	検索作業と第一次回答の仕方、回答の受容を学習する	ネット検索とＯＰＡＣ検索の違いを体感する（30 分）
13	レファレンスサービスの評価と広報	インタビュー、直接観察法、アンケートなどでの評価の方法と、広報の重要性を学習する	公告と広報の違いとは。図書館広報のあり方について考える（30 分）
14	図書館の情報サービスについて	実際の事例や、最新の動向などについて学習する	図書館の情報サービスの可能性について考える（30 分）
15	まとめ	まとめ　要点の整理	図書館の情報サービスの可能性について考える（30 分）

単位の認定について　授業への取り組み（30%）、課題（30%）、試験（40%）

教科書　授業内容についてはプリントを配布する

参考書『情報サービス論』樹村房（2019)『情報サービス論』学文社（2023）　『情報サービス論』ミネルヴァ書房（2018）など

授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※この科目はアクティブラーニングを取り入れています。

授業科目名	情報デザイン論						
資格取得との関連	上級情報処理士(選択)						
担当者	河野 美香子(実務家教員						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： デザインを単なる「見た目の美しさ」にとどめず、「ユーザー視点に立った思考の設計」として理解し、実践的に捉えることを学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ◎	

到達目標：

・社会や地域における課題を発見し、情報を整理・構造化することができる。
・多様な立場の人々の視点を理解し、共感的に設計することができる。
・実践的な情報をもとに、創造的にアウトプットができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	本講義の受講内容や目標を理解する。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
2	地域課題と社会貢献	地域課題と社会貢献の関わりを学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
3	前時の情報構造化①	LATCH 法則を用いて情報構造化を行い、インフォグラフィックを活用しパネルを作成。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
4	前時の情報構造化②(発表)	パネル作成と発表し、フィードバックを受ける。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
5	組織デザイン	会社経営と組織デザインについて学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
6	前時の情報構造化③	LATCH 法則を用いて情報構造化を行い、インフォグラフィックを活用しパネルを作成。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
7	前時の情報構造化④(発表)	パネル作成と発表し、フィードバックを受ける。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
8	顧客のニーズ	実践的に顧客のニーズを反映するプロセスを学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
9	前時の情報構造化⑤	LATCH 法則を用いて情報構造化を行い、インフォグラフィックを活用しパネルを作成。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
10	前時の情報構造化⑥(発表)	パネル作成と発表し、フィードバックを受ける。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
11	動画の選定と分析視点の共有	興味あるジャンルの動画を選び、情報整理の枠組みを学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
12	情報の構造化とパネル設計	動画内容を比較し、分解・構造化する。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
13	パネル制作と信頼度分析	根拠(主観的・客観的)や信頼性を分析し、情報を整理する。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
14	成果発表①	各グループのパネル発表。ジャンルごとの違いや共通点を比較。情報デザインの効果と信頼性を協議する。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30 分)
15	成果発表② フィードバック	各グループのパネル発表。ジャンルごとの違いや共通点を比較。情報デザインの効果と信頼性を協議する。授業全体を振り返る。	授業のまとめを行う。(30 分)

単位の認定について 課題（40%） グループワークへの積極性（40%） 授業態度(20%)。
教科書 プリント資料配布

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	情報資源組織演習Ⅰ　(科目コード:TCLSC205)						
資格取得との関連	司書資格(必修)						
担　当　者	山田　幸紀　s-fukuda@mgjc.ac.jp						
オフィスアワー	授業終了後						
授　業　対　象	現代ビジネス科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語の適用等の具体的な演習を通して、情報資源組織業務について実践的な技能を習得する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標： 1.資料に対して適切な分類記号、件名を付与し目録を作成することができる。
2.演習問題を応用し、様々な資料の目録を作成することができる。
3.身近な図書館の分類に関心を持ち、書誌情報を読み解くことができる。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	図書館資料の組織化について、その技術の現状と必要性を理解する。	情報資源組織論について復習し、NDC10 版、BSH、NCR についてまとめる。（30 分）
2	目録法について	日本目録規則の総則について理解する。	日本目録規則の特徴を整理する。（30 分）
3	記述総則１	タイトル、責任表示の記述について学び、演習を行う。	例題のタイトル、責任表示までの目録を作成する。（60 分）
4	記述総則２	版、出版・頒布の記述について学び、演習を行う。	例題の版、出版・頒布までの目録を作成する。（60 分）
5	記述総則３	形態、シリーズ、注記、標準番号の記述について学び、演習を行う。	例題の形態、シリーズ、注記、標準番号までの目録を作成する。（60 分）
6	図書資料	図書資料の記述について学び演習を行う。	図書資料の特徴を理解し、目録を作成する。（60 分）
7	継続資料１	継続資料の逐次刊行物と更新資料の記述について学び、演習を行う。	逐次刊行物と更新資料の違いを理解し、整理する。（30 分）
8	継続資料２	形態から所蔵・更新事項について学び、演習を行う。	継続資料の特徴を理解し、目録を作成する。（60 分）
9	記述付則	様々な記載様式について学び、演習を行う。	レベル毎の違いを理解し、目録を作成する。（60 分）
10	標目１	標目、タイトル標目について学び、演習を行う。	これまで作成した目録にタイトル標目の標目指示を記載する。（60 分）
11	標目２	著者、件名、分類標目について学び、演習を行う。	これまで作成した目録に著者、件名、分類標目の標目指示を記載する。（60 分）
12	排列	各目録の排列の特徴について理解する。	同一排列順位などを整理する。（30 分）
13	書誌データの管理・検索	コンピュータ目録の意義と問題について、コピーカタロギングについて理解する。	MARC や OPAC の画面を比較し、気付いたことを整理する。（60 分）
14	総合演習	目録に関する総合演習を行う。	目録に関する総合演習を行い、インターネット等で所蔵館と比べてみる。（60 分）
15	まとめ	目録について試験を実施。	NCR の特徴を理解し、これまでの演習問題を復習する。(60 分)

単位の認定について　課題・演習問題の取り組みの評価 100％
教科書　『情報資源組織法』　日本図書館研究会
参考書　『日本十進分類法　新訂 10 版』
『基本件名標目表第 4 版』
『日本目録規則 1987 年版　改訂 3 版』
『日本目録規則 2014 年版』
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。公共図書館の HP を活用すること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	情報資源組織演習Ⅱ　(科目コード:TCLSC205)							
資格取得との関連	司書資格(必修)							
担当者	山田　幸紀　s-fukuda@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科２年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語の適用等の具体的な演習を通して、情報資源組織業務について実践的な技能を習得する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標： 1.資料に対して適切な分類記号、件名を付与し目録を作成することができる。
2.演習問題を応用し、様々な資料の目録を作成することができる。
3.身近な図書館の分類に関心を持つ。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	主題組織法	主題組織法について復習し、主題分析の演習を行う。	概論の「件名法」「分類法」について復習し、主題分析を行う。（60 分）
2	分類法について	NDC の概要と構成、要目表について学び、演習を行う。	NDC10 版の要目表に関する演習問題を行う。（60 分）
3	ＮＤＣの構成	細目表、分類項目、注記について学び、演習を行う。	NDC10 版の細目表に関する演習問題を行う。（60 分）
4	補助表１	相関索引、一般補助表の形式区分について学び、演習を行う。	形式区分に関する演習問題を行う。（60 分）
5	補助表２	一般補助表の地理区分、海洋区分について学び、演習を行う。	地理区分、海洋区分に関する演習問題を行う。（60 分）
6	補助表３	一般補助表の言語区分について学び、演習を行う。	言語区分に関する演習問題を行う。（60 分）
7	分類作業	資料の内容理解と主題の把握、分類記号の与え方について学び、演習を行う。	NDC の理解に関する演習問題を行う。（60 分）
8	分類規程１	主題の形式や関連性に応じた分類記号の与え方について学び、演習を行う。	複数主題や主題と主題の関連性に関する演習問題を行う。（60 分）
9	分類規程２	主題の形式や関連性に応じた分類記号の与え方について学び、演習を行う。	主材と材料や新主題に関する演習問題を行う。（60 分）
10	各類１	哲学・宗教１類、歴史・地理２類の特徴を学び、演習を行う。	1.2 類に関する演習問題を行う。（60 分）
11	各類２	社会科学３類、自然科学４類、技術５類、産業６類の特徴を学び、演習を行う。	3.4.5.6 類に関する演習問題を行う。（60 分）
12	各類３	芸術７類、言語８類、文学９類、総記０類の特徴を学び、演習を行う。	7.8.9.0 類に関する演習問題を行う。（60 分）
13	図書記号、別置記号、総合演習	図書記号、別置記号について学び、分類に関する総合演習を行う。	分類に関する演習を行い、インターネット等で所蔵館の分類と比べてみる。（60 分）
14	基本件名標目表について	基本件名標目の特徴を理解する。細目や件名規定について学び、件名に関する総合演習を行う。	件名の階層や参照について整理する。（30 分）
15	まとめ	図書の分類及び件名についてまとめる。	NDC や BSH の特徴を理解し、これまでの演習問題を復習する。（60 分）

単位の認定について　試験･演習問題の取り組みの評価 100%
教科書　『情報資源組織法』　日本図書館研究会
参考書　『日本十進分類法　新訂 10 版』
『基本件名標目表第 4 版』
『日本目録規則 1987 年版　改訂 3 版』
『日本目録規則 2014 年版』
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。公共図書館の HP を活用すること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	情報資源組織論 （科目コード:TCLSC204）							
資格取得との関連	司書資格(必修)							
担当者	山田 幸紀 s-fukuda@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：多様な図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語の適用等を学び、情報資源組織業務について理解を深める。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標： 1.図書館情報資源の組織化の意義を理解する。
2.記述目録法について理解する。
3.主題目録法について理解する。
4.身近な図書館の資料の組織化に関心を持つ。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	図書館資料の特徴を理解し、その組織化について、技術の現状と必要性を理解する。	身近な図書館の資料の特徴や組織化について調べてみる。（60 分）
2	情報資源組織の意義	資料組織の意義、検索の種類、組織化の業務の種類や流れについて理解する。	図書館の資料の種類やその検索の方法について整理する。（60 分）
3	目録法の基礎 1	目録法の意義、目録の機能や構成要素、利用者とのかかわりについて理解する。	目録の目的や種類について整理する。利用者の目線になって目録について整理する。（60 分）
4	記述目録法	目録の種類やその歴史、目録規則の意義について理解する。	目録規則の歴史や種類について整理する。（60 分）
5	日本目録規則 1	書誌階層、記述ユニット等について理解する。	『日本目録規則』を手に取り、その特徴を整理する。（60 分）
6	日本目録規則 2	書誌的事項、標目、排列について理解する。	図書資料で書誌的事項について整理する。（30 分）
7	主題目録法	主題分析、統制語について理解する。	主題分析のポイント、自然語と統制語について整理する。（30 分）
8	分類法 1	分類や分類法について理解する。	分類と区分の違いや分類法について整理する。（30 分）
9	分類法 2	分類法の種類やその歴史について理解する。	世界の主要な分類法を整理する。（30 分）
10	日本十進分類法 1	日本十進分類法の特徴について理解する。	『日本十進分類法』を手に取り、その特徴を整理する。（60 分）
11	日本十進分類法 2	日本十進分類法を適用、所在記号の付与や図書記号について理解する。	図書館に行き、その図書館の所在記号や図書記号についてレポートにまとめる。（60 分）
12	件名法	件名法の基本とツールである『基本件名標目表』について理解する。	シソーラスや『基本件名標目表』の特徴を整理する。（30 分）
13	書誌コントロール	書誌コントロールの目的や機能について理解する。	国立国会図書館の NDL-OPAC を使い、国レベルの書誌コントロールに触れ、特徴をまとめる。（60 分）
14	書誌情報の作成・流通・提供	書誌ユーティリティの機能、OPAC や MARC について理解する。	書誌情報の作成・流通・管理について整理し図書館で OPAC に触れ、特徴をまとめる。（60 分）
15	まとめ	情報資源組織全般について復習し、理論及び技術について理解を深める。	目録法、分類法、件名法について特徴をまとめる。（60 分）

単位の認定について演習・授業取組 50%課題・レポートの評価 50%
教科書　『情報資源組織法』 日本図書館研究会
参考書　『情報資源組織論』日本図書館協会
『情報資源組織論』　樹村房
『情報資源組織論』　学文社
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。公共図書館の HP を活用すること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	情報処理概論 B(科目コード:TCITC101)							
資格取得との関連	数理・データサイエンス・AI プログラム(必修) 情報処理士(必修) 上級情報処理士(必修)							
担当者	田中 秀典							
オフィスアワー								
授業対象	現代ビジネス科 1 年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 本講義では、情報社会における基礎知識を学び、クラウド、IoT、AI、ビッグデータなどの最新技術の仕組みと活用事例を理解する。加えて、情報セキュリティやデータ活用の実践的スキルを養い、デジタル社会での適切な情報リテラシーを身に付ける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：

- クラウド、IoT、AI、ビッグデータの基本的な仕組みと活用事例を理解し、説明できる
- 情報セキュリティのリスクと対策を理解し、安全なデータ管理ができる
- データを収集・分析し、適切な方法で可視化できる

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の進め方について理解する。 コンピュータに関わる基礎知識の理解状況を把握する。	コンピュータの基礎知識について振り返る。(30 分)
2	情報の伝達	ソーシャルネットワーキングの仕組みや利用について学習する。	SNS の記事について調べる。(30 分)
3	クラウドコンピューティングの仕組み	クラウドコンピューティングの仕組みと活用方法について学ぶ。	どのようなクラウドサービスがあるかを調べる。(30 分)
4	IoT 技術	IoT 時代と仕組みについて学ぶ。	身近にある IoT 技術について調べる。(30 分)
5	IoT の活用	IoT の活用事例について学ぶ。	IoT の活用事例を調べる。(30 分)
6	情報セキュリティ(1)※項目④(基礎 3-2)	情報セキュリティの現状と問題点について理解し、ネットワークの危険性とその対処法について学習する。	情報セキュリティに関する記事を調べまとめる。(30 分)
7	AI 利活用の必要性 ※項目③(導入 1-5)	流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等の業態でデータ・AI 活用が進んでいる。最新のビジネスモデルや活用事例を学ぶ。	データを活用したビジネスやサービスの中で使われている AI 技術についてまとめる。(30 分)
8	ビッグデータの仕組み※項目①(基礎 1-1)	ビッグデータの仕組みについて学習する。	ビッグデータの仕組について復習する。(30 分)
9	ビッグデータの活用 ※項目③(基礎 1-5)	ビッグデータの効果的な活用として、外部データを取得し、データの解析と可視化(グラフ化)を行い、その活用方法について学ぶ。	ビッグデータの活用事例を調べる。(30 分)
10	AI(人工知能) ※項目③(基礎 1-4)	深層学習、機械学習などを通して AI の仕組みについて学ぶ。	AIの事例について調べる。(30 分)
11	AI と技術革新 ※項目①(基礎 1-1)	今後 AI が社会にどのような影響を与えるかについて学習する。	AI がもたらす社会について考える。(30 分)
12	データの活用(1) ※項目⑤(基礎 2-1)	日常生活や職場でデータ・AI を使いこなすための基礎的素養を身に付け、身の回りのデータを適切に読み解くことを学ぶ。	どのように収集されたデータなのかを分析し、データのばらつきを理解する。(30 分)
13	データの活用(2) ※項目⑤(基礎 2-2)	データの特性に合わせた図表やグラフの種類の知識を得て、データを適切に説明する力を身に付ける。	データの特性に合わせた図表やグラフの種類をまとめる。(30 分)
14	データの活用(3) ※項目⑤(基礎 2-3)	表計算やデータベースソフトを使って、データを集計し、加工することを学び、適切に処理することを身に付ける。	データを加工し、適切な図表やグラフにする。(30 分)
15	まとめ	本講義の振り返り、ならびに総合試験を実施する。	これまでの学習内容を復習する(30 分)

単位の認定について 授業の取り組み状況 (20%)、課題提出 (30%)、総合課題演習 (50%)

教科書 教科書は使用しない。必要な資料・情報は適宜配布する。

参考書 基礎からはじめるデータサイエンス (noa 出版)

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、授業の復習に 30 分以上の時間をあてること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題等は、チェック後に解説する。

※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

※ この授業では、ＳＤＧｓに関する内容〈1～17 項目〉を取り入れます。

※ トピック名欄の (※) 内は「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル) 」に関わる「モデルカリキュラムの対応箇所」を標記しています。

授業科目名	色彩学(科目コード:　)						
資格取得との関連							
担当者	河野　美香子（実務家教員）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： デザイン分野と色彩とは密接な関係にある。色の見え方は人によって違いがあることを理解し、目的や条件にあった配色を行いデザインすることを学修する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ	Ⅰ○	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

評価指標：色の性質を知り、目的にあった配色ができる。
色覚タイプによる見え方を理解し、色彩設計を考えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	色のはたらき	自然や暮らしの中にある色彩のはたらきを考える。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
2	光と色	色の見える仕組みと見え方の特性について学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
3	色の分類と三属性	分類と三属性を知り、記号や数字で色を表すことを学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
4	色とトーン	PCCS(日本色研配色体系)を理解し、イメージに沿った配色を考える。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
5	色の心理効果	色の持つ基本的な印象への効果を学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
6	色の視覚効果	空間的、時間的に近接した色の影響を学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
7	色相調和	配色の基本的な考え方を学び色相やトーンからの配色を習得する。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
8	色覚タイプの分類	色覚タイプごとの見え方と加齢による見え方の変化を理解する。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
9	色の機能的な役割(1)	色のはたらきについて理解する。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
10	色の機能的な役割(2)	身の回りにある色覚タイプに配慮した機能的なデザインを発見し意味を考える。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
11	色のユニバーサルデザイン	色のユニバーサルデザインを進める手順を学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
12	ファッションと色彩	色相やトーンを主体としたカラーコーディネートを考える。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
13	インテリアと色彩	生活空間での色選択の相乗効果を学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
14	インテリアのカラーコーディネーション	インテリアにおける色の心理的効果と視覚効果を学ぶ。	毎時の授業で学んだことについて、振り返り、次時の予習をする。(30分)
15	まとめ	色彩学についての振り返り。	授業のまとめを行う。(30分)

単位の認定について
課題（60%）　授業態度(40%)
教科書　プリント資料配布
参考書　授業内で指定
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバック　提出された課題は、チェック後に解説する。
タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	多文化理解入門						
資格取得との関連	観光実務士選択科目						
担当者	長島洋介						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科１年生	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： 本講義では主に講義（座学）とアクティブラーニングを取り入れ異なった文化背景を持つ様々な他者の理解を深めると共に、自文化、つまりは自分について理解することも目的とする。自分とは異なる文化背景を持つ他者に向かい合うことで、自分と自分が属する文化への理解を深めていく。また多文化理解を促進する態度や技能を個人ワーク、ペアワーク、グループディスカッションを通し身につけていく。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ	

到達目標： 「文化」の概念を理解し、多文化共存社会での文化や価値観の違いを理解できる様になる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	確認と各種説明	シラバス内容と講義内容の確認 「みんな違って当たり前」 課題:異文化について考えてくる	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
2	いま職場は「異文化」であふれている①	第１章:異文化を理解する(P. 16-26)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
3	いま職場は「異文化」であふれている②	第１章:異文化を理解する(P. 30-42) 発表国を決定	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
4	「異文化」も怖くない①	第２章：ステレオタイムの打破(P. 48-P. 60)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
5	「異文化」も怖くない②	第２章：ステレオタイムの打破(P. 62-P. 78)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
6	「異文化」はこうして乗り越える(考え方編)①	第３章：異文化適応(P. 84-P. 102)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
7	「異文化」はこうして乗り越える(考え方編)②	第３章：異文化適応(P. 104-P. 106) ケーススタディ:日本文化を外国人に伝える	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
8	「異文化」はこうして乗り越える(伝え方編)①	第４章：異文化適応(P. 112-P. 130)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
9	「異文化」はこうして乗り越える(伝え方編)②	第４章：異文化適応(P. 134-P. 146)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
10	「異文化」はこうして乗り越える(接し方編)①	第５章：異文化適応(P. 152-P. 166)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
11	「異文化」はこうして乗り越える(接し方編)②	第５章：異文化適応(P. 170-P. 176) ケーススタディ:外国人対応レッスン	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
12	私生活の「異文化の壁」	第６章：国際化対応(P. 180-P. 200)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
13	私生活の「異文化の壁」	第６章：国際化対応(P. 202-P. 212) 違いを乗り越え、理解し合える社会をめざして	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
14	講義レヴュー①	義内容の総まとめ①	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
15	講義レヴュー②	義内容の総まとめ②	

単位の認定について 試験：４０％ 授業態度：２０％ 授業への参加：２０％ 授業外学習（課題）：２０％

教科書 ※「今日も異文化の壁と闘ってます」 千葉 祐大 著 （三笠書房 出版)。

参考書 ※

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	地域キャリアデザインⅠ（キャリア）（科目コード:　　）						
資格取得との関連	SPARC 学位プログラム（必修）						
担当者	佐藤宏樹、中山隆（宮崎大学）　西山和夫（宮崎学園短期大学）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	2

授業概要：

内容は以下の URL 又は QR コードからアクセスして必ず読んでおくこと。

※本科目は　火曜日 7・8 限　14:50～16:40（宮崎大学時間割による）に本学で実施します。授業方法および内容はシラバスで必ず確認しておくこと。

https://syllabus.eden.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/detail?n=2026&j=ksh01&s=ksh01

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

到達目標：

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16	定期試験		

単位の認定について

教科書

参考書

授業外学習について

課題に対するフィードバックの方法

授業科目名	地域創生学演習Ⅰ(科目コード:　　)							
資格取得との関連	実践キャリア実務士(必修)、ビジネス実務士(必修)、上級ビジネス実務士(必修)、上級情報処理士(選択)、観光実務士(選択)							
担当者	河野　美香子(実務家教員)　吉田　秀政　　桑迫　信子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	2	

授業概要：近隣地域の様々な団体と連携し、実際のビジネスの場を体験することや地域の方々と共に活動することを通して、実践力の向上を目指す。また、様々なグループ活動を通して、企業現場で求められるＰＤＣＡサイクルのあり方を学修する。実践ビジネス演習の初学者として、先輩からの助言を受けながら、実践ビジネス演習のあり方について理解する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

到達目標：・ビジネス実務に求められる応用的な知識・技術などの実践能力を身につけることができる。
・ビジネス現場に求められるコミュニケーションや適応力を身につけることができる。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション①	実践ビジネス演習の活動内容について理解する。	授業で学んだ内容について復習する。(30 分)
2	オリエンテーション②	グループの割り振りを決定し、相互交流を図る。	授業で学んだ内容について復習する。(30 分)
3	グループ活動のあり方について	ブレインストーミングの方法などを学びグループ活動のあり方について理解する。	授業で学んだ内容について復習する。(30 分)
4	グループ活動の企画・計画	グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
5	グループ活動の企画・計画	グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
6	グループ活動の企画・計画	グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
7	グループ活動の準備	グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
8	グループ活動の準備	グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
9	講演会事前準備	講演を聴く上での前準備として、企業研究を行う。	調査した内容について確認する。(30 分)
10	講師招聘①	講師による講演を聴き、企業で働くために必要な知識や技術について理解する。	講演会の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30 分)
11	講師招聘②	講師による講演を聴き、企業で働くために必要な知識や技術について理解する。	講演会の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30 分)
12	企業見学準備	企業見学を行う上での前準備として、企業研究を行う。	調査した内容について確認する。(30 分)
13	企業見学①	企業見学を通して、企業現場の様子や実態について理解する。	企業見学の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30 分)
14	企業見学②	企業見学を通して、企業現場の様子や実態について理解する。	企業見学の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30 分)
15	グループ活動準備	グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。	グループ企画の報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分)
16	グループ活動準備	グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。	グループ企画の報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分)
17	グループ活動実践	グループごとに立案した企画を実践する。	グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30 分)
18	グループ活動実践	グループごとに立案した企画を実践する。	グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30 分)
19	グループ活動実践	グループごとに立案した企画を実践する。	グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30 分)
20	グループ活動実践	グループごとに立案した企画を実践する。	グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30 分)
21	反省会	グループごとに、実践した内容について評価を行う。	各自グループ活動について振りを行いまとめる。(30 分)

22	報告会準備	グループごとに、実践した内容ならびに評価の結果についてパワーポイントにまとめる。	報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分)
23	報告会準備	グループごとに、実践した内容ならびに評価の結果についてパワーポイントにまとめる。	報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分)
24	報告会	グループごとに作成したプレゼン資料をもとに、報告会を行う。	他グループの報告内容をまとめる。(30 分)
25	報告会	グループごとに作成したプレゼン資料をもとに、報告会を行う。	他グループの報告内容をまとめる。(30 分)
26	グループ報告書の作成	グループ活動の結果を踏まえ、グループ報告書の作成を行う。	報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分)
27	グループ報告書の作成	グループ活動の結果を踏まえ、グループ報告書の作成を行う。	報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分)
28	個人報告書の作成	実践ビジネス演習を通しての個人報告書を作成する。	報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分)
29	まとめ	総括ならびに、最終報告書を提出する。	実践ビジネス演習で学んだ内容について、振り返る。(30 分)
30	まとめ	総括ならびに、最終報告書を提出する。	実践ビジネス演習で学んだ内容について、振り返る。(30 分)

単位の認定について　グループ活動の企画・運営(60%)、感想・報告書の作成など(30%)、取り組み態度(10%)

教科書　授業内で指定

参考書　授業内で指定

授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題について、難しい箇所などがある場合には、チェック後に解説をする。

タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※一般企業での勤務経験のある教員や、地元企業等に勤務する講師が企業で働くために必要な知識や技術について指導する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	地域創生学演習Ⅱ(科目コード:　　)							
資格取得との関連	上級ビジネス実務士(必修)　実践キャリア実務士(選択)							
担当者	河野　美香子(実務家教員)　吉田　秀政　　桑迫　信子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	2	

授業概要：近隣地域の様々な団体と連携し、実際のビジネスの場を体験することや地域の方々と共に活動することを通して、実践力の向上を目指す。実践ビジネス演習の既学者として、後輩への助言を行いながら組織を牽引し、グループ組織のあり方について理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：・ビジネス実務に求められる応用的な知識・技術などの実践能力を身につけることができる。
・ビジネス現場に求められるコミュニケーションや適応力を身につけることができる。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション①	実践ビジネス演習の活動内容について理解する。	授業で学んだ内容について復習する。(30 分)
2	オリエンテーション②	グループの割り振りを決定し、相互交流を図る。	授業で学んだ内容について復習する。(30 分)
3	グループ活動のあり方について	ブレインストーミングの方法などを学び、グループ活動のあり方について理解する。	授業で学んだ内容について復習する。(30 分)
4	グループ活動の企画・計画	グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
5	グループ活動の企画・計画	グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
6	グループ活動の企画・計画	グループごとに、参加するイベントを確認し、その中で実施可能な活動について、様々な活動事例を調査し、企画・計画を立案する。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
7	グループ活動の準備	グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
8	グループ活動の準備	グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。	グループ企画がより良いものになるように、授業外学習を使って準備する。(30 分)
9	講演会事前準備	講演を聴く上での前準備として、企業研究を行う。	調査した内容について確認する。(30 分)
10	講師招聘①	講師による講演を聴き、企業で働くために必要な知識や技術について理解する。	講演会の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30 分)
11	講師招聘②	講師による講演を聴き、企業で働くために必要な知識や技術について理解する。	講演会の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30 分)
12	企業見学準備	企業見学を行う上での前準備として、企業研究を行う。	調査した内容について確認する。(30 分)
13	企業見学①	企業見学を通して、企業現場の様子や実態について理解する。	企業見学の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30 分)
14	企業見学②	企業見学を通して、企業現場の様子や実態について理解する。	企業見学の感想をまとめ、各自振り返りを行う。(30 分)
15	グループ活動準備	グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。	グループ企画の報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分)
16	グループ活動準備	グループごとに立案した企画案を基に、活動に必要な準備を行う。	グループ企画の報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分)
17	グループ活動実践	グループごとに立案した企画を実践する。	グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30 分)
18	グループ活動実践	グループごとに立案した企画を実践する。	グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30 分)
19	グループ活動実践	グループごとに立案した企画を実践する。	グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30 分)
20	グループ活動実践	グループごとに立案した企画を実践する。	グループ活動の結果について、各自振り返りを行いまとめる。(30 分)
21	反省会	グループごとに、実践した内容について評価を行う。	各自グループ活動について振りを行いまとめる。(30 分)

22	報告会準備	グループごとに、実践した内容ならびに評価の結果についてパワーポイントにまとめる。	報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分)
23	報告会準備	グループごとに、実践した内容ならびに評価の結果についてパワーポイントにまとめる。	報告会資料が期日内に完了するように、準備を行う。(30 分)
24	報告会	グループごとに作成したプレゼン資料をもとに、報告会を行う。	他グループの報告内容をまとめる。(30 分)
25	報告会	グループごとに作成したプレゼン資料をもとに、報告会を行う。	他グループの報告内容をまとめる。(30 分)
26	グループ報告書の作成	グループ活動の結果を踏まえ、グループ報告書の作成を行う。	報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分)
27	グループ報告書の作成	グループ活動の結果を踏まえ、グループ報告書の作成を行う。	報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分)
28	個人報告書の作成	実践ビジネス演習を通しての個人報告書を作成する。	報告書が期日内に完了するように、授業外に使って、報告書作成を行う。(30 分)
29	まとめ	総括ならびに、最終報告書を提出する。	実践ビジネス演習で学んだ内容について、振り返る。(30 分)
30	まとめ	総括ならびに、最終報告書を提出する。	実践ビジネス演習で学んだ内容について、振り返る。(30 分)

単位の認定について　グループ活動の企画・運営(60%)、感想・報告書の作成など(30%)、取り組み態度(10%)

教科書　授業内で指定

参考書　授業内で指定

授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題について、難しい箇所などがある場合には、チェック後に解説をする。

タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※一般企業での勤務経験のある教員や、地元企業等に勤務する講師が企業で働くために必要な知識や技術について指導する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	DTPデザイン演習(科目コード:　)						
資格取得との関連							
担当者	新生社印刷						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：本講義では、DTP(Desktop Publishing)の基本から応用までを、Illustrator や Photoshop などの主要アプリケーションを使って実践的に学び、名刺やチラシなどの制作物を通してデザイン力と技術力を身につける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

評価指標：・Illustrator や Photoshop などの DTP 関連ツールの基本操作を理解し、適切に活用することができる。
・名刺やチラシなどの制作物において、視覚的なバランスや情報の整理、レイアウトの工夫をすることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション・DTPとは	DTP や必要なアプリについて学ぶ	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
2	主要ツールを知る①	Illustrator の主要ツールを学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
3	名刺制作①	名刺作成を通して実践からツールを学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
4	名刺制作②	名刺作成を通して実践からツールを学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
5	チラシ作成①	チラシ作成を通して構成を学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
6	チラシ作成②	チラシ作成を通して地図作成を学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
7	チラシ作成③	チラシ作成を通して画像処理を学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
8	画像加工・補正	Photoshop の画像加工・補正を学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
9	レイヤーについて	レイヤーを使用した文字加工を学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
10	チラシ制作実践①	チラシ制作の実践を行う。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
11	チラシ制作実践②	チラシ制作の実践を行う。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
12	チラシ制作実践③	チラシ制作の実践を行う。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
13	チラシ制作実践④	チラシ制作の実践を行う。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
14	チラシ制作実践⑤	チラシ制作の実践を行う。	毎時の授業で学んだ機能・操作について復習する。(30 分)
15	発表・振り返り	制作発表を通して振返りを行う。	まとめの課題に取り組む。(30 分)

単位の認定について　取り組み状況、課題（30%）、制作物（70%）
教科書
参考書　授業内で指定
授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説を行う。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	DX 基礎						
資格取得との関連							
担当者	非常勤講師　田村宏樹(htamura@cc.miyazaki-u.ac.jp)						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	現代ビジネス科 1 年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：仕事や生活の中での DX に参画できるようになるため、DX の背景（Why）、活用されるデータ・技術（What）、データ・技術の活用（How）および社会変化の中で新たな価値を生みだす意識・姿勢・行動（マインド・スタンス）の基礎を学ぶ。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標： ①経済産業省「DX リテラシー標準」の DX の背景（Why）、活用されるデータ・技術（What）を知識として知っている。
②経済産業省「DX リテラシー標準」のデータ・技術の活用（How）におけるツール利用、データ活用が業務で利用できることを理解し、適用場面を想像できる。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	DX とは	DX の用語の説明、DX の背景（Why）	授業中の講義ノートを他の情報と合わせて整理する（60 分程度）
2	企業での DX の現状1	医療機関、小売業での DX 事例及びそこで活用されているデータ・技術の解説（What）	九州経済産業局「社会のデータ・AI 等活用事例動画」を視聴（90 分程度） https://www.kyushu.meti.go.jp/seisaku/jyoho/oshirase/240509_1.html
3	企業での DX の現状2	食品工場、介護現場での DX 事例及びそこで活用されているデータ・技術の解説（What）	九州経済産業局「社会のデータ・AI 等活用事例動画」を視聴（90 分程度） https://www.kyushu.meti.go.jp/seisaku/jyoho/oshirase/240509_1.html
4	企業での DX の現状3	農業、教育現場での DX 事例及びそこで活用されているデータ・技術の解説（What）	九州経済産業局「社会のデータ・AI 等活用事例動画」を視聴（90 分程度） https://www.kyushu.meti.go.jp/seisaku/jyoho/oshirase/240509_1.html
5	生成 AI の活用	生成 AI でできること、及び留意すべき情報倫理（What）	授業中の講義ノートを他の情報と合わせて整理する（60 分程度）
6	生成 AI の活用体験	生成 AI を実際に活用し、どんなことができるのかを演習形式で体験（How） ●演習レポート提出(到達目標②)	講義中に指示した演習課題を実施（90 分程度）
7	データの可視化	データを活用するための可視化方法を紹介。そこからデータをどう解釈すべきかの知識を得る(How)	授業中の講義ノートを他の情報と合わせて整理する（60 分程度）
8	データドリブン	データ可視化、分析、解釈から施策につなげるという流れを意識する必要性を紹介（マインド・スタンス）	授業中の講義ノートを他の情報と合わせて整理する（60 分程度）
9	データドリブン体験	データ可視化、分析、解釈から施策につなげるという流れを演習形式で体験（How） ●演習レポート提出(到達目標②)	講義中に指示した演習課題を実施（90 分程度）
10	データサイエンス	データサイエンスの基礎から機械学習・AI の概要を説明（What） ●確認小テスト実施(達成目標①)	授業中の講義ノートを他の情報と合わせて整理する（60 分程度）
11	金融分野でのデジタル活用	金融分野の県内企業のデジタル活用の紹介（県内企業をゲストティチャーとして招聘）	事前にゲストティチャーの企業の情報を収集（90 分程度）
12	情報クリエーティブ分野でのデジタル活用	情報クリエーティブ分野の県内企業のデジタル活用の紹介（県内企業をゲストティチャーとして招聘）	事前にゲストティチャーの企業の情報を収集（90 分程度）
13	観光・ホスピタリティー分野でのデジタル活用	観光・ホスピタリティー分野の県内企業のデジタル活用の紹介（県内企業をゲストティチャーとして招聘）	事前にゲストティチャーの企業の情報を収集（90 分程度）
14	経営・マーケティング分野でのデジタル活用	経営・マーケティング分野の県内企業のデジタル活用の紹介（県内企業をゲストティチャーとして招聘）	事前にゲストティチャーの企業の情報を収集（90 分程度）
15	デジタルによる産業革命	デジタルによる産業革命のこれからについて講話（マインド・スタンス） ●企業からの講義の中から 1 つを選択し、レポート提出(到達目標②)	授業中の講義ノートを他の情報と合わせて整理する（60 分程度）

単位の認定について

確認小テスト(達成目標①)： 40%
3 つのレポート課題（到達目標②）:60%(20%×3) ※3 つとも提出必須

教科書　講義中に資料を配布します。
参考書　特になし

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。必要に応じて授業外学習を更新する場合があります。その際には 1 週間前の講義にて事前連絡します。

課題に対するフィードバックの方法　提出されたレポート課題は、添削して返却します。

※この授業ではゲストティチャーを招聘して実施する第 11 回から第 14 回においてはアクティブラーニングを取り入れて行います。
※第 6 回、第 9 回においては、ＩＣＴを活用した演習を行います。

授業科目名	適性検査実践演習						
資格取得との関連	実践キャリア実務士(選択)						
担当者	保田昌秀						
オフィスアワー	木曜日の 4 限目						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：就職試験のSPI-3試験に充分な対応出来る力をつける。就職試験で落ち着いて、確実に得点が取れるようにする。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ	

評価指標： ・積極的に授業に取り組み、自律的に学ぶために必要な技術を身につける。
・与えられた課題について、試行錯誤をして、解決につなげる能力を養う。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	1-1 数学の基礎(1)	整数の四則(加減乗除)計算、数列	SPI 小テスト1, 次回の SPI テストに向けて復習
2	1-2 数学の基礎(2)	小数から分数への変換、無理数と有理数	SPI 小テスト 2 次回の SPI テストに向けて復習
3	1-3 数学の基礎(3)	指数がマイナスの累乗数、指数が小数の累乗数と平方根、	SPI 小テスト 3 次回の SPI テストに向けて復習
4	2-1 式の展開(1)	$(a + b)^2 = a^2+2ab+b^2$ の活用、マイナスとマイナスの掛け算	SPI 小テスト 4 次回の SPI テストに向けて復習
5	2-2 式の展開(2)	割合と比例式と分数で表す。	SPI 小テスト 5 次回の SPI テストに向けて復習
6	3-1 文章を式にする(1)	速度＝距離/時間	SPI 小テスト 6 次回の SPI テストに向けて復習
7	3-2 文章を式にする(2)	集合のグループ分け、前半模擬試験	SPI 小テスト 9 次回の SPI テストに向けて復習
8	4 場合の数・確率	場合の数・確率、中間試験	SPI 小テスト 7 前半のまとめと中間試験の準備
9	5-1 図表の読み取り(1)	図表の問題	SPI 小テスト 8 次回の SPI テストに向けて復習
10	5-2 図表の読み取り(2)	図表の問題	SPI 小テスト 10 次回の SPI テストに向けて復習
11	6-1 論理的な思考(1)	文章を図にして推論	SPI 小テスト 11 次回の SPI テストに向けて復習
12	6-2 論理的な思考(2)	未知数を変数にして推論	SPI 小テスト 12 次回の SPI テストに向けて復習
13	6-3 論理的な思考(3)	パズル的な判断推論	SPI 小テスト 13 次回の SPI テストに向けて復習
14	7 空間把握	平面図・立体図	SPI 小テスト 14 次回の SPI テストに向けて復習
15	8 ブラックボックス	演算を行うブラックボックス:情報処理、後半模擬試験	SPI 小テスト 15 後半のまとめと期末試験の準備

単位の認定について 毎回の小テスト(15 回×2 点＝30 点) 中間試験(35 点)、期末試験(35 点)
参考書 『文系学生のための SPI3 完全攻略問題集』高橋書店
授業外学習 1 時間程度の予習復習を行い、知識を確実なものとする。
課題(小テスト)に対するフィードバックの方法 小テスト後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	伝統文化(茶道・華道・着付け)						
資格取得との関連							
担　当　者	山本 優子(y-yamamoto@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授　業　対　象	現代ビジネス科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： 日本の長い歴史の中で人々に受け継がれてきた伝統文化の中から、茶道・華道・着付けを取り上げる。理論と実践を通して、ビジネス社会及び国際交流における質の高いコミュニケーション力に繋がる資質を身に付け、社会人としてのスキルアップを目指す。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	

到達目標：

1 華　道:草木に触れ、季節を敏感に感じる感性を育み、それぞれの特徴を生かしながら花をいけ表現できる。
2 茶　道:茶の湯の根本である「和敬清寂」について理解し、点前作法を修得して客へのもてなしができる。
　　主客の関係性について学び合い、一期一会・一座建立の精神に触れる。
3 着付け:和装の基本を身につけ、浴衣の着付けと帯結びを修得する。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション 華道①	授業概要と到達目標及び単位認定について理解する。いけばなとは何か。日本人と植物の関わりを通して、時代とともに変化し生活とともにあるいけばなについて考える。花鋏の使い方、道具の取り扱いを理解する。	二十四節気(春から夏)について調べる。(30 分)
2	華道②	いけばなの歴史について学ぶ。花をいける花器を身近なもので作り、季節の花をいける。	二十四節気(秋から冬)について調べる。(30 分)
3	華道③	立花・生花・自由花の特徴を学び、鑑賞のポイントを理解する。季節の花をいけ、他者の作品を鑑賞し、意見を交換し合う。	いけばなの歴史について調べる。 (30 分)
4	華道④	床の間の概要及び陰陽について学ぶ。自由花の自然的表現と意匠的表現について学び、季節の花をいける。授業外学習の内容よりテーマを決め、パワーポイントプレゼンテーションの準備を行う。	五節句と花との関わりについて調べる。(30 分)
5	華道⑤	自由花の構成要素、線・面・点・マッス及び、基本構成、縦・斜め・横の特徴を捉え、季節の花を生ける。パワーポイントプレゼンテーション発表と講評。	春・夏の花を取り上げ、その特徴を調べまとめる。(30 分)
6	茶道①	割り稽古。真・行・草のお辞儀の仕方。帛紗の扱い・懐中の仕方、帛紗捌き、棗・茶杓の清め方を実践する。	茶席の禅語を選び、調べまとめる。 (30 分)
7	茶道②	割り稽古。茶巾のたたみ方を理解し、仕込み茶碗を作る。茶筅通し・茶碗の清め方を実践する。茶道具について理解し、点前の準備ができる。	茶室について調べまとめる。(30 分)
8	茶道③	茶道具について理解し、点前の準備ができる。薄茶点前の流れを理解し実践する。	茶道具について調べまとめる。(30 分)
9	茶道④	茶会における客の心得を理解し、菓子・抹茶のいただき方を実践する。薄茶点前を実践する。	野点について調べまとめる。(30 分)
10	茶道⑤実技テスト	実技テストを行い、理解度を確認する。薄茶点前を実践する。	茶席における客の心得について調べまとめる。(30 分)
11	着付け①	着付けに必要な道具について学ぶ。浴衣の着装、半幅帯の帯結び、着物のたたみ方を実践する。	年中行事について調べる。(30 分)
12	着付け②	着物の種類との部分名称について学ぶ。浴衣の着装、半幅帯の帯結び、着物のたたみ方を実践する。	着物の歴史について調べる。(30 分)
13	着付け③実技テスト	帯の種類と部分名称、和服の衣替えについて学ぶ。浴衣の着装、半幅帯の帯結び、着物のたたみ方を実践する。	着付けの流れと要点をまとめる。 (30 分)

14	着付け④	浴衣の着装、半幅帯の帯結び、着物のたたみ方を実践する。浴衣・半幅帯の他装。	国際化社会における伝統文化の位置づけについて考えをまとめる。(30 分)
15	着付け⑤	浴衣を着装し、茶会を行う。前期の学びと自己の取組、到達度を自己評価する。	半年間の学びを振り返り、今後の目標と課題を掲げる。(30 分)

単位の認定について　実技テスト 30%、筆記テスト 30%、授業外学習 30%、授業への参加度 10%。
教科書　授業資料を配布する。
授業外学習について　授業外学習の提出にあたっては、提出期限を守ること。
指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	TOEIC 演習 I						
資格取得との関連							
担当者	植田 美穂						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科 1 年生	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： 使用教材を使い TOEIC 試験内容の聴解・文法・読解の３パーツを演習授業として学ぶ。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ	

到達目標： TOEIC 試験の基本的な構造や内容を学び、英単語力・英文法・英文読解力をつける

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	説明と講義内容確認	シラバス説明と講義内容確認 TOEIC テストの基礎と重要性の説明	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
2	Listening Practice（聴解）	写真・問題・会話 I・会話 II	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
3	Listening Practice（聴解）	写真・問題・会話 I・会話 II	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
4	Listening Practice（聴解）	写真・問題・会話 I・会話 II	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
5	Listening Practice（聴解）	写真・問題・会話 I・会話 II	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
6	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
7	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
8	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
9	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
10	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
11	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
12	Reading Practice（読解）	英語長文問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
13	Reading Practice（読解）	英語長文問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
14	Reading Practice（読解）	英語長文問題 定期試験の確認	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
15	まとめ	まとめ内容の確認	

単位の認定について　試験：４０％　授業態度：２０％　授業への参加：２０％　授業外学習（課題）：２０％

教科書　※「Taking TOEIC Skills and Strategies 1」 Peggy Anderson 著（Compass Publishing 出版）などと記載。

参考書　※「TOEIC テスト新公式問題集」

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	TOEIC 演習 II						
資格取得との関連							
担当者	長島 洋介						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科2年生	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： 使用教材を使い TOEIC 試験内容の聴解・文法・読解の３パーツを演習授業として学ぶ。また、内容理解向上のため、アクティブ・ラーニングによるペアワークや発表を導入して、学修者や受験者に問題解説を体験させることにより理解と点数取得改善に繋げる。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ	

到達目標： TOEIC 試験の基本的な構造や内容を学び、英単語力・英文法・英文読解力をつける。また、他の学修者に英文法や長文読解を開設と説明できる力を養う。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	説明と講義内容確認	シラバス説明と講義内容確認 TOEIC テストの基礎と重要性の説明 自己分析(LR の強弱調査)	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
2	Listening Practice（聴解）	写真・問題・会話 I・会話 II 点数取得向上解説	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
3	Listening Practice（聴解）	写真・問題・会話 I・会話 II 点数取得向上解説	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
4	Listening Practice（聴解）	写真・問題・会話 I・会話 II 点数取得向上解説	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
5	Listening Practice（聴解）	写真・問題・会話 I・会話 II 点数取得向上解説	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
6	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題 点数取得向上解説	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
7	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題 受講学生解説体験①	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
8	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題 受講学生解説体験②	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
9	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題 受講学生解説体験③	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
10	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
11	Grammar Practice（文法）	穴埋め問題・文法問題	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
12	Reading Practice（読解）	英語長文問題 受講学生解説体験①	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
13	Reading Practice（読解）	英語長文問題 受講学生解説体験②	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
14	Reading Practice（読解）	英語長文問題 定期試験の確認	課題、講義内容の予習と復習（60 分）
15	まとめ	まとめ内容の確認	

単位の認定について 試験：４０％ 授業態度：２０％ 授業への参加：２０％ 授業外学習（課題）：２０％

教科書 ※「Taking TOEIC Skills and Strategies 1」 Peggy Anderson 著（Compass Publishing 出版）などと記載。

参考書 ※「TOEIC テスト新公式問題集」

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	図書・図書館史(科目コード:TCLSC206)							
資格取得との関連	司書資格に関する科目（選択）							
担当者	佐藤 由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	1	

授業概要：記録媒体の歴史及び、図書の館として誕生した図書館の源流、発達の歴史を紐解くとともに、それぞれの時代・社会の中で図書及び図書館がどのように変化してきたのかを時代背景とともに理解する。また、それらを踏まえて高度情報社会における現在の図書館、そしてこれからの図書館のあり方について考察できる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産（印刷等を含む）、普及、流通等の歴史、並びに図書館の歴史的発展について解説できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	はじめに 図書と図書館について	知識の集積と図書館の始まりについて概要を学ぶ	古代における図書･図書館の意義について考える（30 分）
2	西洋における図書館の位置づけ①古代～中世	印刷技術の発明や、中世の文化、イスラム世界の図書館、ルネサンス期までの流れを学習する	印刷技術がもたらした変化について考え、まとめる（30 分）
3	西洋における図書館の位置づけ②近代～	近代･現代ヨーロッパの各国の状況について学習する	各国の図書館の歴史的な背景を調べまとめる（30 分）
4	現代の各国の図書館	アメリカにおける図書館の誕生と、世界大戦前後の図書館について学び、現在へ至る流れを学習する	アメリカで誕生した図書館が諸外国へ与えた影響について考える（60 分）
5	日本における図書館の位置づけ①古代～中世	古代中国での紙の発明や、印刷技術の始まり及び、古代から中世にかけての日本における図書の歴史の流れを学習する	東洋世界と西洋の図書･図書館の違いについて考える（30 分）
6	日本における図書館の位置づけ②近代	活字版と出版業のはじまり、江戸時代の出版の取り締まりなどについて学び、幕末から明治までの流れを学習する	西洋と日本の出版事業の違いについてまとめる（30 分）
7	日本における図書館の位置づけ③現代	図書館令、大正デモクラシー下での図書館、戦前・戦時下・戦後復興期の図書館について学習する	戦時下における検閲について調べ、現在の図書館の自由に関する宣言などへの流れをまとめる（60 分）
8	現代日本の図書館について	高度経済成長期から現在の図書館までの流れを学習し、これからの姿を考察する	歴史を振り返り、図書館の未来を考察する（60 分）

単位の認定について　授業への取り組み（30%）、レポート（70%）

教科書　授業内容についてはプリントを配布する。

参考書　『知の図書館情報学』丸善出版（2024）　『図書・図書館史』学芸図書株式会社（2013）
『図書・図書館史』学文社（2014）など。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※図書館司書として勤務経験のある教員が、図書館の歴史や今後の図書館のあり方について解説する。

授業科目名	図書館サービス概論(科目コード:TCLSC102)							
資格取得との関連	司書に関する科目(必修)							
担当者	巻 庄次郎 (実務家教員) s-maki@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要： 図書館の基本的なサービスについて、その考え方や具体的なサービス内容、その実際などを学び、時代の変化や住民のニーズに応じたこれからの図書館サービスについて理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ○	Ⅱ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標： 1.図書館で行われる基本的なサービスについて説明することができる。
2.身近な図書館を訪問・調査し、図書館サービスの実際を理解し、レポートにまとめる。
3.これからの図書館サービスについての企画を立案し、レポートにまとめ提案する。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	図書館サービスとは！！	図書館サービス概論の授業内容について学ぶ。	自分と「図書館」のこれまでの関わりについてまとめる。(60分)
2	図書館サービスの種類	図書館におけるテクニカルサービスとパブリックサービスの関係について考える。	図書館サービスについて調べまとめる。(60分)
3	図書館の多様なサービス	身近な図書館における図書館サービスの実際について学ぶ。	身近な図書館を訪問し、図書館サービスの実際について調査し、レポートにまとめる。(120分)
4	対象別の図書館サービス	障害者サービスや多文化サービス等、対象別の図書館サービスについて考える。	対象別の図書館サービスについて整理しまとめる。(60分)
5	図書館におけるコミュニュケーション	図書館における利用者とのコミュニケーション(接遇・サイン)について考える。	接遇・サインのあり方について考えをまとめる。(60分)
6	著作権と図書館サービス	著作権とは何か、著作権と図書館サービスとの関連について理解する。	図書館における著作権を調べまとめる。(60分)
7	児童サービスとヤング・アダルトサービス	児童サービスとヤング・アダルトサービスの意義について理解する。	ヤング・アダルトへのサービス企画を考えまとめる。(60分)
8	図書館協力・全域サービス	図書館間の協力体制とそのネットワークについて理解する。	図書館間の協力体制について、調べまとめる。(60分)
9	利用者サービスと図書館の自由	利用者サービスでの資料の提供など、どのように図書館の自由が関わるかについて考える。	図書館サービスと図書館の自由を考えまとめる。(60分)
10	レファレンス・サービス1	図書館におけるレファレンス・サービスについてその機能と役割を学ぶ。	レファレンス・サービスの機能について調べる。(60分)
11	レファレンス・サービス2	図書館におけるレファレンス・サービスについて利用者との実際の対応について理解する。	レファレンス・サービスの機能や実際について調べる。(60分)
12	課題解決型図書館サービス	個人や地域の課題解決のために図書館が住民にどのような支援ができるのか、新たな図書館サービスについて考える。	課題解決型図書館サービスに関する資料を調べる。(60分)
13	これからの図書館サービス1「孤独に寄り添う図書館サービス」	現代社会にある「孤独」とは何か。住民や地域のニーズに応じた新たな図書館サービスについて、グループワークを行い考える。	社会問題の背景と新たな図書館サービスについて考える。(60分)
14	これからの図書館サービス2「孤独に寄り添う図書館サービス」	高齢者に図書館の支援が必要な理由やそのあり方についてグループワークを行い考える。	図書館として高齢者支援サービスを行う必要性について、自分の考えをまとめる。(60分)
15	まとめ	これからの図書館サービスの可能性についてグループワークを行い、レポートにまとめる。	これからの図書館サービスの可能性について考える。(60分)

単位の認定について 授業内でのグループワークへの参加30%、レポート等20%、期末試験50%を総合して評価する。
教科書 参考書 必要に応じて、担当者が伝える。
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間あて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※図書館長として図書館経営の実績を持つ教員が、図書館の基本的なサービスとこれからの図書館サービスについて教授する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	図書館概論(科目コード:TCLSC101)							
資格取得との関連	司書に関する科目(必修)							
担当者	巻 庄次郎 (実務家教員) s-maki@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科 1 年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：図書館及び図書館員の使命について解説し、図書館の基本的機能や関係法規、図書館員の役割などを理解する。
また、現代社会における図書館の意義や多種にわたる図書館サービスへの理解を深める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：1.図書館の意義や基本的機能について説明ができる。
2.図書館の種類とその種別により図書館の役割と機能の違いを説明できる。
3.身近な図書館について調査を行い、その概要をレポートにまとめる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	図書館学・図書館概論とは！！	図書館学及び図書館概論の授業内容について学ぶ。	「図書館」と「図書館員」の役割について、これまで持っていたイメージを整理する。(60 分)
2	図書館の定義と役割	図書館の定義と、生涯学習・高度情報化社会における図書館の役割について考える。	図書館の定義と役割について考えまとめる。(60 分)
3	図書館法と関係法規	図書館法及び関係法規について学ぶ。	図書館法の全文を読む。(60 分)
4	図書館の基本思考	ユネスコ公共図書館宣言やランガナタンの五法則と図書館について考える。	ランガナタン五法則とその考え方を整理しまとめる。(60 分)
5	公立図書館の役割と機能	公立図書館を訪問した結果をレポートにまとめるとともに、図書館の役割と機能について考える。	身近な図書館を訪問し、その図書館の概要について調査しまとめる。(120 分)
6	大学図書館の役割と機能	大学図書館での実務体験を通して、その役割と図書館業務について学ぶ。	大学図書館等の役割や業務についてまとめる。(60 分)
7	図書館の設置目的と無料の原則	図書館は何のためにあるのか。公立図書館は何故無料なのかをグループワークを行い考える。	図書館の設置目的と無料の原則について考えをまとめる。(60 分)
8	知的自由と図書館１	図書館の自由とは何かを学ぶ。	図書館の自由に関する資料を調べ整理する。(60 分)
9	知的自由と図書館２	図書館の自由が図書館サービスとどのように関わるのか、グループワークを行い考える。	図書館の自由に関する事例について自分の考えをまとめる。(60 分)
10	公立図書館の運営方法と図書館サービス	図書館の多様化した運営方法と図書館サービスのあり方について理解する。	図書館の運営に関する資料を調べまとめる。(60 分)
11	図書館員の倫理とコンプライアンス	図書館員の倫理とコンプライアンスについて、そのあるべき姿を考える。	図書館員の倫理について考え、まとめる。(60 分)
12	図書館協力とネットワーク	公共図書館、大学図書館等の協力・連携とそのネットワークについて理解する。	図書館協力・ネットワークについて調べまとめる。(60 分)
13	地域社会と図書館１ ～まちづくりと図書館～	地域の課題を踏まえ、まちづくり（定住・移住）に役立つ図書館について、グループワークを行い考える。	自分の住んでいる地域の特色や課題を調べまとめる。(60 分)
14	地域社会と図書館２ ～まちづくりと図書館～	まちづくりに役立つ図書館と新たな利用者サービスについてグループワークを行い、まとめ発表する。	新たな利用者サービスのあり方について考えまとめる。(60 分)
15	まとめ	講義の内容を踏まえ、何故、図書館が設置され、無料なのかについて調べたことをレポートとしてまとめる。	図書館の設置目的と図書館サービスについて考えまとめる。(60 分)

単位の認定について 授業内でのグループワークへの参加 30%, レポート等 20%、期末試験 50%を総合して評価する。

教科書・参考書 『図書館概論』 塩見昇編著 日本図書館協会 その他必要に応じて担当者が伝える。

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間あて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※図書館長として図書館経営の実績を持つ教員が、図書館の基本的な機能や関係法規、図書館員の役割などを教授する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	図書館実習						
資格取得との関連	司書(選択科目)						
担当者	川越 勇二 yikawagoe@mgjc.ac.jp						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科 2 年	開講時期	前期	授業の種類	実習	単位数	1

授業概要：

・宮崎県立図書館で司書業務を体験することにより、これまでの学びの内容を深めるとともに、司書業務の実際を確認する。

・図書館実習を通して、司書業務に必要な知識・能力の育成を図りながら、学内での学びとは異なる気づきや新たな学びを得る。今後の能動的な学びのための動機づけや専門知識の必要性を理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ	

到達目標：

1．司書業務における実際的な知識・技術を学ぶことができる。
2．大学での学びと司書業務を結びつけて考えることができる。
3．様々な世代の人たちとのコミュニケーション能力を高め、職業人としてのマナーを身につけることができる。

授業計画表

概要

○ 実習前指導

1. 実習生心得の確認
2. 情報モラル
3. 実習に当たっての注意事項
4. 実習の記録・評価等
5. 実習報告書・礼状の作成について
6. 班分け・リーダー決め
7. 実習前報告書の作成 (1) 実習目標・心構え
   (2) 検索学習

○ 実習:宮崎県立図書館での就業体験(5 日間)

主な実習内容: 1. 実習図書館の機能と役割の理解
2. 司書業務の経験
   (1) 情報提供サービス
   (2) 資料管理業務
3. 図書館の企画イベント等の参加（見学)

○ 実習後指導

1. 提出書類の確認
2. 実習報告会：グループでのワーク・発表
3. 実習のまとめ

単位の認定について 実習前指導(15%) 実習(60%) ※実習先による評価 実習後指導(25%) 合計 100%
実習外学習（実習前報告書・礼状・実習報告書の作成等）も評価に含む。

教科書 なし。

参考書 必要に応じて配布する。

授業外学習について 指業務上必要な知識の修得、受入れ先担当者の指導による学修等。

課題に対するフィードバックの方法 面談等を行い、実習内容についての振り返りを行う。

授業科目名	図書館情報技術論(科目コード:TCLSC201)							
資格取得との関連	司書資格(必修)、情報処理士(選択)							
担当者	石神 聖徳 m-ishigami@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ② ◎	Ⅲ	

到達目標：図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得する。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、電子資料等の仕組みを熟知している。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	コンピュータとネットワークの基礎	図書館業務に必要な情報技術の前提になるコンピュータとネットワークに関する基礎的なことを学ぶ。	実際にパソコンやネットワークがどのように繋がっているかを調べる。(60 分)
2	館内 LAN の構成、サブネットワーク、プロトコル	館内 LAN を構成・管理するためにネットワークに関する事柄について学ぶ。	校内 LAN がどのように接続しているかネットワーク図を作る。(60 分)
3	コンピュータシステムの管理	コンピュータやネットワークの管理に必要な事柄について学ぶ。	自分の周りにあるコンピュータ機器の構成管理台帳を作る。(60 分)
4	データベースの仕組み	図書館で主に扱われる文献データベースを中心に、データベースの基礎について学ぶ。	商用データベースの料金体系について調べる。(60 分)
5	図書館業務システムの仕組み	業務システムとして図書館情報資源はどのように構成されているのか。	図書館の OPAC をみてどのような項目で検索できるか調べる。(60 分)
6	館内ネットワークの仕様、仕様書	館内ネットワークを構築するための実務的な事柄を学ぶ。	自分のよく使う図書館の機器の配置が適切か考える。(60 分)
7	図書館における情報技術活用の現状	図書館における情報技術活用の現状について。	IC タグの利点と問題点を考察する。(60 分)
8	電子資料の管理技術	図書館で電子資料を取り扱うための基本技術について学ぶ。	メディアの変遷について今後の見通しを考える。(60 分)
9	電子図書館とデジタルアーカイブ	電子図書館とデジタルアーカイブについての基本的な概念を理解し、資料の電子化の技術も学ぶ。	電子図書館サービスを使い資料を閲覧する。(60 分)
10	最新の情報技術と図書館	図書館業務と利用者サービスにおける最新の技術を学ぶ。	IC タグ、自動貸出、自動書庫を備えた図書館はどの程度あるか調べる。(60 分)
11	情報技術と社会	図書館の ICT だけではなく情報化社会とはなにか。その発展と未来について考える。	パソコンの出現はコンピュータの世界をどのように変革したか考察する。(60 分)
12	インターネットと図書館	図書館とインターネットはそれぞれ知の再生産のためのインフラとも言える。そのインターネットの図書館の関わりや技術を学ぶ。	普段よく使っている URL をみて、その意味を記述する。(60 分)
13	サーチエンジンの仕組み	インターネットの情報探索になくてはならないツールであるサーチエンジンについての基本的な概念の理解と仕組みを学ぶ。	複数のサーチエンジンを用いて検索し、結果がどのように異なるか考察する。(60 分)
14	Web2.0 と Library2.0	1990 年代のインターネット普及と、さらに身近になったインターネットの技術と図書館技術の未来について考える。	Library2.0 とみなすことのできるアイデアを考察する。(60 分)
15	展望	図書館情報の未来について考える。	どのようなことができると図書館は便利になるか考察する。(60 分)

単位の認定について　取り組み状況、プリント課題(20%)、最終レポート(80%)
教科書
参考書
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。

授業科目名	図書館情報資源概論(科目コード:TCLSC103)							
資格取得との関連	司書資格（必修）							
担当者	佐藤 由紀枝(実務家教員)y-sato@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：印刷資料・非印刷資料・電子資料・パッケージ系電子出版物、ネットワーク情報源などからなる図書館情報資源について、その類型と特質等を学ぶと共に、地域資料や行政資料などについても学習する。また図書館での収集業務に必要な図書の生産、流通について基本的な事項を学び、選書、収集、保存や、装備、排架、点検などの管理業務についても理解し、実践できる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：印刷資料や電子資料などの図書館情報源について類型と特質を理解している。
図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得している。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	はじめに	授業の方針と内容の概要について説明し、情報資源について学習する	情報資源とは何か考える（30 分）
2	印刷資料と非印刷資料の類型と特質	印刷資料と非印刷資料の類型と特質を学び、図書、雑誌、新聞等の特徴について学習する	図書の歴史を調べる（30 分）
3	情報資源の生産①	出版、出版業界の基本的知識と新刊市場などについて学習する	出版社の意義について調べる（30 分）
4	情報資源の生産②	再販制度・委託販売制度などについて学習する	今後の取次可能性（方向性）について調べる（30 分）
5	電子図書・ネットワーク情報源の類型と特質	電子資料、ネットワーク資料について学習する	電子資料のメリット･デメリットを考える（30 分）
6	図書館資料の種類とその特徴	政府刊行物、行政資料などの灰色文献や地域資料について学習する	図書館が灰色文献を収集する意義を考える（30 分）
7	図書館資料の種類とその特徴	その他の資料（地図、障がい者用資料など）について学習する	近隣の公共図書館での障害者向け資料（サービス）を調べ、利用してみる（60 分）
8	図書館と著作権①	図書館と著作権、図書館に関わる各種法令について学習する	関わりのある法令を探し読んでみる（60 分）
9	図書館と著作権②	図書館と著作権、図書館に関わる各種法令について学習する	日本の著作権について調べる（60 分）
10	図書館業務と情報資源に関する知識①	図書館の自由と検閲について学習する	図書館の自由に関する宣言の意義を考える（60 分）
11	図書館業務と情報資源に関する知識②	蔵書論・収集、書庫管理などについて学習する	図書館の収集方針を読み比べ蔵書の意義を考える（30 分）
12	図書館業務と情報資源に関する知識③	選書の為に必要な知識などについて学習する	書評などが載っている媒体を探し、読んでみる（60 分）
13	図書館業務と情報資源に関する知識④	資料の受入・除籍・保存・管理などについて学習する	間接サービスの内容を調べる（30 分）
14	図書館業務と情報資源に関する知識⑤	装備・補修・排架・展示・点検等について学習し、図書館での本の修理の技法を学ぶ	間接サービスの内容を調べる（30 分）
15	まとめ	要点の整理	図書館にとっての資料､情報とは何か考える（30 分）

単位の認定について　授業への取り組み（20%）、試験（80%）

教科書　授業内容についてはプリントを配布する

参考書『図書館情報資源概論』日本図書館協会(2018)『現代図書館情報学シリーズ図書館情報資源概論』樹村房(2020)など

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に必要に応じて解説する。

※図書館司書としての勤務経験のある教員が、図書館情報資源について基本的な事項を教授する。

授業科目名	図書館情報資源特論(科目コード:TCLSC207)						
資格取得との関連	司書資格に関する科目（選択）						
担当者	佐藤 由紀枝（実務家教員）y-sato@mgjc.ac.jp						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	1

授業概要：人文科学、社会科学、自然科学の概念、特性を学ぶと共にそれぞれの分野における主な資料・検索ツールなどを学ぶ。また、資料収集プロセス（選書・発注・受入）、資料組織化プロセス（分類・目録・装備・整理）、資料管理プロセス（保管・評価・再編）の３つのテクニカルサービスの理論と実際を習得し実践できる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ

到達目標：人文科学、社会科学、自然科学の分野の概念、特性、領域及びテクニカルサービスにおける３つのプロセスについて、それぞれの概念を明確に理解し、３つのプロセスが実践できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	はじめに	専門資料とは	概論で学んだ内容をまとめ､復習する（30 分）
2	各領域について	人文科学の概念、特性、領域	各領域を分類する（30 分）
3	各領域について	社会科学の概念、特性、領域	過去の事件の第一報､そこからの推移を新聞で読み比べる（30 分）
4	各領域について	自然科学の概念、特性、領域	科学者の倫理観について考える（30 分）
5	資料収集プロセス	資料収集プロセス：演習、解説	選書の演習に向けて情報収集をする（30 分）
6	資料組織化プロセス	資料組織化プロセス：演習、解説	選書の演習に向けて情報収集をする（30 分）
7	資料管理プロセス	資料管理プロセス：演習、解説	選書の演習に向けて情報収集をする（30 分）
8	まとめ	テクニカルサービスについてまとめ	テクニカルサービスの重要性をまとめる（30 分）

単位の認定について　授業（授業内での演習含む）への取り組み（100%）

教科書　授業内容についてはプリントを配布する。

参考書　『図書館情報資源概論』日本図書館協会（2018）『現代図書館情報学シリーズ図書館情報資源概論』樹村房（2020）など。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※図書館司書としての勤務経験のある教員が、資料収集プロセス・資料組織化プロセス・資料管理プロセスのテクニカルサービスの理論を教授する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

授業科目名	図書館制度・経営論(科目コード:TCLSC202)							
資格取得の関連	司書資格(必修)							
担当者	巻 庄次郎 (実務家教員) s-maki@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了後							
授業対象	現代ビジネス科 2 年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要: 図書館に関する法体系を理解するとともに、図書館経営という視点から、図書館活動を見つめ、経営の意義や組織の在り方、サービス計画立案等の手法について理解する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ ◎	Ⅲ◎	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ② ◎	Ⅲ	

到達目標:
1. 図書館に関する法規等について説明することができる。
2. 図書館政策と図書館の組織のあり方について理解し、説明することができる。
3. 図書館におけるマーケティングと評価について考え、サービス計画等の立案について理解することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	図書館経営とは!!	図書館経営の意義について考える。	「図書館経営」とは何か,自分の考えをまとめる。(60 分)
2	図書館経営の基本思考 1	図書館の持つ資源とその活用について理解し、運営体制と図書館経営について考える。	図書館の持つ資源と運営体制について調べる。(60 分)
3	図書館経営の基本思考 2	社会的包摂と図書館経営の考え方について学ぶ。	図書館経営の基本思考について調べる。(60 分)
4	図書館の法体系と図書館法	図書館に関する法体系と図書館法について学ぶ。	図書館の法体系について調べ整理する。(60 分)
5	図書館法 1	図書館法の目的と図書館の役割を考える。	図書館法について調べまとめる。(60 分)
6	図書館法 2	図書館法における公立図書館の無料の原則について考える。	何故、公立図書館は無料なのか、自分の考えをまとめる (60 分)
7	望ましい基準と図書館サービス	「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」における図書館の運営について考える。	望ましい基準についてまとめ整理する。(60 分)
8	図書館と関係法規等	ユネスコ公共図書館宣言など図書館に関する法規等について理解する。	図書館と関係法規について調べまとめる。(60 分)
9	自治体行政と図書館	自治体行政と図書館の関係、及び図書館政策や図書館予算について考える。	自治体行政と図書館について調べまとめる。(60 分)
10	図書館運営と図書館の自由 1	図書館の自由が図書館サービスと、どのように関わるのか、その実際について学ぶ。	図書館の自由とは何か、これらに関する資料を整理する。(60 分)
11	図書館運営と図書館の自由 2	図書館の自由の具体的事例に対して、図書館員として、どのようにこれらに臨むのかをグループワークを行い考える。	図書館の自由に関する事例を調べまとめる。(60 分)
12	図書館とサービス計画 1	図書館におけるサービス計画とマーケティング、評価の必要性について考える。	自分の住む地域の実情と図書館サービスについて調べる。(90 分)
13	図書館とサービス計画 2 (ヤング・アダルトサービス)	ヤング・アダルトの居場所としての図書館サービスについてグループワークを行い考える。	ヤング・アダルトへの新たな図書館サービスについて考える。(60 分)
14	図書館とサービス計画 3 (多文化サービス)	図書館における多文化サービスについてグループワークの考えをまとめ、発表する。	多文化サービスについて、自分の考えをまとめる。(60 分)
15	まとめ	図書館制度・経営論の全般についてまとめる。	「図書館経営」の課題と新たなサービスについてまとめる。(60 分)

単位の認定について 授業内でのグループワークへの参加 30%、レポート等 20%、期末試験 50%を総合して評価する。

教科書 参考書 『図書館制度・経営論』永田治樹編著 日本図書館協会 その他必要に応じて担当者が伝える。

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間あて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

※図書館長として図書館経営の実績を持つ教員が、図書館経営という視点から経営の意義や組織、サービス計画について教授する。

※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	PC演習Ⅰ（科目コード:　）						
資格取得との関連	情報処理士（選択）、上級情報処理士（選択）、上級秘書士（メディカル）						
担当者	兒玉 京子（k-kodama@mgjc.ac.jp）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：本講義では、企業で使用されている代表的なソフトである、ワープロソフトを使用し、知識や技術能力を身につけることを目的としている。学生のレベルに合わせて検定試験対策を行い、日本語ワープロ検定等の取得を目指す。また実践的なPCの機能の学修も行う。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

到達目標：・文書作成の基本を理解している。
・ワープロソフトを用いて、効果的な図表作成やワードアートなどを活かした文書を作成することができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の進め方について理解する。情報処理（ワープロ）に関するスキルについてチェックを行う。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。（30 分）
2	タイピング練習の方法とワープロソフトの基本操作	タッチメソッド修得のための練習方法について学ぶ。またワープロソフトの基本操作について学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。（30 分）
3	速度問題の基本と練習	日本語ワープロ検定試験の1科目である速度の練習方法について学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。（30 分）
4	文書作成の基本（1）	文書の体裁やページ設定など文書作成の基本操作を学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。（30 分）
5	文書作成の基本（2）	頭語と結語、「記」など、文書作成の基本的な体裁について理解する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。（30 分）
6	文書作成の基本（3）	網掛けや均等割り付けなど、文書を作成するための基本機能について学習する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。（30 分）
7	文書作成の基本（4）	表作成のための方法について学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。（30 分）
8	文書作成練習	文書作成の基本操作をもとに、文書を作成する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。（30 分）
9	文書作成演習（1）	文書作成に関する演習問題を解く（検定試験対策を含む）。	演習問題を解く。（30 分）
10	文書作成演習（2）	文書作成に関する演習問題を解く（検定試験対策を含む）。	演習問題を解く。（30 分）
11	文書作成総合演習（1）	文書作成に関する総合演習問題を解く（検定試験問題に対応）。	総合演習問題を解く。（30 分）
12	文書作成総合演習（2）	文書作成に関する総合演習問題を解く（検定試験問題に対応）。	総合演習問題を解く。（30 分）
13	文書作成の応用（1）	日本語ワープロソフトに関する応用問題を解く（検定試験対策を含む）。	授業で学んだことを復習し、理解を深める。（30 分）
14	文書作成の応用（2）	日本語ワープロソフトに関する応用問題を解く（検定試験対策を含む）。	授業で学んだことを復習し、理解を深める。（30 分）
15	まとめ	情報処理演習Ⅰａについての振り返り。	まとめの課題に取り組む。（30 分）

単位の認定について　取り組み状況、課題（30%）、テスト（70%）
教科書　日本情報処理検定協会『日本語ワープロ検定試験模擬問題集』日本情報処理検定協会
参考書　授業内で指定
授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説を行う。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	PC 演習Ⅱ(科目コード:　　)						
資格取得との関連	情報処理士(選択)、上級情報処理士(選択)、上級秘書士(メディカル)						
担当者	河野　美香子（実務家教員）						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科1年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：本講義では、企業で使用されている代表的なソフトである、表計算ソフトを使用し、知識や技術能力を身につけることを目的としている。学生のレベルに合わせて検定試験対策を行い、情報処理技能検定等の取得を目指す。また実践的なPCの機能の学修も行う。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ◎	Ⅰ○	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

評価指標：・表計算の基本を理解している。
・表計算ソフトを用いて、関数を活用した表作成やグラフの作成などを行うことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の進め方について理解する。情報処理(表計算)に関するスキルについてチェックを行う。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
2	表計算の基本操作	表計算ソフトの基本操作について学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
3	関数の基礎(1)	基礎的な関数について学習する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
4	関数の基礎(2)	IF、VLOOKUP関数について学習する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
5	関数の基礎(3)	ROUND・ROUNDDOWN・ROUNDUP関数について学習する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
6	関数の応用	LEFT、RIGHT、関数の入れ子を学習する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
7	データベース関数	データベース関数(DSUM、DAVERAGE、DMAX、DMIN)について学習する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
8	確認問題	関数の理解度を確認し、実践問題に取り組む。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
9	表作成と編集	罫線や関数を用いた表の作成方法やオートフィル機能や並び替え機能について学習する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
10	グラフの作成と編集、印刷の設定	グラフの作成方法を学習し、印刷の設定などを学習する。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
11	表集計の応用操作	フィルター機能や集計機能について学ぶ。	毎時の授業で学んだ機能・操作についてタブレットを用いて復習する。(30 分)
12	表計算総合演習	表計算ソフトに関する演習問題を解く(検定試験対策を含む)。	総合演習問題を解く。(30 分)
13	表計算の応用(1)	表計算ソフトに関する応用問題を解く(検定試験対策を含む)。	授業で学んだことを復習し、理解を深める。(30 分)
14	表計算の応用(2)	表計算ソフトに関する応用問題を解く(検定試験対策を含む)。	授業で学んだことを復習し、理解を深める。(30 分)
15	まとめ	情報処理演習Ⅰbについての振り返り。	まとめの課題に取り組む。(30 分)

教科書　日本情報処理検定協会『情報処理技能検定試験表計算模擬問題集』日本情報処理検定協会
参考書　授業内で指定
授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説を行う。
ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	ビジネスマナー演習(科目コード:　　)						
資格取得との関連							
担当者	節政 沙弥香(s-setsumasa@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	授業終了時						
授業対象	現代ビジネス科 1 年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：ビジネスマナーの必要性を理解したうえで、職務遂行に必要な知識、振る舞い方、仕事の進め方を習得する。
この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

到達目標：①TPO をわきまえ、敬語で話をすることができる
②ビジネスの場面を想定し、自ら考え、言動で表現できる
③信頼を持たれるような自己表現、マナーを身につける
④来客応対、電話応対の基本的な応対ができる

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ビジネスマナーの基本	ビジネスにおける第一印象の効果、挨拶、立ち居振る舞いの仕方を学ぶ。	授業内で課題を指示(30 分)
2	コミュニケーションの基本	分かりやすく、感じの良い話し方を学ぶ。	授業内で課題を指示(30 分)
3	コミュニケーションの基本	コミュニケーションにおける言葉の役割、敬語表現について学ぶ。	授業内で課題を指示(30 分)
4	コミュニケーション実践	社会人として必要な基本的なコミュニケーション力について学ぶ。	授業内で課題を指示(30 分)
5	コミュニケーション実践	仕事を効率的に進めるコミュニケーションについて学ぶ。	授業内で課題を指示(30 分)
6	コミュニケーション実践 まとめ	まとめとして、感じの良い社会人になるためのコミュニケーションについて演習する。	授業内で課題を指示(30 分)
7	来客応対業務	来客応対の基本を学ぶ。	授業内で課題を指示(30 分)
8	来客応対業務	来客応対の流れと内容について学ぶ。	授業内で課題を指示(30 分)
9	来客応対業務 まとめ	まとめとして、来客応対がスムーズにできるように演習する。	授業内で課題を指示(30 分)
10	電話応対	電話応対の流れと基本について学ぶ。	授業内で課題を指示(30 分)
11	電話応対	電話応対の応用を考え、演習する。	授業内で課題を指示(30 分)
12	電話応対 まとめ	電話応対のまとめとして、演習を行う。	授業内で課題を指示(30 分)
13	スケジューリング	予定の組み方、アポイントの取り方、受け方、スケジュール調整を学ぶ	授業内で課題を指示(30 分)
14	ビジネスマナー 総合演習①	仕事を遂行する実践課題を行う。仕事の流れや対応の仕方を自ら考え、実践する。	授業内で課題を指示(30 分)
15	ビジネスマナー 総合演習②	仕事を遂行する実践課題を行う。周囲に対する配慮なども、実践を通して確認する。	授業内で課題を指示(30 分)

単位の認定について　発表・ロールプレイ評価 20%、実践テスト 60%、提出課題 20%の 6 割で単位が認められる。
提出物は提出期限を厳守する。
教科書　参考書　担当者が作成したプリントを配付する
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業内容を習慣化できるようにする。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	ビジネス実務総論							
資格取得との関連	ビジネス実務士(必修)、上級ビジネス実務士(必修)、実践キャリア実務士(選択)、観光実務士(選択)							
担当者	河野　美香子(実務家教員)							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要:本講義では、多角的な視点から「働くこと」の意義を考察し、変化の激しい社会において、自らの指針となる「大切にしたい価値観」の土台を見出す。また、実生活に不可欠な経済知識や対人スキルを修得することで、自立した社会人としての基礎を身につける。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

到達目標:
・働く上で大切にしたい価値観には多様な種類があることを理解し、今の自分が「大切にしたいこと」を言語化できる。
・思いがけない変化やトラブルを前向きに受け止めるための考え方を知り、行動の選択肢を広げることができる。
・給与や生活費のリアルな仕組みを知り、社会人として自立して生きていくための「生活のイメージ」を持つことができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の進め方とビジネス実務の全体像を理解する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
2	自己分析(1)	過去の経験を振り返り、自分自身の「働く動機」を多角的に棚卸しする。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
3	自己分析(2)	価値観の順位付けを行い、自分の軸を他者に分かりやすく説明する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
4	変化を活かす(1)	クランボルツの「計画された偶発性理論」を学び、チャンスを逃さない行動特性を理解する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
5	変化を活かす(2)	想定外の事態や失敗を成長の機会に変えるための「しなやかな考え方」を養う。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
6	ディベート(1)	AI との共生を題材に、情報の真偽を見極め、論理的に主張を構築する力を養う。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
7	ディベート(2)	多角的な視点:反対意見を尊重しながら議論を深め、互いに納得できる結論を導き出すプロセスを体験する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
8	ケーススタディ(1) (チームビルディング)	協働の重要性を理解し、「一緒に働きたい」と思われる信頼構築を考える。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
9	ケーススタディ(2)	相手の心情を理解し、不満を改善や信頼に繋げるための「誠実な向き合い方」を考える。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
10	自己分析(3)	自分の得意・不得意を客観的に分析する。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
11	職業理解と戦略	興味のある業界を調査し、目標達成に必要なスキルの獲得計画を立てる。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
12	金融教育(1)	給与明細の読み方、社会保険、税金など、社会人の必須知識を学ぶ。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
13	金融教育(2)	一人暮らしを想定した家計簿データを用い、収支バランスのシミュレーションを行う。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
14	ライフプラン作成	仕事と私生活を統合し、長期的な視点で自分の人生設計を描く。	毎時の授業で学んだ内容について復習する。
15	まとめ	授業で学んだ内容の振り返り。	授業の振り返りをする。

単位の認定について　学習時の取り組み態度(50%)　課題(50%)
教科書　授業内で指定する。
参考書　授業内で指定する。
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	比較文化学概論						
資格取得との関連							
担当者	三輪能弘（y-miwa@mgjc.ac.jp）						
オフィスアワー	授業終了時						
授業対象	現代ビジネス科	開講時期	1年後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： 日本と異なる中南米の諸事情に触れ、異なる文化につき具体性をもって認識し、日本人のもつ文化・習慣と他国との違いを理解する。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

到達目標： 日本人と異なるものの見方への理解を深め、グローバル社会で求められる、他の文化、習慣、価値観に対する寛容性を高める。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	比較文化学について	比較文化学の目指すところ、今日における意義、文化ショックなどにつき考察する。	日本が歴史上経験した他の文化との接触について調べておく。(60 分)
2	中南米概観（自然、歴史、社会経済）	中南米全体の自然環境や歴史、社会経済状況を概観し、中南米の文化の土壌について考察する。	中南米の自然及び歴史について調べておく。(60 分)
3	・アルゼンチン事情 ・コミュニケーションの比較(1)	アルゼンチンの自然、歴史、社会経済をもとに文化・国民性を考察する。また日本・中南米のコミュニケーションの違いを考える。	アルゼンチンについて調べておく。(60 分)
4	・チリ事情 ・コミュニケーションの比較(2)	チリの自然、歴史、社会経済をもとに文化・国民性を考察する。また日本・中南米のコミュニケーションの違いを考える。	チリについて調べておく。(60 分)
5	・エルサルバドル事情 ・家族関係の比較(1)	エルサルバドルの自然、歴史、社会経済をもとに文化・国民性を考察する。また日本・中南米の家族の違いを考える。	エルサルバドルについて調べておく。(60 分)
6	・パナマ事情 ・家族関係の比較(2)	パナマの自然、歴史、社会経済をもとに文化・国民性を考察する。また日本・中南米の家族関係関係の違いを考える。	パナマについて調べておく。(60 分)
7	・ペルー事情 ・人々の性格の比較(1)	ペルーの自然、歴史、社会経済をもとに文化・国民性を考察する。また中南米の人々と日本人の性格の違いを考える。	ペルーについて調べておく。(60 分)
8	・ベネズエラ事情 ・人々の性格の比較(2)	ベネズエラの自然、歴史、社会経済をもとに文化・国民性を考察する。また中南米の人々と日本人の性格の違いを考える。	ベネズエラについて調べておく。(60 分)
9	・ドミニカ共和国事情 ・人々の性格の比較(3)	ドミニカ共和国の自然、歴史、社会経済をもとに文化・国民性を考察する。また中南米の人々と日本人の性格の違いを考える。	ドミニカ共和国について調べておく。(60 分)
10	・中南米の日系社会 ・人々の価値観の比較	中南米の日系人のアイデンティティーの問題を考察する。また中南米と日本との価値観の違いを考える。	中南米の日系人につき調べておく。(60 分)
11	・中南米のポピュリズム ・社会集団の比較(1)	中南米のポピュリズムについて考察する。また中南米と日本との社会集団の違いを考える。	ポピュリズムにつき調べておく。(60 分)
12	・中南米の貧困と格差 ・社会集団の比較(2)	中南米における貧困及び格差の問題を考察する。また中南米と日本との社会集団の違いを考える。	日本の貧困問題の現状について調べておく。(60 分)
13	・中南米の移民問題 ・社会集団の比較(3)	中南米から米国への移民の問題を考察する。また中南米と日本との社会集団の違いを考える。	中南米から米国への移民問題について調べておく。(60 分)
14	・中南米の治安問題 ・宗教の比較	中南米の治安問題につき考察する。また、中南米日本との宗教の比較を行う。	日本の治安事情について調べておく。(60 分)
15	・中南米の汚職問題 ・在日中南米人の現状	中南米にはびこる汚職問題について考察する。在日中南米人の諸事情につき考察する。	日本の政治汚職について調べておく。(60 分)
16	期末レポート	日本と中南米との文化的な相違点についてレポートを作成する。	最終レポートに必要な情報について調べておく。(60 分)

単位の認定について　授業への取り組み:25%　クラス内での発表:25%　授業外学習:25%　最終レポート:25%

教科書　特に用いない。

参考書　比較文化論の試み（山本七平、講談社学術文庫）、タテ社会の人間関係（中根千枝、講談社現代新書）

授業外学習について　次回講義のテーマに関連した内容つきインターネット等により調べておく。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業は、アクティブラーニングを取り入れて実施する

授業科目名	秘書学概論(科目コード:TCBSC123)							
資格取得との関連	秘書検定							
担当者	節政 沙弥香							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス1年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：秘書学を通して秘書の職務として必要とされる能力・資質・知識を学ぶとともに、他者の考えから多様な価値観を学ぶことができるなど、対人業務に対応するスキルを身に付けることができる。また、秘書検定程度のケースワークから、場面を具体的に想定し、秘書としてのビジネス実務能力を自ら開発する基礎力を養成する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ◎	Ⅱ◎	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①○	Ⅱ②◎	Ⅲ○	

到達目標：
・秘書職について説明ができる。
・秘書としての専門知識や実務能力について、情報収集することができる。
・実務能力や対応力を身に付けている。
・グループワークにおいて、他者の多様な価値観を受入れ円滑な人間関係を築く努力ができる。
・秘書検定3級程度の問題を理解し解答できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス及び秘書学概論の学習の目的について学習する。秘書の歴史やビジネスにおける秘書学の位置付けについて学ぶ。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
2	秘書の資質-1	秘書という職業や役割について学ぶ。グループワークを行い、秘書に求められる能力を討議し考察する。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
3	秘書の資質-2	グループワークを行い、社会人として求められる良識とみだしなみについて討議し考察する。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
4	秘書の機能-1	グループワークを行い、会社組織の中での秘書の機能と役割について討議し考察する。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
5	秘書の機能-2	上司と秘書の関係、秘書の業務について学習する。	出された課題につい、情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
6	マナーと接遇-1	人間関係、接遇マナーについて学ぶ。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
7	マナーと接遇-2	話し方と人間関係についてグループワークを行い討議し考察する。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
8	敬語と接遇用語	敬語の使い方について理解し、日常生活の中で使うことができるようにする。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
9	組織の中の意思の疎通-1	秘書とコミュニケーション、報告と説明について学習する。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
10	組織の中の意思の疎通-2	命令、指示の受け方、忠告の受け方について演習し、身につける。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
11	秘書に必要な経営知識	経営に関する一般的知識について理解を深める。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
12	秘書に必要な会計知識	会計に関する一般的知識について理解を深める。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
13	秘書に必要な法律知識	法律に関する一般的知識について理解を深める。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
14	秘書の情報知識	情報処理と秘書、情報の収集、整理、活用について考え理解を深める。	出された課題について情報を収集し、ファイルにまとめる。(40分)
15	まとめ	秘書実務検定対応問題を解き、フィードバックを行う。	自分の知識の定着確認を行う。(40分)

単位の認定について　提出物(20%) 取り組み態度(20%) 記述試験(60%) 60点以上単位認定とする。

教科書　①『秘書検定3級、2級、準1級クイックマスター』早稲田教育出版のうち、取得する級

参考書　①『秘書検定3級、2級、準1級新クリアテスト』早稲田教育出版

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に1時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※この授業ではアクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	FP演習						
資格取得との関連							
担当者	兒玉 京子 （ k-kodama@mgjc.ac.jp ）						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	現代ビジネス科 2 年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： 「ファイナンシャル・プランナー論」で学んだ知識を基礎に、ライフプラン設計に関する実践的な技能を身につける。事例問題や演習を通して、合理的な企画立案と具体的な助言ができる力を養う。課題に対してグループワークを行い、その成果を発表することで実践力を高める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標： ファイナンシャル・プランニングの応用知識を理解し、事例問題に対応できる力を養う。
国家資格「3 級ファイナンシャル・プランニング技能士」実技試験レベルの問題を解くことができる。
ライフプランや資産形成について主体的に考え、実生活に活用できる力を身につける。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	ファイナンシャルプランナーとは FP試験についてもバイアル端末を利用し、調べ学習を行う。	お金に関する知識についての課題を行う。(30 分)
2	ライフプランニングと資金計画	FPの基礎と関連法規 ライフプランと資金計画 社会保険制度 公的年金制度 国民年金と厚生年金の老齢給付 障害年金と遺族年金 年金の請求手続きと税金企業年金等	ライフプランニングと資金計画の課題を行う。(30 分)
3	リスク管理	保険の基礎知識 生命保険の基礎 生命保険の種類 生命保険と税金 損害保険 損害保険と税金 第三分野の保険 保険証券の見方	リスク管理の課題を行う。(30 分)
4	金融資産運用	経済・金融の基礎 銀行等の貯蓄型金融商品 債券 株式 投資信託 外貨建て金融商品 有価証券の税金 ポートフォリオ運用とディリバティブ 金融商品等に関する法律等	金融資産運用の課題を行う。(30 分)
5	タックスプランニング	所得税の基礎 所得の種類と内容 損益通算及び繰越控除 所得控除と税額控除 所得税の申告と納付 個人住民税	タックスプランニングの課題を行う。(30 分)
6	不動産	不動産の基礎と登記 不動産の取引 不動産に関する法律 不動産の税金 不動産の有効活用と投資判断指標	不動産の課題を行う。(30 分)
7	相続・事業承継	贈与税 相続の基礎 相続税の仕組み 相続財産の評価	相続・事業承継の課題を行う。(30 分)
8	ライフプランニングと資金計画	実技問題の対策を行う。	ライフプランニングと資金計画の課題を行う。(30 分)
9	リスク管理	実技問題の対策を行う。	リスク管理の課題を行う。(30 分)
10	金融資産運用	実技問題の対策を行う。	金融資産運用の課題を行う。(30 分)
11	タックスプランニング	実技問題の対策を行う。	タックスプランニングの課題を行う。(30 分)
12	不動産	実技問題の対策を行う。	不動産の課題を行う。(30 分)
13	相続・事業承継	実技問題の対策を行う。	相続・事業承継の課題を行う。(30 分)
14	振り返り	総合学習。モバイル端末を利用し、調べ学習を行う。 調べたことをグループワークを行い、プレゼンテーションする。	総合問題の課題を行う。(30 分)
15	まとめ	学んだことをまとめ、理解度を確認する。	総合問題の課題を行う。(30 分)

単位の認定について 試験 50% 小テスト・提出物 30% 授業態度 20% 60 点以上で合格

教科書　参考書　対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	ファイナンスプランナー論						
資格取得との関連							
担当者	兒玉 京子 （ k-kodama@mgjc.ac.jp ）						
オフィスアワー	授業終了後						
授業対象	現代ビジネス科 2 年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要： ライフプラン上のさまざまな目標を達成するために、包括的な生活設計の考え方を学ぶ。ファイナンシャル・プランニングに関する基礎知識を習得し、合理的な企画立案や助言の在り方について理解を深める。授業では課題に取り組み、グループワークおよび成果発表を通して理解を定着させる。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ○	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標： ファイナンシャル・プランニングの基礎知識を体系的に理解する。
国家資格「3 級ファイナンシャル・プランニング技能士」学科試験レベルの問題を解くことができる。
社会や経済の動向に関心を持ち、日常生活に活かせるお金の基礎知識を身につける。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	ファイナンシャルプランナーとは FP技能士とは モバイル端末を利用し、調べ学習を行う	テキストを読む。(30 分)
2	パーソナルファイナンスについて	お金に関する知識について 個人とお金、社会とお金のかかわりについて モバイル端末を利用し、調べ学習を行う。	お金に関する知識についての課題を行う。(30 分)
3	ライフプランニングと資金計画	FPの基礎と関連法規 ライフプランと資金計画 社会保険制度 公的年金制度	ライフプランニングと資金計画の課題を行う。(30 分)
4	ライフプランニングと資金計画	国民年金と厚生年金の老齢給付 障害年金と遺族年金 年金の請求手続きと税金企業年金等	ライフプランニングと資金計画の課題を行う。(30 分)
5	リスク管理	保険の基礎知識 生命保険の基礎 生命保険の種類 生命保険と税金	リスク管理の課題を行う。 (30 分)
6	リスク管理	損害保険 損害保険と税金 第三分野の保険 保険証券の見方	リスク管理の課題を行う。 (30 分)
7	金融資産運用	経済・金融の基礎 銀行等の貯蓄型金融商品 債券 株式	金融資産運用の課題を行う。(30 分)
8	金融資産運用	投資信託 外貨建て金融商品 有価証券の税金 ポートフォリオ運用とディリバティブ 金融商品等に関する法律等	金融資産運用の課題を行う。(30 分)
9	タックスプランニング	所得税の基礎 所得の種類と内容 損益通算及び繰越控除	タックスプランニングの課題を行う。 (30 分)
10	タックスプランニング	所得控除と税額控除 所得税の申告と納付 個人住民税	タックスプランニングの課題を行う。 (30 分)
11	不動産	不動産の基礎と登記 不動産の取引 不動産に関する法律	不動産の課題を行う。 (30 分)
12	不動産	不動産の税金 不動産の有効活用と投資判断指標	不動産の課題を行う。 (30 分)
13	相続・事業承継	贈与税 相続の基礎	相続・事業承継の課題を行う。(30 分)
14	相続・事業承継	相続税の仕組み 相続財産の評価	相続・事業承継の課題を行う。(30 分)
15	まとめ	学んだことをまとめ、理解度を確認する。	総合問題の課題を行う。 (30 分)

単位の認定について 試験 50% 小テスト・提出物 30% 授業態度 20% 60 点以上で合格
教科書 参考書 対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること
授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	プレゼンテーション演習（科目コード：TCCMM206）							
資格取得との関連	情報処理士（選択） プレゼンテーション実務士（選択） 上級ビジネス実務士（選択）							
担当者	河野 美香子 （実務家教員）							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科２年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：効果的なプレゼンテーションの基礎知識と技術を習得することをめざす。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

評価指標： ・人前で表現力豊かに発表する。
・相手の立場になって考え、自分の考えを表現できるようになる。
・グループで協力して、パワーポイントを使い、他者に効果的に伝えるプレゼンテーションを行う。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	自己紹介からコミュニケーションへ	初対面の会話で自分をアピールする。初対面の会話からコミュニケーションを深める。	自己紹介スライドと原稿の作成と提出。(30 分)
2	コミュニケーション・スキル	自分のいいたいことを明確に伝える。相手の関心を引き、納得させる。	情報を効果的に伝える方法、相手の関心に応じた話の流れに関するレポートの作成と提出。(30 分)
3	非言語コミュニケーション	言葉以外の方法で自分の伝えたいことを相手に訴える。コミュニケーション時における自分の印象をかえる。	人間観察と非言語コミュニケーションに関するレポートの作成と提出。(30 分)
4	アイデアを生み出す技術	自由な発想でアイデアを生み出す。状況に応じてさまざまな発想方法を使いこなす。	ブレインストーミング、マインドマップ、列挙法に関するレポートの作成と提出。(30 分)
5	プレゼンテーションの構造	プレゼンテーションの骨組みを理解し、構成する。説得力のあるプレゼンテーションを学ぶ。	プレゼンテーション原稿の作成と提出。(30 分)
6	主張の裏づけかた	自分の主張の正当性を裏づける。主張の根拠を強化し、説得力のあるプレゼンテーションができる。	反対意見を論駁する方法について、レポートを作成し、提出。(30 分)
7	文章とプレゼンテーションの相似性	文章をプレゼンテーションの発展形としてとらえる。説得力のある文章を書く。	本論、根拠、補助の展開の文章を作成し、提出。(30 分)
8	レジュメの書き方	自分の主張に必要な情報を見極める。最小限のスペースで自分の主張をまとめる資料を作成する。	解りやすいレジュメに関するレポートを作成し、提出。(30 分)
9	意見の形成と主張	賛否が分かれる問題について自分の意見をまとめる。自分の意見を効果的に主張する。	PREP 法を用いた主張を作成し、提出。(30 分)
10	時系列の叙述	話のあらすじを面白く展開することを学ぶ、また話のあらすじに臨場感を持たせる工夫について学ぶ。	時系列と5W1H に沿った原稿を作成し、提出。(30 分)
11	ものごとの説明	抽象的な事物を具体的に説明する。論理的にものごとを説明する。	前景化した主張、根拠、証明、普遍性による確認の入った、レポートを作成し、提出。(30 分)
12	ビジネストークにおける説得の論理	ビジネストークの基盤を築く、購買意欲を高めるための説得論理を学ぶ。	効果的な商品説明とビジネストークに関するレポートを作成し、提出。(30 分)
13	ディスカッションの基礎知識と実践	特定の問題について、集団の中でそれぞれの立場から意見を交換して解決策を導きだしたり、新たな提案を行ったりする。	自由討論型、賛否決定方、問題解決型の3つに関するレポートを作成し、提出。(30 分)
14	プレゼンテーション発表	個人でプレゼンテーション発表を行い、相互評価を行う。	相互評価用紙から、プレゼンテーションの改善をレポートにまとめる。(30 分)
15	まとめ	プレゼンテーションの学修に関する振り返り。	振り返りをする。(30 分)

単位の認定について 提出物（40%） 態度（聞き手）（20%） 発表（30%） 受講態度（10%） 60点以上が合格。

教科書 参考書 学生のためのプレゼンテーショントレーニング

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェックし、点数化し返却と解説を行う。

ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

※ この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	プレゼンテーション概論(科目コード:TCCMM105)							
資格取得との関連	情報処理士(必修) 上級情報処理士(必修) プレゼンテーション実務士(必修)							
担当者								
オフィスアワー								
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：プレゼンテーションの基本から実践までを体系的に学ぶ。話の構成、視覚資料の活用、ペルソナ設定を通じて、論理的かつ効果的に伝える力を養う。講義に加えて、演習とフィードバックを重視し、実践力を高める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：

- 論理的に話を構成することができる。
- ターゲットを意識したプレゼンテーションの重要性がわかる。
- 説得力のあるプレゼンテーションを実践できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	オリエンテーション	プレゼンテーションの基本概念を学び、プレゼンの4要素を理解する。	良いプレゼンテーションとは何かをノートにまとめる。(30分)
2	良いプレゼンの分析	成功したプレゼンを分析し、プレゼンの要素を学ぶ	印象に残ったプレゼンの特徴をノートにまとめる。(30分)
3	話の構成を学ぶ	基本的な話の構成と効果的な伝え方を学ぶ。	指示されたテーマに沿って 1 分間で話せるよう準備する(30分)
4	テーマに沿って話す	身近なテーマで、話の構成法を実践する	フィードバックをもとに実践した話の構成を改善してくる。(30分)
5	ビジュアル要素の基本	プレゼンにおける視覚要素の役割を理解する。	配布されたサンプルスライドの改善点を考える。(30分)
6	インタビュー演習	相手から情報を引き出し、整理する力を学ぶ。	情報を整理し、簡潔に伝える準備をする。(30分)
7	他己紹介	他己紹介を通じて、効果的な伝え方を客観的に理解する。	情報を整理し、簡潔に伝える準備をする。(30分)
8	ペルソナ設定とプレゼン戦略	プレゼンのターゲットを意識する重要性を学ぶ。	情報の整理をする。(30分)
9	ペルソナに基づくプレゼン準備	ターゲットが求める情報を整理し、プレゼンの構成を考える。	ターゲットに応じた情報の違いを考察してくる。(30分)
10	プレゼンテーション実践	ターゲットを意識したプレゼンを実践する。	フィードバックをもとに自分のプレゼンを改善するポイントをまとめる(60分)
11	アドリブ力	質問に対する準備や、即興対応の重要性について理解する。	指示された課題を行う。(30分)
12	プレゼンテーション準備	提示されたテーマに関するプレゼン準備を実施する。	本番を想定し練習をおこなう。(30分)
13	プレゼンテーション準備	最終調整を行い、質の高いプレゼンを目指す	本番を想定し練習をおこなう。(30分)
14	プレゼンテーション実践	作品を発表し、意見の交換を行う。	フィードバックをもとに自分のプレゼンを改善するポイントをまとめる。(60分)
15	まとめ	学んだことについての確認を行い、最終レポートを作成する	ルーブリック評価をおこなう。(30分)

単位の認定について 提出物(30%) 発表(30%) 授業態度(20%) 最終レポート(20%)

教科書・参考書 適宜、授業時間内に紹介する

授業外学習について 指示された授業外学習の他に、チームの連絡相談を綿密に行い、授業に備える。

課題に対するフィードバックの方法 提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	プログラミングⅠ(ビジュアル)(科目コード:　　)						
資格取得との関連	上級情報処理士(必修)						
担当者	御手洗　正文						
オフィスアワー							
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：プログラミング初心者を対象として、プログラミングの基礎概念を学ぶ。Scratch 等ブロック型の言語を使用して、変数、条件分岐、繰り返しなどの基本的なプログラミング構造を習得し、論理的思考力を養う。さらに、センサー制御や通信の技術を学び、ゲームや総合課題の作成を通じて実践力を高める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ◎	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：
・プログラミングに必要な基礎的データ構造、制御構造を理解し、説明することができる。
・ブロック型のビジュアル言語を使用して簡単なアルゴリズムをプログラムできる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価基準、使用するツール（Scratch、Microbit）について説明し、全体の目標を共有する。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
2	プログラミング言語の種類について	プログラミング言語の概要と種類（ビジュアル言語、テキスト言語など）について学ぶ。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
3	Scratch の基礎	Scratch の基本操作方法やインターフェースについて学び、簡単なプログラムを作成する。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
4	プログラミングの基本概念（１）	プログラミングの基礎となる変数の役割や順次処理の仕組みについて学び、基礎的なプログラムを作成する。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
5	プログラミングの基本概念（２）	条件に応じて動作を変える条件分岐の概念を学び、分岐を含むプログラムを作成する。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
6	プログラミングの基本概念（３）	繰り返し処理（ループ）の基礎を学び、反復処理を用いたプログラムを作成する。	授業で学んだ内容について復習する(30 分))
7	フローチャート	プログラムを視覚的に整理するためのフローチャートの描き方を学び、論理的な思考力を養う。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
8	ゲーム作成演習（１）	Scratch を使い、簡単なゲームプログラムを作成する。アイデア出しから設計までを行う。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
9	ゲーム作成演習（２）	前回作成したゲームを完成させ、機能の追加や改善を行う。	授業で学んだ内容について復習する(30 分))
10	Microbit の基礎（１）	Microbit の基本操作を学び、簡単なプログラムを作成する。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
11	Microbit の基礎（２）	Microbit のセンサーを利用したプログラムを作成し、外部とのインタラクションを学ぶ。	授業で学んだ内容について復習する(30 分))
12	Microbit の基礎（３）	Microbit を使った通信プログラムを作成し、デバイス間のやり取りを体験する。	授業で学んだ内容について復習する(30 分))
13	総合課題（１）	Scratch と Microbit を組み合わせた総合的な課題に取り組む。	授業で学んだ内容について復習する(30 分))
14	総合課題（２）	総合課題を完成させ、発表準備を行う。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)
15	まとめ	各自の成果を発表し、フィードバックを共有することで学びを振り返る。	授業で学んだ内容について復習する(30 分)

単位の認定について　提出物(30%)　総合課題(50%)　授業への取り組み(20%)
教科書・参考書　授業時に資料を配布する
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	プログラミングⅡ（Python）						
資格取得との関連							
担当者	高橋 伸弥 （メールアドレス:nobu-takahashi@mgjc.ac.jp）						
オフィスアワー	授業終了時						
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：
プログラミングⅠで学習した内容を踏まえ、Python を用いたテキストプログラミングの力を養成する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅲ	

到達目標：
- Python における基本的なデータ構造および制御構造を用いて、プログラムを作成できるようになる。
- 関数を用いたプログラムを作れるようになる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の進行、評価規準などを説明し、使用する機器の環境設定を行う。	講義内容の予習と復習（60 分）
2	基本計算	データ、データ型、変数について理解し、基本的な演算子を用いた計算を行う。	講義内容の予習と復習（60 分）
3	データ構造	リストの使い方を理解する。	講義内容の予習と復習（60 分）
4	制御構造１	if 文による分岐処理を理解する。	講義内容の予習と復習（60 分）
5	制御構造２	while 文による反復処理を理解する。	講義内容の予習と復習（60 分）
6	制御構造３	for 文による反復処理を理解する。	講義内容の予習と復習（60 分）
7	実践１	制御構造を活用したターミナルへの描画を行うプログラムの作成を行う。	講義内容の予習と復習（60 分）
8	実践２	対話的なメニュー機能を持つプログラムの作成を行う。	講義内容の予習と復習（60 分）
9	実践３	標準的な構造を持つデータセットの作成を行う。	講義内容の予習と復習（60 分）
10	数値計算	NumPy による数値計算を行う。	講義内容の予習と復習（60 分）
11	可視化	Matplotlib による可視化を行う。	講義内容の予習と復習（60 分）
12	ユーザ定義関数１	関数定義について理解し、引数と戻り値をもつ関数を作れるようになる。	講義内容の予習と復習（60 分）
13	ユーザ定義関数２	スコープを意識したプログラミングを行えるようになる。	講義内容の予習と復習（60 分）
14	実践４	対話的なメニュープログラムの改良を行う。	講義内容の予習と復習（60 分）
15	まとめ	提出物の評価、全体の総括などを行う。	講義内容の予習と復習（60 分）

単位の認定について　提出物（80%）、授業への取組（20%）
教科書　授業中に教員が配布する資料
参考書　「徹底攻略 Python3 エンジニア認定[基礎試験]問題集」（インプレス）
授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	ヘルスマネジメント(科目コード:　　)							
資格取得との関連	上級秘書士(メディカル秘書)(選択)　社会福祉主事任用資格選択科目							
担当者	桑迫　信子							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科 1 年生	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：個人の健康保持･増進の取組が、将来的に収益等を高める投資であると考え、 健康管理をマネジメント的視点から実践することの重要性を学ぶ。また、個人のヘルスマネジメント力の向上のための知識を習得し、自分を含めた「人」の支援について基本となる姿勢を学べるよう授業を展開する。この授業は、ビジネス系コース在籍者をも含めて広く開講する授業である。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ
	Ⅰ◎	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ◎	Ⅱ①○	Ⅱ②○	Ⅲ	参照

到達目標：
- ･健康について多様な角度から理解できる。
- ･自分の体調について説明することができ、セルフケアの重要性を理解できる。
- ･社会福祉の視点で、自分にどのような支援ができるのかを考え説明できる。
- ･グループの中で個人の健康と社会との関係について意見を述べることができる。

授　業　計　画　表

回	トピック名	概　　要	授業外学習の内容
1	ヘルスケアとメディケアの理解	生命力の消耗に視点を置き、「ケア」の考え方について理解する。	自分や家族の健康についての疑問を考え、まとめる。（30 分）
2	健康の定義	健康とは何かを理解する	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
3	医療を提供するところ	医療を提供するところについて理解する	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
4	「健康」とは何か	WHO の定義から健康の 3 側面を理解する	清潔のケアがもたらす効果について考えまとめる。（30 分）
5	「健康」に良いもの	「健康」に良いものを調べ、健康の定義は人それぞれであることに気づく。	自分の身体情報、体調から健康レベルの整理を行う。（30 分）
6	「健康」を保つための工夫	「野菜を先に食べる」ことが信頼できる情報かどうかを検証する。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
7	「健康」について知るには : ゲスト講師	「健康」について知るために、図書館を利用するにはどのような知識が必要か、理解する。	1 週間の睡眠について記録する。（30 分）
8	「健康」について知るには : ゲスト講師	「健康」について知るために、図書館を利用するにはどのような知識が必要か、理解する。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
9	「健康」の捉えかた	「社会的健康」についてその定義を理解する。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
10	「社会的健康」 1	「社会的健康」を保つための工夫を考える。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
11	「社会的健康」 2	「社会的健康」を保つための工夫を考える。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
12	「社会的健康」を支える制度	「社会的健康」を支える制度について理解し、活用できるようにする。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
13	「健康」と AI－1 ゲスト講師	健康領域で活用されている AI 技術について理解する。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
14	「健康」と AI－2 ゲスト講師	健康領域で活用されている AI 技術について理解する。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）
15	まとめ	ヘルスマネジメントの視点から自身や他者の健康管理と社会との関係について考える。	出された課題についてレポートにまとめる。（30 分）

単位の認定について　授業態度 20%　レポート類 50%　資料の管理 30%の 6 割点で単位が認められる。
教科書　授業内で資料を配布する。
授業外学習について　　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。
課題に対するフィードバック　　提出された課題は、チェック後に解説する。
※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。※この授業では、SDGs に関する内容を取り入れている。

授業科目名	編入対策ゼミⅠ						
資格取得との関連							
担当者	川越勇二						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： 本授業では、4 年制大学編入に必要となる日本語表現の基礎的な知識や技術を習得させる。また、グループワークやディスカッション等により、自分の考えを深め、適切に表現するために必要な思考力、判断力、表現力を身につけさせる。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	

到達目標：・それぞれの進路に応じた志望理由書や小論文の書き方、面接・ディスカッション等の知識や技術を身につけている。
・社会や将来に目を向け、広い視野で物事を考える姿勢がある。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の概要･大学編入の仕組みについて理解する	ワークシートの作成･提出
2	進路研究①	編入できる大学･学部について調べ、自分の進路について理解を深める	ワークシートの作成･提出
3	進路研究②	志望する大学･学部を決定し、入試の内容を理解し、具体的な対策を立てる	ワークシートの作成･提出
4	志望理由書①	志望する大学の志望理由書を作成する	志望理由書の作成
5	志望理由書②	志望する大学の志望理由書を完成させ、相互評価を行う	志望理由書の完成･提出
6	語彙を増やす	小論文に必要となる語彙力を高める	新書を読み、レポートにまとめる
7	文章表現の基本	伝わる文章を書くためのポイントを理解する	ワークシートの作成･提出
8	小論文の基礎①	小論文の基本的な知識について理解し、構想メモを作成する	構想メモの作成
9	小論文の基礎②	構想メモの相互評価を行い、それをもとに小論文を作成する	小論文の作成
10	小論文の基礎③	小論文の相互評価を行い、推敲の後、小論文を完成させる	小論文の完成･提出
11	小論文の実践①	編入試験で出題された小論文の構想メモを作成し、相互評価を行う	構想メモの作成
12	小論文の実践②	小論文を作成する	小論文の作成
13	小論文の実践③	小論文の相互評価を行い、推敲の後、小論文を完成させる	小論文の完成･提出
14	面接･ディスカッション	面接やディスカッションの基本的なスキルを身につける	編入試験における面接等の内容について調べる
15	授業のまとめ	授業の要点を理解する	これまでの学習内容を確認する

単位の認定について 授業態度・意欲・ワークシート等（６０％）レポート・小論文等（４０％）

教科書 授業時に適宜教材・資料を配付する。

授業外学習について 課題・発表資料等については、必ず指定された日時までに提出すること。
予習・復習に時間をあて、発表等の準備を周到に行うこと。

課題に対するフィードバックの方法 提出物を評価し、助言を行う。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れている。

授業科目名	編入対策ゼミⅡ						
資格取得との関連							
担当者	川越勇二						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要： 本授業では、4年制大学編入に必要となる日本語表現の基礎的な知識や技術を習得させる。また、グループワークやディスカッション等により、自分の考えを深め、適切に表現するために必要な思考力、判断力、表現力を身につけさせる。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	

到達目標：・それぞれの進路に応じた志望理由書や小論文の書き方、面接・ディスカッション等の知識や技術を身につけている。
・社会や将来に目を向け、広い視野で物事を考える姿勢がある。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	授業の概要・大学編入の仕組みについて理解する	ワークシートの作成・提出
2	進路研究①	編入できる大学・学部について調べ、自分の進路について理解を深める	ワークシートの作成・提出
3	進路研究②	志望する大学・学部を決定し、入試の内容を理解し、具体的な対策を立てる	ワークシートの作成・提出
4	志望理由書①	志望する大学の志望理由書を作成する	志望理由書の作成
5	志望理由書②	志望する大学の志望理由書を完成させ、相互評価を行う	志望理由書の完成・提出
6	語彙を増やす	小論文に必要となる語彙力を高める	新書を読み、レポートにまとめる
7	文章表現の基本	伝わる文章を書くためのポイントを理解する	ワークシートの作成・提出
8	小論文の基礎①	小論文の基本的な知識について理解し、構想メモを作成する	構想メモの作成
9	小論文の基礎②	構想メモの相互評価を行い、それをもとに小論文を作成する	小論文の作成
10	小論文の基礎③	小論文の相互評価を行い、推敲の後、小論文を完成させる	小論文の完成・提出
11	小論文の実践①	編入試験で出題された小論文の構想メモを作成し、相互評価を行う	構想メモの作成
12	小論文の実践②	小論文を作成する	小論文の作成
13	小論文の実践③	小論文の相互評価を行い、推敲の後、小論文を完成させる	小論文の完成・提出
14	面接・ディスカッション	面接やディスカッションの基本的なスキルを身につける	編入試験における面接等の内容について調べる
15	授業のまとめ	授業の要点を理解する	これまでの学習内容を確認する

単位の認定について 授業態度・意欲・ワークシート等（６０％）レポート・小論文等（４０％）

教科書 授業時に適宜教材・資料を配付する。

授業外学習について 課題・発表資料等については、必ず指定された日時までに提出すること。
予習・復習に時間をあて、発表等の準備を周到に行うこと。

課題に対するフィードバックの方法 提出物を評価し、助言を行う。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います。

授業科目名	ホスピタリティマネジメント							
資格取得との関連	観光実務士							
担当者	吉田 秀政 （メールアドレス: ）							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科	開講時期	1年前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：本授業では、宿泊・飲食・レジャー施設・イベント運営等のホスピタリティ関連業種で求められる「おもてなし（ホスピタリティ）」の考え方と、そこで働く人の仕事について学ぶ。これらの業種では、丁寧に接客するだけでなく、お客様の立場に立って考え、周囲と協力しながら状況に応じて行動することが求められる。そこで、具体的な事例をもとに考えながら、どのように対応すればお客様にとってより良い体験につながるのかを学ぶ。最後はグループ発表と振り返りを行い理解を深める。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①○	Ⅱ②○	Ⅲ◎	

到達目標：学生は本授業を通じて、次のことができるようになる。

1. ホスピタリティ関連業種の基本的な仕組みや仕事の内容を理解し、説明できる。
2. 宿泊・飲食・レジャー施設・イベント運営、それぞれの業種におけるサービスの特徴や求められる対応の違いを理解できる。
3. 相手の立場に立って考え、状況に応じた対応の大切さを理解できる。
4. グループワークや発表を通して、自分やグループの考えを整理し伝えることができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ホスピタリティとは何か	「ホスピタリティ＝おもてなし」の意味に加えて、授業内容、進め方、到達目標、評価方法を理解する。	リフレクションペーパー（学んだこと・気づいたこと・疑問に思ったこと）提出
2	宿泊ビジネス①	宿泊ビジネスの仕事の特徴や取り巻く環境を学ぶ。	リフレクションペーパー提出
3	宿泊ビジネス②	客室係やフロント係等の具体的な役割を理解する。	リフレクションペーパー提出
4	宿泊ビジネスの事例	具体的事例から、宿泊ビジネスにとり良いホスピタリティとは何かを考える。	リフレクションペーパー提出
5	飲食ビジネス①	飲食ビジネスの仕事の特徴や取り巻く環境を学ぶ。	リフレクションペーパー提出
6	飲食ビジネス②	飲食ビジネスの運営やサービスの工夫を理解する。	リフレクションペーパー提出
7	飲食ビジネスの事例	具体的事例から、飲食ビジネスにとり良いホスピタリティとは何かを考える。	リフレクションペーパー提出
8	レジャー施設ビジネス	レジャー施設ビジネス（遊園地・水族館・動物園・VR施設等）の仕事の特徴や取り巻く環境を学ぶ。	リフレクションペーパー提出
9	イベント運営ビジネス	イベント運営ビジネスの仕事の特徴や取り巻く環境を学ぶ。	リフレクションペーパー提出
10	デジタル時代のサービスの変化	デジタル技術の進展により、お客様との接点やサービスの形がどのように変わっているのかを学ぶ。	リフレクションペーパー提出
11	良いサービスを支える組織	良いサービスを続けて提供するために、どのような組織や協力の仕組みが必要かを学ぶ。	リフレクションペーパー提出
12	現場リーダーの役割	ホスピタリティ現場のリーダーがどのようにチームマネジメントを行うかを事例を通じて学ぶ。	リフレクションペーパー提出
13	総合演習①（グループワーク）	これまで学んだ内容をもとに、お客様にとってより良いサービスや体験とは何かをグループで考える。皆に深く理解してもらうための発表方針を決め、発表用資料を作成する。	発表用資料作成準備
14	総合演習②（グループワーク）	グループで発表資料を作成し、お客様にとってより良いサービスや体験について分かりやすく伝えるための発表練習を行う。	発表準備
15	総合演習③（グループワーク）	グループ発表と振り返りを通して、より良いサービスや体験を支える考え方について学びを整理する。	リフレクションペーパー提出
16	定期試験		

単位の認定について　定期試験 20%、リフレクションペーパー 30%、グループ分担発表 30%、授業取組み態度 20%

教科書　授業で使用する資料は、前日までに PDF で配布する。

参考書　授業中に適宜紹介する。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※本授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。※本授業では、PC、タブレットの使用を積極的に推奨する。

※担当教員は、旅行業、DMO 経営、道の駅経営、地方創生行政等の実務経験と研究知見を活かして授業を行う。

授業科目名	簿記演習(科目コード:　　)							
資格取得との関連	簿記検定試験初級							
担当者	鶴田 雄一　y-tsuruta@mgjc.ac.jp							
オフィスアワー	授業終了時							
授業対象	現代ビジネス科１年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：複式簿記の基本的な仕組について理解するとともに、簿記一巡の概要及び手続きを演習を交えながら学習する。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ◎	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ○	Ⅱ①◎	Ⅱ②○	Ⅲ	

到達目標：企業活動に伴う取引について記録・計算・整理するための仕訳・帳簿記入・決算手続・財務諸表作成までの一連の流れに関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけている。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス 簿記とは	企業経営活動に伴う簿記の意味や必要性を学ぶ。簿記の目的、種類を学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30分)
2	資産、負債、資本と貸借対照表	資産、負債、資本の意味や内容を具体的に学ぶ。資本等式と貸借対照表等式を理解する。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30分)
3	純利益の計算	貸借対照表の意味を学ぶ。財産法と純損益を学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30分)
4	貸借対照表作成	問題演習	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(1時間)
5	収益と費用 損益計算書	収益や費用の意味を学ぶ。収益総額と費用総額を比較し純損益の算出方法を学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30分)
6	損益計算書作成	問題演習	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(1時間)
7	取引、勘定	簿記上の取引、取引の８要素を学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30分)
8	取引要素の結合関係	取引要素と仕訳の関係について学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30分)
9	仕訳	演習問題を解く。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(1時間)
10	転記	転記の仕組み及び内容を学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(1時間)
11	仕訳帳とその記入法	主要簿としての仕訳帳の役割と記入法を学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(30分)
12	総勘定元帳とその記入法	主要簿としての総勘定元帳の役割と記入法を学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(1時間)
13	試算表	仕訳帳の意味と役割を理解し、試算表の種類とそれぞれの作成方法を学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(1時間)
14	簿記一巡の手続き	簿記一巡の手続きを学ぶ。	毎時授業のプリント、課題、検定試験合格に向けた学修。(1時間)
15	まとめ	学んだ内容の確認を行う。	検定試験合格に向けたまとめ。(1時間)

単位の認定について　最終課題７０点、授業に取り組む意欲・姿勢１０点、課題・レポート・その他提出物２０点　６０点以上が合格。

参考書　３級簿記に対応した教科書を指定する。必ず最新版を購入すること。

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバック　提出された課題は、点検後に要点や必要事項を解説する。

授業科目名	マーケティング概論(科目コード:TCBSC219)							
資格取得との関連								
担当者								
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2	

授業概要：

本授業では、マーケティングの基本的な概念や役割について学ぶ。マーケティングとは、市場や消費者について、商品やサービスを販売・提供する者にとって参考となるような知見を追及することを理論化した学問である。本授業では、マーケティングの歴史や4P(製品・価格・流通・プロモーション)といった基本理論を中心に、実際の企業事例や身近な商品を通して、マーケティングの考え方を実践的に理解することを目指す。また、本授業は講義だけでなくグループ討議を積極的に取り入れていく。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

到達目標：

①マーケティングの基本概念を理解し、用語を正しく使えるようになる。
②4P(製品・価格・流通・プロモーション)の要素を理解し、身近な商品を例に説明できる。
③消費者の購買行動の流れを理解し、購買に影響を与える要因を説明できる。
④身近な企業や商品を題材に、マーケティングの視点から分析・発表ができる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	マーケティング論のなりたち	マーケティングの誕生、進化するマーケティング論について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
2	マーケティング発想の経営	価値と性能について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
3	戦略的マーケティング	マーケティングにおける戦略の進化、製品ポートフォリオ・マトリックス、競争地位別の市場目標と競争対応戦略について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
4	マーケティングの基本概念	STP について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
5	マーケティングの基本概念	統合されたマーケティング活動(4P)、4Cについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
6	製品戦略	商品コンセプトとネーミング、ブランドと商標、商品のパッケージ・デザイン、ニーズ志向とシーズ志向の製品開発、リバイタリゼーションについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
7	価格戦略	小売業における価格類型、価格設定法、価格差別化、価格のマネジメントについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
8	チャネル戦略	中間流通の存在理由、流通チャネルの階層性、垂直的チャネルシステム、流通チャネルの経路、オムニチャネルについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
9	プロモーション戦略	インストア・マーチャンダイジング、ダイレクトメールとダイレクトハンド、広告マネジメントについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
10	製品開発演習	4P による製品開発を報告	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
11	消費者行動	消費者の購買意思決定プロセス、ハイテク製品のプロセス、マズローの欲求 5 段階説、ライフスタイル分析について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。

12	関係のマネジメント(1)	顧客関係のマネジメント、顧客理解のマネジメントについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
13	関係のマネジメント(2)	パブリック・リレーションズ、リレーションシップ・マーケティング、ブランド構築のマネジメントについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
14	企業の社会的責任	企業の公共性、社会的責任活動の意義について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
15	まとめ	授業で学んだ内容の振り返り	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。

単位の認定について　試験(50%)課題(20%)レポート・報告書(15%)学習時の取り組み態度(15%)を総合して評価する

教科書　毎時のプリント

参考書　石井 淳蔵 、廣田 章光、清水 信年 他(2023)『1 からのマーケティング〈第 4 版〉』碩学舎

授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行います

授業科目名	メディアマーケティング(科目コード:　)							
資格取得との関連								
担当者	河野　美香子(実務家教員)							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科 2 年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要：本講義では、メディアが社会やビジネスに果たす役割を体系的に学ぶ。その上で、現代の「アテンション・エコノミー（関心の経済)」の構造を理解し、スマートフォンや AI を戦略的に活用したデジタルマーケティングを実践する。実社会の現場に近いサイクルを体験することで、理論と実践を兼ね備えた「集客力・伝える力」を養う。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ◎	

評価指標：多様なメディア（マスメディアおよびデジタルメディア）の特性と消費者心理を体系的に理解し、スマートフォンや AI 等のツールを駆使して、ターゲットの関心を惹きつけ、行動（保存・シェア・サイト流入等）を促す一連のマーケティングプロセスを立案・実践・検証できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス メディアの役割について	新聞・ラジオ・テレビ・広告の歴史的役割と信頼性を整理する。	授業で学んだ内容について復習する。
2	デジタルメディアの特性	SNS が現代のインフラとなった背景を考察。Instagram 等のプラットフォームを例に、ユーザーが「保存」や「シェア」を行う心理的要因を分析する。	授業で学んだ内容について予習・復習する。
3	企画立案と AI による「添削」	グループでコンテンツ案を作成。AI をプロのコンサルタントに見立てて「ダメ出し」を受けることで、企画の論理性をブラッシュアップする。	授業で学んだ内容について予習・復習する。
4	導線設計とクリエイティブ制作	SNS から公式サイトへ繋ぐ導線を設計。スマホを用い、メディアの信頼性を意識した「価値ある情報」としてのコンテンツを制作する。	授業で学んだ内容について予習・復習する。
5	実践投稿とインサイト解析の準備	現代ビジネス科の公式メディアへ投稿を実施。並行して、結果を評価するための指標（リーチ、保存率、流入数等）の読み解き方を学ぶ。	授業で学んだ内容について予習・復習する。
6	データ解析と戦略改善	実際の数値を分析し、事前の仮説と結果のズレを特定し、考察する。	授業で学んだ内容について予習・復習する。
7	最終報告会①	実施した施策のデータ分析と、そこから得られた広報戦略上の課題について発表する。	授業で学んだ内容について予習・復習する。
8	最終報告会②	後半グループによる発表とまとめ	振返りをする。（30 分）

単位の認定について　取り組み状況、課題(60%)、最終課題(40%)

参考書　授業内で指定

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説を行う。

ネットワーク環境を利用し双方向型授業を展開する。タブレット端末を利用し、自主学習を支援する。

授業科目名	MOS 基礎演習						
資格取得との関連	マイクロソフトオフィススペシャリスト(Microsoft Office Specialist)						
担当者	平川　貴之(t-hirakawa@mgjc.ac.jp)						
オフィスアワー	授業終了時						
授業対象	現代ビジネス科 2 年	開講時期	前期	授業の種類	演習	単位数	1

授業概要：本講義では、ビジネスにおける情報活用の基礎知識と実践方法をアプリケーション活用から学び、マイクロソフトオフィス（Word＆Excel）を用い、実務で活用できる力を養う。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
					◎		○	◎		

到達目標：ビジネスツールの基礎知識を持ち、実務で活用できる人材であることを証明すること。文書作成や表計算を使ったドキュメントの作成やデータ整理の方法などを通じて、スキルを身につけ職場で利活用できること。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	ガイダンス	MOS 試験の概要と目的の確認。 学習の環境設定の実施。	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
2	【MOSWord365&2019】 第1章　文書の管理	文書内移動・書式設定・文書の保存共有・文書の検査機能の学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
3	【MOSWord365&2019】 第2章　文字、段落、セクションの挿入と書式設定	文字列や段落の挿入・段落書式の設定・セクションの作成の学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
4	【MOSWord365&2019】 第3章　表やリストの管理	表の作成と変更・リストの作成と変更の学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
5	【MOSWord365&2019】 第4章　参考資料の作成と管理	参照のための要素を作成と管理・参照のための一覧を作成する機能の学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
6	【MOSWord365&2019】 第5章グラフィック要素の挿入と書式設定	図やテキストボックスの挿入や書式設定・グラフィック要素の変更やテキストの追加を学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
7	【 MOSWord365&2019 】 第6章文書の共同作業の管理	コメントの追加と管理・変更履歴の管理を学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
8	【MOSWord365&2019】 Word 総復習＆チェック	Word の各種機能を総復習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
9	【MOSExcel365&2019】 第1章ワークシートやブックの管理	ブック内の移動・ワークシートの書式設定・データのインポート機能を学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
10	【MOSExcel365&2019】 第2章　セルやセル範囲のデータの管理	シートデータの操作・セルの書式設定・名前付き範囲を定義・データを視覚的にまとめる機能を学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
11	【MOSExcel365&2019】 第3章　テーブルとテーブルデータの管理	テーブルの作成と書式設定・テーブルの変更・データのフィルタと並べ替えを学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
12	【MOSExcel365&2019】 第4章　数式や関数を使用した演算の実行	参照の追加や関数を使った計算と加工・文字列の変更と書式設定を学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
13	【MOSExcel365&2019】 第5章　グラフの管理	グラフの作成と変更・グラフの書式設定を学習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。
14	【MOSExcel365&2019】 Excel 総復習＆チェック	Excel の各種機能を総復習	授業で学んだ内容について、学習状況や行動・成果に対し、客観的な評価を行い、改善・軌道修正を行う。

15	MOS 模擬試験実施	本番試験を想定した模擬試験を実施	試験本番に備えての心得と用語の再チェック

単位の認定について　授業の取り組み状況（50%）、総合試験（50%）

教科書　※「よくわかるマスターMOS Word 365&2019 対策テキスト＆問題集」(FOM 出版)
「よくわかるマスターMOS Excel 365&2019 対策テキスト＆問題集」(FOM 出版)

参考書　※特になし

授業外学習について　指示された授業外学習の他に、予習・復習に 1 時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

※この授業では、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業科目名	リテールマーケティングⅠ（科目コード:TCBSC212）						
資格取得との関連							
担当者	狩野　秀之						
オフィスアワー	火曜日の放課後						
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	前期	授業の種類	講義	単位数	2

授業概要：近年、流通業界を取り巻く環境は、顧客ニーズの多様化・細分化・ＩＣＴ化の著しい進展により大きく変化している。そこで、小売業の類型、マーチャンダイジング、ストアオペレーションに関する知識や技術を修得し、将来、流通業界の環境変化に対応できる基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

ＤＰとの関わり	全学ＤＰ					学科ＤＰ				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標：・即戦力として、ビジネス活動に直結した知識・能力を身につけることができる。
・小売店舗運営の基本的な仕組みを理解し、販売員としての基本的な知識・技術を身につけ、それらを場面に応じて応用できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	流通における小売業の基本	小売業とは何か、中小小売業の現状と役割について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
2	組織形態別小売業の基本	組織小売業の種類と特徴、チェーンストアの基本的役割、販売形態の種類と特徴、インターネット社会と小売業について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
3	店舗形態別小売業の基本的役割 商業集積の基本	小売業態、店舗形態別小売業の基本知識について理解する。商店街、ショッピングセンター（SC）の現状と特徴について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
4	商品の基本	商品とは何か、商品の分類、商品の本体要素について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
5	マーチャンダイジングの基本	マーチャンダイジングの基本的考え方、コンビニエンスストア・チェーンに見るマーチャンダイジングの主な機能について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
6	商品計画、販売計画及び仕入計画などの基本	商品計画の基本知識について理解する。 販売計画策定、仕入計画策定、仕入業務、棚割とディスプレイ、物流の基本知識について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
7	価格設定の基本	価格の設定要因と価格政策、売価設定の基本、利益の構造について理解する。 在庫管理、販売管理の基本について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
8	ストアオペレーションの基本	ストアオペレーション・サイクル、開店準備の業務、日常の運営業務について理解する。 メンテナンス業務、チェックアウト業務、ミーティングについて理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
9	包装技術の基本	包装の意義と目的、包装の種類と方法、ひものかけ方・リボンのつくり方、和式進物包装について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
10	ディスプレイの基本	ディスプレイの目的と基本的役割、基本的パターン、ファッション衣料品業界のディスプレイ技術について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
11	商圏の設定と出店の基本	商圏、立地条件、出店の基本知識について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。

12	リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	リージョナルプロモーションの体系・概要、インバウンド(訪日外国人に対するプロモーション)について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
13	販売員の法令知識	小売業に関する主な法規、環境問題と消費生活について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
14	小売業の計数管理	販売員に求められる計数管理、売上高・売上原価・売上総利益(粗利益高)の関係について理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
15	まとめ	授業で学んだ内容の振り返り。	

単位の認定について　学習時の取り組み態度（20%）　課題(20%) 学期末テスト(60%)

教科書　授業にてレジュメを配付。

参考書　授業内で指定する。

授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。

授業科目名	リテールマーケティングⅡ（科目コード:TCBSC213）							
資格取得との関連								
担当者	狩野　秀之							
オフィスアワー	火曜日の放課後							
授業対象	現代ビジネス科2年	開講時期	後期	授業の種類	演習	単位数	1	

授業概要： 本講義では、小売業の基本的な仕組みや流通の役割を理解し、マーケティング理論や店舗運営、販売促進、顧客対応、法規など、販売現場で必要とされる幅広い知識と実務スキルを体系的に学んでいく。
また、リテールマーケティング（販売士）検定の出題範囲に沿って、理論と実践を結びつけながら学習を進め、検定合格に必要な知識の習得を目指す。

DPとの関わり	全学DP					学科DP				カリキュラムマップ参照
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ◎	Ⅴ◎	Ⅰ	Ⅱ①◎	Ⅱ②◎	Ⅲ	

到達目標： ・
①各分野の重要用語・理論・法規を正確に説明できる。
②過去問題を分析し、出題傾向を把握できる。
③模擬試験を通じて、時間配分や解答力を身につけることができる。
④合格に向けた学習計画を立て、自己管理できる。

授業計画表

回	トピック名	概要	授業外学習の内容
1	検定試験の概要と学習の進め方	リテールマーケティング（販売士）検定の目的・出題範囲・合格基準を確認し、学習計画と目標を明確にする。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習:講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
2	小売業の類型と流通の基礎	小売業の種類（業態・業種）や流通の仕組み、流通経路の役割と変化について学ぶ。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
3	マーケティングの基本理論（4P、STP など）	マーケティングの基本概念を理解し、4P（製品・価格・流通・販促）や STP（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング）を実例とともに学ぶ。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
4	商品計画とマーチャンダイジング	商品構成、品揃え、ライフサイクル、仕入れ・在庫管理など、売れる商品づくりの基本を学ぶ。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
5	価格戦略と販売促進の手法	価格設定の考え方、値引き・特売・ポイント制度などの販促手法とその効果を理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
6	立地・店舗運営と VMD の基礎	店舗立地の選定基準、売場づくり、陳列・POP・照明など VMD（ビジュアル・マーチャンダイジング）の基本を学ぶ。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
7	販売管理と顧客対応（接客・クレーム対応など）	販売スタッフの役割、接客マナー、顧客満足の向上、クレーム対応の基本と実践を学ぶ。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
8	経営管理と組織運営の基礎	小売業における経営計画、人材育成、組織構造、リーダーシップとマネジメントの基本を理解する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
9	法規（消費者保護法、景品表示法など）	小売業に関わる主要な法律や制度を学び、適正な取引と消費者保護の観点を身につける。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
10	情報システムとデジタルマーケティング	POS システム、顧客データの活用、EC サイト、SNS など、デジタル技術を活かした販売戦略を学ぶ。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
11	過去問題演習①（分野別）	分野ごとに過去問題を解き、理解度を確認しながら知識の定着を図る。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。

			講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
12	過去問題演習②（分野別）	引き続き分野別の演習を行い、苦手分野の把握と克服を目指す。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
13	模擬試験①（本番形式）	本番形式で模擬試験を実施し、時間配分や出題傾向に慣れる。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
14	模擬試験②と解説・弱点補強	模擬試験の解説を通じて理解を深め、個別の弱点を補強する。	次回の内容の資料を配付するので予習すること。 講義後学習：講義を振り返る意味で自分なりのノートを作成すること。
15	まとめ	授業で学んだ内容の振り返り。	

単位の認定について　学習時の取り組み態度（20%）課題(20%）学期末テスト(60%）

教科書　授業内でレジュメを配付する。

参考書　授業内で指定する。

授業外学習について　指定された授業外学習の他に、予習・復習に１時間をあて、授業準備をすること。

課題に対するフィードバックの方法　提出された課題は、チェック後に解説する。